

4 經濟問題

758

昭和12年7月17日
在滿州国植田大使より
広田外務大臣宛(電報)

華北地方で軍費支払いに使用すべき通貨につ
き意見具申

新 京 7月17日後発
本 省 7月18日前着

第六〇一號(至急)

北支事變ニ關聯シ帝國ノ政策遂行援助ノ爲當館ニ於テハ軍、
滿洲國其ノ他關係機關ト密接ナル聯絡ヲ保チツツ萬遺算ナ
キヲ期シツツアリ現ニ北支ヲ中心トスル財政金融問題ノ對
策具體案ニ付テモ研究ヲ進メツツアル處今般政府ニ於テハ
北支事變ノ支拂ヲ鮮銀券ヲ以テスルコトニ決定セラレタル
趣ナルカ右ハ日本通貨ヲ支那側ニ入手セシメ我爲替操作ノ
具ニ供セラルル危険アルノミナラス我通貨ノ膨脹ヲ來シ信
用上不利ナル影響ヲ生スヘキニ依リ軍人、軍屬ニ對スル給
與ノ如キ特殊ノ費用ヲ除クノ外ハ正金銀行ノ天津鈔票ヲ使

用スルコト必要且得策ナリ同鈔票ハ現ニ天津附近ニ五十萬
圓内外流通シ居リ現地使用ニ便ナルノミナラス日本通貨ト
直接關係ナキ爲鮮銀券使用ノ場合ノ如ク不利ナシ且鈔票ハ
大連正金支店ニ一部修正ヲ加ヘ直ニ使用シ得ヘキモノ約三
千萬圓アルヲ以テ之ヲ使用スルヲ可ナリト思考ス右ハ豫テ
關係者極秘裡ニ研究ノ結論ナルニ付上申ス關係省トモ御協
議ノ上至急實現方御配慮相煩度シ詳細空送ス

支、北平、天津へ轉電セリ

759

昭和12年7月24日
在滿州国植田大使より
広田外務大臣宛(電報)

事變に關連した政策遂行を容易にするため中
国通貨の信用低下を目的とする宣伝工作の基
本方針樹立方意見具申

新 京 7月24日後発
本 省 7月24日夜着

第六三三號(極秘)

往電第六〇一號ニ關シ

北支事變ニ關聯シ帝國政府ノ政策遂行ヲ容易ニシ且之ヲ確保スル爲ニ單ニ北支關係地方現地工作ヲ進ムルニ止マラス廣ク世界全般ニ亘リ必要機宜ノ措置ヲ講スルノ要アリ特ニ支那財政金融ニ衝擊ヲ與フルコト最モ有效ノ方法ナリト思考ス冒頭往電申進ノ件モ右ノ第一着歩トシテノ工作ナルカ當方ニ於テハ之ト竝行シテ關係機關協力ノ上支那通貨ノ信用破壊ヲ目的トシ直接間接支那ノ財政經濟上ノ弱點暴露(虛偽ノ宣傳ハ嚴ニ慎ミツツアリ)宣傳ニ從事シ以テ滿洲國ノ人心安定對日依存ノ強化ニ資シツツアリ然ルニ日本國ニ於テハ「ラヂオ」ノ放送其ノ他一般雜誌印刷物等ニ於テ右ニ反スルノミナラス滿洲國ニ取リ却テ不利ナルカ如キ印象ヲ與フル放送乃至記事ヲ掲クル向アリ本件ニ付テハ我對支經濟關係貿易上ノ影響等ノコトヲモ考慮スルノ要アルコト勿論ナルモ折角重要政策遂行ノ機ニ當リ宣傳方法一途ニ出テサルハ極メテ好マシカラサル現象ナリト認メラルルヲ以テ此ノ際速ニ本件宣傳根本方針ヲ決定セラレ言論機關其ノ他ノ指導上遺憾ナキヲ期セラルル様致度シ

右ハ現地事態ノ推移如何ニ拘ラス今後ノ對支國策ノ基調タルヘキモノナルノミナラス直接滿洲國ニ對シテモ至大ノ關係ヲ有スルコトナルニ付重ネテ卑見上申ス
支、北平、天津へ轉電セリ

760 昭和12年8月17日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

当座預金の引出し制限など中国側金融機関が
実施した時局対策につき報告

天津 8月17日後発
本省 8月18日前着

第七六八號

當地支那銀行及銀號ハ一昨十五日迄平常通り營業ヲ續ケ居リタルカ十六日銀行公會及錢莊公會協議ノ上時局對策トシテ左記七箇條ノ申合ヲ爲シ即日實施セリ(但シ中央銀行及河北省銀行ヲ除ク)

(一)八月十六日以後銀行及銀號ニ於ケル當座預金ノ引出ニハ每週該預金殘高ノ五分以内トス尙一回ノ引出ハ銀百五十弗ヲ超過スルヲ得ス

(二)八月十六日及同日以後新ニ開設セラレタル預金勘定ハ(一)ノ引出制限ヲ受ケサルモノトス

(三)定期預金ハ期日以前ニ引出スヲ得サルモノトス又定期預金者カ期日ニ書換ヲ欲セサル場合ニハ當該銀行ニ當座預金ト爲スヘキモノトス

而シテ右當座預金ノ引出ニ付テハ(一)ノ制限ヲ受クルモノトス

(四)銀行ハ次項ノ定期預金ヲ擔保トシテ貸出ヲ爲スヲ得ルモ該貸出ハ一口一千弗ヲ超ユルヲ得ス

尙二千弗以内ノ定期預金擔保ニ對シテハ該預金ノ五割以内ノ貸出ヲ爲スヲ得

(五)⁽²⁾工場、會社其ノ他ノ機關ノ貸銀支拂ノ爲ノ引出ニ對シテハ特別ノ協定ヲ爲スヲ得

(六)送金ハ總テ法幣ヲ以テ爲スコト又現銀取引ニ限ルコト

(七)本辦法ハ八月十六日ヨリ實施シ時局緩和ヲ俟テ停止スヘキモ其ノ時期ニ付テハ改メテ通知ス

一方天津治安維持會ハ同會委員王曉岩ヨリ右辦法ノ披露ヲ受ケタルニ依リ十六日ノ定例(脱)[?]ニ於テ之カ對策ヲ評議セルカ當地ハ經濟的及政治的ニ南方トハ事情ヲ異ニストノ見

地ヨリ不取敢右辦法ニ對スル反對ヲ決議シ更ニ詳細ノ檢討ニ付テハ同會金融委員會ノ研究ニ俟ツコトトセル趣ナリ尙當地外國爲替銀行組合ハ十六日時局對策協議會ヲ開催ノ上平常通り營業ヲ繼續スルコト及外國爲替銀行ノ支那側銀行ニ有スル預金勘定ノ預金引出ニ付テハ前記ノ引出制限ヲ受ケストノ口約ヲ得タルモ爲念猶正式ノ保障ヲ要求スルコトニ決定セリ

~~~~~

761 昭和12年8月27日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

銀資金の調達が困難な華北実情に鑑み軍費支

払いには抜本的対策が必要の旨意見具申

天津 8月27日後発

本省 8月27日夜着

第八三三號

<sup>(1)</sup>七月二十九日附滿宛貴信第八九五號ニ關シ(軍費支拂ノ爲北支ニ於テ使用スヘキ通貨ニ關スル件)

鈔票ノ使用ハ兌換準備ノ爲正金ニ於テ銀資金ノ手當ヲ要スルノミナラス天津以外ニ於ケル其ノ通用力モ疑問ニシテ朝

朝鮮銀行券ヲ使用スルト利害大差無カルヘシト思考シ軍ヨリ朝鮮銀行券使用方ノ意見ヲ上申セルニ對シ當方ヨリハ特ニ意見ヲ上申セサリシ次第ナリシ處朝鮮銀行券使用以來ノ成行ヲ見ルニ同銀行券ハ日本租界内ノ小口取引ヲ除キ普通支那人及外國人ニ對スル支拂(軍力支那人ヨリ購入スル物資及外國人ヨリ購入スル自動車、「ガソリン」其ノ他ノ物資ニ對スル支拂、邦人紡績及邦人請負業者等ノ支那人職工「クリー」ニ對スル賃金支拂、關稅ノ納付等)ニハ通用セス結局法幣トノ交換ヲ必要トス而シテ圓弗ノ交換モ當初ハ左迄不自由ニ非サリシカ

(一)天津事件發生以來錢莊閉鎖シ交換市場カ極メテ狹隘トナリシコト

(二)商品ノ輸入杜絶セル爲邦商ノ手ニ入ル弗資金殆ト皆無トナレルコト從テ日本側銀行ノ弗資金カ極メテ手薄トナレルコト

(三)事變發生後モ銀行ハ直賣先買<sup>(2)</sup>ニ依リ弗資金ヲ調達シ居タルモ上海事件ノ勃發後ノ上海銀行ノ閉鎖ニ依リ右ノ途杜絶セルコト

(四)當地支那銀行ハ上海銀行ニ追從シ「モラ」ヲ爲シタル爲

支那銀行ヨリ融通ノ途モ絶ヘ同時ニ一般支那人ノ有スル弗資金ノ減少セルコト

等ノ事由ニ依リ多少纏リタル額ノ圓ヲ弗ニ交換スルコトハ殆ト不可能ナリ市中爲替相場モ七月ハ金百圓ニ付銀八十九弗ヲ唱ヘ而モ實際ニハ交換額カ三千圓以上ニ上ル場合ハ金百圓ニ付銀八十七弗見當ニ暴落スルト言フ實情ニシテ電々興中電業等ノ工事、「ガソリン」等ノ購入、紡績ノ賃金支拂、關稅ノ納付等モ殆ト不可能ナラントシツアルノミナラス一般邦人及支那人間ニ圓ニ對スル不當ナル不安人氣スラ擡頭シ居ル狀態ニシテ之カ對策トシテハ

(イ)圓ノ供給抑制、鈔票ノ使用ニハ前記ノ困難アリ又軍票ノ使用(強制通用)ノ如キ「ドラスチック」ノ措置ヲ執ルハ多大ノ無理ヲ伴ヒ人心治安ノ不安定ヲ來スヘシ

(ロ)圓ノ需要促進、日本居留民團課金ヲ圓建ニスル等ノ姑息手段ニテハ到底效果ヲ收メ難ク支那側ノ機關ヲシテ公課ヲ圓ニテ收納セシムルトスルモ弗建ヲ時價換算ニテ收納スルノミニテハ效果無カルヘク公定相場ヲ必要トスヘシ(強制的公定相場ノ如キ無理モ亦人心ノ不安ヲ來スニ過キサルヘシ)

762

昭和12年8月28日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

(ハ)弗ノ供給増加、差當リノ窮狀ハ一時的且局地的ノ現象ナレハ邦人銀行所有銀(總額約五百萬弗内三百萬弗ハ滿洲中央銀行ノ所有ニシテ直ニ自由ニナラサルモ差當リ殘額二百萬弗ニテモ可ナリ)ヲ引渡シ弗資金ヲ入手スルコト最モ有效ナル具体策カト思ハル此ノ外支那銀行ノ「モラ」ヲ中止セシムルトカ支那銀行ヲシテ圓擔保ニテ弗ノ貸出ヲ爲サシムルトカ圓ヲ外貨ニ換フル便宜ヲ與ヘ外貨ヲ以テ邦貨ヲ入手セシムルトカ河北省銀行ヲ接收シ外貨「クレヂット」ヲ與ヘタル上紙幣ヲ増發セシムルトカノ如ク根本策ヲ要スルニ非スヤト考ヘラル

本件ハ軍及居留民ノ困難甚タシク此ノ儘放置スルニ於テハ軍ノ行動及邦人ノ生活ニモ多大ノ支障ヲ來ス問題ニシテ延ヒテハ已ムヲ得ス北支獨立幣制ヲ必要トスルニ至ル惧モアリ何等對策研究ノ要アルニ付大藏省側トモ御協議ノ上何分ノ貴見(前記銀引渡ノ可否ノミニテモ)大至急御回電ヲ請フ上海、北平、滿ヘ轉電セリ

横浜正金銀行および朝鮮銀行の天津支店が銀資  
金調達のため所有現銀の処分を要望について

天津 8月28日後発

本省 8月28日夜着

第八四三號

往電第八三三號ニ關シ

正金、朝鮮兩銀行支店長ノ談ニ依レハ銀行トシテハ輸入品賣レサル現場ニ於テ輸入爲替ノ取立不能トナリタル一方之カ「カバー」ヲ主トシテ外貨買ニ依リ居タル關係上其ノ「テリバリー」ハ期日通り外國銀行ニ對シ弗ヲ以テ行フ必要アリ又支那銀行ノ「モラ」ノ結果上取引先ニ對スル融通ノ必要増加セル一方先安不安ニ依ル弗預金ノ引出少カラサル爲手許頗ル逼迫シ居レリ加之軍ノ需要スル弗資金(軍ノ支拂ハ三分ノ二位ハ圓ニ依リ居ルモ)調達ノ必要アリ旁銀行トシテモ此ノ際當地外國銀行乃至上海日本銀行ト同一條件ニテ銀ヲ支那銀行ニ引渡スコト致度シ之ニ依リ冒頭往電ノ如キ目下ノ「アブノーマル」ナル事態ヲ是正スルニ效果少カラサルヘシトノコトニ付軍及當方トシテハ銀行渡ニ異存ナキ旨ヲ申渡シタリ

銀行ハ夫々本社ニ請訓ノ上支那側ト交渉シ月末以前ニ引渡ヲ了シ度キ趣ニシテ本件ノ發表振等ニ付テハ軍トモ協議ノ上當方ニテ指導ノ筈ニ付差當リ外部ニ洩レサル様致度シ萬一御異見アラハ折返シ電報アリ度シ  
上海、北平へ轉電セリ

763

昭和12年9月1日  
在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本側銀行の所有現銀処分は金融・通貨安定  
の観点から最善の方策と思料する旨意見具申

天津 9月1日後発  
本省 9月1日後着

第八六〇號

貴電第三四一號ニ關シ(天津日本銀行ノ在銀處分ノ件)

「我方ニ於テ法幣入手ニ焦慮シ居レリトノ印象ヲ與フト言フモ現ニ九十弗前後ノ「ローカル・レイト」カ事實ヲ物語リ居ルモノニシテ銀ノ引渡ニ依リ之ヲ緩和シ得レハ寧ロ好影響ヲ與フヘシト思ハル

二、正金銀行ハ預金引出制限ハ銀行ノ信用上飽迄避クル要ア

リト爲シ居ルモ朝鮮銀行本店ハ銀引渡ヲ見合セ寧ロ預金引出ヲ制限スヘキ旨ヲ電命シ來レル趣ナル處外國銀行カ一行モ斯ル制限ヲ爲シ居ラサル今日日本側ノミ之ヲ爲スカ如キハ銀引渡ヨリ更ニ面白カラサル印象ヲ與フヘク他ニ途ナシトセハ寧ロ銀引渡ヲ可トスヘシ

三、上海來電第五六號ノ二、ノ外貨賣法幣買ニ付テハ朝鮮銀行ノ如キ賣ルヘキ外貨ヲ有セサル一方平常上海ニ依存スル當地外國銀行支店カ上海ト聯絡ノ途ヲ斷タレ且輸入貨物ノ殆ト皆無ナル今日外國銀行ヨリ外貨買法幣賣ノ「オフアー」モ極メテ僅少ニシテ時タマ十萬、二十萬位ノ出合アルノミナレハ(此ノ一兩日ハ稍増加セリ)弗資金ノ調達ヲ之ノミニ依ルコト不可能ナルヘシ(上海ニテ弗資金ヲ調達シ法幣ヲ現送シ得レハ好都合ナルモ中國、交通兩行券ハ上海發行ノ分ハ通用セス中央銀行券ハ餘リ當地方ニ流通シ居ラサルコトヲ考慮スルヲ要ス)

四、<sup>(2)</sup>引渡シタル銀力南送又ハ輸出セラルヘシトセハ法幣ヲ實質的ニ「サポート」スル結果トナルヘキモ支那銀行力當地ニ銀ヲ留メ置キテ銀ノ引渡ニ代リ法幣ヲ發行セシムルモ法幣ヲ「サポート」スル結果トハナラサルヘシ(其ノ

效果アリタリトスルモ四千萬弗ノ在銀ニ二百萬弗ヲ加フルニ過キス目下支那銀行ハ銀南送ノ意思ナキカ如ク我方トシテ之ヲ何トカ阻止スル方法アルヘシ

五、當地支那銀行公會（中國、交通、鹽業、金城、大中、中南、上海ノ各行ヲ含ミ中央銀行、河北省銀行ヲ含マス）ハ三十日治安維持會ト協議會ヲ開キ三十一日日本側金融對策委員トモ協議ノ筈ナルカ是等支那銀行ハ事實上上海トノ聯絡ノ途ナク當地ノ金融維持ノ爲日本側ト協力セントノ氣持ニ傾キ居リ（中國銀行ノ如キ毛利顧問斡旋ニテ正金、朝鮮兩行ニ對シ夫々差當リ三十萬弗ノ當座貸越（無擔保六分）ヲ承認シ銀引渡モ南送ヲ條件トスルカ如キコトナクシテ話合纏マル見込ナリ）目下銀行公會ヲ此ノ方向ニ指導中ニシテ當方面トシテハ軍事上ヨリスルモ後方ノ人心ノ安定ノ爲金融及通貨ノ平靜ヲ計ルコト最モ肝要ナリト思考シ居ルニ付金融及通貨ノ安定ヲ阻害スル惧アル措置ハ考物ニシテ寧ロ支那民衆ノ通貨ノ安定ヲ「サポート」スルコト必要ナリト考ヘ居レリ

六、右ノ如キ見地ヨリ金券ノ強制使用又ハ軍票ノ使用ノ如キハ頗ル考物ニシテ實際上ヨリモ物資ノ徵發ヲ行ハサル限

リ其ノ使用ハ單ニ物價ノ騰貴ヲ來スニ過キサレヘシ  
卑見御參考迄

上海、北平へ轉電セリ

~~~~~

764

昭和12年9月2日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛（電報）

華北地方の經濟安定策として棉花の輸入促進
を図るため為替管理法上の輸入制限緩和方意

見具申

天津 9月2日後発

本省 9月2日夜着

第八六七號

軍ノ作戰上特ニ必要ナル後方ノ安全確保ノ爲ニハ當方面ノ經濟的安定ヲ必要トスルコト申迄モナキ儀ナル處天津ノ如キ貿易港ハ察哈爾、山西、河南ニ亘ル廣大ナル背部地ニ依リ始メテ存在シ得ヘキニ拘ラス右背部地ハ目下戰線ニ依リ著シク局限セラレ戰線力更ニ南進スルモ平常ノ半ニモ至サルヘク從テ目下ノ如キ食料品以外ノ商内ノ停頓狀態カ戰線ノ南進ト共ニ漸次回復スル場合ニモ天津ノ貿易額從テ貿

易港タル天津ノ住民ノ所得モ亦激減スルハ必然ナリ斯テハ現下ノ輸送難ヨリ來ル食料品饑饉カ我方ノ措置ニ依リ解決セラレタリトスルモ住民ハ食料品ヲ購入スル資力ヲ有セサルニ至ルヘク茲ニ天津ノ經濟の不安、金融ノ不安延イテハ人心ノ不安ノ原因カ存スル譯ナリ

右ノ如キ事態ハ素ヨリ避ケ得ヘカラサル戰爭ノ結果ナリト雖若シ何等カ對策アラハ少シニテモ其ノ影響ヲ輕減シ當方面ノ經濟の安定ヲ出來得ル限り回復スルヲ要スルハ言ヲ俟タス例ヘハ出來得ル限り輸出ノ増進ヲ圖リ乃至ハ失業救済の見地ヨリスル邦人事業ノ進出方ヲ考慮スルカ如キ是レナリ

素ヨリ輸入超過ノ我國力無理ニ輸入ヲ爲ス要ナキハ勿論ナリト雖何レノ途必要ナル原料ハ若シ可能ナラハ之ヲ北支ニ求ムルカ如キ又對外支拂過超ノ我國力無用ナル事業ヲ北支ニ起ス要ナキハ勿論ナリト雖或程度ノ事業ヲ考慮シ遣ルカ如キハ當然必要ナル措置ト言フヘシ

如上ノ如キ見地ヨリ例ヘハ棉花及紡績ノ問題ヲ見ルニ棉花ハ本夏ノ例年ニナキ降雨ノ爲極メテ不作ニシテ戰爭ナシトスルモ收穫例年ノ半額位ナルヘキニ更ニ戰爭ノ爲天津ニ出

廻ル棉花ハ其ノ半額ニモ達セサルヘク(事態多少改善スルトスルモ來夏迄二百二十萬擔位ト想像セラル)而シテ紡績ハ製品ノ捌口ナキ以上停業ノ外ナク今後事態多少改善スルトモ五割運轉ヲ續クルコト困難ナルヘシ

依テ北支棉花ニ關スル限り爲替管理法上ノ輸入制限ヲ全廢シテ棉花ノ對日輸出ヲ促進シ(其ノ量ハ本邦ノ全棉花消費量ノ數十分ノ一二モ達セサルヘシ)又紡績製品ノ海外捌口ヲ考慮シ遣ルカ如キ措置ハ前述ノ見地ヨリモ絶對必要ナリト思考セラル

製造工業品トシテハ紡績位ノモノナルヘキモ原料品ニ付テハ棉花ノミナラス植物油原料獸毛等ノ他ノ當地主要輸出品ニ付テモ右ト同様爲替管理法上ノ取扱ヲ考慮シ遣ル必要アリ具體的例ニ付テハ更ニ累次申進ムヘキモ目下中央ニ於テハ爲替管理以上貿易統制ニ付考究中ノ趣ニモ有之本省當局ニ於テモ此ノ邊ノ事態ヲ篤ト御研究相成リ關係方面ヘモ豫メ充分徹底シ置カル、様御配慮相煩度シ

上海、北平へ轉電セリ



765

昭和12年9月14日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

河北省銀行券を中心とする華北金融対策の現

地方針案策定について

付記 昭和十二年九月二十五日

「北支金融對策要綱」に関する青木企画院次
長の説明要旨

天津 9月14日後発

本省 9月14日後着

第九二七號

北支金融問題ニ關シテハ青木次長ノ稟申ヲ機トシ出先各參
謀長トノ間ニ打合ノ上河北省銀行券ヲ中心トスル現地案ヲ
得タリ詳細ハ近日歸京ノ青木次長ヨリ聴取ヲ請フ
軍側ヨリモ本日同趣旨發電濟

本件ハ部外ニ洩レサル様注意スルコトニ軍側ト打合濟

(付記)

北支金融處理要綱ニ關スル青木次長説明要旨

(對東方)

(昭三、九、二五 小澤記)

本官北支滯在中別紙甲ノ通大藏、陸軍兩大臣ニ稟申ノ結果
其回訓ヲ得タルニ依リ直チニ北支金融對策要綱二ノ(九)及(十)
海關ニ關スル措置ヲ除キタル其他ヲ實行ニ移シ歸京セルモ
ノナリ

本要綱及實施要領ハ何レモ差當リ當面ノ問題ヲ處理スル過
渡的措置案ナルモ他面本結論ヲ得タル考ヘ方ハ我國ノ北支
對策ノ根本問題ノ一部ヲ爲ス經濟財政金融問題ニ關スル將
來ノ問題處理ノ示唆トナルモノト信スルモノナリ

(一)先ツ日本側ニ於テ考慮スヘキ當面ノ問題ハ次ノ三點ナル
ヘシ

第一ハ軍ノ現地支拂通貨ノ問題ニシテ右ニ付テハ鮮銀券
ヲ以テ賄フヤ軍票ヲ發行スルカ又ハ支那法貨ヲ利用スル
カノ問題アリ其ニハ占領地域ニ對スル問題ニシテ右地域
内ノ金融ノ安定、交通及通信ノ確保カ同時ニ治安工作ト
シテ重要ナル問題ナリ第三ハ日滿支經濟關係ニシテ即三
國間ニ於ケル物資交流ノ問題之ナリ之カ爲ニハ此際
Financeノ問題トシテ今日ヨリ右關係設定ノ基礎ヲ確保
セサルヘカラス

(二)右觀點ヨリ北支金融對策要綱一方針ニ付本官ノ見解ヲ述

フレハ通貨金融對策トシテハ事實上人心ノ不安ヲ除去スルコトヲ以テ要諦トスルモノニシテ若シ鮮銀券ヲ強制的ニ使用セシムルカ又ハ軍票ヲ使用シテ之ニ強制通用力ヲ與ヘントセハ之カ背後ニ強力ナル政權ノ存在ヲ必要トスヘク現狀ニ於テハ軍政ヲ數カサル限り其目的ヲ達スルコトヲ得サルヘシ其結果トシテハ軍ノ強力ヲ以テ經濟生活ヲ支配スルニ至リ經濟ノ安定、人心ノ安定ノ趣旨ニ反スルニ至ルヘシ從ツテ法幣利用ノ外他ニ途無シト考フルニ至レルモノナリ之ニ次テ考慮スヘキハ現地諸機關(行政機關?)ニ對スル日本ノ財政負擔ハ之ヲ出來得ル限り緩和スルノ要アリ之カ爲ニハ現地徵辦ノ方途ニ出テサルヘカラサルコト是ナリ

右目的ヲ遂行スル方法トシテハ北支ニ於ケル支那側銀行就中、河北省、中國、交通ノ三銀行ノ自主化ヲ必要トス即右三銀行ニ對シ適當ナル措置ヲ加ヘ自ラ北支地方經濟ヲ賄ヒ得シムル様爲ササルヘカラス

(二)右實施ノ爲ニハ(一)理想案トシテハ前記三銀行ヲ日本ト協調セシメ之ヲ加ヘタル各行ヨリノ共同出資ニ係ル北支聯邦準備庫制度ヲ採用シ度キモ之カ爲ニハ更ニ戰局ノ進展

ヲ見サル限り中國銀行ノ如キ其態度決定ニ難色アルヘキヲ以テ(二)夫迄ノ間ハ河北省銀行ヲ中心トシテ甲號三ノ(ロ)冒頭ノ如ク支那側銀行ノ協力ヲ強化セシムル如ク措置セシムルノ要アリ

河北省銀行ハ佛租界ニ本店アルヲ以テ實力ヲ以テ之ヲ引ヅリ來ル譯ニ行カス何等カ之ヲ納得セシメ引摺リ來ラサルヘカラス然ル處從來冀察政務委員會カ之ヲ管理シ來レル關係モアリ之ヲ引ヅル爲ニハ是非共之ニ代ル組織ヲ有セサルヘカラス此ノ目的ヲ達成スル爲ニモ北平、天津ノ治安維持會ヲ一括スル要アル旨ヲ主張シ來レル處幸ヒ右氣運釀成セラレ先般平津治安維持會聯合會ノ成立ヲ見ルニ至レル次第ナリ(實施要領第一參照)

右河北省銀行管理ハ甲號電報ニ對スル回訓ニ基キ直チニ其實施ニ着手シ張士、曹汝霖、朱授光鮮銀關係者ヲシテ右工作ニ當ラシメタリ

而シテ河北省銀行券ハ今日日本貨ト等價ナルモ之ヲ官憲側ニ於テモ積極的ニ支持セシメサル限り其値下リヲ來スヲ以テ政權ヲシテ進ンテ之ヲ其 legal tender タラシムルヲ要ス(要綱二ノ(一))

次ニ現地支拂ハ俸給給與ヲ除キ原則トシテ日本支出官カ
 鮮銀券ヲ以テ河北省銀行券ト引換ヘ支拂フコトトスル結
 果河北省銀行ニハ金資金カ渡サルル結果トナルヘシ依ツ
 テ之ヲ日本側銀行ニ預入レシムルコトトスルノ要アリ
 (要綱二ノ三)

(四) 中國銀行ニ對スル對策(實施要領第二ノ一、二、三參照)
 河北省銀行ニ對スル協力中法貨調達ニ付テハ中國銀行カ
 我方ニツクヤ否ヤヲ計ル「バロメーター」トシテ之ヲ中
 國銀行ヲシテ行ハシムルコトトセルカ右ハ一二人ノ問題
 ニシテ本官ノ見ル所ニテハ本店ニ對シ説明サヘツケハ中
 國銀行側ハ之ニ應スルモノト觀測シ居ルモノニシテ中國
 銀行側ニテハ何程ノ金ヲ調達スヘキヤヲ執拗ニ本官ニ問
 ヒ來リ私見トシテ一千萬圓モアラハ二箇月位ハ賄ヒ得ヘ
 シト傳ヘ置キタリ

而シテ若シ此等支那側金融機關カ河北省銀行ニ對シ協力
 ヲ肯セサルカ如キコトアラハ其地位ヲ承認セストシテ和
 戰兩様ノ方法ヲ以テ交渉セシメ居レリ(要綱二ノ八、實
 施要領第二ノ二參照)

(五) 北支財政收入ノ確保

北支行政機關ノ機能ノ回復ヲ圖リ興中公司カ鮮銀ヨリ借
 リテ行政ニ充ツルカ如キコトハ極力之ヲ避クル要アルヘ
 ク既ニ統稅、煙草稅等ハ接收ヲ了シタリ煙草稅ニ付テハ
 英米「トラスト」ニ於テ最初仲々承知セサリシモ終ニ我
 方ノ云フコトヲ聞クニ至レリ(甲號三ノ二、要綱二ノ七)、

(十)
 次二問題トナルハ海關ノ接收問題ニシテ稅關長トノ接收
 ハ領事館側ニ於テ之ニ當リ居タルカ稅關側ニテハ關稅收
 入ヨリ稅關ノ經費ヲ引キ外債擔保部分ヲ上海ニ送リタル
 殘リヲ正金銀行ニ預入ルルコトト致度シトセルニ對シ我
 方ハ外債擔保部分ヲ正金ニ預ケ入レシメ殘リヲ地方政權
 ノ經費ニ提供セシメント主張セルモノニシテ之ニ對シ先
 方ハ正金ニ預ケ置ケハ稅關側ノ承知セサル間ニ私消セラ
 ルル惧アリト反駁シ來レルモ右ハ誤謬モ甚シキモノニシ
 テ日本ノ銀行ハ預主(稅關)ノ承知セサルモノヲ使用スル
 コト不可能ナル旨ヲ說示シ置キタリ

(六) 關稅問題

現在ノ處軍用品ハ無稅ナルモ其他ノ物資ハ舊稅ニ基キ高
 率關稅ヲ負擔シ居レリ從ツテ中ニハ軍用品ト稱シ無稅輸

入セラルルモノモアルモ右高率關稅ニ對シ從來我方ニ於テ支那民衆ニ對シ不都合ナリトシテ其稅率ノ低下ヲ南京側ニ要求シ來レル關係モアリ寧口此際稅率ヲ輕減スルコトヲ最モ合理的ノ措置トスヘシ右輕減稅率實施セラルルニ至ラハ陸軍側トシテモ冀東貿易ノ廢止ニ贊成スヘキ旨喜多武官ヨリ言明アリタル次第ニシテ本件ハ出來得ル限り至急之カ決定ヲ爲スノ要アルモ現地ニ於テハ中央ヨリノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ意見ノ一致ヲ見サルヲ以テ此點至急中央ニ於テ決定ノ要アリト思考ス

(七)以上本官ノ金融對策ニ付テハ北支ノ幣制カ南京ノ幣制ニ追隨スルカ如キ印象ヲ與フルヤモ知レサルモ民心ノ安定ヲ基礎トシテ考究スル場合右方法ヲ以テ最上ノモノトスヘク旁南京側ノ法幣崩解スル^(豫カ)ト雖モ北支幣制ハ之ニ依リ其安全性ヲ保持スルニ至ルヘク却ツテ支那民衆ニ恩惠ヲ與フルト共ニ同時ニ日本ノ實力ヲモ之ニ加フルコトヲ得ル良策ナリト信スルモノアリ

(別紙甲号)

電報案

大藏大臣
陸軍大臣 宛

青木次長ヨリ

一、北支ニ於ケル法幣其他支那側通貨ノ供給異常ニ梗塞シ之カ緩和ハ民心ノ安定上刻下ノ急務ナリト認メラルル處、北支民衆ハ未ダ朝鮮銀行券ノ使用ニ慣レザルモノアリ、今後益々増加スベキ軍ノ現地支拂ニ專ラ朝鮮銀行券ヲ使用スル時ハ其ノ對法幣相場ヲ益低落ニ導クニ過ギズ、而シテ朝鮮銀行券若クハ軍票ノ通用竝ニ其相場維持ノ爲ニ強制的方法ヲ採用スルコトハ事變ニ對スル帝國政府ノ今日迄採リツツアル方針竝ニ北支民衆ニ及ホス影響ニ鑑ミ之ヲ避クルノ要アリト信ズ

二、依テ茲ニ河北省銀行、中國、交通兩行其他主要支那側銀行ノ參加協力ニ依ル北支金融ノ自主化ヲ畫策シ、速カニ支那側通貨特ニ河北省銀行券利用ノ途ヲ講ジ、以テ皇軍ノ活動竝ニ我爲替政策ニ寄與スルト共ニ後方地區ノ治安ノ確保及ビ民生ノ維持安定ニ資シ併セテ今後ノ北支經營ニ要スル我國ノ負擔ヲ出來得ル限り緩和スルヲ適當ト信ズ

三、右ノ趣旨ニ基キ左ノ如キ要旨ニ基ク北支金融對策要綱竝ニ其ノ實施要領ヲ起案シ當地軍當局其他關係者ノ聯合協議ニ附シ現地案トシテ同意ヲ得タリ

(イ) 差當リ軍ノ支拂等ノ爲ニ必要トスル法幣資金ハ主トシテ中國銀行ヨリノ融通及ビ日滿側銀行所有現銀ノ處分ニヨリ之ヲ調達スルコト外貨資金ノ處分ニヨル調達ハ可及的之ヲ避クルコト

(ロ) 速カニ支那側行政機關ノ機能ヲ發揮セシメ河北省銀行ノ管理統制ヲ強化スルト共ニ同行券ノ法幣ニ對スル等價ノ維持ノ爲ニ支那側銀行ノ協力ヲ強化セシメ、日支諸機關ニ於テモ積極的ニ必要ナル措置ヲ講スルコト、而シテ北支金融ノ自主化ニ關スル工作(各行共同出資ニ係ル北支聯合準備庫制度ヲ豫定ス)ハ今後狀勢ノ推移ニ應ジ中國銀行ヲ中心トシテ支那側有力銀行(中央銀行ヲ除ク)ニ對シ行フコト

尙右工作ハ軍ノ内面指導ノ下ニ支那側行政機關ヲシテ之ニ當ラシメ諸銀行ノ自發的協力參加ヲ獲チ得ル如ク措置スルコト

(ハ) 軍ノ現地支拂ハ俸給給與ヲ除キ原則トシテ河北省銀行

券ヲ以テスルコトトシ(此ノ場合河北省銀行ノ得タル資金ハ日本側銀行ニ預入セシム)又朝鮮銀行券ノ引換要求ニ對シテハ河北省銀行券ヲ以テ之ニ應スルコトトシ、其ノ引換相場ハ日支當事者間ニ於テ原則トシテ時價ヲ參酌シテ時々之ヲ定ムルコト

(ニ) 北支^(地方)財收入ノ確保特ニ海關把握ノ途ヲ講ジ、北支行政機關ノ機能ノ回復ヲ圖リ、其ノ不足トスル資金ハ能フ限り支那側銀行ヲシテ調達セシメ以テ我方負擔ノ緩和ニ資セシムルコト

(ホ) 日滿物資ノ輸入促進ノ爲ニ輸送ノ便宜供與、配給機構ノ整備、關稅定率ノ暫定的輕減、要スレバ中南支トノ關稅障壁ノ設定等ヲ講ズルト共ニ出來得ル限り我方ノ北支物資ノ購入促進ニ努ムルコト

四、右要綱竝ニ要領正文ハ陸軍省河村中佐携行十七日飛機ニテ歸京スベキニ付委細夫レニテ承知相成度、本案ノ實行ニ就テハ、支那側銀行カ何レモ英佛租界ニ其本據ヲ有スル等ノ關係ニテ尠カラサル困難ヲ生スルコトト想像セラルルモ、他ニ良案考慮シ得ラレサルヲ以テ、萬難ヲ排シ實施セラルルコトヲ希望ス、尙河北省銀行ノ管理ノ如キ

直チニ着手ヲ要スル事項モ少カラサルヲ以テ至急政府方針トシテ御採擇アラムコトヲ希望ス、尙小官ハ數日中ニ歸途ニ就ク豫定ナル所、出發前右ニ決定ノ旨御回電ヲ得タル場合ニハ當地鮮銀正金兩行支配人ニ對シ當面ノ措置ニ付若干ノ指示ヲ與ヘ置度ニ付此點特ニ大藏大臣ノ御了解ヲ乞フ

(別紙乙号)

北支金融對策要綱

一二、九、一二

事變中北支ニ於ケル日本軍ノ活動竝ニ日本政府ノ爲替政策ノ遂行ニ寄與スルト共ニ後方地區ノ治安ヲ確保シ民生ノ維持安定ヲ圖リ併セテ事變後北支政治形態ノ如何ニ拘ラズ我國ノ經營力ト北支經濟力トノ結合ニヨリ日滿支經濟關係ノ緊密化ノ素地ヲ確立スル爲、左記要領ニ依リ金融對策竝ニ之ガ爲必要ナル財政經濟對策ヲ講ズルモノトス

一、方 針

北支ニ於ケル通貨金融對策ニ付テハ極力經濟ノ運用ヲ圓滑ナラシメ人心ノ不安ヲ惹起スルコトナカラシムルト

共ニ事變中竝ニ事變後ニ於ケル北支經營ニ要スル我國ノ負擔ヲ出來得ル限り緩和スル爲、河北省銀行、中國、交通兩行其他主要支那側銀行ノ參加協力ニ依ル北支金融ノ自主化ヲ策スルモノトス

二、措 置

(一)速カニ河北省銀行管理委員會ノ機能ヲ發揮セシメ河北省銀行ニ對スル管理統制ヲ強化ス

(二)河北省銀行券ハ現在ノ法幣トノ等價ヲ維持セシムル爲支那側銀行間ノ協力ヲ強化セシムルト共ニ日本側及支那側諸機關ニ於テモ積極的ニ必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

(三)軍ノ現地支拂ハ俸給給與ヲ除キ原則トシテ河北省銀行券ヲ以テ爲スモノトス、此ノ場合河北省銀行ノ得タル金資金ハ日本側銀行ニ預入セシムルモノトス

(四)軍ノ支拂及日本側銀行ノ取引上必要トスル法幣資金ハ支那側發券銀行(主トシテ中國銀行)ヨリノ融通及日滿側銀行ノ所有現銀ノ處分ニ依リ之ヲ調達スルコトトシ日本ノ外貨資金ノ處分ニ依ル調達ハ可及的之ヲ避クルモノトス

(五) 鮮銀券ノ引換要求ニ對シテハ河北省銀行券ヲ以テ應ズルモノトス

(六) 鮮銀券ト河北省銀行券トノ引換相場ハ日支當事者間ニ於テ原則トシテ時價ヲ參酌シテ時々之ヲ定ム

(七) 行政機關ノ諸經費ニ充ツル爲必要ナル資金ハ能フ限り支那側銀行ヲシテ調達セシムル如ク工作スルモノトス

(八) 支那側銀行參加ニ依ル北支幣制自主化ハ各銀行ノ共同出資ニ係ル聯合準備庫制度ヲ豫定スルモ支那側銀行ヲシテ北支通貨金融ノ自主化ニ參加セシムルコト不可能ナル場合ニ於ケル支那側銀行ノ處置ニ就テハ別途考究スルモノトス

(九) 日滿ヨリ物資ノ輸入ヲ促進スル爲輸送ノ便宜供與、配給機構ノ整備、關稅定率ノ輕減、要スレバ中南支トノ關稅障壁(專稅)ノ設定等適切ナル方策ヲ講ジ北支民生維持ヲ圖ルト共ニ日本側爲替政策ニ寄與セシム、尙出來得ル限り北支物資ノ購入ヲ促進スルコトニ力ムルモノトス

(十) 速ニ財政收入確保ノ途ヲ講ジ行政機關ノ機能ノ回復ヲ圖ルト共ニ日本側財政及金融負擔ノ緩和ニ資セシムル

モノトス

(十一) 海關ニ付テハ其ノ收入ヲ北支ニ確保スルト共ニ日滿物資ノ輸入ヲ容易ナラシムル爲差當リ一定ノ商品ニ付キ輕減定率ヲ適用スルノ暫定的方策ヲ講ズルコト

北支金融對策實施要領

一一、九、一二

第一、河北省銀行管理要綱

一、管理機關

(イ) 速ニ冀察政務委員會二代ルヘキ行政機構(差當リ平津治安維持會聯合會)ノ監督ノ下ニ河北省銀行管理委員會ヲ改組シ河北省銀行ニ對スル管理統制ヲ強化ス

(ロ) 河北省銀行管理委員會ノ改組強化ニ當リテハ特ニ其ノ人的構成ニ留意シ平津銀行界及商工界ヲ指導シ得ル人物ヲ委員トシテ配置スル如ク指導スルト共ニ顧問又ハ囑託トシテ適切ナル邦人ヲ招聘セシム

三、河北省銀行管理委員會ノ任務

(イ) 管理委員會ハ直ニ河北省銀行ノ内容調査ヲ遂ケ今後

ニ於ケル各種ノ對策樹立ノ基礎ヲ明確ナラシムルモノトス

(ロ)管理委員會ハ將來河北省銀行ヲ少クトモ北支ノ中央發券機關ノ一員タラシムルコトヲ目標トシテ同行ヲ管理指導スルト共ニ同行ヲシテ我軍費現地支拂等ノ爲ニ所要ナルヘキ通貨ノ圓滑ナル供給ヲ爲サシムル如ク同行ヲ管理指導スルモノトス

(ハ)管理委員會ハ速カニ河北省銀行券ノ増刷ヲ圖ルモノトス

三、河北省銀行ノ本店所在地ハ北支中樞行政機關ノ所在地ト關連シテ之ヲ定ムルモノトス

四、河北省銀行ノ管理統制強化セラルルニ於テハ同行ヲシテ北支財政收入ノ取扱ヲ爲サシムルモノトス

尙右取扱ノ開始以前ニ於テハ行政機關カ受入レタル法幣ハ適宜日本側銀行ニ預入セシムルモノトス

第二、中國、交通兩行其他支那側金融機關指導要綱

一、河北省銀行ニ對スル協力並ニ北支金融自主化ニ關スル工作ハ中國銀行ヲ中心トシ北平及天津銀行公會會員銀行(中國、交通、金城、大陸、中南、鹽業及北洋保商)

ニ對シ之ヲ行フモノトス

二、支那側金融機關ノ統制指導ハ軍ノ内面指導ノ下ニ平津治安維持會聯合會ヲシテ之ニ當ラシムルト共ニ隨時適當ナルモノヲシテ個別的ニ支那側金融機關ノ北支責任者ト懇談セシムル等ノ方法ニヨリ其ノ自發的協力ヲ獲チ得ル如ク措置スルモノトスルモ、要スレバ將來北支ニ於ケル地位ヲ喪フニ至ルベキコトヲ暗示スル等ノ考慮ヲ用ヒ極力目的ノ達成ニ努ムルモノトス

三、支那側金融機關ニ對シ差當リ

(イ)河北省銀行券ノ等價維持ニ對スル協力

(ロ)日本側銀行ニ對スル融資

ヲ要求シ、進ムテハ必要ニ應ジ

(ハ)平津治安維持會聯合會ニ對スル行政借款

ヲ要求スルモノトス

四、現銀ノ南送及搬出ヲ防止スル爲

(イ)平津治安維持會聯合會ヲシテ現銀ノ檢査ヲ爲サシム

(ロ)海關ノ實質の把握ニヨリ監視ヲ全カラシム

(ハ)治安維持會聯合會ヲシテ改メテ現銀ノ搬出禁止ノ布告ヲ爲サシメ此ノ場合右ノ行爲ノ軍司令官布告ニ觸

ルル旨ヲ公示セシム

五、發行準備管理委員會天津分會ハ治安維持會聯合會ノ下ニ歸屬セシメ之ヲ改組シ現銀檢査ノ外河北省銀行以外ノ發行業務ヲ監督セシメ漸次銀行監督ノ機能ヲ發揮セシム

六、北支ノ政局カ進展シ支那側銀行ノ北支金融自主化ニ對スル參加明確トナリタルトキハ直チニ北支聯合準備庫ノ設立ニ着手ス、之カ構成及機能ノ細目ニ付テハ別途之ヲ考究ス、右ニ要スル紙幣ノ原版ノ作成ハ豫メ之ヲ準備シ置クモノトス

七、南方系發券銀行ノ銀行券ニシテ「天津」ノ表示ナキモノハ極力之ヲ回收シ南方ニ於ケル軍ノ需要ニ供スルモノトス

八、治安維持會聯合會ヲシテ錢莊其他兩替商ノ取締ヲ實行セシメ鮮銀券及河北省銀行券ノ不當ナル賣買ヲ禁止スルモノトス

九、北支各行政機關、鐵道、郵局、電信電話、電氣、水道等ノ公共機關ヲシテ河北省銀行券ヲ法幣ト等價ニテ無條件受入ヲ爲サシムル外、商務會、同業公會等民間經

濟團體ニ對シテモ右方針ニ順應スル如ク指導スルモノトス

766

昭和12年9月24日

在上海岡本總領事より
広田外務大臣宛(電報)

事變が長期化すれば上海財界は苦境に陥つて
國民政府への影響力を失い共產勢力が台頭す
るだろうとのホール・パッチ内話報告

上海 9月24日後発

本省 9月24日夜着

第一五八〇號

往電⁽¹⁾第一五六八號ニ關シ

上海財界竝ニ支那全般ノ財政金融問題等ニ關スル「ホールパッチ」ノ日高參事官ニ對スル談話要領左ノ通り

一、支那側ハ事變以來今日迄上海方面ニ於テ五千五百萬元ノ新紙幣ヲ増發セルモ依然トシテ法幣ハ甚タシク缺乏シ居レリ右ハ支那銀行ノ預金引出制限ニ從テ一般民衆間ニ通貨ノ「ホーディング」行ハレ外國銀行亦成ルヘク資金ヲ海外ニ送り當地ニ於テ外貨賣弗買ヲ爲ササル等種々ノ事

情ニ基クモノナリ(三菱銀行吉田ノ談ニ依レハ俘虜ノ手持金ヲ調ヘタル結果一旦政府銀行ニ於テ回收セル民間紙幣ヲ所持シ居ル者アリタル由ニ付右ニ言及シ「ホ」ノ意見ヲ尋ネタル處「ホ」ハ能ク承知セサル旨答ヘタリ)

右上海ノ通貨不足ニ引換ヘ奥地ニ於テハ「インフレ」ノ傾向アリ而シテ支那側ハ少數ノ大都市ニ於ケル政府系銀行ノ預金ニアラサレハ之カ上海ヘノ送金ヲ許ササル命令ヲ出シ(註、右ノ如キ法令ハ見當ラサルモ實際上國內爲替ニ制限ヲ爲シ居レルハ事實ノ如シ)以テ奥地ヨリノ資金ノ流れ從テ資金ノ海外逃避ヲ防止シツツアリ自分ハ支那側ノ右ノ如キ預金引出又ハ資金流通ノ制限ハ大局上不可ナル旨ノ意見ヲ述ヘ居レリ

二、日支交戦カ六箇月ニ亘ラハ上海ノ財閥銀行ハ苦境ニ陥ルモノト思ハレ右カ日本側ノ狙ヒ所カト想像スルモ其ノ結果上海財界ノ南京ニ對スル力ヲ殺キ南京ハ右穩健ナル勢力ヨリノ掣肘ヲ失フト共ニ益々桃色乃至ハ赤色化スルニアラサルヤヲ惧ル尤モ上海財界ハ南京政府ト別個ノ生命ヲ保ツモノトモ認メラレ宋子文ノ如キハ先般來政治活動ヲ思切り居レルカ最近上海財界ノ維持ニ汲々トシテ餘リ

南京ニ赴カス却テ南京行ヲ避ケ居ル傾向アリ(右ノ結果張公權ハ南京ニ於ケル財政通トシテ蔣介石ノ相談相手トナリ其ノ地位向上セル傾アリ)

三、上海ニ於テハ匯割ト法幣トカ流通シ兩者ノ間ニ打歩ヲ生セス不思議ナル現象ヲ呈シ居レルカ日支交戦ノ結果新式銀行ハ非常ナル痛手ヲ蒙リ之カ長引ケハ支那各地ニ於ケル新式銀行ノ勢力失墜シ再ヒ舊式地方金融機關ト併立スルコトトナルヘク斯クテ支那ノ近代の金融商業組織ハ破産ニ瀕シ外國貿易ハ再ヒ買辦制度乃至ハ物々交換ノ昔ニ還元スルニアラサルヤ右ハ對支貿易ニ利害ヲ有スル外國側ヨリ見テ甚タ不便ナル事態ナルヘシ

北平、天津ヘ轉電セリ



767

昭和12年9月27日 在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

河北省銀行券を中心とする華北金融対策の準備工作進捗について

天津 9月27日後発
本省 9月27日夜着

第一〇〇七號(極祕)

往電第九二七號二關シ

本件金融對策ハ從來冀察ノ任命監督シ來レル河北省銀行監理委員會ヲ平津治安維持會聯合會ノ監督ノ下ニ改組シテ河北省銀行ヲ「コントロール」スルト共ニ中國、交通其ノ他ノ主要銀行ノ協力ヲ得ルコトヲ前提トスルモノナル處治安維持會聯合會ハ二十二日成立シ(往電第一〇〇五號)引續キ坂谷理事及毛利顧問等ニ於テ特務部ノ旨ヲ受ケ工作ノ結果曹汝霖、李思浩(金融問題解決ノ爲支那側銀行ヲ協力サスカ爲ニハ是等二人ヲ誘ヒテ内面指導ヲ爲サシムルコト必要ナル旨ヲ本官ヨリ喜多部長ニ再三申入レ置キタリ)張。弧。等ノ協力ヲ得テ二十七日監理委員會章程ノ決定竝ニ溫。世。珍(元南京交渉使)楊。允。楷。、沈。鴻。昭。(何レモ元財政部司長ニシテ李、曹ヨリ推薦セル趣ナリ)ノ三名ノ委員ノ任命ヲ見ルコトトナリ更ニ銀行公會、錢業公會及市商會ヨリ十名ノ協贊。委員ヲ任命スル筈ナリ尙主要銀行家(殊ニ中國銀行)トノ關係モ先方二種々ノ希望ハアリタルモ大體ニ於テ順調ニ工作進展シツツアル趣ナリ

以上ノ準備的工作モ大體出來タル譯ニ付今後ハ未發行紙幣

ノ問題、邦幣資金ノ調達等ノ實質的問題ノ工作ニ入ル筈ナリ

以上發表セサルコトト致度シ(中央系銀行家ノ立場モアリ發表ハ避ケテ極祕裡ニ工作ヲ進ムル軍ノ意嚮ナリ)

北平、上海、滿ヘ轉電セリ

~~~~~

768

昭和12年10月5日

在天津堀内総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

華北地方の經濟安定を図るため華北物資の購入獎勵および為替管理法上の特例措置採用方意見具申

天津 10月5日後発  
本省 10月5日夜着

第一〇四六號

往電<sup>(1)</sup>第八六七號二關シ

一、當方面ノ物資ノ輸出ヲ促進スルコトカ北支ノ經濟的安定、治安ノ維持上最緊急事ニシテ金融對策上重要視セラルル日滿物資ノ北支輸入促進ノ如キモ戰爭ニ疲弊セル北支ニ於テハ物資ノ輸出ニ依リ購買力ノ増進ヲ圖ルニアラサレ

ハ如何ニ關稅等ヲ修正スルモ到底庶幾シ得サル所ナルコトハ先般來津セル青木次官モ最近歸國セル喜多部長モ本官等再三ノ説明ニ依リ充分之ヲ認識シ居リ夫々東京ニ於テ關係方面ト之カ實現ニ必要ナル措置ヲ協議シ居ルコトト存ス

二、本件實現策トシテハ奧地物資ノ出廻リノ爲ニ運搬方法（例ヘハ徵發セラレタル民船ノ回復、鐵道ノ普通列車運轉）及土匪敗殘兵ニ對スル防衛處置（例ヘハ公安局水上警察ノ復舊）等ニ付對策ヲ講スル要アリ又輸出業者ニ對シ弗資金取得内國送金等ノ便益ヲ考慮シ遣ル必要アリ是等ニ付テハ夫々當地ニ於テ研究中ナルカ當地ノ實狀ヨリスレハ以上ノ如キ諸點ヨリモ寧ロ當業者カ爲替管理上ノ許可ヲ得ラルルヤ否ヤノ判斷ニ迷ヒ若クハ許可ハ得ラレサルモノト諦メテ買付ヲ試ミサルコトカ輸出増進ニ對スル最大ノ支障ナリト思考セラル許可ヲ得タル上ニテ電報一本ニテ買付ヲ爲シ得ル歐米邊ノ市場ト異リ買付ニ多大ノ苦心ト時日ヲ要スル當地（殊ニ現在ハ然リ）ニ於テハ許可カ得ラルルヤ否ヤ判明セサルニ買進マサルハ寧ロ當然ト言フヘク之カ爲金融策ノ進行及產業貿易ノ復活等總テ進

行ノ途ナキ現狀ニ在リ從テ之カ對策トシテハ

此ノ際速ニ政府ニ於テ北支ノ物資ノ購入ハ國策上之ヲ特ニ獎勵シ爲替管理其ノ他ノ戰時貿易管理法上ニ於テモ特殊ノ考慮ヲ拂フモノナルコトヲ決定宣明セラルコト緊要ニシテ殊ニ棉花ニ付テハ其ノ割當ニ際シ各商社ニ對シ割當額ノ一部分ハ北支棉花ヲ購入スルヲ要スルノ條件ヲ附シ又ハ北支棉花ハ割當外ニ特殊ノ考慮ヲ拂フ旨ヲ明カニセラルルコト肝要ナリ（右ノ如キ措置ヲ執ラレハ商人トシテハ總ユル努力ヲ拂ヒ前記ノ如キ局地的困難ヲ「オーバーカム」スル手段ヲ講スヘク是レ前記ノ運搬、金融等ニ關スル困難ヲ解決スル最善ノ手段ナリ）

三、棉花ニ付右ノ如キ措置ヲ講セラルルニ當リテハ前年ノ對日輸出量ヲ標準トセス從來青島、上海ニ輪送セラレ居タル河北棉（山東棉ノ一部）カ陸路モ海路モ其ノ途ヲ失ヒタルコト、當地紡績ノ消費量カ減少スヘキコトヲ考慮シテ可能輸出量ヲ想定シ之ヲ基準ニ對策ヲ決定スル要アリ其ノ數字ニ付テハ大體九月四日附往信第一〇三六號ヲ御參照相成度シ其ノ後水害ニ依リ更ニ多少減少セルモ輸出餘力ハ少クトモ百二十萬擔（内蒲團綿四十萬擔、紡績綿七

十萬擔位ナルヘク來年三月頃迄ニ其ノ約半分ヲ許可セラルル方針ニテ處置セラルルコトヲ希望ス

尙蒲團綿ハ近時戰時工業ノ關係上需要頗ル盛ナル趣ニ付輸出促進困難ナラサルヘク紡績綿ハ内地ノ紡績ニ於テ來年二月頃迄大體手配濟ナルヤノ(脱?)不足額新割當ヲ考慮セラレ居ル趣ニモアリ特ニ御考慮ヲ請フ  
北平、上海ニ轉電セリ

~~~~~

769 昭和12年10月9日 在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

察南銀行の開業について

天津 10月9日後発
本省 10月9日夜着

第一〇六八號

往電第一〇〇六號ニ關シ

當方確實ナル筋ヨリノ聞込ニ依レハ察南銀行ハ一日開業セルカ資本金ハ百萬元、全額拂込右拂込金ハ滿洲中央銀行ヨリ之ヲ融通シ新ニ發券ヲ行ヒ既ニ宣化、懷來ニ支店ヲ開設シ近ク大同ニモ支店ヲ開クコトトナリ總裁ニ杜運宇、副總

裁ニ滿洲中央銀行計算科長山田茂ニ任命セラレ行員ハ舊察哈爾省商業錢局殘留行員ノ外中央銀行ヨリ日滿人職員二十名送り來リ居レリ尙察哈爾省商業錢局ハ現ニ四百萬元ノ紙幣ヲ發行シ居レルカ右ハ本月二十日迄ニ之ヲ回收スル豫定ニテ右發收用紙幣ニハ舊東三省官銀號紙幣ニ察南銀行印章等ヲ加印セルモノナルカ察南券ノ單位ハ滿洲國國幣ト同一トシ平津向ケ送金ハ日本金トシ當地鮮銀ニ資金ヲ置クコトトナリ居ル由

北平、上海、張家口ヘ轉電セリ

~~~~~

770 昭和12年10月26日 閣議決定

### 〔第三委員會規則〕

#### 第三委員會規則

昭和三、一〇、三六 閣議決定  
昭和三、二、六 設置

一、支那事變ニ關聯シ支那ニ於ケル經濟ニ關スル重要諸事項ヲ審議セシムル爲内閣ニ第三委員會(以下委員會ト稱ス)ヲ設置ス

二、委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル

(イ)對支經濟ニ關スル事項ヲ調査、立案シ内閣總理大臣ニ

上申スルコト

(ロ)對支經濟ニ關シ各廳事務ノ連絡調整ヲ圖ルコト

内閣總理大臣ニ上申シタル案ノ實行ニ關シテハ陸軍、

海軍、外務、大藏四大臣ニ於テ協議ノ上其ノ重要ナル

モノハ閣議ヲ經、輕易ナルモノハ直ニ實行ニ移スモノ

トス

三、委員會ハ委員長一名及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

臨時必要アル場合ニハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

四、委員長ハ企畫院次長ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ關係各廳ノ局長級ヨリ内閣ニ於テ之

ヲ命ジ又ハ囑託ス

五、委員長ハ會務ヲ總理ス委員長事故アルトキハ委員長ノ指

名スル委員其職務ヲ代理ス

六、委員會ニ幹事長一名幹事若干名ヲ置ク

幹事長ハ企畫院勅任官ノ中ヨリ、幹事ハ關係各廳高等官

ノ中ヨリ内閣ニ於テ命ジ又ハ囑託ス

七、幹事長及幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ議案ノ準備、決議ノ整

理等ニ任ジ要スレバ委員會ニ出席シテ意見ヲ開陳ス

ハ、委員會ニ關スル事務ハ企畫院ニ於テ處理ス

ハ、本委員會ノ設置ハ之ヲ祕密トス

~~~~~

771 昭和12年10月29日 広田外務大臣より
在天津堀内総領事宛(電報)

華北棉花等の輸入促進に關して企画院が華北
經濟工作の一環として方針検討中について

本省 10月29日後7時30分發

第四九五號

貴電第一一四一號ニ關シ

累次御申越ノ次第二付テハ次官或ハ關係局長等ヨリ主トシ
テ藏商兩省ニ交渉ヲ重ネ更ニ二十八日陸軍等ヲモ加ヘタル
關係各廳協議會ヲ開キタル處此ノ際北支ノ物資殊ニ棉花ノ
輸入促進ヲ圖ルベキコトニ付テハ何レノ方面ニモ異論ナキ
モ(商工省ニ於テモ來年三月迄ニ六十萬擔輸入スルモ米
棉・印棉トノ値開キノ問題ヲ別トスレバ之ヲコナスニ支障
ナカルベシトノ意見ナリ)具体的數量等ハ今般企劃院ニ於
テ全般的北支經濟工作立案ノ衝ニ主トシテ當ルコトトナリ

タル結果同院ニ於テ爲替、金融、北支貿易機構等各般ノ要素ヲ考量シテ統一のニ攻究ノ上日、滿、北支綜合經濟ノ見地ヨリ之ヲ決定スルコト適當ナリトノ結論ニ達セリ從テ在華紡ノ資金取寄及機械ノ無爲替輸出ノ問題モ併セテ今後企畫院ニ於テ取急キ研究ノコトトナレルガ當省側ヨリハ本件ノ緊急性ニ鑑ミ應急策ニテモ又實行シ得ルモノヨリ部分的ニテモ急速決定方要望シ置ケリ

本件ハ本省トシテ此上トモ促進ニカムヘキ處前記協議會ニ於テ問題トナリタル關係モアリ我方ノ北支棉買付量、在華紡ノ需要量及現在「ストック」(殊ニ工場擴張ノ場合ニ於ケル)等確實ナル數字の基礎出來得ルダケ詳細ニ御回示相成度シ

北京、上海ニ轉電アリタシ



772

昭和12年10月30日

在上海岡本總領事より
 広田外務大臣宛(電報)

中国政府の財政金融政策に関するホール・パッチ 内話報告

第二〇六一號 財務官ヨリ

上海 10月30日後発
 本省 10月30日夜着

二十九日「ホールパッチ」ト會談シタルカ同人ノ内話要旨左ノ通り

「自分(ホ)ハ近日中當地發天津ニ赴キ約一週間滞在ノ上神戸經由東京ニ赴キ二週間餘滞在ノ考ナリ(クレイギー)大使ハ二箇月位ノ滞在ヲ希望シ居ルモ實現困難ナルヘシ)

二、宋子文來訪一週間前ニ會見シタルカ宋ハ通貨問題ニ付テハ相當自信アル如キ口吻ヲ洩シ居タリ

三、日本軍カ上海包圍ニ成功セハ上海ハ死ノ都トナルヘク影響スル所大ナルヘシ

四、救國公債ニ付テハ右ニ依リ幾何ノ「フレッツシユマネー」ヲ獲得シ得ルヤカ重要ナル點ナルカ其ノ推定ハ困難ナリ但シ支那ノ戰費カ驚クヘキ少額ニ止リ居ル點ハ注意スヘク問題ハ軍需品ニ在ルヘシ又不公平且重キ課稅行ハレ居ル處右ハ現狀ニ於テハ致方ナカルヘシ

五、南京政府カ上海ノ銀行家ヲ南京ニ招致セシハ事實ニシテ陳光甫、徐新六、李銘等ハ南京ニ赴キタルカ彼等カ國民黨左派及人民戦線派カ戦費其ノ他ニ金錢ヲ湯水ノ如ク使用セントスルヲ抑制スルコトハ望マシキコトナリ上海ノ銀行家ハ戦費ヲ賄フコトハ承諾スルモ其ノ所要額及徒費セサルヤ等ノ點ヲ知り度キ要望アリ

事變ノ進展ニ伴ヒ南京ノ政治家中ニハ財政經濟問題ニ通セシテ勝手ナル對策ヲ唱導シ極端ナル「インフレーション」ヲ強行シ兼ネマシキ者アル處孔祥熙ハ必スシモ財政金融ニ廣汎ナル知識ヲ有セサルモ斯カル「ワイルドメソ」ノ政策ノ危險ナルコトハ認識シ居レハ之カ抑制ニ努ムヘシ

六、⁽²⁾政府關係銀行ハ戦費ヲ賄フニ急ナル餘リ奥地ノ事情ニ重點ヲ置カス寧口輕視スル傾向アルニ對シ商業銀行ハ内地ノ經濟力ヲ相當重視シ兩者ノ間ニ意見ノ相異アリ

七、奥地ノ經濟事情ハ相當窮乏セルモノノ如ク右ハ米麥棉花等ノ物資ノ動カサルコト及金融ノ梗塞ニ依ルモノナリ内地ト上海間ノ送金ニ付テハ外人ニ關シテハ左シタル困難ナキモ支那人側ハ相當窮屈ナル模様ナリ

八、匯割。手形ノ額ハ外國銀行筋ハ五百萬元見當ナルカ現在一%ノ割引率ニテ物資購入ノ爲之ヲ買集メ居ル者アルハ奇異ノ現象ナリ

北京、天津ヘ轉電セリ

773

昭和12年11月17日

広田外務大臣より
在天津岸(偉二)総領事代理宛(電報)

第三委員会が作成した華北棉花輸入促進の方

針案について

第五二七號

本省 11月17日後8時15分發

往電第四九五號ニ關シ

十六日企畫院ニ於テ北支棉花ノ輸入方策案ヲ審議セルガ兩三日中ニ正式決定ノ答要綱左ノ通(委細郵報)

一、差當リ明年一月迄ニ二十五萬擔程度ヲ輸入ス

二、買付ニハ河北省銀行券ヲ使用シ已ムヲ得サル場合鮮銀券ヲ使用ス

三、(イ)紡績用棉花ニ關シテハ日本紡績聯合會ヲ中心トシテ買付ノ爲「シンデゲート」ヲ組織セシム右ハ棉花輸入商ノ

數社ヲ指定シテ買付ヲ委託スルコトトシ(ロ)製綿用棉花ニ關シテハ全國製綿用北支棉花輸入業者ヲ以テ輸入協會ヲ組織セシメ右ハ一定ノ基準ニ基キ輸入數量ヲ協會員ニ割當ツルコトトス

四、買付ハ適正ナル價格ヲ以テスル様施策ス

五、天津邦人紡績原棉手當資金ニ付テハ出來得ル限り現地調達ノ方法ヲ講スルモノトス(内地ヨリノ送金已ムヲ得スト認メラルルモノニ付テハ別途考慮ノコトトス此ノ點貴官御含ミ迄尙大藏省側ノ説明ニ依レバ現地ニ於テ右手當資金ニ當ツヘキ預金相當アル見込ナルノミナラズ最近本件資金送金ノ申請皆無ノ趣ナルニ付テハ關係者ヲシテ申請ヲ爲サシムル様仕向ケラレタク右ハ今後大藏省ヲシテ内地ヨリノ送金ヲ承認セシムル爲ニ必要ナリ)

北京、上海ニ轉電アリタシ

編 注 本案は、昭和十二年十一月十八日に第三委員会で正式決定された。

774

昭和12年11月17日

在香港水沢総領事より
広田外務大臣宛(電報)

上海陷落後における中国側銀行の動向に関する関係筋の観測報告

香港 11月17日後発

本省 11月17日夜着

第八〇六號

上海陷落後ニ於ケル支那銀行ノ動キニ關シ聯絡者吳、中央銀行信託局副經理李弧帆其ノ他第四銀行支店ヨリ得タル情報左ノ通り

一、今次ノ上海戰ニ於テ郊外都市ノ建築物ハ多數破壊サレ加フルニ支那軍ノ撤退ニ際シ燒拂ハレタルモノモ少カラス是等建築ハ各銀行投資ニ對スル擔保トナリ居ル爲今後各銀行ハ資金回收ノ望ナク營業困難トナルヘシ

二、白銀ノ香港集中ハ周知ノ事實ナルカ上海陷落ヲ見越シ各銀行共重要書類、多數ノ紙幣ヲ香港ニ持越シタリ

三、上海陷落ニ依リ支那銀行ハ一齊ニ同地本店ヲ引揚クル筈ナリシモ今後ノ信用保持ノ關係モアリ中央、農民兩銀行ハ本店ヲ南京ニ移シ(中國、交通ハ本店ノ看板丈ケ南京

ニ移セルモ本店事務ハ依然上海ニテ行フ由各銀行共支店ヲ置クコトトセリ尤モ上海ニ於テハ地方ノ預金關係事務ニ止メ對内的一般銀行事務ハ廣東ニ於テ又對外爲替ハ香港ニ於テ行フ方針ナリ

當地各支那銀行ノ預金ハ十六日以來引出者續出シ居ル處右ハ預金者ニ於テ

(一)中國、交通兩銀行ヲ除ク他ノ銀行ハ本店ノ潰レル惧アリ

(二)銀行自體ノ信用以外ニ本店ノ國幣ノ價值ニ不安ヲ抱キ
(三)南京陷落後中央政府カ奧地ニ移轉シ抗戰ヲ繼續セハ勢ヒ抗日ノ生命線タル廣東ニ對シ日本側ノ出兵ヲ見ルヘク其ノ場合香港モ危險ニシテ殊ニ支那銀行ノ信用ハ危フシ

ト觀察シ居ル爲ナルカ如ク之カ爲支那銀行預金者ハ國幣勘定ヲ有スル者ハ香港紙幣ヲ受取り其ノ他ノ者モ續々外國銀行ヘ預金ヲ移シ居レル由

上海、臺灣外事課長ニ轉電アリタシ

775 昭和12年11月18日 第三委員會決定

「北支應急金融工作實行要領」

北支應急金融工作實行要領

一三、一一、一八
第三委員會決定

北支金融工作ハ嚮ニ決定セル北支金融對策要綱ニ基キ其ノ實施要領ニ從ヒ實行シツツアル處最近ニ於ケル情勢ノ進展ニ鑑ミ右對策要綱ニ定メラレタル根本對策ヲ實施スル迄差當リ左記要領ニ從ヒ應急金融工作ヲ實行スルモノトス
一、左記機關ノ收入ハ金票ヲ以テモ之ガ受人ヲ爲サシムルモノトス(現地)

(イ)鐵道

(ロ)治安維持會及治安維持會聯合會

(ハ)海關

(ニ)其他我方ニ於テ指導シ得ベキ支那側諸機關

二、前記各機關ノ受入レタル金票ハ之ヲ河北省銀行(本店及重要支店)ニ於テ同行券ト引換ヘシメ各機關ノ支拂ハ成ルベク河北省銀行券ヲ使用スルモノトス(現地)

三、前二項ニ依ル金票ノ受入及引換相場ハ現地ノ事情ニ應ジ適當ニ之ヲ定ムルモノトス(現地)

四、日本側銀行ノ金票兌換ハ河北省銀行券ヲ以テスルモノトス(現地)

五、中國、交通其他支那側銀行ヲシテ河北省銀行券ノ無條件受入ヲ爲サシムルモノトス(現地)

六、日本側銀行ハ金圓資金(金票又ハ圓爲替)ニ依リ河北省銀行券ヲ調達スルモノトス此ノ場合河北省銀行ノ得タル金圓資金ハ之ヲ朝鮮銀行ニ預入セシメ專ラ對日爲替決済ニ使用セシムルモノトシ河北省銀行ノ金圓資金受拂ニ付テハ特ニ適當ナル監督ヲ行フモノトス(現地及内地)

七、日本側銀行ノ法幣資金調達ニ付テハ左記各項ニ依ルモノトス

(イ)外貨資金ノ賣却ニヨル法幣資金ノ調達ハ極力之ヲ避クルコトトシ止ムヲ得ザル場合ニハ豫メ大藏省ニ協議セシムルモノトス(内地及現地)

(ロ)正金及鮮銀支店ガ中國銀行ノ當座借越ニヨリ調達シタル法幣資金ヲ以テスル圓買ニ付テハ正金及鮮銀支店ニ於テ之ガ「カバー」ヲ取ラザル様兩行本店ト協議ノ上

適當措置スルモノトス(内地及現地)

(ハ)法幣調達ノ爲ニ日滿側保有現銀ヲ使用スルコトハ之ヲ見合スモノトス(現地)

八、朝鮮銀行券及河北省銀行券ノ不當ナル賣買ヲ防止スル爲錢舖其他兩替商ノ取締ヲ實行スル等適當ナル方策ヲ講ズルモノトス(現地)

九、北支ニ於ケル日銀代理店ヲ正金ヨリ鮮銀ニ移ス爲適當ナル措置ヲ講ズルモノトス(内地)

一〇、現地ノ貿易業者ニ對シテハ日滿支以外ノ各國向輸出形ヲ成ルベク正金銀行(場合ニヨリテハ朝鮮銀行)ニ賣却スル様指導スルモノトス(現地)

二、日本向北支物資ノ買付ニ當リテハ出來得ル限り河北省銀行券ヲ使用シ止ムヲ得ザル場合鮮銀券ヲ使用スルモノトス(現地)

三、日本向北支物資ニシテ河北省銀行券又ハ鮮銀券ヲ以テ輸入シ得ルモノニ付テハ之ガ輸入爲替ヲ事實上制限セザルモノトス(内地)
但シ之ガ爲現地ニ於ケル物資ノ需要ヲ壓迫スルガ如キ事態ナキ様適當措置スルモノトス(現地)

三、日本向北支物資ニ關スル爲替取扱機關ハ正金及鮮銀ト
スルモノトス(内地及現地)

(備考)括弧内ニ内地又ハ現地トアルハ專ラ當該地ニ於テ
措置スベキ事項タルヲ示スモノトス

776 昭和12年11月26日 閣議決定

〔華北聯合銀行(假稱)設立要綱〕

華北聯合銀行(假稱)設立要綱

三、二、三 閣議決定

北支ニ於ケル通貨金融ニ關スル應急對策ハ嚮ニ決定セル北
支金融對策要綱ニ基キ實行中ノ處其後ニ於ケル北支ノ情勢
ノ進展ニ鑑ミ右要綱ニ定メラレタル根本對策ノ急速實現ヲ
圖ル爲左記要領ニ從ヒ速ニ華北聯合銀行(假稱)設立工作ヲ
進ムルモノトス

一、資本及構成

(イ)資本金ハ五千萬圓(半額拂込)トス(出資ニ付テハ北支
政權及支那側主要銀行ノ折半出資ヲ豫定シ速ニ支那側
主要銀行ノ態度ヲ決定セシムルモノトス支那側主要銀

行不參加ノ場合ハ政權ノ出資ニ依ルモノトシ此場合支
那側主要銀行ノ處置ニ付テハ別途考究スルモノトス)
(ロ)政權ノ出資ニ必要ナル資金ハ日本側金融機關ニ於テ適
當ナル方法ヲ以テ之ヲ融通スルモノトシ日本側金融機
關ノ資金調達ニ關シテハ日本政府ハ之ヲ援助スルモノ
トス(其ノ具体的方法ハ別ニ之ヲ定ム)

二、機能

(イ)聯合銀行ハ速カニ聯合銀行券ヲ發行スルモノトス

(ロ)聯合銀行券ハ北支ニ於ケル唯一ノ法貨トシ聯合銀行券
以外ノ銀行券(朝鮮銀行券及正金銀行券ヲ含ム)ノ發行
ヲ廢止スルモノトス

(ハ)本銀行券ノ對外價值ハ金圓ニ「リンク」セシムルコト
トシ其ノ比率ハ等價ヲ目途トシ圓滑且迅速ナル實現ヲ
期スルモノトス

(ニ)支那側銀行ヲシテ可及的短期間ニ其ノ既發銀行券ヲ聯
合銀行券ニ引換ヘシムルモノトス(支那側銀行不參加
ノ場合ニ於ケル其ノ既發銀行券ノ處置ニ付テハ別途考
究スルモノトス)

引換相場ハ現地ノ事情ニ應ジ適當ニ之ヲ定ムルモノト

ス

支那側銀行ガ右引換ノ爲ニ要スル聯合銀行券ハ先ヅ其ノ所有現金銀及外貨資金ト引換ニ聯合銀行之ヲ交付スルモノトシ不足額ハ適當ナル擔保ヲ提供セシメ長期年賦低利息ヲ以テ聯合銀行之ヲ貸付クルモノトス

(ホ) 日本側銀行券ハ聯合銀行及日本側銀行ニ於テ聯合銀行券ニ引換シムルモノトス

(ヘ) 聯合銀行ノ發行準備タル外貨資金ハ原則トシテ日本側銀行ニ預入セシムルモノトス

聯合銀行保有現金銀ハ聯合銀行券ノ對外價值維持ニ資スル爲必要ニ應ジ之ヲ外貨資金ニ換フルモノトス

(ト) 日本側銀行ヲシテ本銀行ノ爲一億圓程度ノ「クレヂツト」ヲ供與セシメ對日爲替決済ニ備フルモノトス

右「クレヂツト」ノ使用ニ付テハ豫メ日本側銀行ノ承認ヲ受ケシムルモノトス

(チ) 聯合銀行ハ發行業務以外ノ一般銀行業務ヲモ營ミ得ル立前トスルモ政府關係以外ノ業務ニ就テハ既存各銀行ノ營業利益ヲ侵害スルコト無キ様考慮ス但外國爲營業務ニ付テハ聯合銀行及日本側銀行ニ集中スル如ク措置

スルモノトス

三、經營

聯合銀行ノ經營ニ關シテハ我方ノ強力ナル内面指導ノ下ニ支那側ノ自主的立場ヲ尊重スルモノトシ人的要素其他ニ付慎重ナル考慮ヲ拂フモノトス

四、準備ノ充實

聯合銀行ノ準備ノ充實ヲ圖ル爲市場ニ於ケル金銀塊ノ買上、支那側銀行ノ外貨資金ノ聯合銀行ヘノ集中、外國投資(中南支ヨリノ投資ヲ含ム)ノ存續、外資ノ新規流入等ヲ圖ルモノトス

尙冀東地區ニ於テ採掘セラレタル金ハ聯合銀行ニ之ヲ集中スル如ク措置スルモノトス

五、其他

(イ) 各銀行ニ對スル政權ノ監督ヲ強化シテ金融統制ノ確立ヲ期スルモノトス

(ロ) 冀東銀行ハ之ヲ聯合銀行ニ統合スルモノトス

(ハ) 河北省銀行ヘ將來主トシテ農民ヲ對象トスル金融機關トシテ其ノ機能ヲ發揮セシムル等其ノ利用更生ノ途ヲ講ズルモノトス(支那側主要銀行不參加ノ場合ハ河北

省銀行ハ之ヲ聯合銀行ニ統合スルモノトス)

(二)中華匯業銀行ニ對スル措置ハ別途考究スルモノトシ聯合銀行ノ設立ニハ關與セシメザルモノトス

(ホ)中央銀行ハ聯合銀行ノ設立ニハ關與セシメザルモノトス

諒解事項

華北聯合銀行(假稱)設立要綱ニ(ト)ニ關シ北支ノ爲替資金ハ物資ノ輸出入及投資ノ方面ヨリ之ガ調整ヲ圖ルモノトシ「クレヂット」ノ使用ハ之ヲ避クル如ク措置スルモノトス

~~~~~

777 昭和12年11月27日 在上海岡本總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本軍部は中国の通貨金融制度の崩壊を目指しているのではないかとホール・パッチが懸念表明について

上海 11月27日後発  
本省 11月27日夜着

第二四四〇號

財務官ヨリ大藏次官へ

「往電第二四三九號「ホールパッチ」ト會談ノ際支那側銀行カ爲替先物取引ニ付從來甚タ制限的ニシテ先ニ「ホ」ヨリ其ノ後緩和方ヲ慫慂シタルモ不成功ニ終リタルカ「ホ」ハ日本側銀行カ先物取引ニ付心配シ居ルヲ知りタル故ニ最近更ニ話合ヒタル處支那側ハ二十四日外國銀行ニ對シ其ノ要求額ノ先(物)?ヲ賣ル様方針ヲ決定シタル趣非公式ニ「ホ」ニ通達シ來レリ支那側銀行トシテハ日本側銀行ト直接取引ヲ行ハサルモ今後ハ日本銀行ハ外國銀行ヲ通シ先物ノ便益ヲ得ルコトナリ且上海ヲ國際金融ノ一中心トシテ維持スル上ニモ效果アリト考ヘ居ル次第ナリ

何レ近ク外國銀行組合ヨリ日本側銀行ニモ通知セラルル筈ナルヲ以テ自分(ホ)ヨリ話シタルコトハ極秘ト爲シ置カレ度シ

二、日本ノ軍部ノ政策トシテ支那ノ通貨金融ヲ崩壊セシムルコトヲ目的トスルニアラスヤト危惧セラルル處讀賣、報知ノ如キ比較的小新聞ハ扱置キ大新聞サヘモスル記事ヲ掲載シ居レルコトヨリ見ルニ少クトモ一部ノ高等政策ト

シテ右目的カ存在シ居ルモノノ如シ戰後日本カ支那ト經濟提携ヲ行ヒ支那ヲ市場トシテ商品ヲ賣込ミ或ハ原料ヲ購入シ又ハ資源ヲ開發スル際ニ於テ若シ往時ノ支那ノ如ク通貨ノ動搖甚タシク各省區々ノ通貨力毎日變動スルモノトセハ日本ノミナラス列國ノ貿易業者及銀行ハ安ンシテ取引スルコト困難トナリ一般支那人ノ損失亦大ナルヘク利得スルハ單ニ少數ノ錢莊ノ如キモノニ止マルヘシ而モ幣制金融ノ再建ニハ數年ノ期間ト甚大ナル努力トヲ要スルコトハ先年ノ幣制改革ノ顛末ヲ見ルモ明カニシテ自分〔ホ〕ハ「メン・オブ・ピース」ノ一人トシテ此ノ點ニ關シ貴下ヨリ軍ニ對シ申述ヘラルコトヲ望ム次第ナリ

右ニ關シテハ一應其ノ好意ヲ謝シニ、ニ付テハ單ニ聞キ置クニ止メタリ

北平、天津ヘ轉電セリ

778

昭和十二年十二月十六日 外務・陸軍・海軍・大藏四大臣決定

「北支經濟開發方針」および「上海方面ニ於

ケル帝國ノ經濟的權益設定策」

昭和十二年十二月十六日

「北支經濟開發方針」竝「上海方面ニ於ケル

經濟的權益設定策」ニ付協議決定

別紙第一、第二ノ通り

別紙第一

北支經濟開發方針

二二、二二、一六

第三委員會

一、北支經濟開發ノ目標ハ日滿經濟ノ綜合的關係ヲ補強シ以テ日滿支提携共榮實現ノ基礎ヲ確立スルニ在リ

之ガ爲支那現地資本竝我方ノ資本及技術ヲ緊密ニ結合セシメテ經濟各部門ヲ開發整備シ以テ秩序ノ維持民衆生活ノ安定ヲ圖リ併セテ日滿兩國ニ亘ル我廣義國防生産力ノ擴充ニ資スルモノトス

而シテ開發實施ニ際シテハ日滿及北支ノ國際收支ノ適合及物資需給ノ調節ヲ尊重シ緩急ヲ誤ラザル様措置スルト共ニ努メテ支那側ヲ表面ニ立テ經濟的壓迫ヲ與フルガ如

キ感ヲ抱カシメザル如クシ且我全國民ノ期待ニ反セザル  
適切ナル國策的運營ニ重點ヲ置クモノトス

二、北支經濟開發及統制ノ爲一國策會社ヲ設立スルモノトシ  
舉國一致ノ精神ト全國產業動員ノ趣旨ヲ具現スルガ如ク  
之ヲ組織スルモノトス

主要交通運輸事業（港灣及道路ヲ含ム）、主要通信事業、  
主要發送電事業、主要鑛產事業、鹽業及鹽利用工業等ニ  
關スル重要產業ハ右會社ヲシテ之ガ開發經營又ハ調整ニ  
當ラシムルモノトス

右會社ノ運營ニ就テハ日滿兩國ノ重要產業計畫ニ即應ス  
ルト共ニ常ニ我國ノ實情ニ鑑ミ緩急宜シキヲ制スル事ニ  
意ヲ用フベキモノトス

右重要產業以外ノ事業ハ特別ノ事由アル場合ノ外特別  
ル統制ヲ加ヘザルモノトス

三、北支經濟開發ニ當リテハ支那側資本ノ利用ニ努ムルト共  
ニ支那側企業トノ協調ヲ圖ルモノトス

四、北支經濟開發ニ對スル第三國ノ協調的投資ハ之ヲ認ムル  
モノトス

北支ニ於ケル列國ノ既存經濟權益ハ事情ノ許ス限り之ヲ

尊重スルモノトス

五、日滿北支貿易關係ノ緊密化ヲ圖ルト共ニ北支對第三國貿  
易ノ適切ナル調整ヲ行フモノトス

六、現地政權ヲシテ農業ノ改善、治水及利水、植林、合作社  
等ニ關シ逐次所要ノ施設ヲ爲サシムルモノトス

七、北支ニ於ケル既存事業ニシテ重要產業ニ關スルモノハ本  
方針ニ從ヒ之ヲ整理又ハ調整スルモノトス

八、差當リ直チニ着手シ得ル事業ニ付テハ將來本方針ニ基ク  
整理又ハ調整ヲ條件トシテ速ニ之ヲ開始スル樣措置スル  
モノトス

九、北支經濟開發ニ關スル交渉ノ相手方ハ差當リ中華民國臨  
時政府、治安維持會若クハ其ノ聯合會又ハ局地政權トス

#### 閣議諒解事項

一、主要交通運輸事業、主要通信事業ニ付テハ滿支ヲ通スル  
一會社ノ一元經營ハ之ヲ認メザルコト

二、北支政權ノ財政強化ニ努メテ北支ニ於ケル公共事業其  
他ノ開發諸事業ニ寄與セシムルコト

三、北支對第三國國際收支ノ維持改善ヲ圖ル爲有效適切ナル

方策ヲ講ズルコト

四、北支ニ於ケル產金事業ハ我國國際收支ノ觀點ヨリ特ニ速カニ着手セシムルコトトシ今後ニ於ケル調整ニ際シテモ此ノ事情ヲ考慮スルコト

### 委員會諒解事項

日滿支ノ交通、通信ノ圓滑ナル連絡ニ資スル爲北支ニ於ケル交通通信事業ヲ經營スル機關ハ滿鐵並滿洲電々會社ト常ニ緊密ナル關係ヲ保持セシムル様措置シ尙滿鐵並電々社員ノ大陸ニ於ケル活動ノ適性並今次事變ニ於ケル活動ノ實狀ニ鑑ミ交通々信事業ノ經營ニ際シテハ之等ヲ充分活用スルノ方針ヲ執ルコト

### 別紙第二

上海方面ニ於ケル帝國ノ經濟的權益設定策

一二、一二、一六

### 第三委員會

上海ヲ據點トシ中支方面ニ對スル帝國ノ經濟的發展ノ基礎ヲ確立スルヲ目標トシ其ノ具體の方策ノ一トシテ左ノ通り

措置スルモノトス

一、租界ノ周邊（租界及越界道路ヲ除ク大上海市管轄區域）ヲ特別市トシ右特別市内ニ於ケル電話、電力、電燈、水道、瓦斯、電車、バス等公共的性質ヲ有スル諸事業ノ實權ヲ我方ニ把握シ之ヲ經營スルト共ニ下記各項ニ關聯スル事業ノ經營又ハ調整ニ當ラシムル爲國策會社ヲ設立ス

右國策會社ノ規模並事業着手ノ順序等ニ就テハ我國ノ實情及現地情勢ヲ參酌シ別ニ之ヲ定ムルモノトス

右國策會社ノ資本ニ就テハ其目的上支障ナキ限り現地資本ノ利用ヲ圖ルモノトス

尙特別市及租界内邦人中小企業家ニ對スル資金融通及邦人ノ租界内不動産取得ニ對スル資金融通等ニ就テハ可及的速ニ別途考慮スルモノトス

二、特別市内ニ於ケル舊支那側官有ノ機關及土地建物等ハ全部我方ニ於テ接收シ適宜利用スルモノトス

但シ特別市當局ニ於テ行政上必要アルモノハ之ヲ使用セシム

三、上海附近ト本邦各地北支、滿洲國間等トノ通信運輸航空ノ聯絡基地トシテ出來得ル限り特別市地域ヲ利用スルモノトス

ノトシ差當リ左ノ各項ヲ實施スルモノトス

(イ)適當ナル汽船會社等ヲシテ虬江碼頭招商局碼頭等ヲ利用セシム

(ロ)將來上海方面ニ於ケル有線無線(放送ヲ含ム)通信權ノ實質の獲得ニ必要ナル諸施設ヲ管理運用ス

(ハ)上海福岡連絡飛行基地トシテ龍華飛行場ヲ管理運用ス  
尙虹橋及遠東飛行場ノ管理權ヲ獲得シ將來日支航空連絡ニ對スル實質の權益ノ設定ニ資ス

四、特別市地域ニ大市場ヲ建設シ租界ニ對スル魚類、肉類、野菜等ノ生活必需品ノ供給ヲ爲サシムルモノトス(差當

リ上海市魚市場等ノ利用ヲ考慮シ尙小型船舶ノ自由出入港ヲ認メシム)

五、差當リ直チニ着手シ得ル事業ニ就テハ國策會社成立ノ際適宜整理又ハ調整スルヲ條件トシテ速ニ之ヲ開始スル様措置スルモノトス

六、本經濟的權益設定ニ關スル交渉ノ相手方ハ差當リ治安維持會又ハ局地政權トス

## 閣議諒解事項

右國策會社ニ對シ特別市ニ於ケル軍ノ管理スル土地其他我方ノ管理下ニアル土地ニ關スル經營等ノ諸事業ヲモ必要ニ應ジ之ヲ行ハシムルコトヲ得

~~~~~

779

昭和12年12月20日

在天津堀内総領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北地方の貿易收支調整に關し意見具申

天津 12月20日前發

本省 12月20日前着

第一三三九號

一、⁽¹⁾北支ノ計畫經濟殊ニ其ノ管理通貨ノ成否ハ北支ノ對外收支ノ調整ノ成否ニ懸ルコト申ス迄モナキ儀ナル處對日貿易ハ著シク入超(昭和十年度海關統計ニ據レハ天津港ノミニテ一千三百萬元外ニ冀東貿易アリ)ナルモ日本以外ノ諸國トノ貿易ハ相當ノ出超(一千九百萬元)ニシテ一方對中南支移出入貿易ハ七千二百萬ノ大入超ナリ從テ今後ハ右對外出超ヲ維持スルト共ニ對中南支入超ヲ極力「一エク」スル必要アリ

二、對中南支貿易中綿絲布移入五千萬元ハ當方面紡績ノ發展

又ハ紡績内部ノ財の工作ニ依リ當然解決スヘク小麦粉移入三千萬元ヲ解決シ得ハ入超ヲ皆無ト爲シ得ル譯ナリ小麦粉ハ事變以來上海品ニ代リ専ラ日本品輸入セラレ居リ此ノ狀態ヲ持續セハ可ナル譯ナルモ右ハ日本産小麦粉ノミカ無稅取扱ヲ受ケ居ルカ爲ニシテ内地ノ小麦粉ノ價格ハ外麥輸入禁止ト北支向ケ輸出激増ノ爲著シク昂騰シC・I・F大沽一袋四、九〇ニ達シ此ノ儘ニテハC・I・F大沽四、三〇ノ見當ノ濠洲品乃至米國品ニ對シテハ軍用品トシテ日本品ノミニ關稅(一袋七十九錢位)ヲ免除セラレ居ルニ拘ラス或ハ對抗シ得サルニ至ルニアラスヤト認メラルル實情ナリ

殊ニ近ク實施セラルル關稅改正ハ小麦粉ヲ無稅トシ勿論外國品ヲ「デイスクリミネット」シ居ラス低廉ナル外國小麦粉ヲ防遏スルハ時々日(々々?)ノ必需品ヲ低廉ニ供給スルヲ目的トストノ言分モ立タサル次第ニシテ又新政府カ成立早々外國ニ對シ差別的ナル關稅ヲ設クルカ如キハ新政府ノ爲ニ取ラサル所ニシテ之カ對策トシテハ内地ノ自給自足ヲ目的トセル今日迄ノ政策ヲ變更シテ北支輸出分丈ケハ外麥ノ輸入ヲ許可スルカ強ヒテ内地小麦ヲ以テ

製粉セルモノヲ輸出セントセハ政府ニ於テ一定價格ニテ買上ケテ一定價格ニテ輸出スルカ又ハ「セメント」輸出ニ於ケルカ如ク同業組合ヲシテ適當ノ措置ヲ執ラシムル外ナシト存ス目下一部ニ於テ前述ノ如キ事態ノ對策トシテ少クトモ小麦粉ノミニ特惠關稅制度(内地品無稅、外國品ニ對スル増稅、中南支品ニ對スル課稅等)設定方ノ議アルモ斯クノ如キハ外交上及通商上ニ多大ノ影響アルヘク輕々ニ決定スヘキニアラサルコトヲ説明シ居ルモ前記ノ如キ内地ニ於ケル對策ヲ講セサル限り北支トシテ對外收支上特惠關稅類似ノ措置ヲ講セサルヲ得サルニ至ル惧アリ此ノ點ハ至急關係方面ト協議ノ上結果御回電ヲ請フ

尙日本以外ノ諸國ニ對スル出超ハ河北省產品(棉花ノ輸出ハ日本ノミニ其ノ他ハ卵及其ノ加工品)ヨリモ寧ろ察哈爾、綏遠ノ產品ヲ以テ構成セラル(羊毛及山羊毛一千六百萬、毛皮九百萬、「カーペット」四百萬、亞麻仁四百萬等)其ノ一部例ヘハ羊毛ノ如キハ將來對日輸出ニ轉スルトスルモ概シテ言ヘハ綏遠等ヲ含ミテ始メテ北支ノ對外收支力出超トナルモノニシテ若シ察哈爾、綏遠ノ產物

カ蒙疆銀行紙幣ニテ買付ケラレ北支ハ單ニ通過スルノミ
トナラハ北支ノ管理通貨ハ一段ト困難ヲ加フルコトナ
ルヘク此ノ點ハ幣制問題上ヨリモ特ニ注意ヲ要スヘシ尤
モ是等綏遠、察哈爾ノ產物ヲ輸出スル外國商ハ當地正金
又ハ外國銀行ニテ輸出爲替ヲ取組ムヘク其ノ結果是等ノ
出超ハ當方面ノ對外出超トナリ内部關係ニ於テ當方面銀
行ト蒙疆銀行トノ關係ヲ調整スレハ可ナルヤニ考ヘラル
ルモ此ノ點ハ兩銀行間ニ更ニ話合ヲ進メシムル考ナルモ
不取敢

北平、上海へ轉電セリ

780

昭和13年1月2日

在上海岡本総領事より
広田外務大臣宛(電報)

軍需物資運搬における食料品および日用雜貨
類の無税通関を利用した本邦品の輸入増大傾
向について

上海 1月2日後発

本省 1月2日夜着

第六號

(一六九カ)
當地現在入港ノ郵船ハ九月中旬聯絡船ノ定期運航再開當初
ハ軍關係物資ノ輸送多ク船腹不足シタル爲在留民ニ對スル
生活必需品ハ供給圓滑ヲ缺キ價格ノ昂騰ヲ見タル一方糞ニ
報告ノ通り必需品以外ノ一般商品ハ積出ヲ制限(商人ノ自
制ニ依ルト共ニ船會社ニテ取締レリ)セル爲見越輸入モ實
際上現ハレサリシカ十月末頃ヨリ食料品及日用雜貨品類ハ
無税ナルヲ利用シ相當多量ノ輸入ヲ見ルニ至レリ即チ郵船
調ニ依レハ九月三千三百噸十月五千六百十一月一萬二千十
二月一萬八千(豫想)ト漸増シツツアリ(從來毎月平均三萬
噸前後)

ニ然ルニ又郵船以外ニ大連汽船ハ既報ノ通り十二月初ヨリ
一隻配船毎六日ニ一回就航中(大部分食料品)ナルカ一月中
旬ヨリ更ニ一隻増配毎四日一回ノ定期就航ノ豫定ノ處大阪
商船モ近ク臺灣上海間ノ運航ヲ開始ノ趣ニテ郵船ノ貨物船
増配ト相俟チ今後本邦品ノ輸入ハ一層増加ノ傾向ニアリ一
方當地邦人碼頭倉庫ハ事變前ノ在庫品充滿シ居リ收容餘力
僅少ノ實狀ナルカ最近邦商ノ對支那人取引モ大體之ヲ容認
シテ差支ナキニ至レルヲ以テ今後漸次倉出ヲ見ルヘキモ他
方之カ爲一層邦品ノ輸入ヲ促進スルコトナルヘシ加之支

那人トノ取引ノ一般的回復ハ當分急速ニハ進捗ヲ見サルヘ
キモ以テ一時的ニハ滞貨ノ増加トナルヘシ旁右輸入増加ノ
傾向ニアル邦品ノ處置ニ付テハ考慮ヲ要スヘシト存セラル
北平、天津へ轉電セリ

781

昭和13年1月21日
在北平森島大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

冀東密貿易の廃止に当たり関東庁へ密輸船嚴
重取締方要請について

北平 1月21日後発
本省 1月22日前着

第(脱)號^{編注}

本官發關東州廳長官宛電報

第一號

一、冀東貿易ハ一月廿日ヲ以テ廢止セラレ(廿日以前ニ出港
セル船舶ノ積荷ハ特ニ從前通り通過セシム)又臨時政府
ハ廿二日ヨリ稅率ノ一部引下ヲ實施スルコトトナレリ
一、臨時政府ハ密輸其ノ他ノ不正規貿易ヲ嚴重取締ルコトト
セルニ付テハ自今日本官憲トシテモ臨時政府ノ密輸取締

ニ對シ日本法規ノ許ス範圍内ニ於テ自發的ニ好意的援助
ヲ與フル所存ナリ

一、就テハ貴地ニ於テモ密輸船ノ出港ニ對シ右ノ趣旨ニテ取
締ヲ加ヘラルル様御配慮得度シ

右軍側ト打合濟

大臣、上海、天津、滿、青島へ轉電セリ

編注 本電報は電報番号不明。

782

昭和13年2月17日
在上海岡本総領事より
広田外務大臣宛(電報)

華中への新国策会社設立要綱に対する現地三
省の共同意見上申について

別電一 昭和十三年二月十七日發在上海岡本総領事よ

り広田外務大臣宛第五四九号

新会社への政府監督權に関する意見

二 昭和十三年二月十七日發在上海岡本総領事よ

り広田外務大臣宛第五五〇号

新会社設立に当たり考慮すべき点

上海 2月17日後発
本省 2月17日夜着

第五四八號(極秘)

中支那投資會社設立要綱及同法案(十二日第三委員會幹事會ニ於テ一應採決ノモノ)ニ關シ十六日鹽澤大佐ノ報告ヲ徵シタル上三省側ニ於テ協議ノ結果別電第五四九號及第五五〇號ノ趣旨ノ共同意見ヲ上申スルコトナリタリ尙法案第二十三條ニ付テハ當方トシテモ「國防上」ニ限ラス「國策上」ノ必要ニ基ク政府監督權ヲ適當ナル形式(法案ニ記載セサルヲ可トスヘシ)ニ依リ確保シ以テ陸海軍ノ國防上ノ必要ニ基クモノノ外政府ノ國交上ノ必要ニ基ク發言權ヲ留保シ置クコト適當ト存セラレ又國防上ノ必要ニ基ク監督權モ現地統帥系統ニ與フルコトナク政府換言スレハ陸海軍大臣ニテ把握スルコトトシ度キ意嚮ニテ其ノ旨陸海軍側ニ斷リノ上別電ニ贊成シ置ケリ尤モ諸般ノ關係上軍事的監督權ヲ保留セサルコトトナル場合ニ於テハ國交上ノ監督權ニ付テモ固執スル必要ナカルヘシト存ス

就テハ右御含ノ上當方意嚮達成方御高配ヲ得度シ

本電別電ト共ニ北京、天津へ轉電セリ

(別電一)

上海 2月17日後発
本省 2月17日夜着

第五四九號

中支那投資會社法案ハ當方各方面トモ異存ナキ處左記ニ點ニ付テハ現地ニ於ケル特殊關係上極力實現方御配慮アリ度シ

(一)第二十三條ハ已ムヲ得サレハ原案ノ儘トシ差支ナキモ「國防上」ノ必要ニ基ク政府監督權ノ確保ニ關シテハ中央ニ於テ適當ナル手段ヲ講シ置カルルコト

(二)第二十九條第一項政府補給ノ限度ハ他トノ振合上百分ノ六トスルコト

(別電二)

上海 2月17日後発
本省 2月17日夜着

第五五〇號

中支投資會社ノ設立ニ關シテハ左ノ點特ニ考慮アリ度シ

(一)本會社設立ハ現地ニ於ケル諸工作ノ關係上遅クモ四月中ニ實現ヲ計ルコト

(二)本會社ノ重役特ニ總裁ハ人格、見識、閱歷、能力等ニ於テ申分ナキト共ニ現地ノ實狀ニ鑑ミ支那人及第三國人ニ對シ信望アル人物ナルコト

(三)本會社ノ使命ニ鑑ミ對内外宣傳ニ付テハ東京及現地ニ於テ一致協力善處スヘキコト

右(二)及(三)ニ付テハ近ク現地案ヲ提出スル筈

783 昭和13年 2月26日 在上海岡本總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華中新国策会社設立に關し總裁の人選および

外債処分問題につき意見具申

上海 2月26日後発
本省 2月26日夜着

第六七七號(極秘)

往電第五四八號ニ關シ

一、中支那投資會社設立要綱案及聲明案ハ二十五日聯絡會議ニ於テ決定シ中央ニ移牒スルコトナレルカ(空送ス)右

ニ付注意ヲ要スル點左ノ通り

(イ)聲明案ハ現地帝國官憲ノ名ニ於テ發表ノ筈ニテ中央ニ於テハ右ノ趣旨ニテ且對内關係ヲ加味セル聲明(帝國政府)ヲ發セラルルト共ニ或程度會社ノ事業等ニ關シ説明ヲ加フル要アリト存セラル

(ロ)總裁ニ付テハ未タ現地ニ於テモ確定案ナク鄉誡之助、

兒玉謙次等カ呼聲高キモ總裁ハ上海ニ常駐ノ建前ニ付果シテ是等人物ノ出馬可能ナリヤ疑問ナルノミナラス單ナル看板トスルナラハ副總裁ニ相當ノ人物ヲ必要ト

シ結局人物不經濟トナル惧アリ寧ロ若手一流所ヲ可トスルニアラサルヤ何レニスルモ閣下ノ御意嚮早目ニ御内示ヲ得レハ現地ノ意見取纏ニ便宜ナルヘシ(部外祕)

二、親會社ノ外鐵道、電氣、通信及電業(當分水道ヲ兼營ス)

ノ三子會社設立要綱モ大體審議ヲ了セルカ右ニ關シ外務側トシテ最モ注意スヘキハ外債(日本側債權ヲ含ム)ノ處分問題ナルカ是等ノ問題ハ北支政權側トノ關係モアリ當館限りニテ決メ難ク是非共中央ニ於テ至急一般の原則ヲ定メラルルト致度ク當方トシテハ差當リ子會社ニ於テ其ノ事業計畫、收支計算中ニ外債支拂ヲ全然考慮ニ置

カスシテ全部新政權ト外國側トノ交渉ニ讓ル如キコトナ

キ様注意ヲ與ヘタル結果外債償還ハ新政府ニ於テ交渉ス
ヘキモ會社トシテハ積立ヲ爲スノ原則ヲ鐵道及電氣通信
會社設立要綱中ニ記載セシメ置ケリ

本件對策ニ關スル當方意見追報スヘキモ爲念

北京、天津ヘ轉電セリ



784 昭和13年3月15日 閣議決定

「北支那開發株式會社設立要綱」

北支那開發株式會社設立要綱

一、三、二五 閣議決定

帝國政府決定ノ北支那經濟開發方針ニ基キ日滿北支經濟ヲ
緊密ニ結合シテ北支那ノ經濟開發ヲ促進シ以テ北支那ノ繁
榮ヲ圖リ併テ我國國防經濟力ノ擴充強化ヲ期スル爲北支那
開發株式會社ヲ設立スルモノトス

一、本會社ハ特別法ニ基ク日本法人トス

二、本會社ノ資本金ハ三億五千萬圓トシ日本政府及日本政府
以外ノ者ニ於テ夫々一億七千五百萬圓宛ヲ出資スルモノ

トス

日本政府出資ノ中約一億五千萬圓ハ現物ニ依ルモノトス
日本政府以外ノ者ヨリノ出資ハ一般ヨリ之ヲ公募ス

本會社ノ資本金ハ政府ノ認可ヲ受ケ増加スルコトヲ得ル
モノトス

三、本會社ニ對スル日本政府以外ノ者ノ出資ニ對シテハ優先
配當權ヲ認メ又會社ニ對スル一定期間ノ利益補給ニ依リ
配當ノ確實ヲ期スル等適當ナル優遇方法ヲ講ズルモノト
ス

四、本會社ハ左ノ事業ニ投資又ハ融資シ其ノ事業ヲ統合調整
スルモノトス

(一) 主要交通運輸及港灣事業

(二) 主要通信事業

(三) 主要發送電事業

(四) 主要鑛產事業

(五) 鹽業及鹽利用事業

(六) 其ノ他北支那ノ經濟開發促進上特ニ統合調整ヲ必要ト
スル事業ニシテ政府ノ認可ヲ受ケタルモノ
本會社ハ右ニ掲ゲタル諸事業ヲ實行スベキ子會社ノ設立

ニ當リテハ豫メ政府ノ承認ヲ得ルモノトス

五、本會社ハ拂込資本金ノ五倍迄社債ヲ發行スルコトヲ得ルモノトス

政府ハ右社債ノ元利支拂ニ付保證ノ方法ヲ考慮スルモノトス

六、政府ハ本會社ニ對シ登録稅竝ニ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ九年間所得稅及營業收益稅ニ關シ特典ヲ與フルモノトス
七、本會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事五人以上、監事二人以上ヲ置ケ

總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ理事ハ株主總會ニ於テ選任シ政府ノ許可ヲ受クルモノトス

本會社ニ顧問ヲ置クコトヲ得顧問ハ政府ノ認可ヲ受ケテ會社之ヲ委囑スルモノトス

八、政府ハ每營業年度ノ投資及融資ニ關スル計畫其ノ他重要事項ノ認可(別紙ノ方法ニ依ル)、監理官ノ設置、軍事上又ハ本會社ノ目的遂行上必要ナル命令等ニ依リ本會社ヲ監督スルモノトス

軍事上又ハ本會社ノ目的遂行上必要ナル命令ニ因リ政府ノ補償ヲ要スルガ如キ場合ハ豫算ノ範圍内ニ限ルモノト

ス

九、政府ハ新政權ヲシテ本會社及其ノ子會社ニ對シ適當ナル優遇方法ヲ講ゼシムル様努ムルモノトス

別紙

一、北支那開發株式會社ノ每營業年度ノ投資及融資ニ關スル計畫又ハ其ノ變更ノ認可申請ハ遅クモ年度開始又ハ變更計畫着手豫定期一箇月前迄ニ爲サシムルモノトス但シ其ノ計畫ノ變更ニシテ輕易ナルモノニ付テハ簡易ナル手續ニ依ルコトヲ認ムルモノトス

二、政府ハ投資及融資ニ關スル計畫又ハ其ノ變更ノ認可ニ關シテハ年度開始又ハ變更計畫着手豫定期迄ニ處理スルモノトス

閣議諒解事項

一、投資及融資ニ關スル計畫トハ資金ノ使用ニ關スル計畫ノミナラズ其ノ資金ノ調達ニ關スル計畫ヲモ一體トシテ包含スルモノトシ、其ノ認可申請ニ當リテハ子會社ノ事業計畫ヲ添附セシムルモノトス

三、軍事上ノ命令ヲ發スベキ場合ニハ豫算ノ關係モアリ豫メ關係廳ト充分協議スルモノトス

三、曩ニ閣議ニ於テ決定セル昭和十三年中ノ物資需給竝ニ輸入計畫ニ於テハ本會社ノ目的遂行ノ爲必要ナルベキ物資竝ニ外貨資金ハ一部ノ鐵道材料ノ如キモノヲ除キ之ヲ見込ミ居ラザルニ付本會社ノ目的遂行ノ爲ニハ關係各廳共同ノ努力ヲ以テ出來得ル限り物資及外貨資金ヲ差繰捻出スルノ外ナク本會社ノ事業ハ斯クシテ生ジタル物資竝ニ資金ノ餘裕ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フモノトス

四、本會社ハ自己又ハ其ノ子會社ガ現地ニ於テ第三國(滿洲國ヲ除ク)ヨリノ物資ノ輸入其ノ他ニ因リ外貨資金(新政權ノ通貨ヲ除ク)ノ必要ヲ生ズルガ如キ業務ヲ爲サントスルトキハ豫メ政府ノ承認ヲ受クベキモノトス

785
昭和13年3月15日 閣議決定

「中支那振興株式會社設立要綱」

付記 昭和十三年三月十二日、外務省事変企画委員

會決定

「支那經濟開發ニ關シ第三國資本導入要綱」
(案)

中支那振興株式會社設立要綱

一三、三、二五 閣議決定

中支方面(當分ハ現占據地域)ニ於テ主トシテ公共の性質ヲ有スル諸事業ノ實權ヲ我方ニ把握スルト共ニ日支共榮ノ精神ニ基キ該區域ニ於ケル經濟ノ復興及建設ヲ助成シ且之ヲ統一的一ニ指導スル爲中支那振興株式會社ヲ設立シ公共ノ利益ニ關スル事業、産業振興上必要ナル事業等ニ對シ投資及融資ヲ爲サシメ必要ニ應シ之ヲ經營ニ當ラシムルモノトス

一、本會社ハ特別法ニ基ク日本法人トシ本店ヲ上海ニ置クモノトス

二、本會社ノ資本金ハ一億圓トシ日本政府及日本民間ニ於テ夫々五千萬圓宛ヲ出資スルモノトス

本會社ノ資本金ハ政府ノ認可ヲ受ケ増加スルコトヲ得ルモノトス

三、本會社ニ對スル民間出資ニ對シテハ優先配當權ヲ認メ又會社ニ對スル一定期間ノ利益補給ニ依リ配當ノ確實ヲ期スル等適當ナル優遇方法ヲ講ズルモノトス

四、本會社ニ對スル出資者ハ差當リ日本側ノミヲ豫定スルモ

將來支那側及滿洲側ノ參加ヲモ認ムル建前トス

本會社ノ子會社タル事業會社ニ對シテハ日滿支以外ノ第

三國ノ出資ヲモ認ムルモノトス

五、本會社ハ左ノ事業ニ對スル投資又ハ融資ヲ爲スモノトス

(一)交通、運輸、通信ニ關スル事業

(二)電氣、瓦斯、水道ニ關スル事業

(三)鑛産ニ關スル事業

(四)水産ニ關スル事業

(五)其ノ他公共ノ利益又ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル事業ニ

シテ政府ノ認可ヲ受ケタルモノ

本會社ハ投資及融資ヲ主タル事業トスルモ特殊ノ事情アル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受ケ前項各號ノ事業ヲ自ら經營スルコトヲ得ルモノトス

本會社ハ右ニ掲ケタル諸事業ヲ實行スヘキ子會社ノ設立

ニ當リテハ豫メ政府ノ承認ヲ得ルモノトス

六、本會社ハ拂込資本金ノ五倍迄社債ヲ發行スルコトヲ得ルモノトス

政府ハ右社債ノ元利支拂ニ付保證ノ方法ヲ考慮スルモノ

トス

七、本會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上、監事二人以上ヲ置キ總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命シ理事ハ株主總會ニ於テ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトス

八、政府ハ每營業年度ノ投資及融資ニ關スル計畫其ノ他重要事項ノ認可(別紙ノ方法ニ依ル)、監理官ノ設置、軍事上又ハ本會社ノ目的遂行上必要ナル命令等ニ依リ本會社ヲ監督スルモノトス

軍事上又ハ本會社ノ目的遂行上必要ナル命令ニ因リ政府ノ補償ヲ要スルカ如キ場合ハ豫算ノ範圍内ニ限ルモノトス

九、將來本會社ノ營業區域ニ新政權樹立セラルトキハ政府ハ之ヲシテ本會社及其ノ子會社ニ對シ適當ナル優遇方法ヲ講セシムル様努ムルモノトス

閣議諒解事項

一、投資及融資ニ關スル計畫トハ資金ノ使用ニ關スル計畫ノミナラス其ノ資金ノ調達ニ關スル計畫ヲモ一體トシテ包含スルモノトシ其ノ認可申請ニ當リテハ自己ノ經營スル

事業ノ計畫及子會社ノ事業計畫ヲ添附スルモノトス

二、軍事上ノ命令ヲ發スヘキ場合ニハ豫算ノ關係モアリ豫メ關係廳ト充分協議スルモノトス

三、曩ニ閣議ニ於テ決定セル昭和十三年中ノ物資需給竝ニ輸入計畫ニ於テハ本會社ノ目的遂行ノ爲必要ナルヘキ物資竝ニ外貨資金ハ之ヲ見込ミ居ラサルニ付本會社ノ目的遂行ノ爲ニハ關係各廳共同ノ努力ヲ以テ出來得ル限り物資及外貨資金ヲ差繰捻出スルノ外ナク本會社ノ事業ハ斯クシテ生シタル物資竝ニ資金ノ餘裕ノ範圍内ニ於テ之ヲ行フモノトス

四、本會社ハ自己又ハ其ノ子會社カ現地ニ於テ第三國(滿洲國ヲ除ク)ヨリノ物資ノ輸入其ノ他二因リ外貨資金(新政策ノ通貨ヲ除ク)ノ必要ヲ生スルカ如キ業務ヲ爲サントスルトキハ豫メ政府ノ承認ヲ受クヘキモノトス

五、政府出資ハ場合ニ依リ一部現物ニ依ルコトアルヘシ

別紙

一、中支那振興株式會社ノ每營業年度ノ投資及融資ニ關スル計畫又ハ其ノ變更ノ認可申請ハ遅クモ年度開始又ハ

變更計畫着手豫定期一箇月前迄ニ爲サシムルモノトス但シ其ノ計畫ノ變更ニシテ輕易ナルモノニ付テハ簡易ナル手續ニ依ルコトヲ認ムルモノトス

二、政府ハ投資及融資ニ關スル計畫又ハ其ノ變更ノ認可ニ關シテハ年度開始又ハ變更計畫着手豫定期迄ニ處理スルモノトス

(付記)

三、三、委員會決定 企畫委員會書記局
支那經濟開發ニ關シ第三國資本導入要綱(案)

北支及中支ニ於ケル經濟開發實施ニ關シ日支兩國ニ於ケル資本及物資調達ノ現狀ニ鑑ミ出來得ル限り第三國ノ投資ヲ誘導シ以テ開發計畫ノ圓滿迅速ナル遂行竝國際關係ノ改善ニ資スルモノトス

之カ爲列國ニ對シ支那經濟開發ニ對スル我方ノ方針ヲ説明シ我方ニ於テ支那ノ經濟的利益ヲ獨占スルノ意圖ヲ有セサルコトヲ闡明スルト共ニ現在第三國ノ經濟的權益ヲ侵害シ居ルカ如キ事項ニ付速ニ調整ヲ施スコトヲ要ス

中支ニ於テハ勿論北支ニ於テモ爲替管理及貿易統制ハ極力

之ヲ避クヘキモノトス

第三國資本ノ誘導ハ政府民間協力一致之ニ當リ概ネ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フ

一、從來支那ニ於テ密接ナル投資關係ヲ有スル國(英、米、佛、白等)ノ既存權益ノ現狀ヲ基礎トシテ外資ノ誘致ヲ計ルコト

二、獨、伊ノ如キ友好國ノ投資ニ付テハ特ニ便宜ヲ供與スルコト但シ其ノ他ノ國ノ資本進出ノ障害トナラサル様留意スルコト

三、第三國ノ投資ハ社債ノ應募、「クレヂット」ニ依ル機械材料等ノ供給又ハ開發會社若ハ其ノ子會社タル各事業會社ニ對スル出資等ノ方法ニ依ルコト

四、開發會社ノ直接統制範圍以外ニアル事業(殊ニ自動車航空機製造工業等)ニ對シテハ單獨又ハ合辦ニ依ル第三國資本ノ進出ヲ助長スルコト



786

昭和13年4月19日

在張家口森岡(正平)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

蒙疆方面の爲替管理方針について

第一五二號

張家口 4月19日後発
本省 4月19日後着

金井最高顧問過般上京中帝國ノ對外爲替管理ニ關シ蒙疆地區ヲ滿洲國同様取扱方大藏省當局ノ了解ヲ得タルト共ニ蒙疆銀行ヲ爲替銀行トシテ承認ヲ受ケ目下正金、朝鮮兩銀行對蒙疆銀行間ニ契約書交換手配中ナリ尙右ノ結果在張家口滿洲中央銀行分行ハ二箇月位ノ後閉店シ當分殘務處理員ヲ蒙疆銀行本店ニ駐在セシムル筈ナリ

北京、天津、上海、滿ハ轉電セリ



787

昭和13年4月23日 第三委員會決定

「在支紡績應急對策」

在支紡績應急對策

一、三、四、三 第三委員會決定

一、在支邦人紡績業ノ復舊ハ左記方針ニ依リ之ヲ認ムルコト
(イ)工場全部ノ破壊セラレタルモノニ關シテハ原則トシテ其ノ復舊規模ヲ精紡機五萬錘織機一千臺ヲ限度トシ事

變前ニ於テ右ノ規模ニ達セザリシモノニ付テハ事變前
ノ設備規模ヲ限度トシテ其ノ復舊ヲ認ムルコト

(ロ) 一部ノ被害ニ止マリタルモノニ付テハ原則トシテ其ノ
復舊ヲ認ムルコト

(ハ) 轉地復舊ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ之ヲ認ムルコ
ト

ニ、在支邦人紡績業ノ擴張ハ原則トシテ之ヲ認メザルコトト
スルモ事變前ニ着手シ工事ノ程度相當進捗シ居レルモノ
其他特別ノ事由アルモノニ付テハ機械製作ノ狀況、流用
シ得ベキ内地休鍾設備ノ狀況等ヲ考慮シテ場合ニ依リ之
ヲ認ムルコト

三、在支邦人紡績業ノ新設ハ當分ノ間之ヲ認メザルコト

四、在來ノ支邦人經營紡績ハ原則トシテ邦人紡績企業ノ共同
進出ニ依リ日支合辦ノ支那人タラシムルコト

五、支邦人經營紡績ノ全部破壊セラレタルモノハ之ガ復舊ヲ
見合スルコト

一部ノ被害ニ止マリタルモノニ付邦人紡績企業ノ進出セ
ル場合ニ於テハ之ヲ運行スルニ必要ナル限度ノ修繕ヲ認
ムルコト

六、復舊、擴張、新設ヲ認ムル場合ニ於テハ其ノ機械設備ニ
付内地休鍾設備ノ轉用及他ノ新規計畫ノ爲製作セルモノ
ノ流用ヲ極力行ハシムルコト

七、使用原綿ハ混綿用ノモノヲ除キ外綿ノ輸入ヲ極力避クル
コト

八、内地紡織機械製造業ハ紡績機械修繕工場ノ程度ノモノノ
外之ガ進出ヲ認メザルコト

九、染色、精練、加工等ノ絲布加工業ハ當分ノ間其ノ新設、
擴張ヲ認メザルコト

一〇、在支紡績ノ復舊、擴張、新設又ハ邦人紡績企業ノ進出
ニ付テハ現地機關ハ事前ニ中央ト協議スルコト

備考

邦人紡績企業ノ支邦人經營紡績ニ對スル進出ニ關シテハ
當業者ノ無用ノ競争ヲ防止スルト共ニ事變ニ依リ著シキ
打撃ヲ受ケタル者、事變前支邦進出ヲ企圖シタルモノ新設
ヲ容認セラレザリシ者及内地中小紡績業者ヲシテ進出ノ
機會ヲ與フルコトヲ考慮スルモノトス

788

昭和13年5月9日

在北京堀内大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

朝鮮銀行券の上海流出阻止を華北各公館へ注

意喚起について

北京 5月9日後発

本省 5月9日夜着

第六七八號

本官發天津、青島、濟南、芝罘宛電報

合第三九九號

當地鮮銀支店ヨリ最近上海ニ於テ鮮銀券ノ流入巨額ニ及ヒ
鮮銀上海支店ハ右流入阻止策トシテ鮮銀券ノ爲替買收及日
本銀行券トノ交換ヲ拒絶シ居ル爲上海ニ於テ鮮銀券ト日本
銀行券トノ間ニ五十錢乃至一圓ノ打歩ヲ生シ居ル處右ハ北
支ト中支ニ於ケル法幣ノ對金圓賣買相場ノ差異ヲ利用シ又
資本逃避ヲ加味シテ北支ヨリ中支ニ流入スルモノナルニ付
鮮銀券ノ上支^(北支)ヨリノ流出ヲ防止サレ度キ旨依頼アリタリ
(同時ニ鮮銀ニ於テハ上海支店ニ日銀券ヲ充實シ或程度鮮
銀券ノ日銀券トノ交換ヲ圖ラントシ居ル趣ナリ)
上海ニ於ケル鮮銀券ノ流入ハ必スシモ北支ヨリノ流出ノミ

ニ基クモノニアラス軍費等トシテ持來ラルルモノ多カルヘ

ク右對策ハ種々ナル方面ヨリ考慮セラルヘキモノナルモ北

支ヨリノ流出ニ關シテハ既ニ四月中旬臨時政府ニ於テ之ヲ

禁止シ居ル次第ナルカ(本官發大臣宛電報第五五一號參照)

右禁止ヲ潛リテ南送サレ居ル疑アルニ付海關ニ對シ右禁止

ヲ一層嚴行スル様申聞ケラルルト共ニ日本商人ニ對シ日本

紙幣南送嚴禁ノ趣旨徹底方然ルヘク御配慮相成度シ尙軍ニ

於テモ同趣旨ヲ各出先軍機關ニ命令濟

大臣、上海ヘ轉電セリ

本電宛先天津、青島、濟南、芝罘

~~~~~

789

昭和13年5月10日

在北京堀内大使館參事官より  
広田外務大臣宛(電報)

北支那開發会社の子会社社設立案に關し敵産処

理および軍の監督權などにつき意見具申

北京 5月10日後発

本省 5月11日前着

第六七八號(部外祕)

往電第六五五號ニ關シ

一、各子會社設立計畫書中ニ所謂敵產即チ漢口側ノ公有財産ヲ日本側現物出資トシテ掲ケアル處(例ヘハ北支鐵鋼會社ノ現物出資中太原西北實業鍊鐵廠ノ如シ)右ハ現在軍管理下ニ在リト雖將來臨時政府ニ繼承セラルヘキモノニシテ最近軍ニ於テ決定セル軍管理竝ニ我管理下ニアル敵產其ノ他企業處理案(十一日空送ス)ニモ此ノ旨明記シアリ之ト抵觸スルノミナラス法理上ヨリ妥當ナラサルト共ニ中國側ニ對シテモ面白カラサルニ付本件討議ノ席上係官ニ於テ右ヲ指摘シ石本中佐モ之ヲ認メタルモ子會社設立ノ計畫上ハ何トカ日本側出資トスル必要アルニ付如何ナル手續方式ニ依ルコトカ最モ合理的且妥當ナリヤ外務側ニ於テ研究立案アリ度キ旨依頼アリタリ即チ先ツ臨時政府ニ繼承シ同政府ヨリ我國ニ讓渡スル形式ヲ執ラルル要アルモ實際的問題トシテ種々考究ノ要アリ本省ニ於テ本件御討議ノ際右ノ點御考慮相成ルト共ニ本官心得迄何分ノ貴見御回電相成度シ

二、開發會社ノ子會社ニ對スル監督ニ關シ軍參謀ヨリ子會社ハ軍ノ監督ニ服スヘキ旨明記スルコトヲ要求セル處特務部ヨリ中央ニ於テ反對アルヘキニ付明記スルハ藪蛇ナリ

トノ意見出テ當方ヨリハ戰時狀態下ニ在リテハ軍ノ監督ハ軍事行動ノ必要上アルヘキモ本案ハ平時狀態下ニ在ル組織案ナリトシ結局右軍ノ監督ニ關シテ明記セス必要アラハ更メテ考慮スルコトトセリ

三、石炭液化ニ關シテハ經濟上ノ點ヨリ相當意見出テ且内地ノ液化事業トノ關係ヲ考慮ノ要アリ結局一先ツ一案トシテ中央ニ提出スルコトナリタルモノナリ

上海、天津ヘ轉電セリ



790 昭和13年5月13日 第三委員會決定

### 「中支那通貨金融対策」

中支那通貨金融對策

昭、一三、五、三 第三委員會決定

中支那ニ於ケル通貨金融對策ニ付テハ中支那經濟ノ振興人心ノ安定ヲ圖リ以テ我國ノ中支那經營ノ基礎ヲ確立スルト共ニ中支那方面ノ通貨金融ノ支配權ヲ漢口政權ヨリ我方ニ掌握スルコトヲ目標トシ左記要領ニヨリ必要ナル諸般ノ措置ヲ講ズルモノトス

一、軍費及經濟振興資金ニ付テハ差當リ原則トシテ本邦通貨（日本銀行券及補助費）ヲ使用スルコトトスルモ實需ヲ超エテ流通セシメザルヲ旨トシテ其ノ價值維持等ニ付適切ナル方策ヲ講ズルコトトシ速ニ其ノ具體案ヲ研究實施スルモノトス

二、軍票ハ軍事行動ノ必要ニ應ジ現在ノ取扱ヲ繼續スルモノトス

三、軍費及經濟振興資金ニ付法幣ヲ使用スルコトハ極力之ヲ避ケ萬已ムヲ得サル場合ニ於テモ第三國通貨賣却ニヨリ之ヲ調達スルコトナク本邦物資ノ賣却等ニヨリテ取得シタル法幣ノ利用ニ努ムルモノトシ且維新政府收入法幣及北支ニ於ケル回收法幣ノ利用ニ付十分考慮スルモノトス

四、維新政府ノ收納セル法幣ハ出來得ル限り之ヲ第三國通貨ニ換ヘシムルモノトス

五、維新政府ヲシテ土產其他主トシテ輸出向物資ノ購入賣却並地方產業及民衆生活上必要ナル物資ノ供給ヲ圓滑ナラシムル爲ノ通貨ノ發行ヲ目的トスル金融機關ヲ設立セシムルト共ニ右機關ノ機能ヲ圓滑ナラシメ通貨價值ノ維持ヲ圖ル爲メ必要ナル商業機構ノ確立其他ノ措置ヲ講ゼシ

ムルモノトス（具體案ハ別途之ヲ定ム）

右施設ハ奧地ヨリ始メ漸次其他ノ地域ニ及ボスモノトシ又右機關ノ發行スベキ通貨ノ印刷ヲ急速ニ完了セシムルモノトス

尙第三國人ノ土產買付ニ對シテハ出來得ル限り外貨ヲ提供セシムルモノトス

六、維新政府ヲシテ錢莊其他金融機關ノ取締ヲ勵行シテ通貨ノ不當ナル賣買ヲ抑止セシムルモノトス

七、漢口政府ノ在外正貨ノ損耗ヲ促進シ其ノ蓄積ヲ阻止スル爲前掲諸方策ノ實施ト併セテ第三國銀行及支那側金融機關ヲシテ極力我方ニ協力シ來ル如ク措置スルモノトス

租界ヲ除ク占領區域内ニ於ケル第三國銀行及支那側銀行ノ復歸又ハ新設ハ之等銀行ニ於テ我方ニ協力セザル限り之ヲ認メザルモノトス

八、將來ノ中支那ニ於ケル中樞的發券機關トシテハ

（一）中央銀行ヲ設立スルカ

（二）前記五ノ機關ヲ育成シテ其ノ擴大ヲ圖リ中央銀行ニ移行セシムルカ

（三）支那側既存銀行ヲ我方ニ誘致シ之ヲシテ中央銀行ノ職

能ヲ行ハシムルカ

(四)中國聯合準備銀行ヲシテ中支那ニ進出セシムルカ

右四者アルベキモ現下内外諸般ノ事情ニ顧ミルトキハ今日ハ未ダ其ノ何レニ依ルベキヤヲ決定スベキ時期ニアラザルヲ以テ此ノ點ハ今後暫ク事態ノ推移ヲ俟ツテ之ヲ定ムルモノトス

而シテ右ノ何レノ方法ニ依ルトスルモ其ノ實現ハ利用シ得ベキ外貨ノ充足ヲ見且爾後ノ通貨價值維持ニ付懸念ナキニ至リタル場合ニ於テ之ヲ實行スルモノトシ差當リ之ガ基礎ヲ培養スル爲左記事項ノ實施ニ努ムルモノトス

(一)産業經濟ニ對スル統制力ノ充實

(二)對外收支ノ均衡維持及改善並外貨ノ蓄積

(三)支那財閥並ニ第三國ノ協力ノ誘致

尙右機關ノ實現ヲ見ルベキ場合ニ備フル爲豫メ紙幣原版(但シ發行者ノ名ヲ記載スベキ箇處ヲ空白ノ儘ニナシ置ケルモノ)ノ作成ニ着手スルモノトス

六、前項ノ機關ノ實現ヲ見ルニ至ラザルニ法幣崩落シ通貨タル機能ヲ喪失シタル場合ハ前記五ノ機關ノ擴大其他ノ方法ニ依リ通貨ノ供給ヲ圖リ經濟ノ運行ニ支障ナカラシム

ルト共ニ第三國通貨ノ流通ヲ見ルニ於テハ之ヲ統制スル等適當ナル措置ヲ講ズルモノトス

七、維新政府ノ財政ニ付テハ其ノ健全ナル基礎ヲ確立セシメ以テ歲入不足補填ノ爲ニ公債ヲ發行スルガ如キコトナカラシムルモノトス

尙當分ノ間維新政府ノ受拂ニ充ツベキ各種通貨ノ換算率ハ我方ノ内面指導ノ下ニ維新政府之ヲ決定スルモノトス海關金單位ノ換算率ノ決定ニ付亦同ジ

八、第三國通貨ノ流入ヲ見タル場合ニ於テハ適當ナル方法ニヨリ之ヲ我方ニ於テ統制シ得ル如ク措置スルモノトス



791

昭和13年5月30日

在青島大鷹總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

中国連合準備銀行券を使用する邦人輸出業者  
は外国商との競争力に乏しいため本邦輸入許  
可の緩和など救済策検討方意見具申

青 島 5月30日前発  
本 省 5月30日後着

第四六四號

當地邦人特產物輸出業者ハ本邦爲替管理竝ニ輸入許可制強化ノ爲對日主要輸出品中棉花、鹽等二、三特殊品ノ一部ヲ除ク外輸出全ク停頓ノ實情ニアリ(落花生、同柏、麩、桐材等ノ輸入許可ニ關シ從來屢請願爲シ居ルモ未タ一回ノ許可ヲモ得ラレス)他面目滿以外ノ對外輸出ニ於テモ邦商ハ法幣ト等價ヲ以テ聯銀券ヲ使用シ且北支現行通貨規定ノ對外價值一志二片ノ「レート」ニ依リ輸出爲替ノ取組ヲ爲ス要アルニ反シ外商ハ一志以下ニ再落セル上海「レート」ニ依リ法幣ヲ使用シ得ルヲ以テ外商トノ競争到底不可能ニシテ最初法幣相場ノ下落甚タシカラサリシ時代ニ於ケル約定品少シ許リノ輸出ヲ爲シ得タルニ止マリ其ノ後ハ全然杜絶ノ狀態ナリ尙目下聯銀券ハ背後地治安未タ確保サレサル爲流通圓滑ナラス昨今法幣ニ對シ五分内外ノ打歩ヲサヘ生シ居ル模様ニテ之ヲ使用スル邦商ノ特產物買付價格ハ頗ル割高トナリ同情スヘキ狀態ニアリ依テ之カ打開策ニ付寄々協議中ナルカ差當リ本邦輸入許可ノ緩和ニ依リ幾分ニテモ取引ノ途ヲ開カシムルコト必要ト認メラルルニ付此ノ上其共分ノ御配慮仰度シ

北京、天津、濟南、上海へ轉電セリ

792

昭和13年6月8日

在天津田代總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

流通禁止紙幣を投機目的で売買する邦人を金

融攪乱者として処罰するため処罰令公布につ

き請訓

天津 6月8日後発

本省 6月8日夜着

第六〇五號(部外秘)

往電第一〇六號ニ關聯シ

天津陸軍特務機關ハ客月二十八日附告示ヲ以テ「舊通貨整理辦法ニ依リ六月十一日以後流通ヲ認メサル紙幣ハ有効期間滿了前ニ於テ中國聯合準備銀行券ニ引替ヘ以テ不慮ノ損失ヲ來ササル様爲念一般ニ告示ス尙投機ヲ目的トシテ右紙幣ノ賣買ヲ爲ス者ハ金融攪亂罪トシテ嚴重處斷セラルヘキモノナルニ付併セテ告示ス」トノ旨連日新聞ニ廣告シ居リ(特務機關カスル告示ヲ爲スコトノ可否ハ別問題トシ)北京特務部ニテハ大使館係官ニ對シ各總領事館ニ於テ一般在留邦人ニシテ右ノ如キ金融攪亂者ヲ實際ニ取締リ得ル様措置方切望シタル趣ナル處金融攪亂ノ行爲ハ軍律ニ規定セラレ

居ラス客年往電第九六七號ノ通り治安維持會ノ布告ヲ以テ  
公布セラレタルニ過キサルヲ以テ帝國臣民カ支那ノ金融ヲ  
攪亂シタル場合之ヲ處罰シ得サルニ付警察犯處罰令(明治  
四十二年當館館令第一八號)ノ第一條六十三號ノ次ニ第六  
十四號トシテ「金融ヲ攪亂シ又ハ攪亂セシメタル者」ヲ挿入  
シ現在ノ第六十四號ヲ第六十五號トシテ改正スル館令ヲ公  
布シ差支ナキヤ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ  
北京、上海、青島、濟南、芝罘へ轉電セリ

793 昭和13年6月9日

宇垣外務大臣より  
在天津田代總領事宛(電報)

金融攪亂取締に関する処罰令公布につき認可  
方回訓

本省 6月9日後6時40分発

第三九一號(部外秘)

貴電第六〇五號ニ關シ

御來示ノ通館令公布方認可ス公布ノ上ハ寫二部送付アリ度  
シ

北京、上海、青島、濟南、芝罘へ轉電セリ

794

昭和13年6月9日

在天津田代總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

銀行券の移輸出禁止に関する領事館令告示に  
ついて

天津 6月9日後発

本省 6月9日夜着

第六〇九號

貴電第三八三號ニ關シ(銀行券ノ移輸出禁止館令ノ件)

當館ハ八日附ヲ以テ左ノ通り告示セリ

中國海關規定ニ違反シテ各種銀行券ヲ輸出シ輸入シ移出シ  
若クハ移入シ又其ノ輸出、輸入、移出若クハ移入ヲ圖リタ  
ル者ハ昭和十三年六月一日當館館令第二號密輸取締規則第  
一條第二號ノ違反トシテ處罰セラルヘシ

上海、北京、青島、濟南、芝罘、山海關、石家莊、塘沽へ  
轉電セリ

795

昭和13年6月23日

第三委員会決定

「上海内河汽船株式會社設立要綱」

上海內河汽船株式會社設立要綱

一、六、三 第三委員會決定

第一方 針

中支ノ主要ナル内河航運ヲ統制シ之ヲ合理的ニ經營セシメ  
以テ中支ニ於ケル水陸交通聯絡ノ調整及日支海運ノ健全ナ  
ル發達ニ資スル爲上海内河汽船株式會社(假稱)ヲ設立ス  
現在ノ江浙輪船公司ハ之ヲ本會社ニ統合セシム

第二 要 領

一、本會社ハ上海ヲ根據トシ中支ノ主要ナル内河航路ニ於ケ  
ル小蒸氣船及發動機船竝ニ之ガ曳航ニ依ル運輸營業ヲ獨  
占經營セシムルヲ目途トス但シ正當ナル第三國人ノ内河  
航運ニ關スル權益ハ之ヲ認ムルモ船舶等ハ成ルベク買収、  
合併其ノ他ノ方法ニ依リ本會社ノ統制下ニ入ラシム  
二、本會社ノ業務左ノ如シ

- 1、中支那主要内河航路ニ於ケル旅客及貨物ノ運送
  - 2、船舶賃貸借
  - 3、倉庫及碼頭ノ經營等前各項ニ附帶スル事業
- 三、本會社ノ營業航路ハ差當リ左記諸線トシ將來必要ニ應ジ  
之ヲ延長シ又ハ新設ス

左 記

- 1、上海—松江—泖港鎮—平湖
- 2、上海—松江—泖港鎮—嘉興—杭州
- 3、上海—松江—泖港鎮—平望鎮—吳興
- 4、上海—黃渡—朱家角
- 5、上海—崑山—蘇州—無錫—武進—丹陽—鎮江
- 6、上海—崑山—常熟—蘇州
- 7、上海—嘉定—太倉—常熟

四、會社ノ名稱

上海内河汽船株式會社(支那名ハ上海内水輪船股份有限  
公司)

五、國籍及本店所在地

本會社ハ維新政府普通法人トシ本店ヲ上海ニ置ク

六、資本金

(イ) 資本總額 貳百萬圓

内 譯

- |      |       |
|------|-------|
| 現物出資 | 四拾萬圓  |
| 現金出資 | 百六拾萬圓 |
- (ロ) 現物出資ハ全額拂込トシ現金出資ハ第一回四分ノ一



拂込トス

(註一) 現物出資ハ江浙輪船公司ニ加入シ現ニ就航中ノ船舶ノ一部ヲ以テ之ニ充ツル豫定ナルモ船舶ノ隻數等ノ關係ニ依リ多少増減スルコトアルベシ

(註二) 現金出資中六拾萬圓ハ中支那振興株式會社、四拾萬圓ハ日清汽船株式會社ニ於テ引受ケ殘餘ノ六拾萬圓ハ内河航運關係日支人等ヲシテ引受ケシムルモノトス

## 七、役員

役員ハ社長、副社長各一人、取締役三人以上、監査役二人以内ヲ置クモノトシ其ノ任期ハ社長、副社長及取締役ハ各三年、監査役ハ一年トス

ハ、本會社ノ特典

1、同種競争事業ノ新設ヲ認メズ

2、會社設立登録税ノ免除

3、土地收用其ノ他必要ナル特權

## 備考

(一) 本會社ハ差當リ株式公募ノ方法ニ依ラズ發起設立ニ依リ急速ニ成立セシムルモ將來適當ナル時期ニ於テ一般

國民ガ本會社ノ株主タリ得ルノ途ヲ拓クモノトス其ノ際出征者及其ノ家族、在支邦人等ニ對シ特別ノ考慮ヲ拂フモノトス

(二) 本會社ノ従業員ノ採用ニ付テハ出征者及其ノ家族、在支邦人等ニ對シ事情ノ許ス限り特別ノ考慮ヲ拂フモノトス



796

昭和13年6月24日  
在青島大鷹総領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

華北方面の邦人業者による第三国との輸出入取引は貿易収支の均衡を得れば制限しないと  
の大藏省方針について

青島 6月24日後発

本省 6月24日後着

第五二二號

往電第四六四號ニ關シ

當地三井支店ニ於テハ當方面特產品ノ日滿以外ノ對外輸出促進ノ爲第三國ヨリノ輸入許可方ニ付大藏省ノ意嚮照會中ナリシ處二十二日三井本店ヨリ當地支店ニ對シ大藏省ハ内

地資金計畫ニ影響アル軍關係大口輸入其ノ他特殊ノ場合ヲ除キ第三國ヨリノ輸入ハ輸出入ノ「バランス」ヲ得レハ現地ノ自由ニ委セ差當リ制限セサル方針ナルニ付現地銀行竝ニ當局ノ意嚮確メ方入電アリタル趣ヲ以テ當館ニ伺出テタリ

他方當地正金支店ニ於テモ第三國向輸出品カ北支産ニシテ其ノ代償カ外貨トシテ入金アリタル場合右範圍内ニ於ケル北支必需品ノ輸入ヲ認メ該品目ノ選定ハ當事者ノ判斷ニ委セ輸出入取引ノ内容ハ事後報告ニテ差支ナキ旨指令アリタル趣ナリ

右ニ依レハ此ノ種取引ノ大部分カ三井、三菱等ノ大手筋ニ集中シ土着小商人等ハ有利ナラサルモ第三國向貿易打開ノ爲大局上已ムヲ得サル次第ト思惟セラルルニ付右方針ニ依リ邦商ノ第三國向輸出入ヲ指導スル意嚮ナル處何等御意見アラハ御回電相成度シ

北京、天津、上海、濟南へ轉電セリ



797

昭和13年7月5日

五相會議決定

### 「中支那金融緊急對策」

付記 昭和十三年八月十日付、作成者不明

「中支那金融緊急對策」ニ付英國ト公式交渉開

始ノ件」

### 中支那金融緊急對策

昭和十三年七月五日

五相會議決定

一、列國ヲシテ對蔣援助ヲ斷タシムル爲第三國關係ヲ調整スルコトハ極メテ肝要ナルニ鑑ミ政府ハ中支占領地域ニ於ケル外國銀行竝ニ外國商社ノ通商及金融上ノ活動ニ對スル制限ヲ除去スルノ用意ヲ有ス

但シ揚子江航行自由問題ハ施策上各方面ニ重大ナル影響アルヲ以テ交渉上本問題ニ觸ルル場合ニハ出先ハ改メテ上申ノ上對處スルモノトス

二、法幣崩落ノ現狀ニ鑑ミ前記用意ノ下ニ第三國側殊ニ英國側ヲ協力セシメテ速ニ中支那通商促進ヲ主目的トシ事實上政治ヨリ獨立セル新發券銀行ノ設立竝ニ新銀行券ノ發券ヲ行ヒ以テ法幣崩壞ノ場合ニ備フルモノトス

右第三國側ノ協力ノ勸誘ニ付テハ先ツ現地ニ於ケル英國

系銀行要スレハ英國政府側ニ對シテ之ヲ行フ、場合ニ依リ獨伊兩國ノ誘致ニ依リ其ノ促進ヲ圖ルコトヲモ考慮ス但シ帝國ノ中支發展ノ基礎確立上不安ナカラシメ帝國カ中支金融上指導の立場ヲ保持シ得ルヲ建前トスルモノトス

三、支那側銀行並商社ニ對シテモ前記ニ趣旨ヲ以テ勸告ヲ爲スモノトス

備考 本件實施ハ別紙處理要領ニ依ル

## (別紙)

中支金融緊急對策處理要領

昭和十三年七月五日

五相會議決定

### 第一、方針

本金融對策ノ實施ニ當リテハ第三國側ノ干涉ヲ誘致スルコト及和平問題ニ波及スルコトヲ戒メ飽ク迄自主的態度ヲ堅持シ特ニ本交渉ノ時期及方法ニ於テ我方ニ有利ナラシムル如ク施策スルモノトス

### 第二、要領

一、政府ハ中支金融緊急對策方針ニ則リ内地及現地協力ノ上直チニ中支金融機構ノ具體案樹立ニ着手ス

右具體案ハ本件交渉ノ結果ニ適從シ得ル如ク適當彈力性アルモノトス

二、本件交渉ハ單ナル金融上ノ問題トシ主トシテ現地ニ於ケル我方及第三國側金融擔當者間ニ於ケル非公式折衝ニ重點ヲ置キツツ始ムルモノトシ適當ナル時機到來ヲ俟テ漸次政府間ノ交渉ヲ開始スルト共ニ必要ニ應ジ之ヲ中央ノ交渉ニ移行セシム右政府間ノ交渉開始竝ニ中央ノ交渉ニ移行スル時機ニ付テハ別ニ中央ノ決定指示スル所ニ據ルヘキモノトス

右ニ備ヘ中央ニ於テハ豫メ本件處理ノ實質の準備ヲ整フ之カ爲現地竝ニ内地ニ於ケル關係者ノ連絡ヲ密ニシ不統制ニ基ク缺陷ノ排除ニ努ム

本交渉ニ關連スル通商問題ノ取扱ハ特ニ慎重ヲ期シ片務の結果ニ終ラシメサルモノトス

三、本交渉ニ當リテハ先ツ現地ニ於ケル相手國實業界等ノ空氣ヲ我方ニ有利ナル如ク展開セシメ其ノ本國(英米等)ヲシテ事態ヲ正當ニ認識セシムルコトニ努ムルト同時ニ我

方ノ財界等ニ對シテハ本件交渉上苟モ我方ニ不利ナル如キ言説ヲ用ヒシメサル様適當指導ス

四、交渉ノ主目標ハ英國ニ存スルモ之カ手段トシテ米、獨、伊等ヲ利用スル等アラユル積極的手段ヲ講スルモノトス  
五、前項ノ第三國ニ對スル外交工作ト併行シ第三國ノ對蔣政權態度ノ是正蔣政權ノ切崩シ竝ニ支那財界ノ吸引ニ努ムルモノトス

六、本件交渉ノ祕密保持方ニ付テハ全幅ノ注意ヲ拂フ要アルハ勿論、本交渉ニ必要ナル陣容ヲ整備シ、交渉上苟モ缺陷齟齬ナキヲ期スルモノトス

# （付記）

中支那金融緊急對策ニ付英國ト公式交渉開始ノ件

一三、八、一〇

## 判 決

現地ニ於ケル非公式折衝ノ結果竝最近ニ於ケル法幣ノ推移及ヒ作戰ノ進展等ニ鑑ミ「ホ」氏上京ヲ機トシ此ノ際中支那金融緊急對策ニ付公式交渉ニ入ラシムルヲ要ス

## 理 由

一、現地ニ於ケル非公式折衝結果概要

(1) ホールパッチ氏指導案理由記載ノ如ク同氏ハ法幣維持ヲ希望シ其ノ實現手段ニ付駐支英大使等ト連絡ヲ保チツツ折衝中ノ處近ク東京ニ於テ駐日英大使ト協議シ或ハ我方關係者トモ交渉ノ上對策實現ノタメ歸國セントスルモノト判斷セラル

(2) 在上海英國系財界人ハ現狀ヲ以テ推移スルニ於テハ法幣崩壞不可避ト爲シ通商保持ノ必要上事態ニ即應スルタメ何等カ新通貨創設ノ必要ヲ認メ居リタル處ホールパッチ氏漢口ヨリ歸滬ノ頃ヨリハ寧口積極的意思表示ヲ避ケントスルカ如キ態度ヲ執ルニ至レルモノノ如シ

(3) カ一駐支英大使ハ最近漢口ヨリ歸滬セルヲ以テ引續キ非公式折衝ニ依リ善導ニ努ムヘキモ同氏ハ通貨問題ニ關シテハ恐ラクハホ氏ト同意見ニシテ又一般のニモ蔣ニ對シテ好意ヲ有スルハ免レサル所ナルヘク此ノ際比較的我方ヲ了解スル立場ニ在ル駐日英大使ヲ中心ニ通貨問題ヲ協議シ之ヲ我方ニ協力セシムルト共ニ他面支那ニ關スル日英兩國間ノ現存諸懸案ノ解決ヲ圖ルヲ必要トスヘシ

三、法幣推移ニ伴フ英蔣關係

三月中旬以來崩落ノ一途ヲ辿リ來タレル法幣ハ現在蔣政權ノ統制外貨賣ニ依リ辛クモ八片ヲ維持シ居レルモ戰爭進展ニ伴フ暴落ノ現狀ニ直面シ之カ價值維持ヲ共同ノ利益トスル英國及ヒ蔣政權カ其ノ暴落防止ノタメ何等カ對策ヲ講シ之カタメ益々兩者ノ關係ヲ緊密ニ爲スノ虞アリ

三、漢口作戰トノ關係

漢口作戰ノ效果ヲ十分ニ我方ニ收ムルタメニハ對外關係殊ニ對英關係ヲ是正スルト共ニ英國ト蔣政權ノ隔離ヲ實現スルコト緊要ト認メラルル處通貨問題ハ兩者ノ利害關係ノ楔トナリ居ル事情ニ鑑ミ日英間ノ對支一般諸懸案解決ト共ニ通貨問題ノ解決ニ付我方ノ方針ニ合致セシメ蔣政權トノ離反ヲ實現スルノ必要アリ

以上ヲ要スルニ通貨並通商問題ニ關スル對英現地折衝ノ今日迄ノ結果ハ速カニ本件ヲ以テ公式交渉ニ移シ通貨問題ニ關シテ英蔣離反ヲ實現スルタメ諸方策ヲ實施シ其ノ效果ノ完全ヲ期シ以テ漢口攻略ノ效果ヲ出來得ル限り大ナラシムルノ要アルヲ認ム

處置

一、本判決ヲ中央ニ具申シ實現ヲ期ス

三、ホールパッチ氏ノ指導並交渉開始及ヒ交渉經過ニ應シ善處スルタメ關係者ヲ上京セシメ中央ト緊密ナル連絡ノ下ニ行動セシム

三、東京ニ於ケルホ氏ノ指導並交渉ノ經過ニ即應シ現地ノ指導ヲ主トシ英國系金融業者ニ指向シ以テ彼等ヲ通シ英官憲ノ態度ヲ善導セシムル如ク努ム特ニ交渉開始後ニ於テ東京現地間ノ連絡ヲ緊密ニシ齟齬ナカラシム  
場合ニ依リ現地上京者ノ一部ヲ歸滬セシム

以上

798

昭和13年7月17日  
在張家口森岡総領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

蒙疆連合委員会が管轄区域内の中国銀行四支  
店に閉鎖を命じた旨報告

第二六七號

張家口 7月17日後発  
本省 7月17日夜着

蒙疆聯合委員會ニ於テハ事變前ヨリ引續キ最近迄厚和、包

頭、平地泉、豐鎮ノ四箇所ニ存在シ居リタル中國銀行各支店ニ對シ七月五日限り閉鎖ヲ命シタルカ何レモ異議ナク命令ニ服從セリ尙右ノ結果蒙疆地帶ノ金融機關ハ蒙疆銀行(國立)及其ノ統制下ニアル蒙疆實業銀行ノ獨占トナレリ  
北京、天津、上海へ轉電セリ

799

昭和13年8月4日

在北京堀内大使館參事官より  
宇垣外務大臣宛(電報)

### 中国連合準備銀行券の流通速度や法幣への中国 人の執着など華北金融状況につき報告

北京 8月4日後発

本省 8月4日夜着

第一一三九號

京津地方ニ於ケル金融狀況ニ關スル情報御參考迄左ノ通り  
中聯券ノ發行總額ハ約六千萬元ニシテ其ノ過半ハ京津地方ニ流通シ居ル處地方治安ノ不良、棉花ノ出廻停止ニ基ク資金ノ地方還流ノ阻害ハ財源及一部ノ支那側銀行ノ反中聯的態度、抗日分子ノ中聯券偽造ニ依ル金融攪亂行為等ト相俟ツテ中聯創立以來外國租界ニ存シ居タル中聯券、舊法幣

ノ闇取引市場ニ於ケル打歩ヲ大ナラシメ最近中聯券百元ニ付舊法幣九十四、五元ノ「レート」ニテ取引サレ居ル模様ナリ又支那側有力銀行(交通、中國、上海、中央等)ハ大概反日的ニシテ中聯券ニ對シテ預金其ノ他ニ於テ特殊ノ取扱ヲ爲シツツアル爲支那人ニ信用大ナル是等諸銀行ノ態度ハ直接一般支那人ニ影響シ支那人ノ舊法幣ニ對スル執着ヲ強カラシメ之ヲ「ホルド」スル傾向ヲ増長シ以テ中聯券ノ流通速度ヲ早メ物價騰貴ヲ促進シツツアリ他方支那側銀行ノ營業狀況ハ極メテ惡化シ内地爲替業務ヲ除カハ全ク業務ナク積立金資本金ヲ喰ヒツツ存續シ居ル有様ニテ斯様ナ營業不振ハ内容不健實ナル銀行ヨリ比較的健實ナル銀行ヘノ預金ノ大量の移動ヲ誘致シツツアルヲ以テ前者ハ預金ノ逃避ヲ防ク爲利子ノ引上ヲ爲シツツアルニ反シ後者ハ運用ニ途ナキ預金ノ集中ヲ防ク爲利子ノ引下ヲ爲シツツアリ右ノ如ク中聯ノ金融統制力ハ全ク缺如シ中聯ハ金融界ヨリ遊離シ居レリ

第三國貿易資金ノ決済ニ充テラレ居ル舊法幣ノ下落、流通額増加シツツアル中聯券ノ對舊法幣比價ノ動搖、中聯券ノ空轉等ノ一聯ノ事情ニ現レ居ル通貨不安ノ濃化ハ内地物價

高ノ北支ヘノ直接的反映ト相俟チ北支ノ物價高ヲ促進セリ  
即チ六月ノ天津物價ハ前年同月ニ比シ四九%本年二月ニ比  
シ二〇%餘ノ騰貴ヲ示シ而モ銅元物價ハ銅元ノ退藏輸出或  
ハ銅元票ノ下落ノ爲銀元物價ノ騰貴ニ比シ極メテ大ニシテ  
最近ノ物價高ハ銅元ニ依リ生活シ居ル下層階級ヘノ重壓ト  
ナリツツアリ現在ノ物價騰貴趨勢力適當ノ方法ニ依リ「チ  
エツク」セラルルニアラサレハ今秋頃ノ食糧ヲ中心トスル  
生活必需品ノ騰貴ハ大ナル社會政治問題トナルヘク治安上  
ヨリスルモ等閑視スヘカラサルモノアリ

中聯創立以降外國爲替市場ハ消滅シ居ルモ外國商社ト外銀<sup>?</sup>  
トノ爲替取組ハ相當活潑ナルモノアリ最近ノ舊法幣ノ崩落  
ハ支那土產品ノ輸出ヲ頗ル有利ナラシメ對第三國輸出ハ外  
商之ヲ獨占シ居リ即チ外商ハ輸出爲替ノ取組ヲ外銀ニ於テ<sup>?</sup>  
舊法幣ヲ以テ爲シ建値ハ對八片前後ナルニ反シ日本商社ハ  
中聯券ヲ以テ正金ニ於テ一志二片ニテ取組マサルヲ得サル  
事情ニ在リ日本商社ハ到底外商ト競争シ得ス斯クテ正金乃  
至ハ中聯ヘノ輸出「ビル」ノ集中ハ當分實現セサルヘク從  
テ中聯ノ外貨蓄積ハ頗ル困難ナルヘシ  
天津、上海、青島、濟南ヘ轉電セリ

800

昭和13年8月12日 在上海日高總領事より  
宇垣外務大臣宛(電報)

中支那振興会社および同子会社への第三國資本  
参加に關し英國商ケズウィックヘ説明について

上海 8月12日後發  
本省 8月12日夜着

第二四六五號

貴電第一三〇二號ニ關シ(國策會社株式ヲ外國人ニテ引受  
希望ノ件)

「ケシツク」カ本件申込ヲ爲サントシタル事件ヲ指スモノ  
ト思料セラルル處其ノ概要左ノ如シ

一、三日ノ「デーリー、ニユウス」ハ當地正金ニ於テ本件株  
式公募中(offered to the public)ナル旨ノ同盟英文ヲ掲載  
セリ

二、四日午前英人「ブローカー」「ベンジヤミン、アンド、  
ボツツ」ヨリ正金(現地邦人ノ本件株式申込ノ取次ヲ爲  
シ居レリ)ニ對シ使ヲ以テ前記記事ヲ示シ申込用紙ヲ請  
求シ來リタルモ正金ニ於テハ振興會社定款ニ其ノ株式ノ  
外人ヘノ讓渡ハ總裁ノ承認ヲ受クヘキ旨規定シアルニ鑑

ミ外人カ引受ケ得ルヤ否ヤ不明ナルニ付振興會社出張所  
へ問合ハスヘキ旨説示シ用紙ヲ與ヘサリシ由ナリ(後ニ  
同出張所ヘ文書ヲ以テ同様請求アリタルモ何等回答ヲ爲  
シ居ラサル由)

三、<sup>(2)</sup>四日午後「ケジツク」(兄)ハ他用面會セル滿鐵金井ニ對

シ從來ノ御勸モアリ前記新聞記事ヲ見(不<sup>編注</sup>明)若干アルヲ

以テ二十萬圓程(株券面額ナルヤモ知レス)應募セントシ

タルモ正金ニテ斷ハラレタリト語リタルカ金井ハ當局ノ

意嚮ヲ確メタル上翌五日更ニ面會シ振興會社株ハ外人ノ

引受困難ナルモ子會社ハ外人ノ投資ヲ歡迎スルモノアル

ヘキ旨語リタルニ「ケ」ハ實ハ四日斷ハラレタル次第ヲ

倫敦ニ電報セルカ新聞ニハ offered to the public トアル

ニ拘ラス外人ヲ排除ストテ惡印象ヲ與ヘタルヤモ知レス

子會社ニ投資ノ可能性アリトセハ右惡印象ハ不當ニ惹起

セラレタル譯ナレハ之カ是正ノ意味ニテ御話ノ次第ヲ追

電スヘシト語リ居タル由ナリ

四、右二、三、ノ關係不明ナルカ正金ニ對スル申込ハ「ベ」

ノ外ニナカリシ趣ナルニ依リ關聯アルモノカト思考セラ

ル(「ケ」ハ七日當地發日本ニ向ヘリ)

其場合ニ依リ右二十萬圓ヲ子會社ニ振向クル餘地ナキヤ否  
ヤ特務部ニテ研究中ナリ

北京ヘ轉電セリ

編注 「不明」は後日、「安キ圓」と訂正された。

~~~~~

801 昭和13年8月22日 在北京堀内総領事より
宇垣外務大臣宛(電報)

華北物価高騰への対策として物価取締規則の

制定につき請訓

別電 昭和十三年八月二十二日發在北京堀内総領事

より宇垣外務大臣宛第六二号

右規則案

北京 8月22日後發

本省 8月22日夜着

第六一號

昨今北支ニ於ケル物價ハ異常ノ昂騰ヲ示シツツアリ此ノ趨
勢ヲ放置スルコトハ治安工作上ニモ重大ナル障礙ヲ免レサ
ルヘキヲ以テ軍側ニ於テモ何等機宜ノ方策ヲ講スヘシトノ

希望強く先般來各關係方面ニ於テ物價統制ノ具体案研究中ナリシカ不取敢石炭、燐寸、小麥粉、米及其ノ他雜穀類、綿布、主要木材、煉瓦等ノ主要生活必需品ニ對シ最高價格ヲ公定シ右價格ヲ越エテ販賣スルコトヲ禁止スルノ案ヲ實行スルコトニ話合成リ（實行區域ハ北支全般ヲ目的トスルモ不取敢京津地方ニ於テ右方法ニ依リ北支全般ニ及ホサントスルモノナリ）目下最高價格決定ニ關シ研究中ナルカ右ノ結果當館ニ於テ別電第六二號ノ如キ館令ヲ公布シ（第一條列記ノ各品ニ對スル最高價格ハ當館告示ヲ以テ公布ス）度キ處差支ナキヤ折返シ何分ノ儀御回電相成度シ（支那側ニ於テモ同趣旨ノ發令發布ノ豫定）

本電別電共ニ上海、天津、青島、濟南ヘ轉電セリ

（別電）

北京 8月22日後発
本省 8月22日夜着

第六二號

物價取締ニ關スル規則

第一條、左ニ掲クル物品ヲ別ニ定ムル價格ヲ越ヘテ販賣ス

ルコトヲ得ス

一、石炭

二、燐寸

三、小麥粉

四、米及其ノ他各穀類^{（穀カ）}

五、綿布

六、主要木材

七、煉瓦

右物品ノ外必要ニ應シ之ヲ追加スルコトヲ得

第二條、前條記載ノ物品ノ買占又ハ賣惜ミヲ爲スコトヲ得ス

第三條、他人ヲシテ前二條ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第四條、第一條記載ノ物品ヲ販賣スル者ハ其ノ販賣價格ヲ店頭ニ揭示スヘシ

第五條、總領事必要アリト認ムル時ハ第一條ニ掲クル物品ノ取扱者ニ對シ賣買價格、賣買數量、貯藏量等ニ關スル報告書ヲ提出セシメ又ハ其ノ者ノ住所、營業所、店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ノ臨檢、帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査又ハ關係者ノ訊問ヲ爲シ又ハ必要ナル命令ヲ爲ス

コトヲ得

第六條、第一條乃至第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス若クハ虚偽ノ報告ヲ爲シ検査ヲ拒ミ妨ケ若クハ忌避又ハ訊問ニ答ヘス若クハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタルモノハ金五十圓以下ノ罰金若クハ科料又ハ拘留ニ處ス

第七條、本令ノ罰則ハ未成年者又ハ禁治產者ナル時ハ其ノ法定代理人ニ、法人ナル時ハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第八條、本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

~~~~~

802

昭和13年8月27日  
在北京堀内大使館參事官より  
宇垣外務大臣宛(電報)

華北物産の輸出を外国資材輸入の範圍内とする  
輸出入リンク制度の決定について

別電 昭和十三年八月二十七日發在北京堀内大使館

參事官より宇垣外務大臣宛第一二六九号

右輸出入リンク制度実施要綱案

第一二六八號(至急、極秘)

往電第一二四三號ニ關シ

其ノ後ノ研究ノ結果貿易管理實施ニ至ル迄ノ措置トシテ差當リ外國資材ノ輸入ヲ北支物産ノ輸出(日本及滿洲國トノ輸出入ヲ除ク)ノ範圍内ニ止メ國際收支ノ適合ト不用不急品ノ輸入抑制ヲ圖ル爲(中南支ハ差當リ外國トシテ取扱フ)輸出入「リンク」制ヲ外國爲替資金制度ト共ニ實施スルコトトナリ「リンク」制ハ大體別電第一二六九號ノ趣旨ニ決定シタルカ資金制度案ト組合セ更ニ二十九日檢討ヲ加ヘ三十日頃日本側銀行並ニ邦人商社ニ通達シ本案ニ依ルヘキコトヲ嚴命スル豫定ナリ尙本案ニ依ルモ外國及一切(ノ支那商社ハ除外セラルルヲ以テ本案實施後貿易管理ハ可及的速ニ實施方考慮ノ答ナリ

天津、上海、青島、濟南、芝罘へ轉電セリ

(別電)

北京 8月27日後發  
本省 8月27日夜着

北京 8月27日後発  
本省 8月28日前着

第一二六九號(至急、極秘)

一、<sup>(1)</sup>

- (一)輸出爲替ノ金額ノ範圍内ニ於テ輸入ヲ認ム爲替相場ハ一志二片ヲ原則トス
- (二)輸入資材ノ種類及數量ニ付テハ輸入ヲ爲サントスル者ヲシテ輸入爲替ノ取得ニ際シ届出テシメ當局ノ豫メ定ムル物資需給計畫ニ依ラシムルコト(必要物資ノ順位ヲイ)軍需關係品(ロ)生活必需品(ハ)北支開發用物資(ニ)其ノ他二分子且不急不用品名ヲ列舉ス)
- (三)本案ノ實施ハ專ラ日本系爲替銀行(橫濱正金銀行及朝鮮銀行)ヲシテ之ニ當ラシム
- (四)租界外國銀行及支那銀行ヲ通シテ行ハルル貿易ニ對シテハ海關ニ於ケル通關手續又ハ奧地ニ於テ買付ケタル物産ノ輸送等ニ關シ極秘裡ニ適當ナル手心ヲ加ヘルト共ニ本制度ニ依ル貿易ニ對シテハ可及的優遇ヲ與フ
- (五)爲替市場ヲ通セサル物々交換ノ方法ニ依ル貿易モ本案ニ準ス

二、措置

- (一)輸入ヲ認ムル額ハ輸出爲替金額ノ九〇%ヲ限度トス(輸出ノ際ノ各種危險ヲ考慮セリ)
- (二)無爲替輸出又ハ委託販賣ニ依ル輸出等ノ如ク代金ノ回收時期ノ不明又ハ長期ニ亘ル輸出ニ對應スル輸入ハ認メス
- (三)輸出者輸出爲替ヲ取組ミタル時ハ爲替銀行ヨリ爲替取組證明書ノ交付ヲ受ク
- (四)輸入者ハ輸入爲替取組ニ際シ(一)二定ムル比率ニ依リ其ノ輸入金額ニ對スル金額ノ爲替取組證明書ヲ爲替銀行ニ提出スヘシ
- (五)爲替取組證明書ハ爲替銀行ニ對シテノミ讓渡シ又ハ同銀行ヨリノミ讓受ケ得ヘシ
- (六)爲替銀行ハ爲替取組證明書ノ金額ニ付所持人ノ請求ニ依リ之ヲ分割シタル金額ノ證明書ヲ發行スルコトヲ得
- (七)爲替銀行ハ爲替取組證明書ノ提出ナキモノニ對シテハ輸入爲替ノ供與ヲ爲サス
- (八)爲替取組證明書ノ有効期間ハ爲替ヲ取組ミタル日ヨリ一月トス

803

昭和13年 8月29日

在北京堀内大使館參事官より  
宇垣外務大臣宛(電報)

外国為替基金制度実施要綱の決定について

別電 昭和十三年八月二十九日發在北京堀内大使館

(九)輸出業者又ハ輸入業者本制度ニ依リ輸出入ヲ爲シタル  
時ハ其ノ都度遲滞ナク左ノ事項ヲ爲替銀行ニ届出ツヘ  
シ

(一)輸出又ハ輸入物資ノ種類、數量及金額

(二)輸出又ハ輸入年月日

(三)輸出ニアリテハ其ノ仕向地、輸入ニアリテハ當該物  
資ノ產出地又ハ製造地

(十)爲替銀行ハ一月毎ニ輸出入ノ狀況ニ付特務部ニ報告ス  
ヘシ

(十一)爲替市場ヲ通セス物々交換ニ依リ輸出入ヲ爲サントス  
ル者ハ豫メ特務部ノ承認ヲ得ヘシ尙輸出入ヲ爲シタル  
時ハ其ノ都度遲滞ナク(九)ニ掲クル事項ヲ特務部ニ報告  
スヘシ

天津、上海、青島、濟南、芝罘へ轉電セリ

參事官より宇垣外務大臣宛第二二八二号

右要綱

北京 8月29日後發

本省 8月29日夜着

第一二八一號

往電第一二六八號ニ關シ

「更ニ廿九日協議ノ結果往電第一二六九號ノ輸出入「リン  
ク」制實施要綱案ハ「措置」ノ項中(イ)ノ九〇「パーセ  
ント」ヲ適當ナル限度ニ改メ(ロ)(ハ)ノ一箇月ヲ一定期間ニ  
改メ(ハ)「外國爲替基金制度ヲ利用スル場合ハ(四)及(七)ノ規  
定ニ拘ラス輸出爲替證明書ノ提出ヲ要セス」トノ一項ヲ  
追加シ之ヲ決定セリ

三、右ト同時ニ外國爲替基金制度實施要綱ヲ協議セルカ本制  
度ハ結局輸出入「リンク」制ノ一部ナルモ其ノ方針トシ  
テハ中聯券ヲ對外貿易通貨タラシメ其ノ對外價值ヲ具體  
化スルコトヲ第一目標トシテ併セテ邦人ノ對外貿易促進  
及對外爲替吸收ノ結果ヲ拘束センコトヲ主眼トシ要領別  
電第一二八二號ノ通り決定セリ

三、本件兩制度ハ至急實施ノ豫定ナリシモ蒙疆地區ヲ北支ニ

包含セシメ居ル一方中南支ヲ第三國扱トシ居ル爲一應蒙  
疆及中南支方面出先ト協議ノ上實施スルコトトナリ近ク  
特務部ニ於テ右兩地方ノ係官ヲ招集ノ豫定ナリ

四、兩制度實施要綱郵送ス

當方ニ於ケル發表迄詳細ノ發表見合サレ度シ

天津、上海、青島、芝罘、濟南ヘ轉電セリ

## (別電)

北京 8月29日後発

本省 8月29日夜着

第一二八二號

外國爲替基金制度實施要綱

要領

一、外國爲替基金ハ輸出入兩爲替取組ニ於ケル外貨資金得喪  
ヲ時期の喰違ヲ調整スルコトヲ目的トスル廻轉資金ニシ  
テ輸出入爲替ノ「リンク」制ト結合セシメ運用ス

二、中聯所有外貨資金ノ中差當リ五百萬圓ヲ以テ本資金ヲ設  
置ス但シ事情ニ依リ増額ヲ考慮ス

三、輸出入爲替ノ取引ハ一志二片「ベークス」ニ於テ之ヲ行

フ

四、本資金ノ減少ヲ防止スル爲輸出爲替ハ其ノ支拂ノ確實ヲ  
期シ之カ種類ニ付適當ノ制限ヲ加フ

五、輸出入爲替ハ英貨建又ハ米貨建ニ限り且同一幣種ニ付テ  
ノミ其ノ「リンク」ヲ認ム

六、本資金ノ適用ニハ正金ヲシテ當ラシム

鮮銀取扱ニ係ル輸出入爲替ニ付テモ適宜本制度利用ノ途  
ヲ開ク

七、正金ハ一志二片ニテ輸出爲替ヲ取組ムコトニ依リ爲替取  
組者ノ蒙ル不利ヲ輕減スル爲之ニ必要ナル限度ニ於テ低  
利貸付ヲ行フ右貸付金ハ當該輸出ト「リンク」セル輸入  
爲替取組ノ利益ニ依リ返済セシム

八、本制度ノ實施ハ邦商ノ對第三國貿易進出助長ニ資スルモ  
ノナルモ之カ利用ニハ外商ヲ排除セス

天津、上海、青島、濟南、芝罘ヘ轉電セリ

~~~~~

804 昭和13年9月6日 閣議決定

「上海都市建設基本要綱」

上海都市建設基本要綱

三、九、六 閣議決定

上海ヲ據點トシ中支方面ニ對スル帝國ノ經濟的發展ノ基礎ヲ確立スルヲ目標トシ其ノ具體の方策ノ一トシテ左記ニ依リ上海新都市ヲ建設スルモノトス

第一方 針

- 一、上海市ヲ日支兩國勢力下ノ理想的の都市タラシムル目的ヲ以テ黃浦江下流沿岸ニ港灣施設ヲ擴充シ新都市ヲ建設ス
- 二、新都市建設計畫ハ大上海市全體ヲ對象トシテ計畫立案シ將來上海市政府ノ行政權ノ擴充竝ニ我經濟力ノ伸張ト相俟ツテ租界ヲ包括スル明朗ナル都市ノ實現ヲ期ス
- 三、當初ノ建設ハ日支兩國ノ經濟狀況ヲ顧慮シ先ヅ必要ナル範圍ニ止メ將來逐次之ヲ擴張ス

第二 要 領

- 一、新都市建設區域ハ舊市政府ヲ中心トシテ概ネ蘇州河々口附近ニ至ル距離ヲ半經トスル圓周ノ範圍トス
- 二、本區域内ニ於テ概ネ黃浦江下流主要港灣地帶ヲ市中心區ニ、吳淞「クリーク」兩岸ヲ工業區ニ豫定シ閘北及虹口地帶ハ新都市中心區ト租界トノ連接ヲ目的トシテ復興ス

二、本建設事業ノ主ナルモノ左ノ如シ

(一) 新都市建設ノ爲必要ナル土地ノ賣買

(二) 港灣施設(海運ノ進展ヲ顧慮シ大造船修理工場ノ建設ヲ含ム)

(三) 水陸交通連絡施設

(四) 市街(公共施設ヲ含ム)ノ建設

三、本建設ハ維新政府ノ事業トシ原則トシテ同政府ノ特殊法人タル日支合辦會社ヲシテ之ガ實施ニ當ラシム但シ其ノ目的遂行上支障ナキ限り第三國資本ノ參加ヲ認ムルモノトス

四、上海附近ニ於ケル舊支那側官有ノ土地、建物等ハ之ヲ右會社ニ對スル維新政府ノ現物出資ニ充當セシムルコトヲ得ルモノトス

五、中支那振興會社ニ屬スル公益事業(鐵道、バス、電氣、電話、水道、ガス等)ノ經營者ヲシテ新都市建設ニ協力セシム

六、中支那振興會社ハ第三項ノ會社ニ投資又ハ融資ヲ爲シ其事業ヲ助成シ之ヲ統一のニ指導ス

七、維新政府ヲシテ土地收用其他新都市建設上必要ナル法令

ノ制定ヲナサシメ且本事業遂行上必要ナル特典ヲ與ヘシム

ハ、都市建設區域内ニ設定スル我軍事施設ハ今次作戰ノモノト將來永久性ヲ要スルモノトヲ明確ニ區分シ都市計畫ニ齟齬ナカラシム

六、南市及滬西地域ニ於ケル復興計畫ハ眞ニ已ムヲ得ザル最少限度ニ止ム

一〇、上海市ノ防衛施設ニ就テハ別ニ計畫ス

閣議諒解事項

第二ノ第三項「本建設ハ維新政府ノ事業トシ」ハ對支那人及第三國人關係等ヲ考慮シ本建設ガ本來維新政府ノ爲スベキ事業タルノ建前ヲ表ハス趣旨ニシテ右建設實施業務中概ネ設計、實施監督及土地買收ハ維新政府ニ於テ、其ノ他ハ會社ニ於テ之ヲ行フモノトス



805

昭和13年9月22日
在北京堀内大使館參事官より
宇垣外務大臣宛(電報)

物価の漸次低下傾向に鑑み物価取締規則の公

布は暫く見合わせについて

北京 9月22日後發
本省 9月22日後着

第一四二五號

本官發濟南宛電報

第四四號

貴官發大臣宛電報第六八九號ニ關シ

當館ニ於テハ其ノ後折角關係方面ト聯絡シ殊ニ麥粉、綿布、米及雜穀等ハ天津ノ價格ニ左右セラルルニ付天津トモ聯絡シ最高價格研究中ナリシカ租界問題ノ爲天津ニ於ケル研究進捗セサリシ一方軍竝ニ當館始メ一般ノ物價統制ニ對スル掛聲増大ト共ニ物價ハ(特ニ石炭燐寸)漸次低下スル傾向ヲ示シタルヲ以テ特務部トモ打合ノ上館令ニ依ル物價抑制ハ暫ク傳家ノ寶刀トシテ殘シ置キ(館令公布ノ際之カ實效ヲ奏セサル場合ハ却テ結果面白カラサルヘキヲモ考慮シ)前記ノ傾向ヲ利用シ石炭、燐寸、煉瓦取扱業者ヲ指導シ當方ニ於テ適當ト認ムル販賣價格ヲ新聞ニ大々的ニ廣告セシメル等自發的ニ抑制ノ方法ヲ執ラシメ概ネ所期ノ目的ヲ達シ居レリ從テ館令ハ今後ノ情勢ヲ見タル上ニテ公布スルヤ否

ヤヲ決スル所存ナリ御參考迄
大臣、天津、上海、青島へ轉電セリ

806

昭和13年9月23日 第三委員會決定

「中支那方面物資配給組織ニ關スル暫定處理

要綱」

中支那方面物資配給組織ニ關スル暫定處理要綱

一三、六、二三 第三委員會決定

第一 方針

日本商品ノ奧地進出、民衆宣撫工作等ニ資スル爲本年秋期
收穫期以前ニ於テ上海、南京、蘇州、杭州等ニ不取敢本邦
物資配給機關ヲ整備シ逐次其ノ擴大強化ヲ計ルモノトス

(註一) 中支那ハ本邦商品市場トシテ對支貿易ノ過半ヲ占
メ長江流域二億ニ達スル大衆ノ購買力ハ市場開拓ノ將
來性ヲ示唆スルモノナル處本邦商品ノ奧地滲透ヲ策ス
ルガ爲ニハ現地配給機關ノ擴充ヲ前提トセザルベカラ
ズ

加之占據地域内民衆ニ對シ生活必需物資ノ圓滑ナル供

給ヲ計ルハ宣撫工作並通貨工作上早急實施ノ必要ニ迫
ラレツツアル所ナリ

(註二) 本案ハ占據地域内配給機構ニ關スル暫定の對策ニ
過ギザルヲ以テ中支那ノ重要性ニ鑑ミ商品進出ト資本
進出トノ關係調整又ハ中支那貿易振興上必要ナル既存
貿易機關ノ整備等ニ關シテハ引續キ根本的對策ヲ樹立
シ彼此相俟チテ完璧ヲ期ス

第二 要 領

一、配給機關

不取敢本邦雜貨取扱業者ニシテ組織、資本及經營方法優
秀ナルト共ニ奧地進出ノ熱意ヲ有シ中支配給機關ノ急速
實現ヲ可能ナラシムルニ適スル者ヲ選ビ之ヲ進出セシム
ルモノトス

二、配給機關ノ事業範圍

- (イ) 本邦商品ノ卸賣
- (ロ) 本邦商品ノ小賣但シ事情ニ依リ特定地方ニ於テハ之ヲ
行ハシメザル場合アルヲ考慮ス
- (ハ) 右ニ附帶スル事業
- (註) 中支物產ノ買付及中支間配給卸賣ハ(ハ)ノ事業トシ

テ之ヲ爲スコトヲ得

三、配給機關ノ經營方法

中支各重要都市ヲ各業者ニ割當ツルモノトス

四、配給機關設置地

第一次 上海、南京、蘇州及杭州

必要アル場合ハ支所等ヲ右以外ノ都市ニ設置スルヲ妨ゲ

ズ

第二次 漢口等

五、配給機關ノ組織

差當リ本邦各業者ノ延長事業トナスモノトス

六、實現時期

本年秋季收穫期以前ニ急速實現セシムルモノトス

備考

(一) 本件實現ニ依リ豫想シ得ベキ既存關係業者等ニ及ボス影響ニ付テハ適宜緩和是正ノ策ヲ講ズルモノトス

(二) 本件配給機關ヲシテ支那民衆ノ所持スル軍票ニ依リ購入ニモ應ゼシムルモノトス

(三) 本件配給機關ノ機能促進ノ爲軍及官憲ハ努メテ之ニ便宜ヲ付與スルモノトス

(四) 本計畫實現ニ關聯シ本邦品ノ奧地進出及宣撫工作等

ノ必要ニ鑑ミ本邦品ノ對支輸出制限緩和方ニ關シ具體的ニ特別ノ考慮ヲ拂フモノトス

諒解事項

本要綱ノ實施ニ當リテハ左記ニ依ルモノトス

一 本配給機構ノ事業ハ獨占事業ニ非ザルヲ以テ從來ノ本邦側關係業者ノ利益ヲ充分ニ尊重シ特ニ商品ノ仕入及配給ニ付其ノ利益ヲ害セザル様考慮スルコト

二 外國ニ對シ本配給機關ガ中支ニ於ケル物資配給ノ獨占ヲ爲サントスルモノナルヤノ誤解ヲ與ヘザル様慎重措置スルコト

三 本配給機構ノ組織者タル業者ニ對シ本要綱ノ暫定措置ナル旨ヲ充分諒解セシメ將來根本對策ノ樹立ニ當リ政府ノ措置ニ無條件ニ服スベキコトヲ約セシムルコト

四 本配給機構ノ運用ニ當リテハ支那側現存取引機構ノ復活利用ニ努メ日支提携協力ノ基礎ノ上ニ我ガ對支貿易ノ發展ヲ期スル様充分考慮スルコト

807

昭和13年11月11日

在天津田代總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津市政府による非常時金融弁法撤廢の動き について

天津 11月11日後発

本省 11月11日夜着

第一〇六五號

天津市政府ハ客年八月十六日財政部命令ニ依リ實施セラレタル非常時金融辦法(客年往電第七六八號)ヲ十一月一日ヨリ撤廢セル旨支那側各金融業者ニ示達セル處右示達ノ經緯ニ付テハ當地特務機關、聯銀支店及市政府日本人顧問等全ク關知シ居ラス潘市長カ奈邊ノ指導ニ依リ右示達ヲ爲セルモノカ出所全然不明ナルカ支那側銀行カ飽ク迄聯銀トノ合作ヲ肯セサル場合ハ本件金融辦法ノ撤廢ヲ行ヒ一般ノ預金引出要求増加ト相俟ツテ支那側銀行ヲシテ聯銀券使用ヲ餘儀ナクセシムヘシトノ肚ハ豫テ聯銀側ニ存セル所ニシテ唯聯銀側ノ支那側銀行ニ對スル平和的合作促進工作力進捗シツツアル折柄時機尙早ナリトシテ手控ヘラレ居タルモノナリ而シテ右示達ニ關シ支那側銀行方面ニハ(一)一般ノ預金引

出ニ付テモ商業資金ハ無制限ニ拂出ヲ行ヒ居リ(二)一般ノ預金引出ニ付テモ商業資金ニ與ヘラルルコト確實ナルモノハ隨時無制限ニ拂出シ來レル上(三)一般預金者ニシテ一箇月最高制限額六百元一杯迄引出ヲ要求セラレタル例少ク商取引衰退ノ折柄資金需要僅少ト推測セラルルヲ以テ右撤廢示達カ實施ニ移サルトモ取付發生ノ如キ惧ハ先ツナク

其ノ實際的影響ハ殆トナカルヘシト豫想セラルルモ萬一取付ノ生シタル場合ハ充分ナル資金準備ナキヲ以テ當地店舗ハ閉鎖ノ外ナク然ル上ハ南方本店ニ於テ預金引出ニ應スルコトニナルヘキ處之ハ資本ノ逃避トナリ(當地支那側有力銀行ハ悉ク本店ヲ上海ニ置キ當地ニテ受入レタル預金ノ大部分ハ本店貸トナリ南方ニテ流用セラレ其ノ額約一億元ト推測セラル)北支經濟ハ著シキ困難ニ逢着スヘシト稱シ居レリ一方日本側ニテハ本件辦法撤廢ニ依リ取付發生ノ惧ナキハ確カナルヘキモ多少ノ預金引出ト之に伴フ銀行ノ資金行詰ハ免レサルヘク右示達後支那側金融業者カ市政府ニ右示達ノ實施遷延方ヲ要請シ且之ニ備ヘ資金手當(最近數日間ニ聯銀券ノ上海匯劃ニ對スル打歩カ一萬元ニ付七百元内外ヨリ最高一千三百元ニ暴騰セルハ支那側銀行カ資金獲得

ノ爲銀行ヲ通シ上海爲替ノ賣リニ出動シ居ル證左ナルヘシ)ヲ急キ居ルニ徴スルモ明カナリ而シテ支那側銀行ノ店舗閉鎖ハ爾ク簡單ニ行ヒ得ルモノニアラス結局聯銀統制下ニ降ルヘキハ明カナリト思料セラルルモ支那側カ前記ノ如キ切札ヲ有スルコトハ今後ノ工作上充分考慮ニ入レ置ク必要アルヘシ

北京、濟南、青島、上海へ轉電セリ

~~~~~

808

昭和13年11月13日

在北京堀内大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

### 対中通貨政策の強化に關し意見具申

北京 11月13日前発

本省 11月13日前着

#### 第一六八五號(極秘)

一、北中南支ニ於ケル金融問題ニ關シテハ今日迄ノ所局地的ニ種々其ノ對策ヲ攻究シ來レル次第ナル處帝國政府ノ政策力既ニ蔣政權ヲ排除潰滅シ新中國政權ノ樹立、輔導ニ依リ東亞ノ新秩序ヲ確立セントスルニ存スル以上今後相當長期間ニ亘リ引續キ大兵團ノ駐屯從テ現地ニ於ケル相

當額ノ軍費ノ支出ヲ必要トスルノミナラス占領地域ノ復興建設開發モ亦速ニ之ヲ促進スルヲ要スルノ現狀ニ在リ斯ル情勢ノ下ニ於テ我國現下ノ戰時經濟體制ニ及ホスヘキ惡影響ヲ防止シ未曾有ノ時艱ヲ克復セントセハ今後對蔣經濟戰ノ遂行ヲ一層強化徹底スルノ要アルヘク殊ニ其ノ根底ヲ爲スヘキ幣制金融對策ハ獨リ直接ニ蔣政權ニ對スル經濟戰ノ目標タルニ止マラス英米等ノ我方ニ對スル協力ヲ促進セシメ得ヘキ重要問題ナルヲ以テ既ニ漢口廣東ノ攻略ヲモ完了シ重要經濟地點カ我方ノ統制下ニ歸シタルヲ轉機トシ此ノ際内政外交全般ノ見地ヨリ從前ノ對策ニ再檢討ヲ加フヘキ時期ニ到達セルモノト思考セラルニ、抑々北支ニ於テ聯銀ヲ創設シ圓元「プロツク」トシテ之ヲ圓「プロツク」ニ入レタルハ一ニ現地ニ於ケル軍費支辨ニ必要ナル通貨ノ獲得ト他面長期經濟戰ニ備フルカ爲圓「ノート」ニ依リ北支ヨリ所要物資ノ輸入ヲ確保スルト共ニ北支經濟開發ニ必要ナル圓投資ヲ得ンコトニ誘導シ併セテ右圓紙幣ノ流通ニ伴ヒ我國政治經濟ニ及ホスヘキ惡影響ヲ防止セントスルニ存スル次第ナルカ今日ノ事態ニ於テハ益々右趣旨ニ依リ聯銀ノ強化ヲ圖ルノ要アル

ハ勿論進シテ中南支方面ニ於ケル我方占領地域ノ全般ニ亘リテモ右趣旨ニ依リ同様適切ナル措置ヲ講スルノ要アリ換言スレハ圓元「パー」對英一志二片ノ幣制金融政策ハ獨リ之ヲ北支ノミニ限定スルコトナク此ノ際中南支ニ亘リ全般のニ之ヲ強行シ我國戰時經濟力ノ強化ヲ計ルト共ニ對英米ノ外交謀略ノ手段トシテ之ヲ利用スヘキコト絶對ニ必要ナリト確信ス

三、右幣制金融政策實施ノ方策トシテハ健全通貨ノ基礎ヲ爲スヘキ現銀ノ準備カ國民政府ノ手ニ依リ凡テ搬出セラレ消耗セラレタル現狀ニ在リテハ爲替管理及貿易管理ノ手段ニ依ルノ外ナシ即チ

(一)<sup>(3)</sup>北支ニ在リテハ一志二片「バイシー」ニ依ル貿易爲替管理ヲ實施シ輸出爲替ヲ聯銀ニ集中セシムルコトニ依リ外貨ヲ獲得シ以テ聯銀券ノ強化ヲ圖ルコトトシ

(二)中南支方面ニ於テハ北支ノ如ク別個ノ中央銀行ヲ樹立シ之ヲシテ同様ノ措置ヲ講セシムルコト最モ徹底セル手段ナリト雖今日中南支ヲ通シ十數億圓餘ノ法幣現ニ流通シツツアリ一般民心ニ及ホス惡影響ニ鑑ミ差當リ更生支那ノ通貨トシテ到底法幣ヲ度外視スルコトヲ得

サルヘク寧ロ支那經濟財政ノ中心勢力タル浙江財閥ヲ切離シ之ヲシテ新政權支持ノ態度ニ出テシムル施策トシ(此ノ點ハ支那民心ヲ收攬シ得ヘキ新中央政權樹立工作ノ進捗上ヨリモ特ニ必要ナルコト御承知ノ通り)又法幣維持ヲ餌トシテ英米等我方ニ對スル協力ヲ誘導スル謀略の見地ヨリ先ツ中國交通銀行ヲシテ一志二片ニ依ル輸出爲替ノ集中ノ業務ヲ擔當セシムル如ク施策シ(此ノ場合外貨ハ正金ニ預入セシムル等彼等カ右施蔣政權ヲ援助セサル様監督ノ要アリ)若シ彼等カ右施策ニ應セサル場合ニ於テハ新政權(維新政府、漢口政權、廣東治安維持會等)ヲシテ聯銀其ノ他ノ新銀行又ハ正金ヲシテ全面的の又ハ個別的の二右業務ヲ擔當セシメ中南支ニ於テモ北支同様一志二片ニ依ル通貨ノ對(外)價值ヲ維持セシム

右ノ如キ方策ニ依リ假令蔣政權側ニ於テ法幣ノ増發其ノ他ノ謀略ニ出ツルトモ占領地關稅及戰線主要地ニ於テ蔣政權管下ヨリ流入スル紙幣ヲ防遏スル限り大體所期ノ實效ヲ收メ得ルニアラスヤト思考シ居レルモ若シ上記ノ如キ施策ヲ困難トスル事情生スルニ於テハ更ニ中南支ノ幣

制金融ニ對スル追撃戰トシテ軍票ナリ新銀行券(朝鮮銀行券又ハ日本銀行券等ニ特別ノ符號ヲ附スルコトモ一案ナルヘシ)ナリヲ至急發行強制スルコト必要且已ムヲ得サルヘク本邦通貨ニ「リンク」即チ圓元「パー」トセサルトモ前述ノ爲替及貿易管理ニ依リ一志二片見當ニ維持シ得ルモノト認メラル(尙右貿易爲替管理ノ實施ハ全面的ニ海關ニ對スル我勢力ノ強化ヲ絕對ニ必要トスルモノナルヲ以テ昨今ノ情勢上何レニスルモ總稅務司署及中南支方面ノ海關ニ對スル日本人ノ增強ヲ即時斷行スルノ要アリ)

四、本對策ノ實施ハ素ヨリ英米等ノ對外關係上或程度ノ摩擦ヲ豫想セラルルモ右ハ我戰時經濟力ノ強化ヲ圖リ蔣政權ノ經濟力ニ徹底的攻撃ヲ加ヘ以テ事變處理ノ鍵ヲ我掌中ニ收メ得ヘキ最モ有效適切ナル措置ト言フヘク多少ノ摩擦ヲ冒ストモ國策の見地ヨリ此ノ際之ヲ敢行スルコト必要ナリト認メラルルノミナラス他面國際關係ノ見地ヨリ之ヲ見ルモ

元來本措置ヲ講スルノ已ムナキニ至ラシメタル所以ノモノハ蔣政權カ幣制改革ノ名ノ下ニ國民所有ノ銀ノ大部分

ヲ捲上ケ全部之ヲ外國ニ持出シ民衆ノ福祉ヲ無視シ專ラ兵器彈藥トシテ消耗シツツアリテ反蔣新政權下ニ於ケル通貨ハ銀及外貨等一切ノ準備ヲ剝奪セラレ居ル現狀ノ下ニ於テハ貿易爲替ノ管理ニ依リ通貨ノ安定ヲ計ルニアラサレハ通貨破壞ニ依ル經濟的恐慌及四億民衆ノ破綻ヲ防止シ難ク又蔣政權カ現ニ其ノ支配下ヲ離レタル地域ニ對シテ金融上全ク之ヲ見捨テントスル政策ヲ執リツツアル以上斷乎トシテ之ニ抗爭スルノ要アルハ治安維持ノ外純作戰ノ見地ヨリスルモ將又今次聖戰ノ目度トスル國策ノ基調ニ鑑ミルモ當然ノ歸結ト言ハサルヲ得ス而シテ斯ル事態ヲ誘致スルニ至レルハ英國等ノ直接間接ノ蔣支援カ根本ノ原因ヲ爲シ居ルモノアルヲ以テ英米等ニ於テ爲替管理等ノ措置ニ異存アルナラハ蔣政權ノ現ニ殘有スル銀又ハ外貨資金ヲ新政權ニ提供シテ準備ヲ回復スルカ又ハ右地域ニ於ケル金融安定ノ爲別個ニ援助協力ノ措置ヲ執ルコト然ルヘシトノ相當首肯シ得ヘキ態度ヲ執リ得ヘク(蔣政權カ過去一年餘ニ亘リ此ノ種管理ヲ實行シ來リ英米ニ於テ之ニ反對シ居ラサルコト御承知ノ通り)右ハ從來其ノ事例多キ起債ノ禁止又ハ制限ニ比シ同様ノ旗幟ノ

下ニ對抗シ得ル根據アルモノト信ス

殊ニ英國等ノ在支權益ハ幣制金融關係ニ依リ根本的ノ支配ヲ受クヘキ地位ニ在リ此ノ點ニ對スル日本側ノ前記方針ニ依ル合法的「アタック」ハ最モ苦惱トスル所ナルノミナラス他面蔣政權擁護モ所詮生スル利害ニ基キ居ル次第ナルヲ以テ此ノ點ニ於テ何等カ妥協ヲ見出シ得ルニ於テハ蔣政權トノ絕縁モ必然的ニ考慮セラルルニ到ルヘキモノト認メラル他方我方トシテモ對支金融對策ハ結局全面的ニ考慮スルニアラサレハ成功ノ途ナク差當リ南方ニ於ケル法幣ノ維持ヲ度外視スルヲ得サルモノトセハ此ノ點ニ於テ英國等ト利害一致スヘキモノアリ右關係ヲ利用シテ英米ヲシテ蔣ヲ離レ我方ニ協力セシメントセハ先ツ前述ノ旗幟ノ下ニ其ノ據點タル幣制金融問題ニ付徹底的攻撃ヲ加ヘ徐ニ先方ノ協力ヲ誘導スル様措置スルコト最モ適切ノ處置ト思考ス

五、本件幣制金融策ノ實行ハ前述ノ如ク英國側ヲ新政權ニ引附クル上ニ於テ相當有力ナル手段タル外其ノ合法性ニ付キテモ或ル程度迄外國側ヲ説得シ得ヘク他方今日我方カ同様ノ目的ノ下ニ英國側ニ望ミ居ル長江航行ノ閉鎖ヲ之

レ以上無限ニ主張スルコトノ困難ナル事情ト照合スルトキハ例ヘハ本件貿易爲替管理ノ實行ニ際シ長江航行ヲ或ル程度迄開放シ爾後貿易管理運用ノ手心ニ依リ我方商權ノ伸張ヲ計リ彼等ヲシテ權益尊重ヲ執拗ニ主張スル口實ヲ得サシメサル様施策スルコト對英關係ノ全面ヨリ見テ寧口適切ナリト存ス

(7) (ニ) (カ)

往電第一六七五號北支ニ於ケル爲替管理ヲ主體トスル貿易調整案モ既ニ述ヘタル如キ我方金融政策上ノ必要性ニ基キ樹立セラレタルモノナルカ右ハ元來全支ニ亘ル前記ノ如キ金融政策ヲ實施スルニアラスンハ其ノ效果ヲ擧ゲ得サルモノナルコト御承知ノ通りナルヘク從テ全支ニ亘リ本件金融政策ヲ實施スルトセハ北支ノミ先行セス寧口其ノ一部トシテ同時ニ本案ヲ實施スルコト然ルヘク一ハ對外關係上北支ノ無理ナル聯銀強化ノ政策ニ引摺ラレ遂ニ中南支方面ニ無理ヲ強行セサルヲ得サルニ至レリトノ感觸乃至非難ヲ防止シ得ルノミナラス他面本案自體ニ附隨スル難點タル中南支方面トノ調整問題モ圓滑ニ解決シ得ルヲ以テナリ

北支案ハ何レ中央ノ審議ニ附セラルヘキ處此ノ際是非共

前述ノ趣旨ヲ充分御考慮ノ上全支ニ亘ル統一的金融對策ノ確立方諸般ノ情勢上切望ニ堪ヘス

七、尙本官トシテハ今後右ノ要領ニテ軍側其ノ他ト話合ヲ進メ度キ意嚮ナルカ事對英關係ノ全體ニ影響スル所モ有之右ニ御異存アラハ何分ノ儀折返シ御回示ヲ請フ  
上海へ轉電セリ



809 昭和13年11月15日 在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 石炭およびマッチの價格統制実施につき報告

天津 11月15日後発  
本省 11月15日後着

#### 第一〇七七一號

貴大臣發北京總領事宛電報第四三號ニ關シ(物價取締館令公布ノ件)

天津ニ於テモ八月以來北京ヨリノ委囑ニ依リ當館中心トナリ關係各方面ヲ網羅セル物價統制委員會ヲ開催スルコト既ニ六回ニ及ビ(其ノ外石炭、米、棉、雜穀、綿布、建築材料、市場及取締方法ノ六小委員會ヲ設置シ夫々數回開會

ス)最近石炭及燐寸ニ關シ漸ク具體的結果ニ到達セルニ付本件館令左ノ通り公布實施スルコトトセリ

一、第一條ニ掲クル品目ハ不取敢石炭及燐寸ノミトス

二、石炭ニ付テハ支那側及各外國租界ト共同實施(但シ罰則ハ異ナル)ノコトニ打合濟ニシテ遅クモ來週初ヨリ實施シ得ル見込ナリ

三、取締ニ當ル警察官ハ次第二訓練スヘキモ當地石炭ハ供給元タル關灤及興中ノ協力アル以上販賣商側ノ取締比較的簡單ニ行ヒ得ル見込ニシテ消費者側ニ對スル取締モ嚴ニ過キサル様充分留意スル所存ナリ

四、<sup>(2)</sup>當初館令公布ニ依ラサル石炭ノ價格調節ヲ考慮シタルモ業者ノ多クハ支那人ノコトニモアリ結局取締法規ハ絕對ニ必要ナリトノ結論ニ達シタル次第ニシテ十四日ヨリ實施ノ天津港ヨリノ積出制限(本官發北京宛電報第三〇四號)ト相俟テ效果ヲ擧ゲ得ルモノト考ヘ居レリ

五、價格ハ開灤炭ニ付テハ開灤鑛務局ノ公定直賣價格ニテ數量、運賃、利益等トシテ二元ヲ加ヘタル額、大同炭其ノ他興中扱ノ石炭ニ付テハ興中ノ指定スル小賣價格又ハ門頭溝炭ニ付テハ北京ノ公定最高價格(業者ノ祕密投票ニ



依り定メラレタル由ニ北京天津間ノ運賃ヲ加ヘタル額ヲ以テ夫々公定最高價格トセリ外國租界當局モ夫々關係アル石炭ニ付右ヲ肯定スルコトニ内諾ヲ與ヘタリ  
燐寸ニ付テハ在華燐寸同業會ノ決議(當館植田囑託原案作成)ヲ採用ス

右最高公定價格ハ何レモ當館告示ヲ以テ館令ト同時ニ公布實施ス

六、冒頭貴電末段法令及資料當方ヘモ御送付アリ度ク尙本件

ニ關シ何等御意見アラハ折返シ御回電ヲ請フ

北京總領事、青島、濟南、上海ヘ轉電セリ

810 昭和13年12月16日 閣議決定

〔對支海運強化ニ關スル暫定的措置ノ件〕

對支海運強化ニ關スル暫定的措置ノ件

三、三、六 閣議決定

本邦海運ノ對支經營ヲ統制強化シ且其ノ對外的競争力ヲ増強シ以テ對支經濟工作ノ遂行及國防ノ充實ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ速ニ支那ニ於ケル本邦航權ヲ確立スル爲本格的

海運國策會社ヲ設立スルコトヲ目標トシ差當リ現下ノ急需ニ應ゼシムル爲暫定的措置トシテ内地ニ於ケル海運會社ヲシテ其ノ經營スル主要支那關係航路竝ニ之ニ關係スル諸施設ヲ出資セシメテ速ニ日華海運株式會社(假稱)ヲ設立スルモノトス

右ノ本格的な海運國策會社ノ設立ニ當リテハ本會社ヲ之ニ統合セシムルモノトス

編 注 本閣議決定に基づき、昭和十四年八月五日に東亞海運株式會社が設立された。

811 昭和13年12月29日 興亜院會議決定

〔華興商業銀行設立要綱〕

華興商業銀行設立要綱

昭和十三年十二月二十九日

興 亞 院 會 議 決 定

第一 方針

中支那ノ新事態ニ鑑ミ揚子江開放ニ對スル準備ノ一トシテ



又中支那通貨制度ニ對スル我方ノ援助並指導ノ基礎ヲ樹立スル爲自由ニ外貨兌換セラルヘキ銀行券ヲ發行シテ外國貿易金融ヲ行フヘキ銀行ヲ速ニ設立ス

右銀行設立ノ時期ハ一應昭和十四年二月中ト豫定ス

尙本銀行ヲ將來中支那ニ於ケル一般通貨及金融制度ノ中心タルベキ銀行トナスヤ否ニ付テハ本銀行ノ實績並ニ今後ノ情勢ニ徴シ追テ考慮スルモノトス

## 第二要領

### 一、名稱

華興商業銀行 Hua Hsing Commercial Bank ト稱シ維新

政府法人トス

### 二、所在地

本店ヲ上海ニ置キ、支店ヲ中支那ノ必要ナル地ニ置ク

### 三、資本金

資本金ハ五千萬圓全額拂込トス

(註) (一) 維新政府及日本側銀行ヲシテ出資セシムルト共

ニ支那側銀行並ニ外國銀行ノ參加ヲモ認ムル如

ク考慮スルモノトス

(二) 銀行設立迄ニ支那側銀行及外國銀行ノ參加ナキ

## 四、業務内容

時ハ維新政府及日本側銀行折半引受クルコトトス、維新政府及日本側銀行ノ拂込資金ニハ上海關稅收入五千萬圓ヲ充用ス

本銀行ハ銀行券ヲ發行シテ外國貿易金融ヲ行フノ外之ニ附隨シテ一般銀行業務ヲ行フモノトス

(註) (一) 本銀行ニハ發行權ヲ附與シ銀行券ヲシテ漸次強

制通用力ヲ有スル様措置スルモノトス

(二) 本銀行券ハ自由ニ外貨兌換ヲ行フ、其ノ基準及

運用方針ハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

(三) 本銀行券ハ當分ノ間外國爲替又ハ外貨ノ買入、

輸出前貸外國爲替貸付金、外國送金爲替ノ支拂、

新通貨預金ノ拂出其ノ他之ニ準ズル場合ノ外之

ヲ發行セザルコトトス

將來本銀行券ノ基礎確立ヲ見タル場合ニ於テ產

業金融等ノ爲ノ發行ヲ考慮スルモノトス

(四) 本銀行ハ政治的干涉ヨリ獨立シ政治貸上等ヲ爲

サザルモノトス

(五) 維新政府ハ當分ノ間發行稅ヲ課セザルモノトス

五、發行準備

本銀行券ノ發行準備左ノ如シ

(一) 外貨

(二) 金、銀地金

(三) 其ノ他確實ナル外國爲替

(註) 前三項ノ準備額ハ發行額ノ六〇%ヲ下ラザル

モノトス

(四) 輸出前貸外國爲替貸付ニ基ク確實ナル手形

六、維新政府預金

維新政府ハ別口預金トシテ一千萬圓ヲ下ラザル無利子預

金ヲ爲スモノトス

七、組織

(一) 本銀行ニ總裁、副總裁各一名、理事五名(內常務理事

一名)ヲ置ケ

總支配人ハ使用人中ヨリ之ヲ任用ス

(二) 總裁、副總裁及總支配人ハ他ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得

ズ但維新政府ノ認可ヲ得タル場合ニハ此ノ限ニ非ズ

(註) (一) 副總裁及理事ニハ出資狀況ニ應シ日本人、

外人ヲモ任用スルモノトス

八、利益金處分

(二) 總支配人ハ日本人ヲ以テ充ツル場合アリ

(一) 法定積立金(一〇%以上)

(二) 配當金

九、營業期限

營業期限ヲ三十年トシ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ延長スルコ

トヲ得

備考

一、本要綱ニ於テ外國及外貨トハ夫々第三國及第三國通

貨ヲ指スモノトス

二、本要綱ノ實施ニ當リテハ其ノ效果ヲ充分ナラシムル

爲中支那占據地區ニ於ケル商取引機構及運輸機構ニ

對スル我方ノ把握強化ノ措置ヲ講ズルノ要アルモノ

トス

三、維新政府及日本側銀行ノ拂込資金ハ上海關稅收入金

ヲ見返リトスル正金銀行ノ貸出ニ依ルベキトコロ政

府ハ正金銀行ニ對シ將來如何ナル事態發生スルモ同

行ガ右貸出ニ因リ何等支障ヲ受ケザル様措置スベキ

旨ノ念書ヲ交付スルモノトス

四、中支ニ於ケル浮動金圓券ノ回收竝ニ金圓券(軍票ヲ含ム)價值維持ノ方策ハ本要綱ト別途ニ益々之ヲ強化スルモノトス

五、支那側及外國側銀行ヲ參加セシムル爲必要アルトキハ本要綱ニ對シ其ノ根本趣旨ニ反セザル程度ニ於テ隨時修正方考慮スルモノトス

~~~~~

812

昭和14年1月23日

在ニューヨーク若杉(要)総領事より
有田外務大臣宛(電報)

中國連合準備銀行券の發行により華北貿易は日

本側の独占となりつつあるとの新聞報道報告

ニューヨーク 1月23日後発

本省 1月24日前着

第四二號

二十二日「ヘラルド、トリビュン」ハ日本力臨時、維新兩政府ヲ利用シ米國其ノ他第三國ノ對支貿易業者ニ對シ事實上差別待遇ヲ與ヘ殊ニ北支貿易ハ聯銀券ノ發行ニ依リ日本側ノ獨占トナリツツアル旨ノ在上海同社特派員 Victor Keen ノ長文ノ記事ヲ掲載シ居レル處其ノ要點左ノ通り

一、中國聯銀ノ創設目的ハ支那舊法幣ノ爲替相場ヲ下落セシムルノ外對支貿易上日本ニ有利ナル手段ヲ提供スルニアリ即チ聯銀券ノ公定對外價格ト支那舊法幣ノ對米爲替相場トノ開キハ日本品ヲシテ同種米國品ニ比較シ八割方廉價ノ輸入販賣ヲ可能ナラシメ又過般臨時政府施行ノ輸出入「リンク」制ハ米國向輸出業者ヲシテ聯銀券ノ公定對外價格即チ米價二十七仙半(公開市場相場ハ約十六仙)ヲ支拂ハサルヲ得サラシメ爲替取引上日本向輸出業者ニ對シ七割ノ利益ヲ與ヘツツアリ

二、客年六月一日維新政府公布ノ關稅法規ハ著シク日本品ニ有利ニシテ米國品ニ不利ナリ

三、上海其ノ他ニ於テ鮮カラサル日本品カ(軍隊配給品ノ名目ノ下ニ)無稅輸入サレツツアリ

米ニ郵送セリ

~~~~~

813

昭和14年2月9日 興亜院會議決定

「北支ニ於ケル輸出爲替集中要綱」

北支ニ於ケル輸出爲替集中要綱

昭和十四年二月九日  
興亞院會議決定

# 第一、方針

第三國貿易關係取引ニ於ケル聯銀券ノ普及並爲替市場ニ於ケル聯銀勢力ノ強化及一志二片基準爲替相場ノ確立ニ資シ北支幣制ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲第三國向主要輸出品ニ付輸出爲替ノ聯銀集中ヲ行フモノトス

# 第二、要領

一、第三國向主要輸出品(別表所掲)ニ付テハ原則トシテ無爲替輸出ヲ認メス左ノ方法ニ依リ一志二片基準ヲ以テ爲替ヲ聯銀ニ集中ス

(イ)爲替ノ取組銀行ハ之ヲ輸出者ノ任意タラシム

(ロ)右取組銀行ハ一志二片「ベース」ニテ爲替ヲ聯銀

ニ賣却ス

(ハ)海關ハ(ロ)ノ賣却ニ付證明ナキ限り其ノ輸出ヲ認メサ

ルコトトス

二、右集中ニ伴ヒ聯銀ハ各銀行ニ對シ一志二片基準ニテ爲

替ヲ賣却ス

(イ)銀行ニ對スル爲替ノ賣却ハ買取爲替ノ範圍内ニ之ヲ

限定スルモノナルモ其ノ當初ニ於テハ成ルヘク其ノ買取爲替額ノ全額ニ近キ額ヲ賣渡スコトトス

(ロ)右賣渡ニ際シ差當リ該爲替ハ原則トシテ貿易外ノ支拂ニ充テラレサルコトヲ條件トシ且成ルヘク不要不急ノ輸入品代金決済ニ當テラレサル様措置ス

(ハ)右賣買ニ伴ヒ生スル外貨得喪ノ時期的喰違ニ付テハ其ノ當初ニ於テ適宜ノ措置ヲ講ス

三、右爲替賣買ノ對價トシテ支拂ハルヘキモノハ之ヲ聯銀券ニ限定ス

四、中南支トノ關係ニ付テハ通貨制度ヲ異ニスル現狀ニ於テハ中南支向無爲替輸出ヲ自由ナラシメ又ハ中南支向爲替相場ヲ聯銀券ノ對英相場一志二片ト南方券ノ對英相場(八片)トノ裁定相場ヨリ高カラシメ置ク場合ニハ第三國向輸出力總テ中南支經由行ハルルニ至ル處アルニ依リ之ヲ對策ニ付テハ北支自體ニ於テ充分措置スルト共ニ中南支ノ協力ヲ求ムルモノトス

五、經過的二發生スヘキ問題ニ付テハ適當ノ措置ヲ講スルモノトス

諒解事項

一、本件實施ニ關スル具體的細目ニ付テハ現地機關ニ於テ萬遺漏ナキ様適當措置スルモノトス

特ニ現下ノ國際諸情勢ニ鑑ミ本件實行ニ當リテハ第三國トノ間ニ無用ノ摩擦ヲ生スルコトナキ様左記ノ點ニ留意スルコト

(一)第三國ニ對シ差別的待遇ヲ爲スカ如キ疑ヲ生スル措置ヲ避ケ、第三國ニ對スル説明振ニ付多大ノ考慮ヲ拂ヒ、且出來得ル限り事務ノ簡易化ヲ圖ルコト

(二)爲替集中ヲ行フ主要輸出品ハ一應之ヲ別表ノ如ク豫定スルモ、當初ヨリ右記載品目全部ニ付爲替集中ヲ行フヤ否ヤハ今後充分ニ檢討ヲ加フルト共ニ、他方右品目ハ何レモ第三國向主要輸出品ナルモノ多キ爲、第三國ニ對シ事實上差別待遇ヲ與フルニ非サヤトノ疑念ヲ起サシムル餘地存スルヲ以テ、日滿向輸出品中適當ナルモノヲ選ビ形式的ニ前記品目ニ之ヲ追加スル等ノ措置ヲ考慮スルコト

三、本要綱實施ト共ニ現ニ青島等ニ於テ聯銀券強化ノ爲現地帝國軍憲カ施行シ居ル輸出許可制等第三國側商社ノ輸出

制限措置ハ廢止セラルヘキモノト諒解ス

三、蒙疆トノ關係ニ付テハ別途措置スルモノトス

別表

輸出爲替集中ヲ行フ北支主要輸出品一覽表

(單位千元)

| 品名              | 昭和十二年<br>中北支輸出額 | 昭和十二年<br>中南支<br>向移出額 |
|-----------------|-----------------|----------------------|
| 鮮卵及加工卵          | 一九、三三           | 一一、二                 |
| 落花生油            | 一六、五一           | 四、九七                 |
| 落花生             | 一一、七〇           | 三三、六五                |
| カーベツト           | 六、九〇            | 二、四八                 |
| 山羊腸及緬羊腸         | 一、五八            | 六五                   |
| 胡桃              | 三、六三            | 四、八二                 |
| 杏仁              | 二、六五            | 五、一                  |
| ヴァーミゼリ及<br>マカロニ | 三、〇六            | 二、八〇                 |
| 麥稈眞田            | 一、六〇            | 二、九四                 |
| 調味粉             | 一、九六            | 二、八                  |
| 髮網              | 一、三二            | 四                    |

計

一

七〇、二八三

一

三〇、二六

814

昭和14年2月15日

在天津田代総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

朝鮮米の華北向け禁輸につき一部解禁方請訓

天津 2月15日後発  
本省 2月15日夜着

第七八號

本官發朝鮮總督宛電報

第一號

青島發貴總督宛電報第一號二關シ

未タ公電ニ接セサル爲朝鮮米ノ北支向ケ輸出禁止ノ真相不明ナル處右禁輸ハ物動計畫上已ムヲ得サル措置ト思考セラ  
ルルモ現在北支ニ於ケル邦人需要ノ白米力軍需、民需共其  
ノ大部分ヲ鮮米ニ仰キ之ニ依存シ居ル事實ニ鑑ミ將又天津  
ニ於ケル鮮米ノ在貨僅ニ七千五百石ニテ茲半月ヲ支フルニ  
足ラス而モ天津ノ背後地各都市ニテハ既ニ在貨枯渴ノ狀態  
ニテ右禁輸ハ今後北支全體ヲ通シ邦人ノ食糧問題ニ一大脅  
威ヲ與フヘキハ必定ニシテ頗ル重大ト存セラルルニ付之カ

可及的緩和方ニ付テ此ノ際充分御研究相成ルト共ニ今後何  
分ノ御高配ヲ得度キ次第ナルカ差當リノ問題トシテ約定品  
約五萬石丈ケハ此ノ際是非共北支向ケ輸出許可相成様御配  
慮相煩度ク尙禁輸ノ經緯ト共ニ右ニ關シ折返シ何分ノ回電  
アリタシ追テ引用數字ハ總テ滿鐵消費組合取扱分ヲ含マサ  
ルモノニシテ右ヲ加フル時ハ總テノ點ニ於テ約二倍トナル  
見込  
大臣、北京、青島、濟南、山海關、張家口、石家莊へ轉電  
セリ

815

昭和14年3月18日

在濟南有野総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

流通禁止通貨の華北より華中方面への逃避を阻止  
するため濟南に税関設置の必要性について

濟南 3月18日後発  
本省 3月18日夜着

第一〇八號

本官發北京宛電報

第四三號

義務づける総領事館令公布につき請訓

北京 3月19日後発

本省 3月19日後着

第三七號

客年往電第六一號ニ關シ

當地ニ於ケル石炭、燐寸等ノ價格騰貴抑制ニ關シテハ館令ヲ公布セス大體所期ノ目的ヲ達シ來レルコト客年北京發濟南宛電報第四四號ノ通りナル處最高價格決定困難ナル麥粉、綿布、雜穀等ニ關シテハ依然何等ノ措置講シ居ラレス他方一般日用品モ漸次昂騰ノ傾向ニ在ルヲ以テ多少ナリトモ右ヲ抑制スル方法トシテ日支人業者ニ對シ販賣物品ノ價格ヲ表示(正札ヲ付ケシム)セシムルコト然ルヘシトノコトニ日支關係者ノ意見一致シ支那側ハ既ニ右趣旨ノ規則ヲ發布セルニ付當館ニ於テモ別電第三八號<sup>有電</sup>ノ通り館令及告示ヲ出シタキ處差支ナカルヘキヤ折返シ御回電相成度シ右ハ物價抑制トシテ微溫的ニシテ客年往電第六二號ノ館令程ノ效果ハ勿論ナカルヘキモ一般日用品ニ付最高價格ヲ決定シ右往電第六二號館令ニ依リ取締ルコト極メテ困難ニ付不取敢本件表示方法ヲ採ルコトナレル次第ナリ

舊通貨流通禁止竝ニ爲替集中實施ノ結果トシテ今後北支ヨリ中支方面ニ向ヒ陸路舊通貨ノ逃避竝ニ金票及物資ノ密輸出行ハルル俱アリ之カ防止ノ爲中聯圈內ト中支圈內トノ境界地點ニ陸境稅關設置ノ要アルヘク殊ニ淮河鐵橋落成シ津浦線カ近ク浦口迄直通實施セラレントスル今日鐵道ニ依ル密輸出入ノ取締ニ付テハ至急之カ實施ノ要アリト思考セラルル處他方近ク正金銀行ノ當地進出ニ依リ今後當方面商工業者ニ於テ第三國向直接取引可能トナルヘキカ旁當地ニ稅關ヲ設置シ前記陸境方面設置ノ檢査機關ヲ其ノ監督下ニ置キ以テ當地ヲ中心トスル奧地貿易ノ圓滑化ト其ノ發展トヲ期スヘシトノ意見有力化シ居レリ(目下當地商工會議所等ニ於テ研究中)前記陸境稅關問題ニ付テハ貴地當局側ニ於テ既ニ計畫中ナルヤノ聞込アル處右何等具體化シ居ラハ本官含ミ迄内容御回電ヲ請フ

大臣、天津、青島、上海、南京へ轉電セリ



816

昭和14年 3月19日

在北京堀内総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

物価高騰抑制策として販賣物品の価格表示を

本電別電ト共ニ天津、青島、濟南、上海へ轉電セリ

817 昭和14年3月22日 在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華北地方における為替統制策を非難する英商  
業會議所声明について

上海 3月22日後発  
本省 3月22日夜着

第七五七號

二十一日新聞紙上上海英國商業會議所ハ北支爲替統制ニ關シ左記要旨ノ聲明ヲ發表セリ

今次北支爲替統制ハ日本側諸銀行ノ利益ノ爲ニ金融獨占ヲ企圖セルモノニシテ聯銀ノ對外價值ノ維持ヲ無理ニ強行スル結果ハ當然北支貿易ノ萎縮ヲ來スヘキモ日本商社ハ聯銀引替ニ日本ニ於テ商品ヲ購入シ得ヘキ圓貨ヲ獲得シ得ルヲ以テ右ニ依リ影響ヲ受ケサルヘキモ日本商品以外ヲ取扱フ外國商社ハ假令爲替割當ニ依リ外國爲替ヲ獲得スル仕組ナリ居ル場合ニモ聯銀ニ集中セラルヘキ輸出爲替ノ不足ノ爲右ハ最モ困難ナルヘク其ノ打撃甚大ニシテ北支ニ於ケル

英國貿易ハ致命的損害ヲ蒙ルニ至ルヘシ依テ今次ノ日本側措置ハ英國ノ權益ニ對スル差別待遇ナルノミナラス門戸開放機會均等主義ノ違反ナルヲ以テ本商業會議所ハ嚴重ナル抗議ヲ提出スルモノナリ  
北京、天津、青島、南京、漢口へ轉電セリ  
香港へ轉電アリタシ

818 昭和14年3月25日 興亜院會議決定

「華興商業銀行設立ニ伴フ對第三國折衝要領」

華興商業銀行設立ニ伴フ對第三國折衝要領

昭和十四年三月二十五日

興亞院會議決定

第一方針

華興商業銀行ハ第三國側協力ノ有無ニ拘ラス之ヲ設立スルモノナルモ努メテ第三國ヲシテ本銀行創設ノ趣意ヲ了解シ本銀行券ノ圓滑ナル流通ニ協力セシムルコトヲ主眼トシ左記要領ニ依リ第三國側ニ折衝スルモノトス

第二要領



一、本銀行ハ差當リ外國貿易金融銀行タルノ建前ヲ採ルモノナルヲ以テ本件折衝擔當者ハ將來本銀行ノ役員タルヘキ者等極ク少數ノモノトシ現地關係機關ハ必要ニ應シ側面ヨリ本交渉進捗方ヲ援助スル建前トス

二、本件交渉ノ相手方トシテハ前記趣旨ニ鑑ミ上海所在ノ主要第三國銀行ニ重點ヲ置クモノトス

三、現地ニ於ケル本件折衝ノ進展ニ應シ東京ニ於テモ第三國側ヨリ照會アル場合ニ於テハ外務當局ヨリ簡單ニ本銀行設立ノ趣旨ヲ説明シ非公式ニ大局的見地ヨリノ協力ヲ勸奨スル程度ニ於テ應酬スルモノトス 但シ獨、伊ニ對シテハ狀況ニ依リ積極的ニ其ノ協力ヲ要望スルコトアルモノトス

#### 四、折衝内容概ネ左ノ如シ

(一) 本銀行設立ノ趣旨及設立要綱ノ内容ヲ支障ナキ限り説明シ維新政府ノ本銀行設立ニ對シ我方ノ協力スルハ中支經濟復興ヲ目的トスル我方ノ確定方針ニ基ク所ニシテ他意ナキコト及第三國ノ利益ヲモ充分考慮シ之トノ協助共榮ヲ期セル公正妥當ナル點ヲ了解セシムルコト

(二) 第三國側ニ於テ本銀行ニ出資ノ意向アラハ之ヲ歡迎シ右意向ナキ場合ト雖モ銀行取引上必要ナル協力尠クモ本銀行券ノ流通ニ支障ヲ來ササル程度ノ協力ヲ勸奨スルコト

(三) 本件折衝ニ關聯シ我方ヨリ進ンテ揚子江開放問題ニ觸ルルコトハ之ヲ避クルモノトス但シ折衝相手方ヨリ同問題ニ關シ言及シ來リタル場合ニハ同江ハ軍事上ノ必要ニ依リ開放シ難キ現狀ナルカ第三國側ニ於テ我方ノ國策ヲ理解シ本銀行ニ對シ充分ナル協力ヲ爲スコトハ大勢ニ於テ之ヲ解決ヲ促進スルノ方向ニ向フモノニシテ其ノ結果軍事上ノ狀況緩和スルニ從ヒ之ヲ開放ニ民間側トシテ努力シ得ルニ至ルヘキヲ仄カスモ妨ケサルコト

(四) 爲替管理、貿易管理等ニ關シテハ我方ヨリ之ニ言及シ言質ヲ與フルコトナキ様充分注意スルモノトス但シ相手方ヨリ言及シ來レル場合ニ於テハ第三國カ本銀行ニ對スル協力ヲ吝ムニ於テハ已ムヲ得ス何等カノ強制手段ヲ執ラサルヲ得サルニ至ルコトアルヘキヲ豫想シツツ適當應酬スルコト

五、本件折衝ノ進捗ヲ有效且圓滑ナラシムル爲出來得レハ本件折衝ト牽連シ通商經濟ニ關スル對第三國關係ノ多數懸案中此ノ際我方ニ於テ解決シ得ヘキモノハ本銀行開設迄ニ極力之ヲ解決方ヲ實踐スルニ努メ以テ我方ノ公正ナル立場ヲ闡明シ第三國ヲシテ我方ニ協力シ其ノ權益擁護ヲ計ルコトノ有利ナルヲ事實ヲ以テ諒解セシムルニ努ムルモノトス

昭和14年4月10日

興亜院が作成した「北中南支ニ於ケル我方ノ  
通貨政策並相互間ノ調整保持ニ關スル方針」

北中南支ニ於ケル我方ノ通貨政策並相互間ノ  
調整保持ニ關スル方針

昭和十四年四月十日

一、北支ニ於テハ法幣ヲ驅逐シ中聯券ニ依ル通貨ノ統一ヲ完成ス而シテ中聯券ハ金圓ト「リンク」シ第三國通貨トノ交換價值ハ對英一志二片ヲ基準トスル建前ヲ堅持シ之ガ爲逐次爲替集中制ノ擴充強化ヲ圖ルモノトス

二、中支ニ於テハ金圓並軍票ノ回收及價值維持ニ關スル方針ヲ強化ヲ圖ルト共ニ華興商業銀行券ヲ發行シ之ガ價值基準ノ大体ノ用途ヲ一應對英八片ニ置き對第三國貿易通貨トシテノ機能培養ニ努メ以テ逐次法幣ニ代置セシムルノ基礎ヲ確立ス

三、南支ニ於テハ當面毫幣、法幣等ノ流通ヲ容認シ軍票ニ付テハ極力之ガ回收及價值維持ヲ圖ルモノトス

四、右ノ如ク各地域ニ於ケル通貨政策ヲ異ニスル現狀ニ於テ中南支ハ北支ノ通貨工作ニ協力シ北支ハ中南支通貨工作ノ圓滑ナル運行ヲ援助シ相互間ノ圓滑ナル調整保持ニ努ムルモノトス此ノ見地ヨリ差當リ

(イ) 中南支ハ北支ノ爲替集中制力其ノ實效ヲ舉ゲ得ル様之ニ協力ス

(例、北支ヨリ中南支ニ對スル密輸出ノ防止、減價セ  
ル金圓券ニ依ル北支向送金ノ制限等ノ如シ)

(ロ) 北支ハ中南支ノ需要スル宣撫用其ノ他物資ノ同地域向移出ニ付爲替集中制ノ運用上適當ノ手心ヲ加フルモノトス

昭和十四年四月十四日 閣議決定

「交通會社設立基本要綱」

交通會社設立基本要綱

昭和十四年四月十四日  
閣 議 決 定

第一、鐵道ノ所有竝ニ經營ニ關スル事項

(一) 既存鐵道ノ所有權ハ其ノ地域ニ應シ蒙疆、臨時及維新三政府ニ夫々歸屬セシメ、臨時政府又ハ維新政府ノ特殊法人タル日支合辦ノ會社ヲシテ其ノ經營ニ當ラシムルモノトス

(二) 本事變ニ當リ會社經營前ノ財産ニ付我方ニ於テ復舊又ハ建設改良ヲ爲シタルモノハ之ヲ社有トス

(三) 國有鐵道ノ經營ハ會社自己ノ計算ニ於テ之ヲ行フモノトス

右鐵道ノ保修(維持及修繕)ニ要スル費用ハ會社ノ負擔トス

(四) 事業上必要ナル建設又ハ改良ハ會社ニ於テ之ヲ實施シ之ニ依リ附加セラルル財産ハ之ヲ社有トス

但シ公益上ノ必要ニ基ク新線ノ建設ニ付キ特別ノ事情アル場合ハ政府ニ於テ其ノ費用(經營上損失アル場合ハ之ヲ含ム)ヲ負擔シ會社ヲシテ之ヲ行ハシムルコトアルモノトス

(五) 財産整理ノ便宜ノ爲及將來財産ノ國有部分ト社有部分トノ間ニ適當ナル調和ヲ得シムル爲前各號ニ拘ハラス適當ナル措置ヲ爲シ得ルモノトス

(六) 會社ハ速ニ鐵道財産臺帳ヲ整備シ國有竝ニ社有ノ財産區分ヲ常ニ明確ナラシムルモノトス

第二、經營區域ニ關スル事項

(一) 北支那交通會社(假稱)ハ主トシテ隴海線以北(蒙疆政權內ヲ含ム)ノ鐵道ヲ經營スルモノトス

(二) 華中鐵道會社(假稱)ハ主トシテ揚子江南三角地帶ノ鐵道(揚子江輪渡施設ヲ含ム)ヲ經營スルモノトス

(三) 右範圍內ニアリテモ尙軍事上會社經營ヲ不適當ト認メラルル鐵道ハ軍管理ノ儘トシ情勢ノ推移ヲ俟チ逐次當該會社ニ移管スルモノトス

(四) 他政權ノ鐵道ヲ經營スル場合ハ經營ノ委任及監督ニ關シ關係政權又ハ會社間ニ於テ別途協定スルモノトス

### 第三、借款處理ニ關スル事項

(一) 會社ニ關係アル借款及之ニ伴フ權益ニ關シテハ政府ヲシテ之カ處理ニ當ラシメ會社ハ政府ニ納付金ヲ納付スルモノトス

(二) 借款處理具體案ノ確定ニ至ルマテ政府ヲシテ左ニヨリ取得セル金額ヲ償還資金トシテ積立シムルモノトス

(1) 政府ノ持株ニ對スル配當金

(2) 會社ノ納付金

前項第二號ノ納付金ハ會社ニ於テ配當ヲ爲ス場合ニ於ケル配當シ得ベキ利益金中ヨリ左ノ事項ヲ考慮シ別ニ定ムル割合ニヨリ算出スルモノトス

(1) 會社事業ノ健全ナル發達

(2) 株主ノ保護

(3) 最低限度ノ借款辨濟ノ可能性

(4) 會社ニ於テ使用スル國有財産ノ收益性

(三) 政府ハ配當金並ニ納付金ノ外必要ニ應シ一般財源ヨリモ償還資金ヲ捻出スル如ク考慮スルモノトス

(四) 政府ヲシテ借款整理案ニ付日本側及第三國債權者ト協議セシムルモノトス

### 第四、鐵道ニ關スル軍事上ノ要求及監督權ニ關スル事項

日本ハ駐兵間概ネ駐兵地域ニ於ケル鐵道ニ對シ軍事上必要ナル要求權及監督權ヲ有スル如ク別紙第一、第二ノ通リ措置セラルルモノトス

#### 第五、北支港灣ノ經營歸屬ニ關スル事項

一應之ヲ切離シ別途併行の二研究審議スルモノトス

#### 別紙第一

##### 北支鐵道ニ關スル措置

一、北支鐵道ニ關シテハ陸軍大臣ニ於テ北支那開發株式會社ヲ通シテ會社ニ命令スルト共ニ之ヲ通シ其ノ實施ヲ監督(現地監督ハ日本陸軍最高指揮官之ニ當ル)ス

但シ重要軍事行動終了ニ至ル迄ハ緊急ヲ要スル場合ニハ日本陸軍最高指揮官ニ於テ直接會社ニ對シ命令監督シ得ニ、日本陸軍最高指揮官ハ直接會社ニ對シ作戰警備上必要ナル要求ヲ爲シ且之ニ伴フ監督ヲナシ得

三、前各號ニ依ル場合ニ於テハ會社經營上ニ大ナル支障ヲ來サシメサル如ク考慮ス

別紙第二

中支鐵道ニ關スル措置

一、中支鐵道ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ中支那振興株式會社ヲ通シテ會社ニ命令スルト共ニ之ヲ通シ其ノ實施ヲ監督(現地監督ハ日本陸軍最高指揮官又ハ日本海軍最高指揮官之ニ當ル)ス

但シ重要軍事行動終了ニ至ル迄ハ緊急ヲ要スル場合ニハ日本陸軍最高指揮官又ハ日本海軍最高指揮官ニ於テ直接會社ニ對シ命令監督シ得

二、日本陸軍最高指揮官又ハ日本海軍最高指揮官ハ直接會社ニ對シ作戰警備上必要ナル要求ヲナシ且之ニ伴フ監督ヲナシ得

三、前各號ニ依ル場合ニ於テハ會社經營上ニ大ナル支障ヲ來サシメサル如ク考慮ス

821

昭和14年4月27日

在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華興商業銀行設立に關し英國側へ説明について

第一一〇二號  
森島ヨリ

上海 4月27日後發  
本省 4月27日夜着

二十七日英國「ジョージ」商務參事官ヲ往訪維新政府ニ於テハ同政府管轄ノ銀行設立ヲ希望シ居リ日本側ニ對シ人的竝ニ物的援助ヲ求メ來リ居タル處日本側ニ於テモ之ニ應スルコトニ決定シ近ク銀行設立ノ運ニ至リタルヲ以テ豫メ其ノ外貌ヲ説明スルヲ適當ト認メ來訪セル次第ナル旨斷リタル上名稱、組織、資本、業務内容、準備等ニ關スル「メモ」ヲ手交シ

一、同銀行ハ中央銀行ニアラス純粹ナル商業銀行ニシテ一般銀行業務ノ外銀行券ヲ發行シ外國爲替ヲモ取扱フコト

二、銀行券ノ價值ハ現法幣ノ市場相場ト大體同様ニシテ何時ニテモ外貨竝ニ法幣ニ交換セラルルモノナルコト

三、法幣ノ流通ヲ禁止セス新通貨ト相併行シ其ノ流通ヲ認メラルコト

四、北方ノ聯合準備銀行トハ全然異リタル基礎ノ下ニ立ち右ト何等關係ナキコト

等ヲ説明シタル上新銀行ノ健全ナル發達竝ニ新銀行券ノ圓滿ナル流通ニ對シ外國側ノ協力ヲ希望スルモノナル點ヲ説明シ日本國民ハ一般ニ英國ハ依然蔣援助政策ヲ執リツツアリトノ感情強ク先般ノ法幣平衡資金ニ對シテモ兎角ノ議論アル事態ナルニ鑑ミ本件新銀行ニ對シ英國側ノ協力ヲ得ルニ於テハ日本側一般輿論ニ與フル影響良好ナルヘク中支ニ於ケル日英經濟提携上一轉機ヲ劃スルモノト確信スル旨述ヘタリ

右ニ對シ「ジヨ」ハ

(イ) 法幣ヲ「リード」スル意嚮ナキヤ否ヤ

(ロ) 法幣ヲ介セス直接外貨ニ交換セラルルヤ

(ハ) 貿易管理乃至爲替管理ヲ行フコトナキヤ

ヲ執拗ニ質問シタルヲ以テ本官ヨリ(イ)ニ對シテハ「リード」ノ意嚮ナク(ロ)ニ對シテハ直接外貨ニ交換セラル(ハ)ニ對シテハ現在ノ所之ヲ行フノ意嚮ナキ旨説明シタルニ「ジヨ」ハ現在銀行ヲ設立スルノ必要アリヤ否ヤニ關シ疑ヲ懷ク旨竝ニ從前支那側ニ於テ新銀行設立ノ際ニハ常ニ前廣ニ協議アリタルカ短時日ニテ果シテ圓滑ニ進ミ得ルヤ否ヤ疑ハシキ旨ヲ述ヘ且準備ノ内容ヲ銀行ヨリ明確ニ公表スル等

ノ措置ニ出ツレハ一般ニ安心ヲ與フヘシトノ意見ヲ述ヘタルニ付本官ヨリ法幣ノ前途ニ付テハ平衡資金設置等ヨリ見ルニ英國側ニ於テスラ必スシモ確信ヲ有スルモノトモ思考セラレス況ンヤ法幣ノ内容ニ付知ル所少キ維新政府ニ於テハ將來ニ對スル懸念ヨリ法幣急變ノ場合ニ處スルカ爲之カ對策ヲ必要トスルハ了解ニ苦シカラサルヘシト説明シ「リザーブ」ノ内容ニ付テハ銀行當事者ニ於テ將來何等考慮スルコトアルヤモ知レサルモ本官ニ於テハ其ノ内容ヲ承知セサルモ確實ナルコト丈ハ茲ニ言明シ得ヘシト答ヘ置キタリ尙「ジヨ」ハ「キングス、レグレイシヨン」ノ件ニ言及シ英國銀行トシテハ國民政府ノ現法幣以外ノモノヲ受入ルルコトヲ得サルヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ右ハ英國政府ノ方針ニ依リ如何様ニモ決定シ得ヘキ問題ナルヘク例ヘハ新銀行カ一定額ノ法幣ヲ英國系銀行ニ預金セハ其ノ範圍内ニ於テ新紙幣ヲ受入ルルモ何等實損ヲ蒙ラス事實上新銀行ニ協力スルコトトナルニアラスヤト説明シタルニ「ジヨ」ハ個人トシテハ協力ニハ反對ニアラサルモ外國銀行ニ於テ相談ノコトトナルヘク自分トシテハ只今ノ處政府ニ報告スル以外意見ヲ述ヘ得サル立場ニ在ル旨述ヘ且事前ニ通報ヲ受

ケタルコトニ對シ謝意ヲ表スル所アリタリ  
北京、南京へ轉電セリ

822 昭和14年4月27日

在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華興商業銀行設立に關し米國側および独國側  
へ説明について

上海 4月27日午後  
本省 4月28日前着

第一一〇三號

往電第一一〇二號ニ關シ

森島ヨリ

二十七日引續キ米國總領事(大使館員當地ニ駐在セス)竝ニ  
獨逸代理大使ニ會見英國商務參事官ニ爲シタルト大體同様  
ノ説明ヲ爲シタルニ米總領事ヨリ

(一)貿易管理乃至爲替管理ヲ行フコトナキヤ

(二)維新政府ノ出資ハ海關收入ニ依リ賄ハレタルモノニアラ  
スヤ

トノ二點ニ關シ質問アリタルヲ以テ(一)ニ對シテハ差當リ其

ノ意思ナキコト(二)ニ對シテハ日本側ヨリ融資シタルモノニ  
シテ海關收入ハ上海稅關長名義ニ依リ預金セラレ居リ現ニ  
稅關長ハ右引出ノ爲小切手ヲ振出シタルコトナシト説明シ  
タルニ之ヲ納得シ更ニ本官ヨリ米國系銀行ニ於テ法幣預金  
ヲ引當ニ新銀行券ヲ受入レ得ル點ニ關シ説明ヲ試ミタルニ  
銀行トシテハ充分ノ「カバー」サヘアレハ之ヲ受入ルルニ  
何等差支ナカルヘシト思考スルモ何レ大使館ニ報告ノ上ノ  
コトトシタキ旨述ヘ又獨逸代理大使ハ何等質問ヲモ爲サス聯  
銀ニ對スル獨逸ノ協力ニ付説明スル所アリタリ  
尙英米獨共長江開放問題ニハ全然言及セサリシカ鷲尾ノ經  
歴ニ關シテハ何レモ特ニ質問スル所アリタリ  
北京、南京へ轉電セリ

823

昭和14年5月1日

在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華興商業銀行券の發行が中国金融界に及ぼす  
であるう惡影響を英國側指摘について

上海 5月1日午後  
本省 5月1日夜着

## 第一一四七號

往電第一一二八號ニ關シ

森島參事官ヨリ

一日白國總領事ニ説明シタル處聯銀トノ關係ニ付質問シタルノミニテ日本側出資銀行ノ顔觸ヨリ見ルモ本銀行ノ基礎健全ナリト認メ得ヘク本件ハ要スルニ政治問題ニアラスシテ金融經濟等ノ問題ナルヲ以テ目下香港ニ旅行中ノ白耳義銀行支配人ノ歸來ヲ俟チ協議スヘシト述ヘタリ

尙同日英國「ボロードミート」參事官「ジョージ」商務參事官同席ニ會見セル處「ブ」ハ英國外務省ヨリハ「クレギー」大使ニ對シ此ノ際新銀行券ノ發行後支那ノ金融界ニ及ホスヘキ惡影響殊ニ充分ノ外貨準備ナクシテ新銀行券ヲ發行スルノ危險ナルコトニ付日本外務省ノ注意ヲ喚起スヘキ旨訓令アリタリト述ヘ兩人ヨリ法幣壓迫ノ底意乃至可能性ニ付論議ヲ試ミ日本側財界ニ於テハ新銀行ノ設立ニ反對アルニ拘ラス軍部力中心トナリ押切りタルモノナルヘシト述ヘタルニ付本官ヨリ右ノ如キハ日本側ノ眞意ヲ曲解スルモノニシテ本銀行ノ設立ハ日本側専門家ノ研究ノ結果ニ外ナラス本銀行券ハ何等引當モナク一時ニ多量發行セラルル

モノニアラスシテ(脱?)外貨ト關聯シテ引當ヲ有シ發行セラルルモノニシテ

當初小規模ヨリ「スタート」シ漸次擴大セントスルモノナルヲ以テ法幣ニ惡影響ヲ及ホスコトナシト信ス先般「ジョージ」參事官ヨリ「キングスレーション」ニ關聯シ引受不可能ナル旨話合アリタルカ事變前北支ニ於ケル英國系銀行ハ法幣發券四銀行以外ノ河北省銀行ノ紙幣ヲ受人レ居タルハ事實ニシテ差當リ新銀行カ英國系銀行ニ期待スルハ右ト同様ノ取扱ニ外ナラス河北省銀行カ宋哲元政權ノ機關ナルニ比スレハ新銀行ハ其ノ基礎内容ノ健全ナルコト論議ノ餘地ナシト述ヘタルニ兩人共河北省銀行券ノ授受ノ點ニ關シテハ返答ニ窮シ發行額少額ナルニ依ルモノナルヘシト述ヘ新銀行ノ準備ノ内容ヲ明カニスルノ必要ヲ繰返シ且何處ヨリ右準備ヲ調達セルヤト尋ネタルヲ以テ本官ヨリ維新政府成立以來銳意蓄積シ來レルモノニテ本官ニ於テ其ノ内容ヲ詳細承知セサルモ内容確實ナルコト丈ハ明言シ得又發行額ノ點ニ付テハ上述ノ如ク新銀行トシテモ一時ニ多額ヲ放出スルモノニアラサル處英國系銀行カ「キングス、レグユレージョン」ノ存在ニ拘ラス河北省銀行券ヲ受人レ來



レルハ事實ナル旨應酬シ置キタリ  
北京、南京へ轉電セリ

824

昭和14年5月8日

在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

華興商業銀行設立に重慶側は脅威を感じ宋子  
文が対策に苦慮しているとの情報報告

香港 5月8日後発

本省 5月8日夜着

第五九七號(極秘)

八日李思浩ハ支那側ハ上海ノ新銀行ニ對シ聯銀ノ場合トハ  
較ベ物ニナラヌ程脅威ヲ感シ宋子文ハ盛ニ外資銀行家ノ間  
ヲ驅ケ廻リ對策苦慮中又爲替平衡資金委員會ハ時々形式的  
會合ヲ行ヒ居ルニ過キスト語り大陸銀行ノ沈ヲ新銀行ニ据  
エタルハ大成功ナリトテ沈ノ手腕ヲ賞讃セリ尙李ニ依レハ  
章士釗ハ蔣介石ヨリ再三電報ヲ受ケ五日許世英ト同乘重慶  
ニ飛ヒ翁文灝ハ四月末歸渝、周作民ハ銀行業務視察ノ爲馬  
尼刺ニ赴ケリ參考迄  
上海へ轉電セリ

北京へ轉電アリタシ

825

昭和14年5月8日

在北京堀内大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

物価高騰抑制策および中国連合準備銀行券対  
策につき措置振り具申

北京 5月8日後発

本省 5月8日夜着

第五九〇號

北支ニ於ケル物價騰貴及法幣ニ對スル聯銀券打歩ノ實情ニ  
關シテハ天津及青島發大臣宛屢次電報等ニ依リ御承知ノ通  
リナル處右傾向ハ猶終止スル所ヲ知ラス一般民衆ニ多大ノ  
不安ヲ感セシメ居リ通貨竝ニ宣撫工作上ヨリモ至急對策考  
究ノ要アリ先般來當地連絡部中心トナリ研究中ナルカ差當  
り左ノ各事項ヲ實施可能ナルモノヨリ逐次速ニ實行ニ移ス  
方針ヲ決定セリ  
「ストック」ノ解放(噂ニ依レハ例ヘハ三井ニ於テ天津  
ニ小麥粉三萬五千袋雜貨約一千萬圓アル由ニシテ憲兵ヲ  
シテ手持貨物ノ調査ヲ爲サシム)

三、買入對策ノ強化(特ニ物資ノ租界内流入ヲ阻止ス情報ニ依レハ棉花カ北支棉花協會ノ手ヲ經ス支那商人ニ依リ租界内ニ持込マレ續イテ日本紡績工場ニ賣却セラレ居ル由本件ニ關聯シ天津ニ於ケル通關手續ヲ塘沽ニ移轉方考慮ス)

三、支那人ニ對シ投機其ノ他苟モ物價騰貴、法幣價格鈞上ヲ招來スル行爲ヲ嚴罰スヘキ旨ノ強キ威嚇

四、外國銀行及商社ヲ北京ニ招致シ財政部長邊リヨリ爲替集中聯銀券工作ニ關シ更ニ詳細ニ説明シテ其ノ協力ヲ求ムルコト(本件ハ天津日本人側爲替銀行ヨリ「サゼスト」セルモノナルモ關係方面ニ於テハ其ノ效果ハ疑シク且最早其ノ時期ニアラストノ意見強シ)

五、日本側商社ノ代表者(三井、三菱、大倉等ノ有力商社ノ天津支店長)ヲ北京ニ招致シ連絡部長ヨリ警告ヲ與フルコト(日本商社ノ行動中ニハ利益ニ走り遺憾ノ點鮮カラサルモノアル由)

六、開發會社ヨリ日本商社ニ直接資材ノ註文ヲ爲シ爲ニ右商社ノ法幣買トナル惧アルニ付右ハ連絡部ニテ統制スルコト

七、北支向日本人旅行者ノ禁止的制限(邦人旅行者ノ激增ニ依リ日本圓ノ北支流出止マサル爲ナルカ本件ノ實施ハ困難ナルニ付當方希望ヲ中央ニ申達ス本件ニ關聯シ圓紙幣使用自制ノ宣傳強化竝ニ日本貨及中聯券ノ百圓紙幣印刷中止ヲ考慮ス)

八、愛國公債ノ買入宣傳

九、北支内部ニ於ケル資金調整

一〇、日滿兩國ニ對スル輸出制限緩和ノ要望

二、爲替集中

三、品目ノ増加(法幣ニ對スル聯銀券ノ價值下落ハ結局法幣ニ依ル貿易可能ノ範圍カ多分ニ殘サレ居ル結果ニシテ之カ延イテ物價騰貴ニ反映スルニ付結局法幣ノ貿易通貨タル機能ヲ剝奪スルヲ要シ之カ爲爲替集中ヲ全品目ニ及ホスコト徹底的ナルヘキモ少クトモ差當リ二十七八品目ニ増加スル要アリトノ議論強ク(特ニ連絡部經濟第一局ニ於テ)大体イ羊毛、山羊毛、駱駝毛(口)毛皮ハ豚毛(ニ)獸腸、豚腸(ホ)落花生粕(ヘ)絹以外ノ十字縫及刺繡(ト)繭(チ)「ヘヤーネット」ノ諸品目ハ右増加中ニ是非共加ヘタキ連絡部係官ノ意嚮ナリ)

就テハ特ニ右第一一項ニ關シ本省ニ於テモ御研究相成リ興  
亞院ト御聯絡ノ上何分ノ儀回電アリタシ

天津、青島、濟南、芝罘、上海ヘ轉電セリ



826 昭和14年5月15日 在天津田代總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

物価高騰抑制策および中国連合準備銀行券対策  
に關する北京大使館の措置案につき意見具申

天津 5月15日後発  
本省 5月15日夜着

第三〇〇號

本官發北京宛電報

第一一九號

貴官發大臣宛電報第五九〇號ニ關シ貴電列舉ノ各事項ニ對  
スル當方思ヒ付御參考迄

一、在庫品ノ解放ハ素ヨリ結構ナルモ配給統制ヲ行フニアラ  
サレハ實需ニ向クルコト困難ナルヘク特ニ先般ノ聯銀券  
打歩増大ニ依ル値上リノ如キ場合ニハ大ナル效果ヲ期待  
シ得ス麵粉ノ如キ必要品ニ付テハ寧口取引ヲ禁止シ公共

機關ニ於テ輸入ヨリ直接全部引取ノ上公定相場ニテ直接  
又ハ商人ヲ通シ需要者ニ販賣スル方近道ナラスヤト存セ  
ラル此ノ際引取價格ト販賣價格ノ差ハ臨時政府ニ於テ負  
擔スル必要アルヘシ

二、棉花、綿糸及軍用皮革ノ租界持込ニ付テハ往電第二九四  
號ノ通り又塘沽ニ於ケル陸揚ハ當方ノ最モ希望シ居ル所  
ニシテ三月廿七日附往信機密第五四號ノ趣旨ヲ一日モ速  
ニ實現セラレルコト切望ニ堪エス

三、投機抑制ニ付テハ市政府ニ於テ銳意努力中ニシテ佛租界  
當局モ暴利取締ト共ニ實施中ナル旨佛國領事ヨリ内話ア  
リタリ

四、外商代表者ニ對スル説明ハ現行爲替集中ニ關スル效果ナ  
カルヘキモ其ノ擴大其ノ他租界ヲ對象トスル諸般ノ措置  
實施ニ際シ我方トシテ盡スヘキ手ハ盡シタル後ナル旨ノ  
口實ニ利用スルコトハ可能ナルヘシ

五、及六、

邦人商社ノ第三國輸入品購入ハ是非共統制ヲ加フル必要  
アリ敢テ開發會社ト限ラス各種商社及事業ノ第三國輸入  
商ニ對スル註文ハ相當巨額ニ上ルヘク(客年十月廿二日

現在ノ當地獨逸商ニ對スル契約ノミニテ約十八萬磅ニ上リ居レルコト御承知ノ通り）現在ノ如キ無統制ニテハ聯銀券ノ對舊法幣價值ヲ日本人自ラ低下セシムルニ他ナラス（法幣買ヲ行フモノカ邦商ナリヤ外商ナリヤハ大問題ニアラス）

七、北支向旅行者ニ對スル内地警察ノ證明書發給ハ頗ル寛大ナルヤニ認メラルル處邦人ノ渡航力直ニ北支開發ニ寄與スルコトトナラサル旨ヲ徹底セシメ慰問團、視察團ト共ニ眞ニ必要ナルモノ以外ハ渡航セシメサル様措置スルコト可然ト存ス

八、及九、

當地ニテハ近ク強制的貯蓄獎勵ヲ行ヒ其ノ大部分ヲ愛國公債買入ニ充當セシメント計畫中ナルカ前記五、ノ實施ヲ見ル場合ニハ此ノ點モ強化セラルル様希望ス資金調達ハ銀行手持資金ヨリモ市場遊資吸收ヲ研究スル要アルヘシ  
一〇、根本的ニハ物資ノ不足カ大原因ナルヘキモ一般特ニ邦人ノ購買力ヲ減殺スルコト先決問題ナラスヤト存セラル  
一一、爲替集中ノ擴大ハ順序トシテ當然ナルヘキモ現行制度ノ運行ニ付見透ヲ附ケタル上ニテ行フニアラサレハ法幣

ノ機能剝奪ト共ニ聯銀券ノ機能擴大トナラス北支ノ輸出ヲ阻害スルノミノ結果トナラサルヤヲ俱ル又法幣ノ輸入決濟ノ範圍カ狹小トナル結果統制ヲ受ケサル輸入需要ノ集中ノ爲法幣ノ對聯銀券價值力却テ増大スヘシトノ觀方モアリ得ル譯ニテ聯銀券ノ打歩對策トシテノ直接效果ハ寧口疑問ナルヤニ存セラル

大臣、濟南、青島、上海へ轉電セリ

~~~~~

827 昭和十四年六月六日 閣議決定

「支那ニ於ケル日系通貨ノ價值維持對策ニ關スル件」

スル件」

付 記 昭和十四年六月二日、興亞院會議決定

「中支那ニ於ケル日系通貨ノ價值維持ニ關スル緊急對策ノ件」

支那ニ於ケル日系通貨ノ價值維持對策ニ關スル件

昭和十四年六月二日 興亞院會議決定

昭和十四年六月六日 閣 議 決 定

支那ニ於ケル日系通貨ノ價值低下ハ諸種ノ惡影響ヲ伴ヒ今

や單ナル通貨工作ノミヲ以テシテハ解決シ得サル事態ニ當面セリト認メラル依テ支那事變目的ノ徹底的遂行ヲ期スル爲速ニ之ヲ根本對策ヲ講スルモノトス

(付記)

中支那ニ於ケル日系通貨ノ價值維持ニ關スル
緊急對策ノ件

昭和十四年六月二日

興亞院會議決定

中支那ニ於ケル圓價ノ崩落ハ之ヲ放置スルヲ許ササル狀況ニ在ルヲ以テ支那ニ於ケル日系通貨ノ價值維持ニ關スル根本對策中緊急措置ノ一トシテ必要ニ應シ海關預金法幣五百萬弗ヲ流用シ同地圓市場ニ挺入レヲ爲スモノトス



828

昭和十四年6月14日

興亞院が作成した「北支蒙疆鐵鑛業統制開發

基本要綱」

北支蒙疆鐵鑛業統制開發基本要綱

(四・六・二四 興亞院)

第一、方針

北支蒙疆ニ於ケル主要鐵鑛山ヲ急速開發シ日本ニ對スル鐵鑛石ノ供給ヲ確保スルト共ニ現地製鐵事業ノ復興並ニ新設ヲ圖リ以テ日滿生産力擴充計畫ニ即應セシムルト共ニ中國々内ノ需要充足ヲ期ス

第二、要領

一、鐵鑛石ノ採掘並ニ製鐵事業ヲ單一會社ヲ以テ一元的二經營セシムル爲可及的速ニ日支合辦中國法人ヲ新設スルモノトス

前項會社ハ其ノ事業ノ重點ノ所在ニ依リ其ノ法人格ヲ定ム

二、前號ノ新會社設立迄ノ暫定措置トシテ速ニ蒙疆特殊法人タル龍烟鐵鑛株式會社(假稱、以下同ジ)ヲ設立シ、蒙疆聯合委員會ヨリ龍烟鐵山ノ經營ノ委託ヲ受ケ之ガ開發ニ當ラシムルモノトシ前號ノ會社設立セラル、ニ及ビ之ニ統合セシムルモノトス

三、龍烟鐵山ハ差當リ對日輸出ヲ主タル目標トシ併セテ現地

需要充足ノ爲開發スルモノトシ、烟筒山及龐家堡ヨリ着手シ逐次涿鹿、辛密、三叉口ニ及ブモノトス

開發目標ヲ一應昭和十六年一三〇萬屯ト豫定ス但シ將來事態ノ推移ニ適合スル如ク措置スルモノトス

四、龍烟以外ノ主要鐵山ニ付テハ其ノ鑛業權ヲ第一號ノ新設會社ニ保有セシムル様措置スルモノトス但シ蒙疆地域ノモノハ第一號新設會社ノ設立迄龍烟鐵鑛株式會社トス

五、製鐵業ハ差當リ石景山及太原鍊鐵廠ノ復舊ヲ完成スルモノトシ、更ニ石景山製鐵所ノ擴張ニ付考慮ス

別ニ銑鋼一貫作業ノ製鐵所ヲ適地ニ新設スル爲、中央北支及蒙疆ノ共同調査ヲ實施シ其ノ結果ニ基キ之ガ位置ヲ決定スルモノトス

前項製鐵所ノ新設ニ當リテハ外資ノ利用ニ付考慮スルモノトス

六、製鐵ニ伴フ副產物處理事業ハ原則トシテ會社自ラ之ヲ行フモノトス

七、金嶺、鎮鐵山、陽泉製鐵所(舊保普鐵廠)並其ノ他ノ土法製鐵業ハ當分ノ間前記會社ノ統制外ニ置ク

八、製鐵用電力ノ一部ハ差當リ自家發電ヲ認ムルモ將來電業

統制ノ方針確立ノ上ハ之ニ依リ處理セラル、モノトス
(備考)

第五號第二項ノ調査ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

~~~~~

829

昭和14年6月24日 興亜院會議決定

「北支ニ於ケル輸出爲替集中強化要綱」

北支ニ於ケル輸出爲替集中強化要綱

昭和十四年六月二十四日

興亞院會議決定

第一 方針

北支ニ於ケル爲替集中策ノ適用品目ヲ既往ノ十二品目ヨリ全輪移出品ニ擴張シ以テ聯銀券ノ貿易通貨タルノ機能ヲ確立スルモノトス

第二 要領

一、北支ヨリノ全輪出品及中南支向全輪出品ニ付輪移出爲替ノ聯銀集中ヲ行フ

二、右ニ伴フ聯銀ノ銀行ニ對スル輪移入爲替ノ「カヴァー」ノ供給ハ買取爲替ノ範圍ニ於テ可成多額ヲ還元スル建前

ヲ採ルモ其ノ一部ハ止ムヲ得ザル貿易外支拂例ヘバ在留外人ノ郷里送金等ニ充當ス

三、輸入ニ付テハ輸入希望品目表ヲ適宜擴張ス

四、蒙疆トノ關係ニ付テハ差シ當リ蒙疆銀行ノ輸移出爲替取組ニ關スル確認アリタル場合ハ聯銀ノ確認アリタルモノ

ト看做シ其ノ輸移出ヲ認ムル如キ適宜ノ措置ヲ講ス

五、中南支トノ關係ニ付テハ物資交流ノ圓滑化ヲ圖リ要スレバ無爲替輸移出ノ許可圓爲替ノ決済ヲ認ムル等適宜ノ措置ヲ講ス

六、善意ニシテ且正常ナル既存契約ハ過渡的ニ能フル限り之

ヲ尊重ス

備考

本件實施ノ時期ニ關シテハ各般ノ情勢ヲ觀察シ出來得ル限り最適ノ狀況下ニ於テ實施スル如ク考慮スルモノトシ現地ニ於テ本方針ヲ實施ノ場合ハ豫メ前廣ニ中央ニ連絡スルモノトス

830

昭和14年7月12日

在青島加藤總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

# 中国連合準備銀行券の移動取締規則を青島海 関布告について

青島 7月12日後発

本省 7月12日夜着

## 第四四四號

當地海關ハ臨時政府ノ訓令ニ基キ昨十一日附ヲ以テ聯合準備銀行券ノ移動取締規則ヲ左ノ通り布告セリ

一、北支ニ於テ聯合準備銀行券ノ移動ヲ行ハントスル場合ハ其ノ積出地及目的地力臨時政府管轄地域内ナルコトノ確實ナル認證アル限り制限ヲ受ケサルモノトス

二、聯合準備銀行券ヲ日本又ハ滿洲國ヘ携帯セントスル場合ハ聯合準備銀行ニ於テ其ノ目的地ノ通貨ト兌換スルヲ要ス

但シ兌換ニ應セラルヘキ金額ハ銀行力地方的狀況考慮ノ上適宜之ヲ決定スルモノトシ若シ右銀行ノ決定額ヲ超ユル金額ヲ携帯スル必要アル場合ハ更ニ其ノ超過額ハ送金爲替ニ取組ムコトヲ要ス

北京、上海、天津、南京、濟南、芝罘、威海衛、厦門、香港ヘ轉電セリ

831

昭和14年7月20日

在香港田尻総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

法幣の価値維持は英國の支援なくしては困難  
となつたとの中国側銀行筋の観測報告

香港 7月20日後発

本省 7月21日前着

第九七五號

今次爲替賣止ノ原因ニ關シ

當地支那銀行筋ニテハ(一)平衡資金ハ既ニ殆ト費シ果シ事實  
上外貨賣困難(二)聯銀華興銀行等ノ法幣吸集及外貨買漁リ實  
施(三)聯銀券ノ信用漸増ニ伴フ北方券ノ上海流入竝ニ蔣政權  
ノ輸入制限及輸出爲替集中政策ノ效果見込薄ニ依ル法幣ノ  
先物軟化(四)蔣政權ノ爲替統制力喪失及部内ノ内紛ヲ繞ル法  
幣ノ信用低下(五)東京會談ヲ契機トスル英國ノ對支援助ニ對  
スル不安等ヲ舉ケ居リ法幣價值維持問題ハ最早蔣政權ノ手  
ニ負ヘス專ラ英國側ノ援助如何ニ懸ルトシ諸般ノ情勢ヨリ  
考ヘ差當リ三片乃至四片位ノ相場ニ落付クニアラスヤト見  
ル向多シ

當地ニ於ケル法幣相場ハ香港弗一〇〇ニ對シ十七日二二五、

十八日二七五、十九日二八五、二十日三三〇ト天井知ラス

ノ暴騰ヲ續ケ投機筋モ傍觀ノ形ニテ出來高ハ實需方面ノミ  
ニ限ラレ一日平均約三十萬上海弗ニ過キス

上海、青島、天津、北京、廣東へ轉電アリタシ

~~~~~

832

昭和14年8月29日

在北京堀内総領事より
有田外務大臣宛(電報)

朝鮮米の輸出制限による米価高騰に対し物価
取締規則公布について

北京 8月29日後発

本省 8月29日夜着

第九六號

天津水災ニ加ヘ朝鮮米輸出統制ノ結果當地米價著シク暴騰
シ不正商人ノ跋扈モ豫想セラルルヲ以テ關係方面トモ協議
ノ上客年貴電第四三號ヲ以テ御許可アリタル館令「物價取
締ニ關スル規定」ヲ公布シ不取敢朝鮮米ニ關スル最高價格
ヲ一等米一呎十四圓三十錢、二等米十四圓ト定メ八月三十
日ヨリ實施スルコトセリ委細郵報

上海、天津、青島、濟南、張家口、石家莊へ轉電セリ

~~~~~



昭和14年9月21日

在北京堀内大使館参事官より  
阿部外務大臣宛(電報)

## 朝鮮米輸出制限による食糧難への対応策につ

## き意見具申

北京 9月21日後発

本省 9月21日夜着

第一〇五八號

本官發北支各館宛電報

合第五五四號

北支在留邦人ノ食糧米ニ付テハ本年二月以降朝鮮總督府カ輸出制限方針ヲ採リタル爲各公館ニ於テハ在留邦人々口ニ依ル需給推算ヲ基礎トシテ夫々必要數量ニ對スル證明ヲ輸入業者ニ與ヘ鮮府側ノ輸出許可ヲ取付クルコトトシ以テ過不足ナキヲ期シ今日迄實施シ來レル處最近ニ至リ各地共其ノ需給ニ著シク圓滑ヲ缺キ未曾有ノ食糧難ヲ招來セルカ力カ原因ト見ルヘキハ(一)邦人食糧米推定ヲ超エタル證明ノ濫發ノ結果鮮府ノ許可カ一方ニ偏セルコト(二)證明數量カ鮮府ノ豫想以上ニ達シタル爲竝ニ本年度鮮米作柄等ノ關係ヨリ輸出許可ヲ一時見合セタルコト(三)一部奸商ノ手ニ依リ輸入

米カ多量ニ支那商ノ手ニ流出セルコト(四)天津及各地ノ水害ノ爲 損米ヲ生シタルト交通事故ノ爲輸送ノ圓滑ヲ缺キタルコト等ニシテ最近北京及背後地ノ在庫米殆ト涸渴ノ狀態ニ立到レルヲ以テ當方トシテハ應急對策トシテ鮮府ヨリ特ニ一萬五千石ノ緊急輸出ヲ仰キ當面ノ措置ヲ講スルコトトセルカ鮮府側トシテハ本年度未曾有ノ凶作ノ結果内地、滿洲方面向ノ輸出スラ間ニ合ハセ難キ狀態ニテ此ノ上北支方面ニ對スル配給ハ困難ナル旨言明シ居リ今後北支向輸出ハ相當制限ヲ加ヘラルルモノト豫想セラルルヲ以テ本問題ニ付テハ至急何等カノ對策ヲ講スル必要アルモ差詰メ各地ニ於ケル鮮米ノ配給ニ付テハ嚴重查察ヲ加ヘ(切符制度ヲ採用シ嚴格ナル監督下ニ之ヲ運用スルコト有效ト存ス)支那側ヘノ流出ヲ絕對ニ防止スルハ勿論或程度ノ制限配給ニ依リ消費者側ノ節約ヲ圖リ更ニ進ンテハ日本物資節約ノ見地ヨリ代用食ノ併用ヲモ強調シテ一般在留民ノ自覺ヲ促ス等ノ措置ニ出ツル必要アリト存ス就テハ此ノ上トモ前記ノ諸點御考慮ノ上適當御措置相成度シ

本電宛先北支各公館長  
大臣ヘ轉電セリ

濟南ヨリ張店、博山へ轉電アリタシ

834

昭和14年 9月21日

在上海三浦總領事より  
阿部外務大臣宛(電報)

上海を本拠とする中国側銀行にとつて重慶政  
権との關係断絶は当面不可能との周文彬内話  
について

上海 9月21日後発  
本省 9月21日夜着

第二七三九號

先日來滬セル交通銀行祕書長周文彬。金融問題ニ關シ植田  
囑託ニ爲セル内話左ノ通り御含迄

一、支那銀行ノ内地移轉說ニ關シテハ各銀行家ハ自己ノ立場  
ト利害ヲ考慮シ自己擁護ヲ條件トシテ蔣介石ニ聯絡スル  
ニ止マリ蔣ノ意思通りニハ動カス又銀行ノ移轉ハ其ノ不  
動産、債權ヲ放棄スルコトナリ且法幣流通券ノ放棄ト  
ナル處現在上海ノ法幣額ハ六億乃至八億ト見ラルモ銀  
行移轉スレハ流通不能トナルヘシ法幣ノ準備金ハ現在一  
文モナク之カ流通シ居ルハ銀行カ上海、香港ニ在リテ老

舗所有不動産土地等ニ對スル債權アリ之カ準備金トシテ  
ノ效用ヲ舉ケ居ルモノナルカ銀行ヲ引揚クレハ之カ零ト  
ナル惧アリ即チ移轉ハ蔣政權ニ取りテモ益ナク銀行側ニ  
害アルヲ以テ實現不可能ナリ

二、銀行カ蔣政權ト離脱ノ意思ナキヤニ關シテハ銀行ハ今後  
政界ノ見透付ク迄ハ成行ヲ靜觀シ居レリ公債ト政府投資  
金等棒引シテ純民間銀行ニスルコトモ銀行引受公債カ政  
府投資金額ヨリ遙ニ多ク公債ハ關稅剩餘擔保トナリ居レ  
ル故回收ノ見込アリ之ト棒引スルトキハ銀行ノ損失トナ  
ル故現在ノ處離脱ヲ不利トスル一方日本側ト提携スルコ  
トモ困難ニテ當分汪政權ノ成行見透付ク迄不即不離ノ態  
度ヲ執ルヘシ日支合作ニハ政治家ト財界人トノ聯絡ノ付  
ク人ヲ必要トス(頼リニ杜月笙ヲ上海ニ復歸セシメタシ  
ト言ヒ居タル由)支那ノ財閥ハ勿論一般民衆ハ極度ニ和  
平ヲ希望セルモ見透付カサル今日何人モ發言セサル實情  
ナリ

北京、香港へ轉電セリ

昭和14年9月28日

在北京堀内大使館參事官より  
野村外務大臣宛(電報)

## 華北地方に対する最小限度の朝鮮米輸入を実

## 現するため統制策につき意見具申

北京 9月28日後発

本省 9月28日後着

## 第一〇七九號

北支在留邦人ノ所領米需給問題ニ關シテハ朝鮮側ノ輸出制限ニ鑑ミ在北支各公館長ニ對シ配給其ノ他ニ關スル注意ヲ喚起シ置ケルカ(右公館長宛往電合第五五四號御參照)目下ノ情勢トシテ内地米、朱洲米共ニ輸入不可能ナル上中支方面ヨリノ入荷少ク且天津附近地場產米殲滅セル事態ニ於テハ唯朝鮮米ニ依ルノ外ナク萬一之カ輸入杜絶ヲ見ルカ如キコトアラハ在留民全般ニ異常ナル不安ヲ懷カシメ支那側ニ對シテモ日本内地物資枯渴ヲ誇大ニ喧傳セラルル等面白カラサル影響ヲ來ス惧モアリ旁々此ノ際は非共一定基準ニ依ル邦人食糧米輸入ノ途ヲ講スル必要アリ朝鮮總督府ニ於テハ鮮内ノ配給ハ素ヨリ内地及滿洲向ケ輸出サヘ充分ナラサル今日從來ノ如キ無統制ナル北支向ケ輸出ノ要求ニハ到底

應シ難シトノ意嚮ヲ堅持シ居レル趣ナルカ右對策トシテハ北支在留邦人人口ヲ基礎トセル需給推算ニ依リ各管内別ニ嚴格ナル數量ヲ限定シ各領事館相互ニ密接ナル聯絡統制ノ下ニ切符制度等ニ依ル配給ヲ實施シ一方經濟警察ノ活動ニ依リ監視ヲ嚴ニスルニ於テハ必要ナル方面ヘノ流出ヲ防止シ得ルノミナラス一般消費ノ節約ヲモ望ミ得ルコトト思考ス何レニセヨ最少限度ノ食糧米ノ輸入ハ必要ナルノ事情ナルニ付至急農林省トモ御協議ノ上朝鮮總督府ニ對シ限定數量ノ輸出方承認セシムル様御配慮煩ハシ度ク右數量ハ大體年額三十萬石以內ニテ足ルヘク此ノ點ニ付テハ當地軍參謀ヨリ陸軍次官及參謀次長ニ對シ十月中旬以降毎月必要數量二萬八千石輸出方ニ付考慮ヲ求ムル旨電請セル趣ナリ尙本件差迫レル事態ナルニ付早急御取運ヒノ上結果何分ノ儀御回電アリタシ

天津、青島、濟南、張家口、上海へ轉電セリ

~~~~~

昭和15年2月15日

在北京藤井大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

金融攪乱に対する取締強化につき対応措置回

示方請訓

第一二七號

北京 2月15日後發
本省 2月15日夜着

最近北支ニ於ケル經濟各般統制ノ強化ニ伴ヒ且生活必需品ノ不足重慶側謀略等ニ基キ諸般ノ統制違反金融經濟攪亂行為等モ亦漸増ノ形勢ニアリ當地連絡部ニ於テハ之力對策トシテ近ク臨時政府ヲシテ經濟攪亂及暴利處罰辦法ヲ公布セシメ金銀塊ノ密輸出入法幣以外ノ貨幣ノ所持運搬投機ヲ目的トスル通貨爲替等ノ賣買暴利ヲ目的トスル取引其ノ他流言蜚語財界攪亂行為等ヲ爲シタル者又ハ之カ未遂罪ニ對シ死刑以下ノ嚴罰ニ處シ以テ統制ノ強化經濟防衛ノ實ヲ擧ケントシツツアル處是等取締ハ支那人ニ對スルモノノミヲ以テシテハ完璧ヲ期シ難ク在留邦人關係ニ於テモ同様取締ニ出ツル必要アルニ付領事館ニ於テモ右ニ協力セラレタク且現在領事館令ニ定ムル五十圓以内ノ罰金拘留等ニテハ到底本件所期ノ目的ヲ期シ難キニ付此ノ際何等カノ方法ヲ以テ邦人ニ對シテモ相當ノ重刑ヲ課シ得ル様考慮セラレタキ旨申越アリタル處當館トシテモ上述各種行為ニ對スル取締ヲ

嚴ニシ經濟警察強化ヲ計ル必要ヲ痛感シ居ル次第ニテ種々之カ對策ニ付研究中ナルカ結局北支ニ於ケル上述行為取締ヲ目的トスル單行勅令ノ公布又ハ國家總動員關係法令ノ準用等何等カ中央ニ於テ御措置ヲ必要トスルニアラスヤト思考セラルルニ付至急御研究相成度シ

尙刻下ノ應急對策トシテハ在留禁止處分ノ活用ヲ計ル所存ナルニ付御含置キ相成度シ右法令關係ノ外經濟警察ニ付テモ本省ニ於テ陣容其ノ他ニ付御研究ノコトト存スル處何分ノ御指示相仰度シ支那側關係法令等郵送ス

上海へ轉電セリ



837

昭和15年2月27日

在北京藤井大使館參事官より
有田外務大臣宛(電報)

華北地方の食糧および物価問題に関し日本側
現地關係者の協議会開催について

北京 2月27日後發
本省 2月27日夜着

第一六九號

往電⁽¹⁾第一六三號ニ關シ

現下北支食糧及物價問題ノ重大性ニ鑑ミ軍ニ於テハ中央（北京）及地方側ノ忌憚ナキ懇談ニ依リテ相互ノ意思ヲ疏通シ以テ十五年度北支經濟建設ノ促進食糧其ノ他生活必需品ノ需給調整ト物價安定竝ニ對日供給物資ノ確保ヲ期スル目的ヲ以テ二十二日ヨリ三日間ニ亘リ本件物資對策ニ關スル會同ヲ行ヒタル次第ニ列席者ハ中央ヨリハ司令官以下方面軍幕僚、總軍代表、興亞院及大使館、地方ヨリハ蒙疆、山西、濟南、徐州、天津、北京、保定、石家莊、新郷及開封ノ各地區物資對策委員會代表（特務機關長若ハ兵團參謀）等約百名ニシテ會議ハ參謀長講演ニ始マリ森岡連絡部長（中央物資對策委員長代理）挨拶アリスエ第四課長ノ講演現地側各代表ノ管内狀況報告及興亞院各主任者ノ北支食糧問題商工鑛政策通貨金融問題十五年度物動計畫ノ豫想等ニ關スル報告行ハレ續イテ懇談ニ入り主トシテ食糧物價聯銀券輸送經濟警察等諸問題ヲ中心ニ種々意見ノ交換ヲ見タルカ當地軍側ノ全般の意嚮ヲ察知シ得ヘキ參謀長講演要旨竝ニ懇談要領左ノ通り

(一) 參謀長講演要旨

(イ) 北支經濟建設ノ目標ハ日滿北支ヲ一環トスル自給自足

的發展ニ依リ綜合的國防計畫ヲ確立シ併セテ東亞新秩序ノ建設ヲ促進完遂スルニ在リ從テ北支ニ於テハ日滿ノ不足資源開發ニ重點ヲ置キ併セテ農產資源ヲ確保開發シテ民衆生活ノ安定向上ヲ圖ルヲ不可缺少要件トス

(ロ) 經濟建設ノ促進ニ付テハ現下ノ國際情勢ニ鑑ミ長期ノ計畫ヲ確立シテ其ノ方向ヲ誤ラサル一方應急施策ヲ以テ速ニ北支ノ對日滿依存性ヲ強化セサルヘカラス

(ハ)²⁾ 物價ノ調整ニ付テハ現下食糧飢饉竝ニ物價暴騰ノ及ホス影響大ナルニ鑑ミ應急施策トシテ需給ノ調整、物價ノ適正、配給ノ合理化、輸送ノ統一等物資對策委員會ノ一層ノ活躍ニ俟ツ所大ナリ此ノ際不急ノ事業ハ抑壓シ生活必需品特ニ食糧ニ重點ヲ置キ所期ノ目的ヲ達セラレンコトヲ望ム

(ニ) 懇談ハ御座成リニ流レ眞ニ事態ノ根源ニ觸ルルノ建設的發言ニ乏シカリシモ結局中央側ノ希望スル地方割據制ヲ是正シテ京津地方ヘノ物資ノ出廻ヲ圓滑ナラシムルト共ニ軍ノ物資調辨ヲ容易ナラシメ併セテ敵地ニ對スル物資ノ流出ヲ防止スル爲現地側ノ協力ヲ強化スルノ方向ニ導カレタルカ其ノ結論トモ言フヘキモノヲ要約スレハ左ノ

如シ

(イ) 聯銀券ハ極力維持シ苟モ之ニ不利ナル言動ヲ爲スモノハ嚴重ニ取締ルコト

(ロ) 物資需給ノ調整ハ日滿ノ苦シキ事情ニ鑑ミ結局生産増加ニ重點ヲ置クコト

(ハ) 地方割據制(物資搬出許可制等)ハ能フ限り緩和スルコト

(ニ) 配給統制ニ關シテハ合作社の機構ヲ強化スルコト

(ホ) 物價問題ニ關シテハ低物價政策ノ根本方針ニ變化ナ(シ)ト雖公定價格制(需給ニ甚タシキ不均衡アル場合ハ之ヲ維持シ得ストノ結論ナリ)ハ可能地區及品目ニ限り實施シ其ノ他ハ成ルヘク適正價格ヲ示シテ之ニ據ラシムルコト

(ヘ) 經濟警察ニ關シテハ其ノ發動上(A)法規ノ不備ト不統一(B)支那人及第三國人ニ協力ヲ求メ得サル點少カラサルコト(C)治外法權ニ基ク各國權益ノ錯綜(D)支那側官憲ト業者側トノ特別私的關係(E)支那側警察ノ不備(F)局地主義的經濟取締等種々難點アリ其ノ他不良邦人(鮮人特ニ多シ)ノ取締ニ關シテモ領警ノ微力罰則ノ不徹底等

問題トナリタルモ是等改善方ニ付テモ別ニ研究スルコト

本會合ニ於ケル最後の結論ハ三月中旬開催セラルヘキ兵團參謀長會議ニ於テ決定セラルル趣ナリ

尙聯銀券食糧自給計畫其ノ他具體的問題ニ關シテハ逐次後報ス

天津、濟南、青島、張家口、上海、南京、石家莊へ轉電セリ

838

昭和15年3月5日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

上海方面米價暴騰の原因について

上海 3月5日後發

本省 3月5日夜着

第四一八號

當方面米價暴騰ニ關シテハ屢報ノ通ナル處右狀態ヲ示セル最近ノ原因トシテハ大體(一)奧地ヨリノ出廻減少(二)爲替安運賃高ニ依ル外米價格ノ昂騰(三)支那投機筋ノ迷惑ニ依ル買溜賣惜並ニ租界當局ノ價格統制ノ實行難等ヲ擧ゲ得ヘシ

(一)奧地(主トシテ蕪湖下流地帶)ニ於テハ昨年十一月以來我軍ニ於テ米ノ移動ヲ停止シ本邦人指定商(三井、三菱、大丸等)ヲ通シ地域別ニ軍所要米ノ買付ヲ實行シ居レルモ最近迄ノ成績ハ良好ナラサル趣ニテ從テ商人カ民需用トシテ軍ノ許可ヲ受ケ上海其ノ他ノ都市ニ輸送シ得ル分モ又甚タ少量ニ止マル(軍經理部ニハ指定商ヨリ軍用トシテ納入セル數量ト同量乃至其ノ五割程度ノ數量ヲ民需トシテ搬出ヲ許可シ居レリ)

本年一月租界側ヨリ供給協力方ニ關シ申出アリタル際我方關係當局協議會ニ於テ軍側ニテハ大體日ニ四千俵程度(此ノ數字不發表)ノ奧地米ノ搬出許可ヲ爲ス決心(租界内消費一日八千俵ト見込ミ又正規搬出許可ノ外ニ軍ノ監視ヲ潛リテ搬入セラルル分モ一、二千俵ニ上ルモノト見テ)ナル旨披露セルモ其ノ後實績ヲ舉クルニ至ラス右ハ奧地治安關係ノ外買付方法ノ不完全ノ理由モアルヘキモ結局ハ占領地域内ノ產出力豫想外ニ惡ク買付數量極メテ少キニ基クモノト見ラル

(二)外米ノ輸入ハ產地高ト船腹運賃高ノ關係上大量ノ手當困難ナルモ昨年末來外商ノ西貢米輸入計畫成立濟ノモノ約

八萬噸其ノ内輸入濟ノモノニ萬噸現在「ストツク」中五萬噸(外ニ支那米一萬噸)ト推測セラレ居ル處爲替安ノ影響モアリ輸入採算ハ現在一俵五〇元以下ニテハ困難視セラル從テ現在ノ市價力維持セラルル場合ニハ今後尙輸入ヲ見ルヘシ

(三)以上ノ如ク當地外米ハ差當リ數量的ニハ涸渴ニ類シ居ルモノトハ思ハレサルモ價格ノ異常ナル暴騰ニ依リ一般特ニ下層勞働者ノ苦境ヲ招キツツアルモノナルカ現在ノ市價ハ外米相場ニ左右セラレ居ル現狀ナル爲之カ低落ハ奧地米ノ大量搬入ヲ見サル以上當分ニテヲ期待シ難キ實情ニアリ因ニ昨今ノ市價左ノ通り

支那米一俵(約六斗)四八元乃至五三元
西貢米四六元乃至四七元半

北京、天津、青島、濟南、南京、漢口、厦門、廣東へ轉電
セリ



839 昭和15年5月7日 閣議決定

「渡支邦人暫定處理ニ關スル件」

渡支邦人暫定處理ニ關スル件

昭和十五年五月七日 閣議決定

從來渡支者ニ對スル身分證明書ノ發給ニ關シテハ昭和十二年八月三十一日附米三機密合第三七七六號外務次官發各地方長官宛依命通牒「不良分子ノ渡支取締方ニ關スル件」ニ依リ取扱ヒ主トシテ本人ノ素性、經歷、平素ノ行動等ニ徴シ渡支後不正行爲ヲ爲ス虞ナキヤ否ヤヲ考慮ノ上其ノ虞ナキ者ニ限り右證明書ヲ發給シツツアリシ處該制度實施以來客年十二月末迄ニ於ケル本邦人渡支者ノ延人員ハ五十九萬人ニ達スル狀態ナリ一方現地ニ於ケル圓系通貨（聯銀券、軍票等）ノ膨脹著シク之ガ價值維持ノ必要上極力是等圓系通貨ノ氾濫ヲ防止スルノ措置ヲ講ズルハ喫緊ノ要務ナル處此種通貨ノ氾濫ヲ防止スル手段ニ關シテハ各方面ニ涉リ夫々ノ見地ヨリ詳細ニ檢討考慮ヲ要スヘキコト勿論ナルモ上記ノ渡支者ニ於テモ夫々相當ノ邦貨ヲ携行シ現地ニ於テ圓系通貨ヲ放出スル次第ニテ其ノ額ハ一ケ年間概ネ一億圓ノ巨額ニ達スル實情ナルニモ鑑ミ此方面ヨリスル圓系通貨ノ膨脹ヲ防止スルコトモ亦極メテ緊要ナリ然ルニ是等個人又ハ團體ノ中ニハ其ノ渡支ノ目的理由等ニ徴シ必ズシモ上

述ノ如キ現地ノ切迫シタル實情ヲ無視シテ迄渡支セシムルノ必要ナキ者多々有之モノト認メラルルノミナラズ觀察、慰問等ニ籍（藉）口スル不要不急ノ旅行客亦尠カラザル現狀ナルニ付テハ渡支身分證明書ノ發給ニ當リテハ獨リ警察上ノ取締ニ止マラズ現地ノ實情ト睨ミ合セ在支圓系通貨放出制限ノ見地ヨリ不必要ト認メラルル邦人ノ渡支ハ極力制限スルコト適切緊要ナリ

仍テ今後ハ從來ニ於ケル不良分子ノ取締ノ外概ネ別紙ノ取扱方針ヲモ併セ實施シ不要不急ノ目的ニ出ツル支那渡航ヲ禁止シ以テ國策ノ緊急性ニ即應スルコトト致度

(別紙)

取扱方針

一般ニ觀察ヲ目的トスル支那渡航ハ當分ノ間之ヲ禁止スルコトトシ其ノ他特ニ支那渡航ヲ要スルモノニ對シテハ左記ニ該當スル場合ニ限り所轄警察署長ニ於テ身分證明書ヲ發給シ渡航セシムルモノトス

外地ニ於テモ本方針ニ準シ措置スルモノトス
本方針ハ支那現地ノ事態ノ許スニ到リタルトキハ速ニ之ヲ

緩和スルモノトス

記

一、慰問(演劇又ハ演藝ニ依ル慰問ヲ含ム)ノ爲渡支セントスル者(團體ヲ含ム)ニ就テハ豫メ陸海軍省ノ承認ヲ得タルモノ

二、家事用務ノ爲一時渡支セントスル者ニ就テハ在支關係者ノ所轄領事館警察署ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ
三、商取引ノ爲一時旅行セントスル者ニ就テハ在支關係會社、商店又ハ取引先ノ所轄領事館警察署ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ

四、定住又ハ現地勤務ノ爲渡支セントスル者ニ就テハ行先地所轄領事館警察署ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スルモノ又ハ在支陸海軍ノ發給シタル軍屬タルノ身分證明書(呼寄證明書ヲ含ム)ヲ有スルモノ

五、其ノ他ノ者ニシテ眞ニ已ムヲ得ザル事情アリト認メララルモノ



840

昭和15年5月8日

有田外務大臣より
在中国各公館長宛(電報)

円系通貨の膨張を防止する一手段として邦人による不要不急の中国渡航を制限する暫定処理方針を閣議決定について

別電 昭和十五年五月八日発有田外務大臣より在中国各公館長宛合第九三九号

右暫定処理方針の許可要領

本省 5月8日後9時50分發

合第九三七號

一、支那ニ於ケル圓系通貨ノ膨脹ヲ防止スル一手段トシテ今般閣議ニ於テ別電合第九三八號ノ通邦人渡支取扱方針ノ決定ヲ見又關係官廳協議ノ上別電合第九三九號ノ通邦人渡支許可要領ヲ定メ今後當分ノ間暫定措置トシテ從來ニ於ケル不良分子ノ取締ノ外併セテ不要不急ノ渡支ヲ極力制限スルコトトシ右來ル五月二十日ヨリ實施ノコトトナリタリ尙支那ヲ目的地トスル旅券ノ發給ニ付テモ之ニ準シ取扱ヒ只支那以外ノ外國ヲ目的地トスル旅券所持者力支那ニ寄港スル場合(例ヘハ上海)ハ此ノ限ニ在ラス就テハ右趣旨了悉ノ上左ノ通取計ハレタシ
イ、警察署長又ハ派遣官廳發給ノ身分證明書(五月二十

日前發給ノモノヲモ含ム）在支帝國領事館發給ノ身分證明書、臺灣籍民ニ發給スル渡航證明書又ハ旅券ヲ有スル者ニ非サレハ上陸、入境セシメサルコト（但シ現役及召集中ノ帝國軍人及軍屬ニシテ制服着用ノ者ハ身分證明書ヲ要セス）

ロ、在支領事館警察署ニ於テ願出ニ依リ右取扱方針第二號、第三號及第四號ノ所謂「證印アル文書」ヲ發給スルニ當リテハ渡支ヲ必要トスル事由ヲ慎重取調ノ上事實相違ナキニ於テハ別電合第九四〇號^{（別電）}ノ要件ヲ具備スル「渡支事由證明書」ヲ發給スルコト

尙右發給官ハ警察署長又ハ警察分署長トシ派遣所ニ於テ實際發給スル右證明書ノ發給官ハ所屬ノ署長又ハ分署長名義トスルコト

ハ、尙本件手續ニ付テハ貴管下在留邦人ヲシテ充分了解セシムル様御配慮相成度

ニ、本件ハ在滿邦人カ支那ニ渡航スル場合ニ於テモ滿洲國警察署ヨリ本件同様ノ取扱振ヲ以テ身分證明書ヲ發給スル様措置方目下滿側ヘ手配中ナリ結果追電スヘシ

三、不取敢方針及許可要領ハ其儘外部ニ發表セサル様取計ヲ

ハレ度

本大臣ノ訓令トシテ廣東ヨリ香港ニ轉報アリタシ
本電別電ト共ニ普通情報通り轉電アリタシ

編 注 別電合第九三八号は、本書第839文書の閣議決定「渡支

邦人暫定處理ニ關スル件」の別紙「取扱方針」と同文のため省略。

（別電）

本省 5月8日後9時50分發

合第九三九號

許可要領

本件取扱方針ノ中

一、ニ於ケル

陸海軍省ノ承認ヲ得タルモノトハ陸軍省恤兵部、海軍省軍事普及部ノ證印アル文書ヲ有スルモノニ限ルモノトス
二、ニ於ケル

家事用務ノ爲トハ近親者ノ葬儀及養護看護等眞ニ已ムヲ得サル場合ニ限ルモノトス

三、ニ於ケル

商取引ノ爲トハ在支關係會社、商店又ハ取引先トノ間ニ
現實ニ商行爲存在シ又ハ具體的ナル商業進出者ニシテ渡
支セサレハ眞ニ處理シ難キ事情アル場合ニ限ルモノトス
四、ニ於ケル

定住又ハ現地勤務ノ爲トハ半永久のニ支那ニ居住シ具體
的計畫ト所要ノ準備トヲ以テ一般實務ニ従事セントスル
場合、在支商社ニ勤務セントスル場合、現地軍採用ニ係
ル軍屬又ハ雇傭人ノ渡支セントスル場合竝ニ永住ヲ目的
トスル家族呼寄ノ場合ニ限ルモノトス

五、ニ於ケル

其ノ他ノ者ニシテ眞ニ已ムヲ得サル事情アリト認メラル
ル場合トハ

(イ) 正當ノ事由ニ因リ第二號ニ掲クル所轄領事館警察署ノ
證印ヲ押捺セル文書ノ下付ヲ受クル暇ナキ場合

(ロ) 政治、經濟、文化的の見地ヨリ事變處理ニ直接且積極的
ニ關係アル使命ヲ有スルモノニ付興亞院又ハ外務省ニ
於テ關係官廳ト協議ノ上承認シタルモノニシテ興亞院
又ハ外務省ノ證印ヲ押捺セル文書ヲ有スル場合

ニ限ルモノトス

841

昭和15年5月15日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

外貨資金による華中米の購入につき意見具申

上海 5月15日後発
本省 5月16日夜着

第九三〇號

一、近來本邦ニ於テハ相當量ノ外米ヲ輸入消費シ居ルモノト
了解スル處客年以來當地軍方面ニ於テ中支米ヲ買付ケ本
邦向輸送ヲ行ヒタルモ其ノ成績必スシモ芳シカラサリシ
主タル所以ハ現地當局ノ見込違ト右ヲ鵜呑ニシタル中央
ノ訓令カ現實ノ事態ニ即セサルニ至リタル事實ノ外軍票
支出ニ基ク買付値ノ低キト仲介者ノ搾取トニ在リタリト
認メラレ居レリ而シテ實情ハ占領地域内ノ產米ノ約六割
カ敵地ニ流レツツアル状態ナル處本邦ニ於テ外米輸入ニ
充ツル外貨資金ノ一部ヲ中支米ノ買付ニ振當ツルニ於テ
ハ支那貨爲替ノ暴落セル今日容易ニ而モ相當量ノ產米ヲ
買付ケ之ヲ本邦ニ輸送シ得ヘキノミナラス之ヲ大ニシテ

ハ支那ニ於ケル米穀ノ主產地タル占領地域内産米ノ敵地ニ流入スル分ヲ買占メ更ニ敵地ノ産米ヲ吸收シ其ノ結果敵地ヲシテ外米ノ輸入ニ没頭セシメ又之ヲ小ニシテハ從來ノ日本側ヘノ賣惜傾向ヲ是正シ宣撫上ノ效果ヲ擧ケ得ヘシト思考セラル

二、加之日本側内部ノ問題トシテモ從來軍票ヲ法幣ニ代ヘテ買付ヲ爲シ居リタルモノナルヲ以テ少クトモ内地ヘノ輸送米ニ關スル限り軍票放出額ヲ收縮セシメ得ヘク右ハ中南支方面刻下ノ重大問題タル軍票價值維持ニ有效ナル貢獻ヲ爲スヘク更ニ實際比較ノ結果外貨ニ依ル支那米ノ購入カ本邦ノ輸入外米ヨリ安價トナルコト判明シ進ンテ我軍ノ豫算經理技術上可能ナルニ於テハ中支派遣軍ノ消費米モ一部分外貨資金ニテ購入スルコトトセハ總軍ニ對シテ外貨ノ裏付ヲ行ヒタルコトナルヘシ

三、本案ハ素ヨリ豫メ研究スヘキ點多々アルヘキモ軍票對策問題ノ比較的急迫シ居ル當地ニ於テ單ニ此ノ觀點ノミヨリスルモ一案トシテ好個ノ研究材料ナルヘシト思考セララルニ付研究資料トシテ差當リ左ノ諸點御同電相成度ク又本省ニ於テモ充分本問題御研究置キ相成様致度シ

(一) 客年以來外米輸入毎月量主ナル買付地
(二) 右價格(本邦ノ支出トシテ米貨又ハ英貨ニ換算セラレタシ)

(三) 今後輸入スヘキ見込數量

(四) 客年以來輸入セラレタル支那米月別數量

四、素ヨリ本案ハ單ナル軍票工作ニアラス寧ロ敵地ニ流入スル中支米ヲ日本向引出スコトニ依リ生スル種々ノ效果ヲ窺フモノナルカ他方總軍側ニ於テハ法幣下落ニ伴ヒ軍票價值維持ノ問題ヲ重視スルノ餘リ軍票價值ノ下落防止ノ建前ノ下ニ實ハ結果ニ於テ種々有害ナル副作用ヲ伴フ統制ヲ行ハント企畫シツツアルヤニ見受ケラル依テ斯ル傾向ヲ是正スル爲ニモ軍票ニ有益ナル種々ノ手段ヲ考究スル要有之若シ本案ニシテ見込アルニ於テハ此ノ見地ヨリモ充分研究致度シト存スル次第ナリ

北京、天津、南京、廣東、漢口ヘ轉電セリ

~~~~~

842

昭和15年5月17日

在北京藤井大使館參事官より  
有田外務大臣宛(電報)

中国渡航暫定処理方針の閣議決定に伴い華北

地方での營業許可統制方針決定について

北京 5月17日後發

本省 5月17日夜着

第三八五號

本官發天津、青島宛電報

合第二一九號

一、豫テヨリ新規營業、既存營業ノ擴張竝ニ増資許可ニ當リテハ之カ圓系通貨ノ膨脹ヲ來ス原因トナラサル様制限ヲ加ヘ來リタルハ御承知ノ通りナル處來ル二十日ヨリハ邦人ニ對スル嚴重ナル渡支制限實施サルル運トナリ居リ此ノ際右營業許可方針ニ付テモ左記ニ依ルコトトシ從來ヨリ一層之ヲ引緊メ以テ極力通貨膨脹ヲ阻止スルコトト致度ク尤モ當地興亞院連絡部トノ打合ニ依リ近ク資本金一萬圓以上（鑛工、交通、水産業等所謂統制事業ニ付テハ全部）ノ新規營業、事業擴張ニ在リテハ興亞院ニ於テモ審査スルコトトナリ領事館ニ於テハ一萬圓以下ノ者ニ限り領事館限りノ裁量ニテ許可スルコトト相成ルヘク資本金一萬圓以下ノ者ニ在リテハ一見左シテ通貨膨脹ノ原因ヲ爲ササルカ如ク考ヘラルルモ之等小額資本ノ者ハ非常

ナル件數ニ上リ居リ影響スル所鮮カラサル次第ナリ尙興亞院カ審査ニ當リ嚴選主義ニ出ツルハ申ス迄モ無キ儀ナリ

記

(一)眞ニ居留民ノ日常生活上不可缺ノモノ

(二)駐屯軍トノ關係ニ於テ軍ニ於テ之カ許可ヲ要望スルモノ

(三)右以外ノモノニ在リテハ特ニ嚴重審査スルコトトシ殊ニ居留民共喰ノ惧アル小賣業及既ニ飽和狀態ニ達セル小土木請負業等ハ事實上許可セサルコト

二、右實施ニ當リテハ元來居留民ノ發展ヲ企圖シテ制定セラレタル館令トノ關係ニ於テ理論上ニモ困難アルヘク（從來ノ届出營業モ全部許可營業ニ館令改正ノ要アリ當館ニテモ研究中ナルカ各館ニ於テモ御研究ノ上至急改正案御立案相成度シ右館令改正迄ハ届出營業ニ付テモ事實上許可主義ヲ以テ臨ムノ外無カルヘシ）又折角渡支ノ上既ニ開業準備ヲ整ヘ居ル者等ニ付テハ情ニ於テ忍ヒス現地領事館トシテ困難ナル立場ニ立ツヘキコト等充分承知シ居ルモ國策ノ必要上已ムヲ得サル次第ナルヲ充分説明納得

セシメラルルコトト致度ク今後ハ數ニ於テヨリモ質ニ於ケル居留民ノ健全ナル發展ヲ企圖スルコトト致度シ

尙業者自身ノ利益ノ點ヨリスルモ去ル十日北支方面經濟問題ニ關スル閣議決定ニ於テ石家莊、德縣間鐵道敷設石炭増産ニ關スル件ト共ニ決定ヲ見タル聯銀券對策トシテ内地ヨリ聯銀券裏付ノ物資供給ヲ行フト共ニ内地北支間ノ物價ノ懸隔ヲ調整スルノ措置ヲ講スルコトトナレルヲ以テ近ク内地ヨリ輸入セラルル物資毎ニ輸入組合設立セラレ右組合ニ於テ内地物價ト現地物價トノ莫大ナル開キハ之ヲ統制料トシテ徵收シ以テ對日輸出物資ノ物價調整等ニ充ツルコトトナルヘク右實施ノ曉ハ從來内地品ヲ取扱ヒ來レル業者ハ從來ノ如キ巨利ヲ上クルハ到底不可能トナリ從テ今後ハ所謂事變景氣ニ基ク一旗組等發生ノ餘地ヲ減シ健全ナル營業ニアラサレハ立行カサルヘク斯ル際ニアリテ從來同様巨利ヲ得ル見込ニテ新規營業ヲ爲シ又規模擴張ヲ爲スハ業者自身ノ利益ニモアラサル次第ナリ

本電宛先北支蒙疆各公館長(分館出張所ヲ含ム)

大臣、南京大使、上海へ轉電セリ

上海ヨリ塘沽へ轉報アリタシ  
徐州ヨリ新浦へ轉報アリタシ

843

昭和15年9月10日 興亜院會議決定

「新中央銀行設立二件フ中支通貨處理二關スル件」

新中央銀行設立二件フ中支通貨處理二關スル件

昭、一五、九、九

連絡委員會幹事會決定

昭、一五、九、一〇

興亞院會議決定

方針

一、軍票ニ關シテハ其ノ價值維持方策ヲ此ノ際特ニ強化スルコトトシ極力現地放出量ヲ制限スルト共ニ他面之カ回收ヲ促進スル爲所要ノ物資竝ニ外貨ヲ供出シ且支那側ヲシテモ出來得ル限り資金の協力其他所要ノ協力ヲ爲サシム  
二、支那側ヲシテ我方援助ノ下ニ新中央銀行ヲ設立シ法幣ト等價ノ新通貨ヲ發行セシムルコトトシ同行ノ運營ニ關シ

テハ緊密ニ我方ト連絡協調セシメ以テ日支金融協力ノ基礎タラシム尙同行ノ運營力軍票對策ニ惡影響ヲ及ホササル様所要ノ協定ヲ締結スルト共ニ必要ナル措置ヲ採ラシムルモノトス

三、新中央銀行ト華興商業銀行トノ關係ニ付テハ新中央銀行ヘノ出資々金ノ調達、華興商業銀行ノ發行權ノ處理其ノ他ニ關シ所要ノ調整ヲ行フ

#### 措 置

一、軍票ノ放出量ヲ劃定スルト共ニ之カ回收ノ爲我方ノ供出スル物資竝ニ外貨資金ノ量ヲ決定シ關係方面協力シテ其ノ圓滑ナル遂行ヲ圖リ之カ價值維持ニ不安ナカラシムルモノトス

二、新中央銀行ノ資本金ハ差當リ一億元(全額拂込)政府ノ全額引受トスルモ民間資本誘導ノ餘地ヲ存シ置クモノトス  
三、新中央銀行ノ資本金ニ關スル我方ノ援助ハ華興商業銀行ノ中央政府ニ對スル借款ノ形式ヲ採ラシムルコトトシ左記ニ依ルモノトス

(イ)金額、五千萬元ニ相當スル米價

(ロ)擔保、新中央銀行株式

四、新中央銀行ノ保有外貨ハ日本側銀行ニ預託セシムルモノトシ日本側ト話合ノ上所要ニ應シ少額ノ外貨ハ之ヲ外國銀行ニ預託換スルコトヲ得ルモノトス

五、新中央銀行ノ發行スル通貨ノ價值基準ハ差當リ法幣ト等價ナラシム法幣ノ著シク下落セル場合ニ於ケル獨自ノ價值基準設定ニ付テハ常時其ノ用意ヲ整ヘ置クモ之カ實施ニ付テハ慎重施策スルモノトス

六、新中央銀行ノ運營ニ關シ新銀行券ノ外貨兌換性ヲ失ハサラシムル爲其ノ發行ハ外貨、法幣ヲ見返リトスル場合又ハ新通貨預金ノ拂出其ノ他之ニ準スル場合ニ限定スルモノトシ中央政府ヲシテ健全財政方針ヲ堅持セシメ新中央銀行ハ政府貸上等ヲ爲ササルモノトス

七、華興商業銀行券ニ付テハ關稅收入確保上遺憾ナキ措置ヲ講スルコトトシ新中央銀行成立ト同時ニ之カ發行權ヲ取消スモノトス

八、新中央銀行ノ設立後ニ於ケル華興商業銀行ノ機能及存續ノ態様ニ付テハ情勢ノ推移ニ依リ適當調節スルモノトス  
九、新銀行ノ設立及運營ニ付テハ新通貨ノ軍票ニ對スル惡影響ノ防止及中支ニ於ケル日支金融協力具現ノ爲緊密ニ我

方ト連絡協調セシムルモノトシ之カ爲特ニ左ノ諸措置ヲ講スルモノトス

(一)新銀行法案其他關係章程等ノ制定ニ付テハ支那側ヲシテ事前ニ我方ニ連絡協議セシムルコト

(二)左ノ諸項ニ付キ日支間ニ協定ヲ行フコト

(1)新中央銀行ニハ日本人顧問ヲ招聘セシメ行務ノ樞機ニ參劃セシムルコト

(2)新中央銀行保有外貨ノ管理竝ニ運用ニ付テハ日支双方ノ委員ヨリ成ル委員會ヲシテ之ニ當ラシムルコト

(3)支那側ハ軍票價值維持ノ爲我方ニ對シ所定額ノ資金的協力ヲ爲スコト

(4)支那側ハ軍票對策トシテ從來日本側ノ採リ來レル事實ヲ確認シ竝ニ將來ニ於テモ之ニ協力スルコト

(5)支那側ハ新通貨ノ流通分野ニ付キ隨時日本側ニ協議スルコト

〔註〕新通貨ハ差當リ政府ノ財政收支上ニ於ケル使用

通貨(三角地帶ニ於ケル鹽稅收納ノ場合ヲ含ム

但シ鹽ノ賣買ニ付テハ此ノ限ニ在ラス)タラシ

メ漸次法幣領域ヘノ進出ヲ企圖セシム

(6)支那側カ軍票對策ニ影響アル施策ヲ實行セントスルトキハ豫メ日本側ニ協議スルコト

(三)新中央銀行ノ設立ニ當リ豫メ國民政府ヲシテ新中央銀行ハ軍票對策ニ惡影響ヲ與ヘス寧口之ニ相協力スル様運營セラルヘキモノナル趣旨ヲ聲明セシムルコト

## 備考

1、蒙疆銀行ノ運營ニ付テハ現狀通りトシ中國聯合準備銀行モ之カ存續ヲ必要トスル間ハ現狀ニ何等ノ變更ヲ加フルコト無ク運營セシムルモノトス從テ新中央銀行券ハ蒙疆及北支ニハ之ヲ流通セシメサルモノトス

2、新中央銀行ノ設立ハ日支ノ協力ニ依リ之ヲ行フノ建前ヲトリ特ニ第三國ノ參加又ハ援助ヲ勸誘スル爲ノ外交措置ヲ講セサルモノトス尙新中央銀行ニ關スル將來ノ第三國トノ關係事項ニ付テハ支那側ヲシテ單獨ニ之ヲ處理セシムルコト無ク常ニ日支協議ノ上之ヲ行フ様支那側ヲ指導スルモノトス

編注 本文書は、財務省財政史室所藏「野田文書」より採録。



昭和15年10月16日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

## 華中新米調達に關し總軍と南京政府との間に

## 了解成立について

上海 10月16日後発

本省 10月16日夜着

## 第二一八四號(部外祕外信)

中支三省產新米ノ調達ニ關シ最近總軍ニ於テ南京政府側ト  
左記要領ノ通り了解成立セル趣ナリ

一、產米地域ヲ(甲)日本軍々需米區域ト(乙)政府直接管制區域ニ  
分チ甲地域ニ於テハ松江、蘇州、無錫、蕪湖地區ノ四縣  
乃至五縣下ニ於テ軍ニ於テ民食ヲ防ケサル範圍内ニ於テ  
豫定數量ヲ調達シ乙地ニ於テハ政府ノ食糧管理委員會ニ  
於テ直接或ハ日支米商ヲシテ調達新食ヲ供給スルコト  
ニ、管理委員會ハ十一月以降明年一月末迄ニ日本軍々需米三  
萬噸ヲ調達シ隨時日本軍ノ運用ニ供シ得ル如ク貯藏スル  
コト

三、前項ノ處理完了セハ日本軍ハ甲區域ノ統制ヲ政府ニ移讓  
シ政府ハ日本軍需米ヲモ日本軍ノ希望スル條件ニテ調達

## 供給スルコト

四、調達搬出ニ當リテハ日支双方充分ナル便宜援助ヲ與フル  
コト

五、日支双方協力シテ日支米商ノ買占、騰貴、農民脅迫等ノ  
行爲ヲ嚴禁スルコト

六、上海地區ヘノ民需米搬出許可ハ日本軍ノ定ムル所ニ依リ  
實施スルコト

南京、漢口ヘ轉電セリ



昭和15年11月8日 閣議決定

## 「對支經濟緊急對策」

## 對支經濟緊急對策

## 第一、方針

三國同盟締結ニ伴ヒ我物動物資對支供給額ノ激減ヲ見ル  
ベキ情勢ニ鑑ミ支那ニ於ケル經濟上ノ施策ハ我方指導ノ  
下ニ從來ノ措置ニ泥マス速ニ支那ニ於ケル各方面ノ經濟  
力ノ綜合活用ヲ一段ト強化シテ現地ニ於ケル必要物資ノ  
調達及皇國ノ必要トスル物資ノ輸入獲得ヲ促進スルト共

ニ他面支那ニ於ケル我方ノ消耗ヲ合理的ニ縮減シ以テ皇國ノ國防經濟力ノ自給強化特ニ綜合戰力ノ急速向上ヲ期ス

## 第二、要領

一、支那ニ於ケル我方ノ消費ヲ極力縮減スルコトニ努ムルト共ニ現地物資ノ回收徹底化ヲ圖ル

ニ、現地產業ノ開發増產ハ主トシテ戰時ニ於テモ確保スヘキ地域ニ賦存スル基本的國防資源（鐵鑛、石炭、鹽、重石、螢石、雲母、石棉及其他特定資源）ニ之ヲ嚴ニ限定シ急速且經濟的開發利用可能ナルモノヨリ實施スルト共ニ所要ノ限度ニ於テ港灣設備並輸送力ノ應急的増強ヲ企圖スルト共ニ是等資源ノ開發ニ關シテハ日滿支ヲ通シ各其ノ開發能率ニ基ク開發順位ヲ決定シ之カ開發ヲ促進ス

右重點事業ニ對スル資材及資金ノ供給ハ之ヲ確保スル如ク措置ス

- (1) 事業計畫ノ根本的改訂
- (2) 會社經營能率上ノ根本的措置
- (3) 非重點事業會社ノ整理統合又ハ移管

(4) 過剩人員ノ整理並轉業對策

三、支那土產物資ノ出廻ヲ極力増進シ他面我國經濟負擔ヲ可及的輕減セシムル如ク措置ス

- (1) 收買機構ニ關シ支那側ノ資本及機構ノ利用
- (2) 買付價格ノ合理的調整
- (3) 物資搬出入統制ノ有效的強化（別紙參照）

(4) 日本側特殊買付機構ニ關スル所要ノ調整

四、物動物資ノ第三國又ハ租界ヨリノ買付ニ關シ支那商社ノ資本及機構ノ利用ヲ圖ルト共ニ之ニ對應シテ極力第三國向輸出ヲ促進ス

- (1) 石油類工作機械小麥等ノ買入
- (2) 北支ニ於ケル無爲替輸入許可制運用ノ調整

五、支那土着資本（華僑資本ヲ含ム）ノ誘導並ニ活用ニ關シ積極的ニ努力ス

六、支那ニ於ケル外國商社ニシテ我方ニ協力シ來タレルモノニ對シテハ事業ノ地域並種別ニシテ差支ナキ限り其ノ國籍ノ如何ヲ問ハス積極的ニ之ヲ利用シ或ハ之ト合作ス特ニ獨伊トノ協力ニ付テハ優先的ニ之ヲ處理ス

七、對日滿物動物資確保ニ關スル輸送諸施設ノ能率的應急

整備ヲ圖ルト共ニ在支外國船腹ノ急速把握ニ努ム

(1) 海陸輸送能力ニ對應スル港灣諸施設(碼頭、舁等)ノ能率の應急整備特ニ塘沽新港ノ建設計畫ニ再檢討ヲ加ヘ資金、資材ノ捻出轉用ヲ圖ル

(2) 輸送配船ノ管理強化

(3) 輸送ニ伴フ苦力ノ確保

ハ日滿支ノ物動計畫及生産力擴充計畫ヲ根本的ニ改訂シ其計畫實施ヲ能率化スルコトニ努ム之カ爲要スレハ緊急體制ヲ整備ス

### 第三、處置

本對策ニ基ク具體的施策ニ就テハ別途速ニ計畫ヲ樹立シ機ヲ失セス逐次實施ス

### 備考

一、海關制度ノ徹底的把握及財政制度ノ確立把握ニ就テハ別途措置ス

### 別紙

物資搬出入統制ノ有效的強化ハ左記要領ニ依リ之ヲ實施スルモノトス

一、物動物資、軍ノ現地自活上ノ所要物資竝特輸出物資ハ極力之ヲ占據地域内ニ於テ取得シ其ノ不足物資ハ各種ノ工作ヲ施シテ非占據地區ヨリ吸引ス

二、占據地域内民生安定ノ爲必要ナル限り非占據地區ヨリスル消費物資ノ流入ヲ認ム

三、非占據地區ヨリ物資ヲ吸引取得スル爲交換用物資ヲ使用流出セシムルヲ要スル場合ニ在リテモ敵側抗戦力ヲ培養セシメサル如ク嚴ニ之ヲ選擇ス

四、右實施ニ當リテハ第三國商社ハ特ニ差別的取扱ヲ爲サス、又非敵性第三國商社ハ積極的ニ之ヲ利用スルコトアルヘシ

編注 本文書は、国立公文書館所蔵「公文類聚」より採録。



846

昭和15年12月11日 阿部中国派遣大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪兆銘が經濟委員會設置案を披瀝し日本人顧問の招聘を熱望について

第六〇九號(至急、極秘)

特第一一五號

南京 12月11日前発  
本省 12月11日前着

汪主席八十日本使ヲ來訪シ全面和平ノ見透及民食<sup>二</sup>並<sup>一</sup>二軍事問題ニ關シ長時間懇談セルカ其ノ際今般行政院長ヲ委員長トシ財政經濟關係部長等ヲ委員トスル經濟委員會ヲ設置スルコトトシ之ニ有力ナル日本側顧問官ヲ招聘シ日支協力シテコトヲ進メタシトテ適任者推薦方ヲ依頼セリ  
委細歸朝ノ上御報告スヘキモ不取敢

847

昭和15年12月14日

在南京日高大使館參事官より  
松岡外務大臣宛(電報)

# 中央儲備銀行設立に関する準備狀況報告

第六一九號

特第一一六號(興亞院經由)

一、中央儲備銀行法案、暫行貨幣整理辦法及日支間覺書八九

南京 12月14日後発  
本省 12月14日後着

日何レモ中國側ノ同意ヲ得タル處銀行法案ハ十二日中央政治委員會通過、本日立法院會議ニ附議シ暫行辦法ハ十七日行政院、十九日中央政治委員會ニ提出スル事ニナレリ

二、暫行辦法及日支間覺書ハ十三日總員其ノ他現地關係ノ確實ナル内諾ヲ取付ケタリ

三、外貨管理委員會案ニ付テハ十三日中國側ト大體話合ヒ纏リタルニ付十六日新通貨對策委員會ヲ開催ノ豫定ナリ

(案文別途空送)聲明案文ハ目下中國側ト打合セ中ナリ

四、銀行設立ニ關シ當方ハ先般來中國側ト打合中ノ處、本日

中國側ヨリ

(イ)銀行法

(ロ)暫行辦法

(ハ)財政部長聲明

(ニ)銀行役員ノ任命發表

ヲ來ル二十日同時ニ發表シ一月五日銀行創立致度旨申出

アリタルニ付目下協議中ナリ

五、新銀行理事ニ關シテハ中央銀行設立籌備委員會ノ現在委員十一名ヲ全部其ノ儘任命スルモノノ如シ

昭和15年12月17日

在南京日高大使館參事官より  
松岡外務大臣宛(電報)

## 中央儲備銀行設立に際し日中間覚書調印について

南京 12月17日後発

本省 12月18日後着

第六二四號(至急)

特第一一九號(興亞院經由)

十六日第三回新通貨對策委員會開催、審議ノ結果竝ニ之カ  
處置報告ス一、日支間極祕覺書ハ現地各機關ノ正式同意ヲ得タルニ付本  
十七日本官及周部長ノ間ニ於テ調印ヲ了シタリ(寫別途  
空送)二、外匯基金管理委員會章程及同申合要領孰レモ現地各機關  
ノ同意ヲ得タルニ付本十七日申合要領ハ本官及周部長ノ  
間ニ於テ調印ヲ了シタリ(寫別途空送)三、財政部長聲明文中ニ挿入セシムル日本側要求文言ニ關ス  
ル現地各機關ノ意見一致シ目下之ヲ基礎トシ中國側ニ於  
テ修文中ナリ入手次第追送ス

四、銀行設立ニ關スル日程ニ付テハ大體來ル二十日ヲ以テイ

銀行法(ロ)暫行辦法(ハ)暫行辦法第八條ノ規定ニ依ル財政法  
令(ニ)外匯基金管理委員會章程公布(ホ)財政部長聲明發表(ヘ)總裁其ノ他役員任命發表ヲ行ヒタル後翌二十一日ヲ以テ  
(イ)第一回銀行創立理事會開催(ロ)華興商業銀行ヨリノ借入  
實行(ハ)資本拂込(ニ)顧問ノ任命ヲ行ヒ從テ現在迄ノ開業ハ  
一月六日ニナルモノト豫定セラル仍テ右期日ヲ前提トシ  
目下銳意諸般ノ措置ヲ急キツツアリ

~~~~~

昭和15年12月20日

在南京日高大使館參事官より
松岡外務大臣宛(電報)

中央儲備銀行法および関連法令の發表について

南京 12月20日後発
本省 12月20日夜着

第六五一號

特第一二五號(興亞院經由)

中央儲備銀行設立ニ關スル發表振ニ付テハ外務大臣發本官
宛電第三九〇號ノ趣旨ニ依リ新聞記事指導要領(別途空送
ス)ヲ作成報道シ其ノ發表時期ニ關シテハ曩ニ特一一九及
一二〇ヲ以テ所報ノ通り中國側トモ充分打合ノ上昨十九日

午後六時中國側ヨリ「中央儲備銀行法」「整理貨幣暫行辦法」(十七日中央政治會議決定十九日立法院通過)「財政部外匯基金管理章程」(十七日中央政治會議決定十九日立法院通過)「關係財政部令」「財政部長聲明」及「幹部人事」總テ既報ノ通り發表セル處當地日華各新聞ハ一律二本二十日朝刊ニ登載セリ

尙右發表ニ依ル市場ノ影響ハ現在迄ノ所認メ難シ參考迄

~~~~~

850

昭和15年12月21日

在張家口渡辺總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

中央儲備銀行が設立されても蒙疆銀行の立場  
に何ら変化がない旨蒙疆銀行発表について

張家口 12月21日後発

本省 12月21日後着

第二三二一號

本官發南大宛電報

第五號

貴電合第一七〇號ニ關シ

同盟電ニ依リ當地ニ傳ハリタル財政部長聲明ハ聯銀券及華

興券ニ關シテハ特ニ言及セルモ蒙銀券ニ付テハ何等觸ルル所ナク從テ當地ノ一部ニハ多少ノ誤解ヲ有スルモアリ蒙古政府及蒙銀ノ切ナル希望ニ顧ミ軍及興亞院連絡部ト協議ノ上蒙銀副總裁ヲシテ談話形式ヲ以テ二十一日當地新聞ニ左記趣旨ヲ發表セシメタリ本件至急處理ノ爲經伺ノ違ナク右措置ニ出テタルニ付右御諒承請フ

蒙疆ハ高度自治制ヲ採リ居リ從テ中央儲備銀行設立セラルルモ蒙疆ノ經濟金融機構ニハ何等變化ナク獨立ノ發券銀行ヲ必要トスルハ勿論ナリ今回ノ聲明ニ蒙銀ニ付何等言及ナカリシハ之力爲ト思惟セラル新銀行設立セラルルモ蒙銀ノ地位ニハ何等影響ナク

從テ蒙銀券ノ發行流通ハ全然從來通ナリ今後益々蒙銀券ノ基礎強化ニ努メ一方新支那ノ通貨金融ノ健全ナル發達ニ協力セントス

(尙本文前提トシテ中央儲備銀行設立ヲ慶賀スルノ辭ヲ述フ)

~~~~~

851

昭和16年1月4日

在中国本多大使より
松岡外務大臣宛(電報)

全国經濟委員會への日本人顧問推薦方汪兆銘

要請について

付記 昭和十六年二月四日、閣議諒解

「青木顧問ノ身分地位ニ關スル件」

南京 1月4日後発

本省 1月4日夜着

第九號

往電第六六二號ニ關シ

三日本使汪主席ト會談ノ際汪ハ全國經濟委員會ノ問題ニ言及シ國民(政府)ニ於テハ今回行政院ニ全國經濟委員會ヲ設ケ行政院長同副院長及財政、工商、農礦、交通、鐵道ノ各部長等ヲ以テ之ヲ組織スルコトナレルカ委員會ハ經濟問題審議ノ最高機關トシテ日支經濟提携ノ如キ經濟開發ノ根本問題ヲ研究立案スルト共ニ差當リ食糧及物資統制等當面急ヲ要スル諸問題ノ調整法案ヲモ考究スル筈ニテ何レニセヨ日本側ト緊密ニ聯絡ヲ取ルニ非サレハ職務ヲ圓滿ニ遂行シ得サル次第ナルヲ以テ日本側ヨリ有力ナル顧問ノ推薦ヲ得度ク右ハ阿部大使ニモ御願致シ置キタルカ政府ニテハ右顧問部ノ顔觸決定ヲ俟チ執務ヲ開始スル方好都合ト認メ推

薦ヲ俟チ居ル次第ナルニ付至急御配慮ヲ得度シト申出テタリ尙本使ヨリ右顧問ノ顔觸ニ付意中ノ人ニテモアル次第ナリヤト尋ネタルニ例ヘハ石渡、青木兩氏ノ如キハ從來政府側ト種々折衝セラレタル經緯モアリ斯ノ如キ人ヲ得ラルレハ幸ナリト答ヘタリ就テハ冒頭電ノ次第モアリ至急御手配相成度シ

尙同委員會組織條例等詳細ハ十二月二十四日發支特第機密第七七號ニ依リ御承知相成度シ

(付記)

青木顧問ノ身分地位ニ關スル件

昭和十六年二月四日
閣議諒解

一、顧問ハ取敢ヘス全國經濟委員會ノ顧問トシテ派遣セラルルモ軍事關係ヲ除ク日支協力事項一般ニ付顧問タル職能ヲ果スモノタルコト

二、顧問ハ單ニ既決定事項ノ傳達役タルニ止マラス大使館側ニ於ケル諸政策ノ審議ニ付參畫シ得ルコトトシ大使館側ノ要望スル所ニ即應スル様國民政府ヲ内面指導スル職能

ヲ果スモノタルヘク之カ爲顧問ニハ外務大臣ヨリ閣議ニ諮リタル上公式ニ訓令(別紙)ヲ與ヘテ顧問ノ任務及責任ヲ明確ニスルコト

三、顧問ニハ若干名ノ顧問輔佐官ヲ附スルコトトシ其ノ取扱ニ付テハ本案ノ趣旨ニ準スルコト

四、顧問及同輔佐官ハ大使館ニモ席ヲ存スルモ主トシテ國民政府側ニ於テ常勤スルコト

備考

一、青木氏ノ外ニモ顧問ヲ派遣スルヤ否ヤニ付テハ同氏ノ意嚮ヲ尊重スルコトトシ此ノ場合ニハ同氏ヲ顧問(軍事關係ヲ除ク)ノ最上位トシ其ノ他ノ顧問トノ關係ニ關シ一定ノ準則ヲ定メ置クコト

二、本件及別紙訓令ハ外務大臣ヨリ大使ニ訓令スルコト

別紙

青木顧問ニ與フル外務大臣訓令

帝國政府ニ於テハ中華民國國民政府ノ要請ニ基キ今般貴下ヲ國民政府全國經濟委員會顧問トシテ就職相煩ハスコトトナリタルニ付テハ貴下ハ軍事關係以外ノ日支協力事項一般

ニ付顧問トシテ帝國政府ノ意ヲ體シ日支ノ新關係ニ即應スル如ク國民政府ノ適切ナル指導ヲ期セラレ度尙任務遂行ニ當リテハ在支帝國大使ト常時密接ナル連絡ヲ保持セラレ度シ

852

昭和16年1月8日
在上海堀内総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

中央儲備銀行開業に関する重慶側報道振り報告

上海 1月8日後発
本省 1月8日夜着

第二五號

七日附ノ當地反和平派諸新聞ハ中央儲備銀行業務開始ニ關シ支那金融業者及外國銀行等ハ夫々舊法幣ヲ支那唯一ノ通貨ト看做シ其ノ他ハ一切之ヲ收受セヌコトニ申合セタリトカ或ハ京滬(南京、上海)鐵道ハ新紙幣ノ受領ヲ拒絕シ又租界當局モ之カ受入ヲナスヤ否ヤ未定ナルノミナラス舊法幣同様關稅其ノ他納稅ニ使用シ得ルトノ南京政府ノ布告發セラレタルヤ否ヤモ不明ナリ等ノ記事及重慶ソウトウ報力中央儲備銀行ハ月額一千萬元餘ノ赤字財政切抜ケトシテ設立

サレタルモノニシテ資本金一億元ハ如何ナル法幣ヲ以テ充テタルモノナルヤ明カニサレ居ラサルノミナラス從來華興券カ軍票トノ摩擦防止ノ爲軍票六億元ニ對シ僅カ五百萬元ヲ發行シ得タルニ過キサリシ事實ニ鑑ミルモ中央儲備銀行ノ前途暗澹タルモノナリト評論シ居ル旨ノ六日發「ルーター」電等ヲ掲載シ居リ一方之ト對蹠的ニ英國ノ對支五百萬磅「クレヂット」ノ利用方ニ付近日中ニ商議開カルヘク又支那ノ公債ハ一齊ニ高値ヲ示セリトノ五日倫敦電及山西省方面ニ於ケル日本軍不敬日本國內政權不安惹起北京米兵暴行事件ニ關スル記事等ヲ「トツプ」又ハ大キク取扱ヒ居レリ

南大、北京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

853 昭和16年1月31日 在中国日高臨時代理大使より
松岡外務大臣宛(電報)

華中新米調達協定の南京政府履行状況について

南京 1月31日後発
本省 1月31日夜着

第六八號(至急)

貴電第三三號ニ關シ(蘇浙皖三省食米調達運搬ニ關スル件)本多大使へ

國民政府ニ於テハ「諒解事項」第二項ニ依ル採辦。義務一月末日迄三萬噸ニ對シ現在一千五百噸ヲ納入シタルノミナル爲第三項ニ依ル軍需米區域ノ移讓問題ニ付軍側ニ於テ一應考慮シタルモ本諒解事項締結ノ精神ニ鑑ミ中國側ノ食米採辦實力充分ナルコトカ明白ナル時期ニ於テ日本軍需米區域ヲ中國側ニ移讓スルノ方針ハ依然變更セス且一月末迄ニ中國側ノ納入數量尠カリシ原因ニ付テハ事情酌量スヘキモノ多々アルヲ認メ當分ノ間第三項ニ依ル軍需米區域移讓ヲ留保スルノミニテ依然右諒解事項ヲ繼續シ之ニ準據シ實施スルコトナリ其ノ旨軍ヨリ國民政府側ニ通達シタリ他方國民政府ニ於テハ三萬噸納入ヲ不取敢三月末迄ニ延期ヲ求メ軍側モ諒承シタリ二十九日土橋少將ヲガタ參謀一宮中佐等蕪湖ニ出張中國側現地機關ノ集米狀況ニ付説明ヲ聽取シタルカ宣傳(ノ爲)梅工商部長ノ蕪湖出張等ト相俟ツテ軍、中國側ノ協力關係ハ好轉シツツアリ

854

昭和16年2月4日

在香港矢野総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

中央儲備銀行券の受取りを中止するよう蔣介石が中国・交通兩行に命令したとの情報報告

香港 2月4日後発

本省 2月4日夜着

第六三號

四日李ホクトウノ内話左ノ通り(發表ナキ様致度シ)

一、中國、交通兩行ノ中央儲備銀行券取扱問題ニ關シ一月三十一日蔣介石自身ヨリ錢永銘、唐壽民、宋漢章、貝淞孫ニ對シ激越ナル詰問電報ヲ寄セ右ハ交敵[?]附近ノ行爲ナルヲ以テ之ヲ停止セシムヘク場合ニ依リテハ上海ノ右兩行ヲ閉鎖引揚クルモ差支ナキヲ以テ贖札ノ受取ヲ中止セシムヘク又新聞紙上ニ右趣旨ヲ聲明發表スヘシト命令セルヲ以テ三十一日及二日ノ兩日ニ亘リ關係者錢永銘宅ニ集合協議ノ結果上海ニ對シテハ爾後中央儲備銀行券ノ受取中止方命令スルト共二一日當地漢字紙ニ政府系銀行ハ中央儲備銀行券ヲ受取ラサル旨新聞社ノ入手セル記事トシテ發表セリ

二、右二ト同時ニ財政部ヨリモ命令來リ對策トシテ中央儲備

銀行ハ銀行公會上海票據交換所ニ加入セシメサル様措置

方指圖シ來レリ

右上海ヘハ別ニ通報濟

~~~~~

855

昭和16年3月5日

在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

汪兆銘が青木經濟顧問の就任幹旋に謝意を表し米穀問題へのわが方善処を要望について

南京 3月5日前発

本省 3月5日夜着

第一三三號(極秘)

一、本使四日歸任ノ挨拶旁汪主席ヲ訪問先ツ本使ヨリ歸任ノ際主席ヨリ依頼ノ傳言ヲ近衛總理ニ傳ヘタル處總理ハ痛ク主席ノ心境ニ同情シ其ノ苦心ハ重々察スルニ餘リアリ今後共出來得ル限りノ援助ヲ惜マサルヘキニ付御健闘ヲ祈ル旨ノ傳言ヲ託サレタリト述ヘ其ノ内容ヲ認メタル「メモ」ヲ手交シタルニ汪ハ本使ノ配慮ニ對シ感謝ノ意ヲ表シタル後總理ノ傳言ヲ聞キ勇氣百倍ノ感アリ此ノ上

ハ一層努力シテ期待ニ背カサルヲ誓フト答ヘタリ

二、次テ本使ヨリ歸朝ニ際シ依頼アリタル經濟顧問ノ人選ト米穀トノ問題ニ付前者ハ既ニ青木顧問ノ決定ヲ見後者ハ外務、陸軍各大臣ヲ始メ關係方面ニ篤ト問題ノ重大性ヲ説キ支那側ニ對スル同情の支援ヲ強調シタルカ政府首腦就中陸軍大臣モ深く同情セラレ現地當局ニモ何等カ指令シタリト推セラレ其ノ後現地ニ於ケル兩國當局者協力シテ仕事ヲ進メツツアル趣ニテ本件問題モ大體軌道ニ乘リ來レルハ同慶ノ至リナリト述ヘタルニ汪ハ青木顧問ノ就任ニ對スル斡旋ノ勞ヲ謝シタル後米穀問題ハ今猶懸案トシテ引續キ努力中ナルカ情勢ハ益險惡化シ前途樂觀ヲ許ササルモノアリ之カ善處方日夜苦慮シツツアル次第ナルカ過日モ佛印「タイ」國問調停決裂トノ報傳ヘラレタル時ハ外米購入ノ道スラ杜絶スルニアラスヤトテ一驚ヲ喫シタル程ナリトテ極メテ悲痛ナル面持ニテ訴ヘタリ依テ本使ヨリ最近兩國當局者モ眞劍ニ此ノ難關ヲ切抜ケントスル傾向トナレルハ問題解決ノ第一歩ヲ踏ミ出シタルモノト謂フヘク此ノ上ハ益一致協力忍耐シテ困難ヲ打開スルコトヲ切望シテ已マスト述ヘタリ

三、最後ニ汪ハ最近ノ消息ヲ御傳ヘスヘシトテ李長康ノ歸順ノ件ヲ説明セル後其ノ後モ蘇北ニ於ケル韓德鈞ノ舊部下十二箇旅(約三、四箇師團)ノ代表者昨日來寧シ當方ト歸順ノ打合セ中ナルカ若シ之ニ成功セハ蘇北方面ハ一段ト明朗化スルニ至ルヘシ重慶方面ノ情勢ハ國共ノ摩擦ト共ニ稍々動搖ノ兆アル模様ナルカ蔣介石ハ折角努力ヲ拂ヒ之カ彌縫策ヲ講スルト共ニ新四軍處分問題ニ困リ對蘇聯關係ヲ惡化セシメサル様細心ノ注意ヲ拂ヒ居ルモノノ如ク且軍隊ノ動搖ヲ防止スル爲多數ノ宣傳員ヲ前線ニ派遣シ(一)英米ハ全力ヲ舉ケテ重慶ヲ援助シツツアリ(二)日米戰爭ハ近ク勃發スヘク其ノ際ハ米國ノ潛水艦ハ南洋方面ニ於テ日本ノ海軍ニ大損害ヲ與ヘ得ヘシ等眞シヤカニ宣傳シ士氣ヲ鼓舞シツツアルコト最近廣東方面ヨリノ諜者ヨリ報告アリタルカ之ニ依ルモ重慶側ハ依然抗日繼續ノ肚ナリト見サルヘカラス從テ吾人トシテハ前回述ヘタルカ如ク政府管下ニ模範的施政ヲ行ヒ具體的事實ヲ以テ和平運動ノ有利ナルコトヲ國民ニ明示スル外ナシト信スト述ヘタリ

北大、上海へ轉電セリ

856

昭和16年3月8日 在中国本多大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

外米緊急輸入計画に対する日本側の協力を徐

良外交部長要請について

別電 昭和十六年三月八日發在中國本多大使より松

岡外務大臣宛第一四〇号

右要請文

南京 3月8日後發

本省 3月8日夜着

第一三九號(極祕)

一、<sup>(1)</sup>糧食管理委員會ノ日本軍需米納入ニ關シテハ前電後二月末迄蕪湖ニ於テ納入濟ノ數量五千五百噸(外ニ湖州ニ於テ委員會買約濟ノモノ五百五十噸、揚州ニ於テ買約濟ノモノ五百噸)三月二入りテヨリノ納入成績ハ一日平均百五十噸ナリ

二、前年度作柄良好ナラサリシコト(特ニ蕪湖方面)竝ニ減水ニテ運搬意ノ如クナラサルコト等ノ原因ニテ出廻リ少キ爲軍需米地區ニ於テハ軍ノ徵辦ニテ全ク残りナク又蕪湖蓄米委員ニ於テ全力ヲ舉ケテ軍ニ納入シ居リ一般民需米

ハ日二日ニ不足甚シク(米產地タル蘇州方面ニ於テサハ相當逼迫シ居ル由ノ報告アリ)治安上ノ問題トシテモ考慮ヲ要スルヤニ認メラレ客月二十三日ノ上海ニ於ケル會議(往電特第二七號)ニ於テモ結局外米輸入ノ緊要ナルコトニ一致セル次第ナルカ支那側ニ於テモ米不足ノ現狀竝ニ端境期ニ備ヘサレハ政府トシテ重大ナル局面ニ逢着スヘシトナシ最高首腦部ニ於テ委員會ヲシテ差當リ少クトモ約五萬噸ノ外米輸入ヲナサシムル計畫ヲ建テ要旨別電第一四〇號ノ通り外交部長ヨリ本使宛右ニ付援助方申出來レリ

三、<sup>(2)</sup>委員會ノ資金ハ現在主トシテ蕪湖ニ於ケル軍需米購入ニ集中シアリ其ノ總額一千三百五十萬元(內財政部ヨリ七百萬、當館斡旋六百萬、其ノ他五十萬元)ナルモ外米五萬噸購入ニハ更ニ約五千萬元ヲ要スヘク(資金ノ廻轉ヲ考フレハ必スシモ全額ハ要セサルヘキモ)支那側トシテハ現在財政極メテ窮屈ナルモ行政院會議ノ結果緊急支出トシテ差當リ一千万元ヲ豫定シ更ニ二千万元程度ヲ各方面ヨリ(民間ヲ含ム)捻出スヘク努力スルコトナレリ我方トシテハ前電ノ如ク右資金ノ一部トシテ華中連絡

部中心ニ二千萬元程度借入ノ斡旋ヲスヘキ豫定ナリ尙五萬噸ノ數字ハ必スシモ之ヲ以テ本年末迄ノ供給不足ヲ補ヒ得ルト云フニハアラサルモ之ヲ手引トシテ退藏米ヲ引出シ得ヘク兩々相俟ツテ米不足竝ニ米價調節ニ對處セントスルモノナリ

四、本件ニ關シテハ現地軍其ノ他關係方面ト協議ノ上追テ當方ノ意見稟申スヘキモ買付資金ノミナラス買付實施及輸入ニ關シ日本側ニ於テ特ニ援助ヲ必要トスルモノト認メラルルニ付然ルヘク御配慮相成度シ

興亞院へ轉報アリタシ

上海ヨリ華中連絡部へ轉報アリタシ

上海へ轉電セリ

(別電)

第一四〇號

最近各省民食ノ缺乏甚タシク救済ノ請願各地ヨリ殺到シ應急ノ處置ヲ執ラサレハ憂慮スヘキ事態發生ノ惧アリ依テ政

南京 3月8日後発  
本省 3月8日夜着

府ハ最少限外米五萬噸ヲ四、五、六ノ三箇月中ニ購入配給シタキ處資金買付及運輸等ニ付テハ政府ノ力未タ及ハス貴國各方面ノ協助ニ依頼スルニアラサレハ實現不可能ナルニ付當方ニ代ツテ買付ヲ爲シ本件解決ニ資セラレタク貴大使幸ニ中國民食ニ對シテ深甚ナル同情ヲ寄セラルルヲ以テ右特ニ御依頼致度ク何分ノ儀御回答賜ハリ度シ

~~~~~

857

昭和16年3月18日

在上海堀内総領事より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

南京政府の外米緊急輸入計画に対するわが方

協力の実施案決定について

上海 3月18日後発
本省 3月18日夜着

第三八〇號

支那側外米輸入問題ニ關シ其ノ後大使館、連絡部等ニ於テ國民政府側ノ要望ニ基キ計畫研究中ナリシカ十六日左記要領ノ買付實施案ヲ決定シ二十日過キ日高參事官以下關係官數名上京中央當局ニ説明協力ヲ求ムルコトナレル趣ナリ
一、本件ノ處理ハ行政院糧食管理委員會主催スルモノトシ上

海平價委員會等ハ其ノ具體化ニ應シ利用ス

二、日本側ノ援助ハ主トシテ所要資金一部ノ借上ケ斡旋、買付竝ニ輸送トス

三、買付竝ニ輸入數量ハ不取敢六月迄二五萬噸トス

四、所要資金ハ日本側銀行(華興ヲ含ム)手持法幣資金中ヨリ

概ネ二千萬元ヲ斡旋ス(擔保トシテ財政部剩餘トシテ正

金ニ預金中ノ米貨ヲ留保セシム)

國民政府自體ニ於テ速ニ三千萬元ヲ目標トシ調達ヲ計ル

モノトス

五、買付及輸送ハ日本側ニ委託セシメ日本政府ノ外米購入計

畫ト競合ヲ避ケシム

六、現地買付ハ日本ノ外米買付機構ニ從ヒ之ヲ代行セシム

七、所要船舶ハ現地ニ於テ調達ニ努ムルコトトシ不足分ハ内

地配船計畫ニ織込ム

八、本件外米ハ租界外占據地住民ニ配給スルヲ建前トス

九、奥地配給ハ主トシテ糧食管理委員會指導中ノ支那側機構

ヲ通シ行ハシム

一〇、糧食問題ノ緊急性ニ鑑ミ(三)ノ一部トシテ差當リ正金ヲ

シテ五百萬元ヲ管理委員會ニ融資セシメ五千噸ノ碎米ヲ

西貢ヨリ輸入セシム

二、資金ヲ他へ借用セシメサルト共ニ返済上遺憾ナカラシム

北大、天津へ轉電セリ

~~~~~

858

昭和16年5月22日

在中国日高臨時代理大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

軍票高騰に關しわが方の善処を汪兆銘要請に

ついて

南京 5月22日後発

本省 5月22日夜着

第三三一號

二十一日青木顧問汪主席ト會談ノ際主席ハ各地軍票相場昂騰ノ影響ニ付説明シ殊ニ廣東ニ於テハ相場三十元トナリ影響深刻ヲ加ヘツアリ省政府財政ハ之カ爲負擔著シク増加シ又中央直轄部隊ハ法幣支給ナル爲動搖ノ虞アリ國民政府ニ於テモ對策考究中ナルカ日本當局ニ於テモ軍票相場安定ニ付一段ノ配意ヲ願度キ旨申出アリタル趣ナリ(尙同日汪主席ノ紹介ニテ面談セル廣東省主席陳耀祖<sup>祖</sup>モ略々同様ノ陳

情アリタル由)

本電本多大使及關係各省へ御示シヲ請フ  
上海へ轉電セリ

859  
昭和16年7月10日  
在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

新通貨が法幣に代わることは困難であり日本  
側は法幣攻撃工作を止めるべきとの米国人通  
貨専門家の意見について

上海 7月10日後発  
本省 7月10日夜着

第一二二七號

八日島田商務官目下當地滯在中ノ外匯<sup>平準</sup>委員會米國側委員「フォックス」ヲ訪問會談セル要旨御參考迄左ノ通り  
一、現在日本及南京政府側ニテ執リツツアル法幣攻撃工作ハ寔ニ不可解ニテ之カ爲自分等ノ仕事ハ甚タシク困難ナリ  
(島田ヨリ日本側ヨリ見タル實狀ヲ篤ト説明ス)經濟的商業的ニ見レハ法幣ノ安定ハ何人モ反對ナキ所ト思ハルル一方軍票ト新法幣トノ關係カ今後適當ニ調整セラルルモ

ノトスルモ新通貨カ法幣ニ代ハルコトハ困難ナルヘシ

二、島田ヨリ米國側ハ其ノ援助ニ依リ法幣ノ價值ヲ維持スル確信アリヤトノ問ニ對シ勿論其ノ積リナルモ日本側ノ法幣攻撃カ進捗スレハ困難ハ増加スヘシト繰返ヘシ重慶側ノ法幣發行ハ百億ヲ超ヘ「インフレ」ノ徵候歴然タルモノアリ民衆ノ法幣ニ對スル信賴ハ漸減シ居リ餘程ノ援助ナクシテハ安定困難ナラン更ニ最近ノ「ルーマー」ニ依レハ重慶側ハ上海地區ヲ切離ス意嚮(四日「ロング」ハ本官ニ對シ「フォ」ハ本件重慶側ノ計畫ニ對スル米國側ノ態度ヲ決定スル資料ヲ集メニ來滬中ナルカ英國側銀行ハ之ニ反對ナリト内話セリ)ノ由ナルカ右ニ對スル意見如何トノ問ニ對シテハ確言ヲ避ケ上海ハ將來モ依然支那ノ商業活動ノ中心地タルヘク之カ放棄ハ何人モ利セスト言ヘルニ之ヲ肯定シ上海ノ繁榮ハ結構ナルモ日本側ノ勢力下ニ在リテ北支ニ於ケル實例ノ如ク他國ノ利益ニ對シ差別的措置カ執ラレサル様望ム又法幣ノ安定點ニ關シテハ現在ノ程度位カ適當ナルヘシト洩ラシ自分(「フォ」ハ最モ「フェア」ナル案ヲ支持シタキ考ヘナリト言ヘリ  
三、島田ヨリ私見トシテ米國ノ法幣援助カ結局重慶ニ對スル



軍需品ノ供給ニ便宜ヲ與ヘ抗戰力ヲ増加スルコトトナル  
ハ當然ニテ之カ爲日米間ノ溝ヲ益々深ムルコトヲ憂フト  
言ヘルニ對シ「フ」ハ眞面目ニ聽入り法幣安定ハ軍需品  
ノ供給トハ無關係ナリ右ハ誤解ナキヲ望ム自分ハ政治的  
軍事的ノ關係ト離レ純金融の立場ヨリ研究シ居レルモノ  
ニテ日本ノ經濟事情ニ付テモ多少ノ智識アルモ適當ノ資  
料アラハ貰ヒタシト言ヘリ  
尙同人等ハ茲ニ週間位滯滬ノ豫定ナル趣ナリ  
南大、北大ヘ轉電セリ

860

昭和16年7月26日

在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

米国の対日資産凍結令発動に対し中国におい  
て執るべき対応策を現地関係機関で検討中  
について

付記

昭和十六年七月二十六日發及川(源七)興亜院

総務長官心得より各連絡部長官宛電報第三五

二五号

米国の資産凍結令発動に対し中国において執

るべき対処方策について

上海 7月26日後發

本省 7月26日夜着

第一三五八號

(編注)

一、米國ノ對日資金凍結令發動ニ關聯スル現地對策ニ關シニ  
十六日陸軍側ノ招集ニ依リ關係機關係官參集シ七月二十  
一日附興亞院連絡委員會決定ノ對處方策ヲ中心ニ協議シ  
タル結果同方策一ノ支那對第三國輸出調整方ニ關シテハ  
偶々當館ニ於テ援蔣物資輸出禁絶措置ノ擴大強化方具體  
案ヲ研究中ナルヲ以テ之ヲ中心ニ更ニ協議研究ヲ進ムル  
コトトシ同指導方策二乃至三ノ米人財産ノ處分其ノ他特  
定經濟取引ノ制限ハ左シテ實效ナカルヘキモ主トシテ財  
務官ニ於テ今般發布セラルヘキ大藏省令ノ現地ニ於ケル  
適用ニ付又其ノ他ノ方策トシテ考フル物資搬出入制限ノ  
強化ニ付テハ陸海軍經理部ニ於テ夫々具體案ヲ研究シ其  
ノ結果ヲ二十九日當館ニ持寄り更ニ協議檢討ヲ加ヘタル  
上現地案ヲ取纏メ之ヲ中央ニ具申スルコトニ打合セタリ  
三、尙當方トシテハ報復力更ニ先方ノ報復ヲ誘發スル惧アリ  
現地ニ於ケル措置ハ凡テ中央ノ指令ヲ俟チテ機宜ノ適用



ヲ爲スコト肝要ナル旨強調シ置ケリ

追而本件ニ關シテハ陸海興亞院財務官等何レモ數日前ヨリ中央ヨリ訓令又ハ通報ニ接シ居タルニ反シ當館ハ何等通報ニ接シ居ラサリシ處右ハ何等手違トハ存セラルルモ今後此ノ種問題ニ關シテハ出來得ル限り早日ニ御通報相成度シ尙本件ニ關スル心得事項隨時御指令ヲ請フ

南大、漢口、北京、天津、廣東、青島へ轉電セリ

編 注 『日本外交文書 日米交渉——一九四一年——』上卷第119

文書参照。

# (付記)

昭和十六年七月二十六日

總務長官心得

各連絡部長官、青島所長、廣東書記官、漢口事務官宛

東京發電第三五二五號

米國ノ資金凍結令發動ニ關スル件

米國ノ資金凍結令日本及支那ニ對シ昨日發動本日ヨリ實施、右ニ關シ支那ニ於テ我方ノ採ルベキ對策昨日附經發第一四

○二號ヲ以テ空送シタル處飛機途中不時着ニ付不取敢其ノ内容左ノ通り電報ス

尙右各對策ノ何レヲ實施スベキヤハ追而中央ヨリ指令スルニ付此ノ際現地限りノ處置ヲ採ラザル様嚴ニ注意セラレ度、米國ノ資金凍結令發動ニ關聯シ支那ニ於テ執ルベキ對處方策ニ關スル件

國際情勢ノ變轉ニ伴ヒ米國ガ我方ニ對シ資金凍結令ヲ發動シ來ルコトアルベキ場合ニ於テ本邦ノ執ルベキ對策ニ關シテハ目下大藏省ニ於テ極祕裡ニ外國爲替管理法ニ基ク新省令ヲ準備致居ル處大藏省ヨリ支那ニ於テモ右ニ即應シ機宜ノ措置ヲ講ジ我方ノ報復措置ヲ效果のナラシムル様依頼越アリタルニ付テハ別紙<sup>(マ)</sup>「米國ノ資金凍結令發動ニ關聯シ支那ニ於テ執ルベキ對處方策」ニ依リ此ノ際速ニ日本側限リニ於テ極祕裡ニ各場合ニ於ケル具體的準備ヲ進メ置カレ中央ノ指示ニ從ヒ機宜ノ處置ヲ講ジ得ル様御配意相成度此段及通牒候也

追而

一、本件對處方策ハ米國ノ資金凍結令ノ内容及其ノ實際の運用狀況ト日本ニ於テ執ルベキ之ガ對策竝其ノ運

用ノ實情トニ即應セシムルノ要アルニ付各場合ニ於ケル對策ノ選擇並其ノ實施ニ付テハ必ズ中央ノ指示ヲ俟ツテ實施ニ移ス様取計相成度爲念

二、尙別紙<sup>(一)</sup>對處方策ノ第二要領ノ二項ニ關スル領事館令竝ニ同三項ニ關スル支那側法令等ニ關シテハ目下研究中ナルニ付參考ノ爲別途送付可致

三、米國ノ資金凍結令發動ニ關聯シ支那ニ於テ執ルヘキ對處方策(昭和十六年七月二十一日 興亞院連絡委員會決定)

#### 第一、方 針

米國ノ資金凍結令發動ニ關聯シ支那ニ於テ執ルヘキ對處方策ハ米國ノ資金凍結令ノ内容及其ノ實際的運用狀況ニ對應シ日滿支一體ノ見地ヨリ日本ニ於テ執ルヘキ對策ニ即應シ措置シ得ル如ク準備シ置キ之ガ實施ニ當リテハ中央ノ指示ニ從ヒ機宜ノ處置ヲ講スル如クスルモノトス

#### 第二、要 領

一、防衛の措置ヲ主トスル場合

昭和十六年七月十九日附經發第一、三五九號「支那對第三國輸出ノ調整ニ關スル件」ノ發動乃至之ガ運

用ノ緩急ニ依リ對處スルモノトス  
二、日本側ノミ報復の措置ヲ執ル場合

前記一ノ措置ヲ講スルノ外日本側ハ領事館令等ニ依リ日本ニ於テ執ルヘキ對策ノ内容ニ即應シ日本人ト米國人トノ間ノ財産(不動産、動産、其ノ他ノ物權、債權等)ノ處分、其他特定ノ經濟取引ヲ許可事項トシ之カ運用ノ緩急ニ依リ對處スルモノトス

三、日支協力シ報復の措置ヲ執ル場合

前記一及二ノ措置ヲ講スルノ外更ニ支那側ヲシテ適宜政府ノ法令等ニ依リ日本側ニ於テ執ルヘキ措置ニ即應シ支那人(治外法權ヲ享有セサル第三國人ヲ含ム)ト米國人トノ間ノ財産(不動産、動産、其ノ他ノ物權、債權等)ノ處分其ノ他特定ノ經濟取引ヲ許可事項トシ之カ運用ノ緩急ニ依リ對處セシムルモノトス

(註)前記一、二、三、ノ措置ノ實施ニ當リ租界ニ對スル工作ハ他ノ界工作ト即應スル程度以上ニ出サ

ルモノトス

四、實力ヲ行使スル場合

本場合ハ凡ユル手段ヲ講シ要スレハ我カ武力ノ掩護ノ下ニ租界内外ヲ通シ米國及米國人ノ諸權益ヲ處理スルモノトス但シ本場合ニ於テハ全面的破局ヲ惹起スルコトアルヲ豫期スルヲ要ス

#### 備考

一、本件施策ハ米國ヲ對象トセルモノナルモ英米共同ノ經濟壓迫ノ豫想セラルル現狀ニ鑑ミ英國ニ對スル施策ニ付テモ豫メ之カ準備ヲ整ヘ置クモノトス  
二、英米在支權益ニ付テハ之カ破壊ノ防止竝ニ保全等ニ關シ豫メ周到ナル準備ヲ整ヘ置キ狀況ニ應シ機宜ノ措置ヲ講スルモノトス

宛北京、張家口、青島、上海、厦門、漢口、廣東

861

昭和16年7月28日 在中国日高臨時代理大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結へのわが方対応措置に関し南京  
政府が協力方応諾について

南京 7月28日後発  
本省 7月28日夜着

第五二三號(至急)

往電第五二二號ニ關シ

當方措置ニ應シ國民政府ニ於テモ必要ナル措置ヲ講スルコトニ付テハ汪主席ヲ始メ關係方面何レモ快諾目下急速手續進行中ニシテ明二十九日朝行政院會議ニ付議シタル上財政部令トシテ同日正午頃公布ノ豫定ナリ但シ汪主席ヨリ北支ニ於テ別個ノ發令ヲ必要トスル場合ニモ明日國民政府ノ發令ヲ待チ發令スル様大使館ニ於テ連絡ヲ講セラレタシトノ強キ希望申出アリ右申出ハ無理ナラヌコトト思考セラル處貴電第三二六號(二)御來示ノ次第モアリ爾後ニ於テ然ルヘク措置スル心算ナリ不取敢  
北大、上海、張家口へ轉電セリ

862

昭和16年7月30日 在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結への対応策として輸出制限措置  
および輸出許可品目を協議決定について

別電一 昭和十六年七月三十日發在上海堀内総領事より  
り豊田外務大臣宛第一三九〇号

## 輸出制限措置要領

二 昭和十六年七月三十日發在上海堀内総領事より

豊田外務大臣宛第一三九一號

輸出許可品目

上海 7月30日後發

本省 7月30日夜着

## 第一三八九號

一、<sup>(1)</sup>二十九日午前當館ニ陸海興亞院財務官各係官(南京側ヨリ大使館及總軍係官出席)ノ出席ヲ求メ外國人關係取引取締ニ關スル告示ノ正式館令化ニ伴フ修正意見及船舶出港制限措置等ト共ニ當館提案ノ別電第一三九〇號ノ輸出制限措置要領ヲ協議決定シ引續キ同日午後ノ會議ニ於テ別電第一三九一號ノ輸出許可十四品目ノ協議決定ヲ見タリ

二、本輸出許可制ノ實施手續ハ大體四月七日以降實施ノ援蔣物資輸出禁止措置(往電第五三八號御參照)及佛印間例外措置(往電第六八〇號御參照)

ニ準シ實際上ノ許可ハ協力形式上海關監督ヲシテ之ヲ行ハシムルコトトスル意嚮ナルモ必要ニ應シテハ海關側ヨ

リノ書類ヲ直接我方ニ提示セシメ當館中心トナリ審議決定スルコトト致度キ所存ナリ

三、要許可品目ノ選定ニ當リテハ大體左ノ標準ニ據レリ

(イ)左記品目ハ主トシテ資源確保ノ目的ニ出テタルモノニテ從テ之等 品目ハ仕向地乃至仕向國ノ態度如何ニ拘

ラス原則トシテ禁止ニ準スル取扱ヲ爲ス意嚮ナリ

別電第一三九一號中ノ二、三、四、六、七、九、一〇、一一、一二、一三、

(ロ)左記品目ハ仕向地乃至仕向國ノ態度如何ニ依リ許可ヲ

決定スル豫定ナリ

別電第一三九一號中ノ五、八、<sup>(2)</sup>三、<sup>(3)</sup>四、

(ハ)尙豚毛、生絲、茶、(註、品目一ツ不明)及同製品、桐油等主トシテ第三國向物資ニ付テハ支那民生上ノ見地或ハ第三國物資入手ノ爲入用ノ可能性等ヲ考慮シ特ニ此ノ際ハ削除スルコトトセリ

四、屢次申進ノ如ク當方ニ於テハ本件輸出許可制ハ主トシテ援蔣輸送路ノ禁絶ノ意味ニテ考究シ居タルモノカ重要物資確保並ニ特定國側凍結令等ニ對スル對抗措置ヲモ含メ取纏メタルモノニシテ許可品目ノ範圍擴大方意見モアリタルカ國民政府側指導ノ便宜、積出許可制度運用ノ圓滑

等ノ見地ヨリスルモ此ノ際先ツ前記程度ニテ「スター  
ト」スルコト適當ト認メタル次第御含置相成度シ  
別電ト共ニ南大、漢口、北京、天津、青島、厦門、廣東、  
香港ヘ轉電セリ

(別電一)

上海 7月30日後発  
本省 7月30日夜着

第一三九〇號

第一、方針

援蔣物資輸送禁絶措置強化、重要資源確保並ニ外國人關係  
取引取締補足ノ目的ヲ以テ上海海關ヲシテ特定ノ品目ノ輸  
出許可制度ヲ實施セシムルモノトス  
本件取締ハ我方指導監督ノ下ニ中華民國海關ヲシテ之ニ當  
ラシメ我方之ヲ補足援助スルモノトス

第二、要領

一、輸出要許可品目

別表ノ通り

備考、本年四月七日以降上海海關ヲシテ實施セシメ居ル

「ビルマ」等向ケ援蔣物資ニ九品目ノ輸出禁止措置ハ現  
行ノ儘トス

二、取締機關

中華民國上海海關トス

但シ之ヲ補足援助スル爲

(イ)左記ニ依リ輸出取締委員會(假稱)ヲ設ケ要許可品目  
ニ付 許可不許可ヲ審議決定スルモノトス

(ロ)特定數ノ邦人海關職員ヲ蘇州河以南租界碼頭其ノ他外  
國側碼頭ニ勤務セシメ積込並ニ積付ノ監視強化スルモ  
ノトス

備考、本件ハ既ニ實施中ナルカ更ニ之カ強化方考究中  
ナリ

(ハ)必要アル場合ニハ陸海軍部隊ノ協力ヲ求メシムルモノ  
トス

三、輸出取締委員會

(イ)本委員會ハ外務、陸軍、海軍及興亞院等團體諸機關並  
ニ要スレハ民間専門家ヲ以テ構成スルモノトス

(ロ)本委員會ハ

(一)圓 援蔣之 物資輸送取締ノ目的ヨリ海關ヲ通シ必要ナル書

類其ノ他ノ證據ヲ提示セシメ貨物ノ種類及品質荷送人仕向ケ人竝ニ仕向ケ地等ヲ檢討シ許可不許可ヲ審議決定スルモノトス

之カ爲各機關ノ有スル華商ノ敵性ニ關スル諜報網ヲ強化シ之ヲ利用スルト共ニ仕向ケ地ニ於ケル我方各機關ト隨時聯絡スルモノトス

(二)資源確保及外國人關係取引取締補足ノ目的ヨリ我方所要數量及前記(一)ノ諸標準ニ付檢討ノ上許可不許可ヲ審議決定スルモノトス

備考、本委員會ハ國民政府側ノ本制度ニ關スル態度決定ノ上發動スルコトト豫定シ海關側ト我方トノ聯絡ハ差當リ從前通りトス

#### 四、支那側指導

國民政府財政部ヨリ命令ヲ發セシメ之ニ基キ海關ヲシテ本件實施ニ必要ナル告示ヲ發セシムルモノトス

#### (別電二)

上海 7月30日後發  
本省 7月30日夜着

#### 第一三九一號

(括弧内ハ輸出稅番)

一、皮革類(二三、二四、二七乙)

二、糠及麩(四五)

三、米及粳(五一)

四、麥及小麥粉(五三、四七甲)

五、染料及塗料(五五—五八、二四〇、二四二、二四八、二

七〇)

六、食用油(八九—九三、九七一—一〇〇、一〇二)

七、護謄(一四五甲)

八、石炭(一五〇)

九、棉花及屑棉(一七四、一七五)

一〇、大麻、黃麻及苧麻(一七七一—一七九)

二、羊毛(一八九)

三、鑽石(二二四)

三、金屬及同製品(二一五—二二五)

四、化學藥品(醫用及工業用)(二三六—三三八、二四一、二

四六、二四五、二四九)

昭和16年7月31日  
在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結に対応した輸出制限措置は無用  
の混乱を招来しないよう制限品目を限定し漸  
次拡大していく方針について

上海 7月31日後発  
本省 7月31日夜着

第一四三四號

貴電第七五九號ニ關シ(英米等ニ對スル輸出許可制ノ件)

上海ニ於テハ往電第一三八九號ノ通り特定品目ニ限り許可  
制實施方現地各機關ノ意見一致ヲ見既ニ南大ニ於テ國民政  
府側ト折衝中ナル處當地ハ北支ノ如ク爲替集中制ヲ實施セ  
ラルル地方乃至ハ廣東、海口ニ對シ一部貿易統制ヲ行ヒ居  
ル土地ト異リ何等貿易統制ノ經驗ナク器物ノ整備モ今ヨリ  
手始メル事情ナリ加之當港ヨリノ輸出額莫大ニテ例ヘハ去  
ル六月ノ上海港ノ對米(屬領ヲ含ム)輸出額五千八百萬元對  
英帝國輸出額一億一千五百萬元及對蘭領東印度一千一百萬  
元合計約一億八千四百萬元ニ達シ

總輸出額ノ八五%ヲ占メ居ルヲ以テ(右ハ全支總輸出額ノ

五三%ニ相當ス)之等特定國向一般輸出許可制度ノ實施ニ  
對スル手續煩雜ヲ極メ其ノ結果少クトモ當初ハ事實上輸出  
ノ「オウルストップ」トナリ(一方上海ヨリノ物資ノ流出  
ヲ止メントスル餘リ大局ヲ無視セントスル傾向現地日本側  
一部ニ存ス)當地市場ニ無用ノ混亂ヲ招來スルノミナラス  
引イテハ國民政府ノ財源ニモ惡影響ヲ及ホスヘキヲ以テ此  
ノ際ハ冒頭拙電ノ趣旨ニ依リ重要資源確保上特ニ重要ナラ  
サル品目及主トシテ第三國向輸出物資ニシテ支那ノ民生上  
乃至ハ國民政府財政上必要品目ヲ除外シ先ツ特定ノ品目ニ  
對スル許可制ヲ實施スル事トシテ(右特定ノ十四品目ノミ  
ニテ輸出額月五千萬元ニ達ス)

(3) 將來我方貿易統制機構整備ト國際情勢ノ趨勢ニ應シ(既ニ  
判明セル英米等ノ出方ヲ見ルモ支那ハ英米等トノ貿易上或  
ル程度ノ調節機能ヲ發揮シ得ルヤニ認メラレ此際我方トシ  
テ餘リ形式的報復措置ヲ支那ニ於テ急クハ得策ナラサルヘ  
シ)適當ナル品目ノ加減乃至仕向地別許可制ノ擴大ヲ圖ル  
方針ニテ進ミタキ所存ナルニ付テハ此等諸點特ニ上海ノ特  
殊性ヲ充分考慮ノ上一先ツ往電第一三八九號ニテ進ムコト  
ヲ御承認アリタシ日高公使ト打合濟

南京、北京、天津、青島、厦門、廣東へ轉電セリ

864

昭和16年8月4日

在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結の背景に法幣安定資金を有効に  
運用せしめんとする英米側の意図があるなど  
本邦銀行関係者の観測報告

上海 8月4日後発

本省 8月4日夜着

第一四四七號

當地本邦銀行筋ニ於テハ今次ノ資金ノ凍結ニ關シ大要左ノ  
如キ觀測ヲ爲シ居レリ

一、「フォックス」ハ豫テヨリ法幣安定資金ヲ有效ニ運用シ  
重慶財政ノ建直ヲナス爲ニハ對日、支資産凍結ヲ至急實  
施スル必要アリト主張シタルカ偶々過日來滬ノ際香上支  
配人「ヘンチマン」カ右「フ」ノ主張ニ全幅的支持ヲ與  
ヘタル結果「フ」ハ米國ニ對シ至急凍結令ノ發動方ヲ要  
請セル趣ニテ一部ニ於テハ右「フ」ノ要請カ米國ヲシテ  
今回ノ對支凍結措置ヲ取ラシメタル要因ナリト見居レリ

二、米國ハ日本ノ報復の措置カ意外ニ嚴重ナリシヲ以テ一時  
石油ノ禁輸緩和等ノ態度ヲ示シタルモ右ハ米國ノ常套手  
段ナルヲ以テウカウカ此ノ手ニ乗セラレサル様注意ノ要  
アリ上海ニテハ今回ノ英米側ノ措置ニ對シ事實上有效ナ  
ル金融上ノ報復措置ヲ講スル餘地ナキヲ以テ海關ニ依ル  
輸出禁止等ニ依リ對應策ヲ講スル外ナカルヘシ但之トテ  
モ英米側ノ必需品ハ殆ントナキヲ以テ大局のニハ左程ノ  
影響ハナカルヘキモ唯當地英米商社ニハ致命的の打撃ヲ與  
ヘ得ヘシ

三、凍結令ノ發動ハ法幣ノ對外相場ニハ左シタル影響ナカリ  
シモ物價ハ弗々昂騰シ始メ(經濟週報參照)國內ノ購買力  
低下率ト對外相場トノ中ニ相當ノ懸隔ヲ生シツツアリ今  
後ハ右形勢益々激化スヘク更ニ貿易面ノ八〇%ヲ占ムル  
第三國貿易カ停止ヲ見ルニ於テハ物價ノ激騰必至ニテ暴  
動發生ノ懸念サヘ盛ニ傳ヘラレ居レリ

四、右法幣不安ノ結果華商筋ニテ儲備銀行ニ預金ノ振替ヲナ  
ス者激増シツツアルハ注意ニ値スヘク凍結直前七月二十  
五日ノ同行預金總額ハ五千七百萬元餘ナリシカ八月一日  
ニハ八千百萬元ニ達セル趣ナリ



北京(大)、天津、南大、香港へ轉電セリ

865

昭和16年8月5日

在北京土田大使館參事官より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結への対応措置に関し独仏伊三国  
へ協力要請について

北京 8月5日後発  
本省 8月5日夜着

第五二〇號

<sup>(1)</sup>今次支那ニ於ケル日支双方ノ英米等資産凍結ニ付テハ治外法權及租界ノ存在等大ナル拔ケ道アリ其ノ效果ハ鮮カラス減殺セラルル次第ナルカ去迎無理押ニ治外法權及租界ノ問題ニ手ヲ觸ルルコトハ御來示ノ通り現在ノ段階ニ於テハ不適當ト認メラレ之カ對策ニ付種々攻究シタル結果先ツ獨伊ノ兩國ハ我ノ佛印進駐ニ贊意ヲ表シ居リ又佛國ハ佛印共同防衛ニ同意シタル次第ニモアリ我ノ佛印進駐ニ對シ執リタル英米等ノ日支資産凍結ニ對スル我方自衛ノ措置タル英米資産凍結ニ對シテハ是等三國ハ當然我方ニ協力スヘキ筋合ニアリト認メ(獨ハ治外法權ヲ享有セサルモ實際上ハ治外

法權の取扱ヲ受ケ居リ

<sup>(2)</sup>獨ニ對シ治外法權無キコトヲ表面ヨリ突キ附クルハ諸般ノ關係上面白カラスト認メ治外法權ノ問題ニ觸レスシテ協力ヲ求ムルコトトセリ(二日及四日ノ兩日ニ亘リ當地伊太利大使館「ストラネオ」參事官、「コスム」佛國大使、獨逸大使館「ホルネマン」書記官(「アンテンブルグ」參事官及「フウプス」參事官出張不在)ヲ往訪シ前記趣旨ニ基キ先方ノ協力ヲ要請セル「エイド、メモアール」(寫郵送ス)ヲ手交シ我方ノ希望ヲ篤ト説明シタルニ何レモ我方申入ヲ了承シ協力ヲ承諾セリ先方ノ希望モアリ追テ凍結措置ノ要領ヲ英譯ノ上送付スルコトトセリ其ノ際ノ先方應答振參考迄左ノ通り電報ス

(一)伊太利「ス」參事官ハ御申入ノ趣旨了承セルニ付協力致スヘシト陳ヘタリ

(二)<sup>(3)</sup>佛國「コ」大使ハ「ドクウ」總督ヨリ只今電報接受セル計リナルカ日本軍ノ佛印上陸ハ極メテ鮮カニ行ハレ軍隊ノ進駐ナルニ拘ラス何等紛糾等起ラザリシハ同慶ノ至ナリ北支ニ於ケル自分ノ管下ノ機關カ日本側ノ凍結ニ關シ日本ノ困ル様ナ又日本ヲ困惑サセル様ナ事ハセサル様直

第一四七四號

866

昭和16年8月7日

在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)米国の対日資産凍結措置および上海での輸出  
制限措置に関する米國領事の内話報告

上海 8月7日後発

本省 8月7日夜着

ニ指令スヘク從テ斯ル事ノ起ラサルコトヲ御約束スルコトヲ得日本側ニ於テ佛國側ノ協力ニ付積極的ニ希望セラルル點アラハ内容ヲ具體(的)ニ示サレ度ト述ヘタリ

(三)獨逸「ホ」書記官ハ占領地ニ於ケル獨逸人ハ占領地ニ於ケル法律ニ從フヘキ旨ノ本國政府ヨリノ訓令アルヲ以テ今回ノ凍結ニ關スル規則ニ從フコトハ問題無シ御申入ノ次第ハ北支管下ノ各商工會議所ニ傳達シ置クヘシ兎ニ角既ニ敵國人トハ原則トシテ取引ヲ停止セシメ居リ又第三國人ヲ通シ「カムフラージユ」スルカ如キコトハ無シト想像セラルルモ第三國經由ノ取引ニ付テハ只今ノ處何トモ申上ケラレスト述ヘタリ

~~~~~

(1) 米國資金凍結令及我方對策ニ關シ七日當地米國首席領事「スタントン」カ往訪ノ田中ニ對シ内話セル要點左ノ通り

(イ)米國政府カ政府系四銀行ニ對シ外國爲替ノ特別許可ヲ與ヘタルハ事實ナルカ右ハ重慶政府ト華府トノ話合ニ基クモノニテ當地右銀行ニ對スル許可モ華府財務當局ヨリ直接發出セラレタルモノニテ米國總領事館ハ本件ニハ直接關與シ居ラス(往電第一四七三號ノ米國總領事館ヲ通シ許可サル旨ノ新聞報ハ誤ナル由)

(ロ)在支米國系銀行ノ「ローカル、デポジット」ニ關シテハ凍結令ノ適用ヲ受ケ居ラス從前通りナリ

(ハ)米國側凍結令ニ對スル日本側對策ニ關シ當地方ニ於テハ北支方面ト異リ(特ニ芝罘ハ亂暴ナリ)其ノ處置振リ甚タ合理的ナルヲ以テ米人ハ一般ニ好印象ヲ有シ居レリ

(ニ)輸出許可制發表ニ關シテモ品目ノ制定等合理的ニテ綿糸布ノ如キモ一時禁止サレタルカ其ノ後解除セラレ日本側カ不必要ニ上海港ノ對外貿易ヲ杜絶(三)スルカ如キ意圖ナキヲ安堵シ居ルモ更ニ目下申請中ノ米商ノ輸出許可數件カ承認セラルルナラハ米國總領事館ハ其ノ旨早速華府宛電報スヘキヲ以テ米本國ニ於テモ好印象ヲ受ケ何等

好反響アルヘシト思料ス云々

南大、青島、廣東、厦門、香港ニ轉電セリ

~~~~~

867 昭和16年8月12日

在中國日高臨時代理大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結に關連して芝罘や青島などで執  
られてゐる措置は中央の方針を逸脱し対外的  
惡影響が憂慮されるので是正方意見具申

南京 8月12日後発

本省 8月12日夜着

第五六〇號(館長符號扱、至急)

凍結問題ニ關聯シ芝罘、青島、汕頭、海南島等ニ於テ外國  
人及其ノ關係支那人ニ對シ執ラレ居ル措置(出入者ノ檢索、  
書類ノ取調保證等)ハ甚シク累次訓令ノ中央ノ趣旨ヲ逸脱  
シ居リ英米等ニ於ケル對日強硬輿論煽動ノ口實ニ供セラル  
ル等大局上ニ及ホス惡影響ハ寒心ニ堪ヘスト憂慮セラル然  
ルニ之等措置ハ我方及支那側ノ凍結令ト直接關係ナク右ヲ  
第三國人ニモ擴張適用セントスル趣旨ニ出テ居ルカ又ハ中  
央ヨリ指示アリタル防衛措置ヲ理由トシテ主トシテ外務官

憲以外ノ手ニ於テ行ヒ居ルモノト認メラル

就テハ中央ニ於テ軍側トモ御聯絡ノ上斯ル無統制且有有害ナ  
ル措置ハ差控ヘシムル様至急有效適切ナル措置ヲ報<sup>(報)</sup>ラルル  
コト極メテ肝要ナリト存ス

尙當地ニ於テモ陸海軍側ニ對シテハ緊密ニ聯絡シ善處方依  
頼中ナリ

北大、天津、上海、廣東、青島、芝罘、汕頭、海口へ轉電  
セリ

~~~~~

868 昭和16年8月16日

在天津加藤總領事より
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結への対応措置ないしは中国にお
ける一般的經濟統制上の取締に關し仏伊英独
四國へ協力要請について

天津 8月16日後発

本省 8月16日夜着

第二六九號(外機密)

⁽¹⁾ 北大發貴大臣宛電報第五二一號ニ關シ

本件ハ關係各機關ト協議ノ上取計フコト適當ナリト認メタ

ルニ付當地軍、憲兵隊、特務機關及市政府各係官ノ來集ヲ求メ冒頭電報ノ趣旨ニ基キ協議ヲ遂ケタル處其ノ結果(イ)此ノ際凍結令關係ノミナラス從來我方ノ實施シ居ル各般ノ經濟統制ノ運用ニ付テモ第三國側ノ協力ヲ要求スルコト(ロ)從テ冒頭電ノ如ク佛伊兩租界ニ限ラス英及獨ニ對シテモ同様協力方申入ルルコト(但シ英ニ對シテハ凍結令關係ヲ除外シ單ニ前記一般の經濟統制上ノ取締ノ見地ヨリ)(ハ)佛伊及英ニ對シテハ右協力ノ具體的方策ノ一トシテ不取敢我方ノ推薦スル日本人聯絡員(或ハ顧問)ヲ各租界内(工部局邊リ)ニ常駐シ之ヲシテ各租界當局ト密接ニ聯絡シツツ凍結令關係ノ取締(佛伊ノミ)及一般經濟統制取締ニ關スル事務ヲ管掌セシメ我方ノ取締ノ實效ヲ擧クルコト

(ニ)支那側ヨリモ同様申入ヲ爲スコト(但最初ハ支那側ヨリモ前項(ハ)聯絡員常駐ノ要請ヲ爲スコトニ打合濟ナリシカ後ニ支那側ハ日本側ノ聯絡員ニ便乘スレハ足ル理由ニ依リ本件聯絡ニ關スル申入レハ見合スコトナレリ)ニ意見一致セルヲ以テ各國宛覺書ヲ作成ノ上本十六日本官ハ佛伊領事ヲ往訪シ前記趣旨ニテ申入ヲ爲シ又英獨總領事ニ對シテハ大隈ヲシテ同様申入ヲ爲サシメタルカ其ノ情況往電第二

七〇號ノ通りナリ

北京、南京、上海、漢口、厦門、廣東、海口へ轉電セリ

~~~~~

869 昭和16年8月17日

在天津加藤總領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結への対応措置ないしは中国における一般的經濟統制上の取締に関するわが方協力要請への各国回答振りについて

天津 8月17日後発

本省 8月17日夜着

第二七〇號

(1) 十六日午前本官ハ先ツ伊太利領事ヲ往訪シ往電第二六九號ノ趣旨ヲ口頭ニテ申入レ更ニ覺書ヲ手交シタル處同領事ハ本件ノ如キ政治的事項ハ同官ノ權限外ニ屬スルニ付大使及本國ヘ請訓ノ上回答致スヘシト答ヘタルニ付本官ハ兩國樞軸ノ密接ナル關係ニ鑑ミ又北京ニテハ既ニ土田參事官ノ申込ニ對シ貴大使館側ハ原則的同意ヲ表セラレタルニ顧ミ快諾ヲ得ルコトヲ確信スル旨強調セル處土田參事官ノ申入レハ既ニ承知シ居リ兩國ノ關係ハ申ス迄モナキ儀乍ラ自分ノ

地位トシテハ今直ニ回答致兼ヌル次第ナリト述ヘタルニ付  
成ル可ク速ニ回答ヲ得タキ旨申シ置キタリ

佛國領事ハ病氣缺勤中ナリシヲ以テ副領事ニ面接同様申入  
ノ上覺書ヲ交付シタル處自分ハ貴方申出ニ對シテハ格別困  
難ナカルヘシト思考スルモ領事ニ了解後刻回答致スヘシト  
答ヘタリ其ノ後同副領事ハ本十六日午後當館ニ來訪シ館員  
ニ對シ佛國領事ノ命ニ依ル趣ヲ以テ本官申入レニ對シ主義  
上協力ニ異存ナキモ一應大使ニ請訓ノ要アルニ付具體的ニ  
協力措置ノ性質ヲ承知シタキ旨申述ヘタル趣ナリ

英國側<sup>(2)</sup>ニ對シテハ大隈領事ヲシテ總領事代理ヲ往訪申入レ  
ノ上覺書ヲ交付セシメタル處同官ハ一應研究ノ上回答致ス  
ヘシトテ明答ヲ避ケタル趣ナリ

同領事ハ次テ獨逸總領事ニ面接同様申入レノ上覺書ヲ交付  
シタル處同總領事ハ獨逸側トシテハ日本側ノ經濟措置ニ對  
シテ充分協力ノ用意アリ先般日本側ノ凍結令發布ヲ見タル  
際モ直ニ獨逸商業會議所ニ對シテ之ニ違反スカ如キ行爲ヲ  
爲ササル様命令シ同商議ニテハ右ノ趣旨ヲ同狀トシテ會員  
ニ周知方取計ヒ濟ナリ今後トモ何等具體的措置ニ付御要求  
アラハ遠慮無ク申込マレ度キ旨答ヘタル趣ナリ

北大、上海、南大、漢口、厦門、廣東、海口へ轉電セリ

870 昭和16年8月21日 在天津加藤總領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

對日資産凍結への対応措置および中国におけ  
る一般的經濟統制上の取締に関する協力を仏  
國側承諾について

付記 昭和十六年十月十六日發在天津加藤總領事よ

り豊田外務大臣宛電報第三四二号

右協力に関する天津仏租界当局への具体的要

望事項

天津 8月21日後發  
本省 8月21日夜着

第二七八號

往電第二七〇號ニ關シ

二十一日午前當地佛國領事本官ヲ來訪曩ニ本官ヨリ申入レ  
ノ凍結令竝ニ經濟統制ニ對スル佛租界當局ノ協力竝ニ日本  
人顧問駐在ノ件ハ何等異存ナキニ付何ナリト具體案申出ア  
リタキ旨回答シ來タレリ尙同領事ハ本件ニ付テハ「コス

ム」大使トモ話合濟ナル旨又日本側ノ凍結措置ニ付テハ當地自國銀行商社ニ對シ之ニ即應ノ爲自發的ニ勸告シ置ケルカ尙御希望ノ事項アラハ申出ラレタシト述ヘ頗ル協調的ノ態度ヲ示セリ

南大、北京、上海、漢口、廣東、海口、厦門へ轉電セリ

(付記)

天津 10月16日後發

本省 10月16日夜着

第三四二號

往電第二七八號ニ關シ

佛租界當局ニ對スル我方具體的ノ要望事項ニ關シテハ當地竝ニ北京關係機關ト協議中ナリシ處大體

一、法幣ノ流通禁止

二、銀行、銀號ノ指導、検査、取締

三、商社ニ對スル取締

四、資産凍結措置ノ徹底

等ノ範圍内ニ於テ行フコトシ成案ヲ得タルニ付近ク佛國側ト交渉ヲ開始スル手筈トナリ居レリ但シ實際交渉ニ當リ

テハ全部ノ實行ヲ一舉ニ迫ルコトナク緊急且可能ノ事項ヨリ逐次要求スル筈ナリ

又本件實施ノ完璧ヲ期スル爲當館ノ他軍、興亞院、天津市公署、商工會議所、正金、聯銀ヲ以テ指導會議ヲ組織シテ指導方針ヲ定メ更ニ右ノ内ヨリ當館、市公署、聯銀代表者竝ニ我方ヨリ派遣スヘキ工部局常駐員カ指導聯絡員トシテ租界當局トノ直接聯絡ニ當ル事トセリ尙常駐員ハ目下當館ニ於テ人選中ナリ

南大、上海大、北大、漢口、厦門、廣東、海口へ轉電セリ



871

昭和16年9月13日

在中国本多大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

南京政府への国策会社移譲問題をめぐる児玉

中支那振興会社總裁と落合興亜院華中連絡部

次長の各談話について

付記 昭和十六年十月十六日、外務省作成

「日支全面和平ト所謂國策會社ノ調整ニ關シ  
(未定稿)」

南京 9月13日後発  
本省 9月13日夜着

第六四九號

八日來滬セル中支振興兒玉總裁ハ同日新聞記者會見談ニ於テ國策會社調整問題ニ付本多大使ト意見ノ相違無シト前提シツツ會社經營ヲ支那側ニ移讓スルハ時期尙早ナリトノ趣旨ヲ述ヘ右談話ハ上海東京等邦字紙ニ大々の二報道セラレ日華兩新聞ノ社説等ニモ論及セラルルニ至リタルニ付十日落合連絡部次長ヨリ國策會社調整問題ニ付テハ眞相誤電サレ居ル點モアル處全部ノ會社ノ經營移讓ノ尙早ナルハ勿論ナルモ現在既ニ移讓シ差支無キモノモアリ右ハ日華共存共榮ノ大局の立場ヨリ中央ノ指示ニ從ヒ決定サルヘキ問題ニテ現地機關ハ斯ル立場ヨリ調査研究中ナルニ付關係會社モ當局ヲ信賴シ安心セラレタシト云々トノ談話ヲ發表セル北大、上海、漢口、廣東、香港ヘ轉電セリ

(付記)

日支全面和平ト所謂國策會社ノ調整ニ關シ(未定稿)

昭和十六年十月十六日

一、序言

支那ニ於ケル所謂日支經濟提携ノ現狀ハ日支國交調整ノ癌トモ稱シ得ヘク經濟關係ノ現狀ヲ如何ニ調整スヘキヤハ全面和平ノ問題トモ關聯シ最モ複雑且困難ノ問題ト思考セラル以下簡單ニ日支經濟提携諸原則決定ノ經緯、經濟提携原則ニ對スル支那側ノ主張及我方最後ノ肚ニ關シ略述スルコト左ノ通り

二、我方内部決定ノ經緯

昭和十三年一月十一日御前會議決定「支那事變根本方針」ハ「日滿支三國ハ產業經濟等ニ關シ長短相補、有無相通ノ趣旨ニ基キ共同互惠ヲ約定スルコト」「第三國ノ權益ハ之ヲ尊重シ專ラ自由競争ニ依リ對支經濟發展ニ優位ヲ獲得スルコトヲ期スコト」及「日滿支三國ハ資源ノ開發、關稅、交易、航空、交通、通信等ニ關シ所要ノ協定ヲ締結スルコト」ヲ決定シ又

昭和十三年十一月三十日御前會議決定「日支新關係調整方針」ハ「資源ノ利用ニ關シテハ北支、蒙疆ニ於テ日滿ノ不足資源就中埋藏資源ヲ求ムルヲ以テ施策ノ重點トシ支那ハ共同防衛並經濟的結合ノ見地ヨリ是ニ特別ノ便宜



ヲ供與シ其他ノ地域ニ於テモ特定資源ノ開發ニ關シ經濟的結合ノ見地ヨリ必要ナル便宜ヲ供與ス

一般産業ニ付テハ努メテ支那側ノ事業ヲ尊重シ日本ハ是ニ必要ナル援助ヲ與フ

農業ニ關シテハ之カ改良ヲ援助シ支那民生ノ安定ニ資スルト共ニ日本ノ所要原料資源ノ培養ヲ圖ル

支那ニ於ケル交通、通信、氣象竝測量ノ發達ニ關シテハ日本ハ所要ノ援助乃至協力ヲ與フ

全支ニ於ケル航空ノ發達、北支ニ於ケル鐵道（隴海線ヲ含ム）日支間及支那沿岸ニ於ケル主要港灣、揚子江ニ於ケル水運竝北支及揚子江下流ニ於ケル通信ハ日支交通協力ノ重點トス」ト規定シ

右趣旨ハ昭和十三年十二月二十二日所謂近衛聲明ニ於テ「日支經濟關係ニ付テハ日本側ハ何等支那ニ於テ經濟的獨占ヲ行ハントスルモノニ非ス又新シキ東亞ヲ理解シ是ニ即應シテ行動セントスル善意ノ第三國ノ利益ヲ制限スルカ如キコトヲ支那ニ求ムルモノニモ非ス唯飽迄日支ノ提携ト合作トヲシテ實效アラシメンコトヲ期スルモノテアル」ト表明セラレタリ

右趣旨ハ昭和十五年十一月三十日締結ノ日支基本條約第六條ニ於テ「兩國政府ハ長短相補ト有無相通スルノ趣旨ニ基キ且平等互惠ノ原則ニ依リ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フヘシ

中華民國政府ハ華北及蒙疆ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ニ關シ兩國緊密ニ協力シテ之ヲ開發スルコトヲ約諾ス中華民國政府ハ其他ノ地域ニ於ケル國防上必要ナル特定資源ノ開發ニ關シ日本國及支那國民ニ對シ必要ナル便宜ヲ提供スヘシ

前項ノ資源ノ利用ニ關シテハ中華民國ノ需要ヲ考慮シ中華民國政府ハ日本國及日本國臣民ニ對シ積極の充分ナル便宜ヲ提供スルモノトス

兩國政府ハ一般通商ヲ振興シ及兩國間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシムル爲必要ナル措置ヲ講スヘシ兩國政府ハ揚子江下流地域ニ於ケル通商交易ノ増進竝ニ日本國ト華北、蒙疆トノ間ニ於ケル物資需給ノ合理化ニ付テハ特ニ緊密ニ協力スヘシ

日本國政府ハ中華民國ニ於ケル産業、金融、交通、通信等ノ復興發達ニ付兩國間ノ協議ニ依リ中華民國ニ對シ必



要ナル援助乃至協力ヲ爲スヘシ」ト規定セラレタリ

尙北支那開發株式會社及中支那振興株式會社設立ノ基礎ヲナセル「事變對處要綱」(昭和十二年十二月二十四日閣議決定)ハ「北支經濟開發ノ目標ハ日滿經濟ノ綜合的關係ヲ補強シ以テ日滿支提携、共榮實現ノ基礎ヲ確立スルニ在リ」トナシ「開發ノ實施ニ際シテハ緩急ヲ誤ラサル様措置スルト共ニ努メテ支那側ヲ表面ニ立テ經濟的壓迫ヲ與フルカ如キ感ヲ懷カシメサルカ如クス」ヘキ旨記述シ開發ニ當リテハ支那側資本ノ利用ニ努ムルト共ニ支那側企業トノ協調ヲ圖ルモノトシ又第三國ノ協調的投資ハ之ヲ認メ北支ニ於ケル列國ノ既存經濟利益ハ事情ノ許ス限り之ヲ尊重スヘキ旨ヲ述ヘ居ルモ國策會社經營事業ノ範圍トシテ主要交通、運輸事業(港灣及道路ヲ含ム)主要通信事業、主要發送電事業、主要鑛產事業、鹽業及鹽利用工業等廣汎ナル活動ヲ認メ居レリ

### 三、經濟提携ニ對スル支那側ノ主張

支那側ニ於テハ昭和十四年六月十五日汪兆銘記「中國主權尊重原則實行ニ關シ日本ニ對スル要望」ニ於テ日本カ眞ニ中國ノ主權ヲ尊重セラレントスル眞意ヲ支那ノ同志

及國民ニ納得セシムルニ足ル事實ヲ示サレンコトヲ要望シタル後經濟事項ニ關シ

(一)軍事期間中國ニ於ケル日本ノ機關或ハ個人ノ爲ニ占領又ハ沒收セラレタル中國ノ公營及私營ノ工場、航空、鑛山及商店ハ速ニ之ヲ中國側ニ返還セラレ度別ニ適當ナル合辦法ヲ規定シ度シ

(二)現在合辦中ノ公私事業ニシテ個有資産ノ評價適正ヲ缺クモノハ客觀的標準ニ基キ再評價スルコトヲ致度

(三)合資經營ノ公私事業ニ對シ日本側カ株券等ヲ提供シテ實際上ノ出資ヲ行ヒ居ラサルモノアルハ不適當ナルヲ以テ是正セラレ度

(四)合資經營ノ公私事業ニシテ日本側ノ資本額ハ百分ノ四十九ヲ超過スルヲ得サルコトヲ致度

(五)合資經營ノ公私事業ノ最高主權ハ固ヨリ中國ニ存スルモノタルコトヲ要ス

旨ヲ申出テタルカ

昭和十四年十二月三十日附「日支新關係調整ニ關スル協議書類」ノ交渉ニ當リテハ北支蒙疆ニ於ケル特定資源就中國防上必要ナル埋藏資源ノ開發及利用ニ關シ同意ヲ與

ヘタルモ先ツ特定資源ノ何物タルカヲ具體的ニ例示センコトヲ要求スルト共ニ(鐵、石炭及輕金屬ノ程度ニ限ラントセリ)日本側ニ對スル右供給ニ當リテハ支那側ノ需要ヲ妨ケサル範圍ニ於テ之ヲナサントシ且本條項ヲ一定期間ニ限定センコトヲ主張シタリ尙日支協力事項トシテ交通、通信、氣象及測量ノ發達ニ關シ日本カ支那トノ協議ニ基キ支那ニ所要ノ援助乃至協力ヲ與フルコト規定セラレタルモ是カ具體的ニテ鐵道ニ關シテハ最モ強硬ナル主張アリ、結局全支ノ鐵道ハ國有國營トシ(祕密諒解事項第四參照)尙北支ノ鐵道ニ關シテハ機密諒解事項第二ニ於テ「北支鐵道ハ國有國營トシ京山鐵道、京包鐵道及膠濟鐵道ハ中央政府主管部ト北支政務委員會トヨリ成ル北支鐵道管理委員會之カ管理經營ニ當リ之ヲ華北交通會社ニ委託經營セシム。委託經營ノ年限ハ二十年トス」ト定メ漸ク妥結ヲ見タリ(即チ國策會社中軍側ニ於テ最モ強硬ニ主張シタル華北交通會社サヘ本諒解事項ニ依レハ二十年ニシテ消滅スルコトトナリ居ル次第ナリ)全支ニ於ケル航空ハ新設中華航空會社ノ外中國歐亞兩航空會社ノ制度ヲ斟酌シテ調整センコトヲ主張シ有線電報

ハ是非共國有國營トセンコトヲ主張シテ何レモ右ノ通り決定ヲ見居レリ(祕密諒解事項第四參照)尙前記中國主權尊重原則實行ニ關スル中國側要望ニ關聯スル事項トシテハ別ニ祕密諒解事項第七ニ於テ軍管理工場、鑛山及商店ノ返還ニ關スル件、合辦事業ノ調整整理ニ關スル件(固有資産ノ評價適正ヲ缺クモノニ對スル再評價)合辦事業ノ出資割合ニ關スル件(合辦事業ノ日本側出資割合ハ百分ノ四十五ヲ超過セサルコト北支ノ國防上必要ナル特定事業ノ日本側出資割合ハ百分ノ五十五ヲ超過セサルコト)等規定セラレタリ

追テ昭和十三年十一月二十日附「日華協議記錄」ハ經濟合作ニ對スル日本ノ優先權ヲ認ムルコト華北資源開發ニ關シ日本ニ特別ノ便利ヲ供與スヘキコトヲ認メタルモ支那側ノ主張ニ依リ「右優先權トハ列國ト同一條件ノ場合ニ日本ニ優先權ヲ供與スル意トス」トノ諒解事項ヲ附セリ。

#### 四、調整ニ關スル最後ノ腹案

日支全面和平成立ノ場合ニ於ケル所謂國策會社<sup>(策カ)</sup>ノ調整ニ關シテハ前記廟議決定及支那側ノ主張等ヲ考慮スルノ外、

日米關係、其他世界和局等全般的ノコトヲモ考慮ニ入レ  
日支全面和平成立ノ爲要スレハ左記程度ノ大讓歩ヲ爲ス  
覺悟ヲ要ス(内約ニ依レハ支那ハ日支善隣結合關係ヲ具  
現スル爲兩國ノ協力事項ニ關シ齟齬遺漏ナキ様密ニ日本  
大使ト連絡スルコトトナリ居ルノミナラス財政經濟自然  
科學ニ關シテハ各技術顧問ヲ招聘スルコトヲ承諾シ居ル  
次第二付最惡ノ場合ニハ華北交通會社ノミ位ニテ満足セ  
サルヘカラサル場合モ豫想セラル)

(一)日本軍駐屯地域ニ存在スル鐵道、航空、通信、主要港  
灣及水路ニ關シテノミ軍事上ノ必要事項ニ關シ日本軍  
ノ要求ニ應シ得ルカ如キ仕組(條約ノ締結竝ニ會社ノ  
特權及機構)トナシ置クコト

(二)國策會社及小會社ノ業務範圍ハ北支ニ於ケル鐵道、通  
信、鑛山(鐵、石炭等最小限度ノ資源ニ限ル)ノ三種目  
ニ限定シ其他ノ經濟提携ハ支那側ノ主張ヲ入レ文字通  
リノ平等互惠主義ニ依ルコト

(三)右(二)以外ノ支那特殊法人ノ有スル特權(別添資料參照)  
ハ之ヲ廢止スルコト

(四)航空事業ニ關シテハ前記祕密諒解事項第四ノ趣旨ニ準

シ中華航空會社ヲ改組調整スルコト

(五)中支那振興會社ハ專ラ日支協力事項ニ關スル對支技術  
的援助、農業ノ改良、日支人ニ對スル金融等ヲ主要業  
務トスル普通ノ會社ニ改組スルコト

前記(二)及(四)ヲ除ク北支開發會社關係亦同シ

~~~~~

872

昭和16年9月23日 在中国本多大使より
豊田外務大臣宛(電報)

華中新米調達に關し總軍と南京政府との間に
新規合意成立について

南京 9月23日後發
本省 9月23日夜着

第六六七號

蘇浙贛三省ニ於ケル本年新米ノ調達運搬ニ關スル日本陸軍
國民政府糧食管理委員會ト諒解事項ハ九月十八日成立シタ
リ(詳細別途空送)前年度諒解事項トノ主要ナル相異左ノ如
シ

一、國民政府側ハ三萬噸ノ義務數量ヲ免レ
二、食米運搬許可ニ關シ國民政府ノ權限増大シ

三日本軍軍需米區域擴大セルコト但シ擴大セル部分ハ日本
軍ノ豫定量調達後ハ逐次支那側ニ移讓スルコトセリ
尙日本海軍ト糧食委員會トノ諒解事項モ同様ノ趣旨ニテ進
捗中ニテ近日成立ノ豫定ナリ
大臣ヨリ興亞院ニ上海ヨリ華中ニ轉報アリタシ
上海ヘ轉電セリ

873

昭和16年10月23日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

法幣暴落の影響に関する消息筋の観測報道報告

上海 10月23日後発
本省 10月23日夜着

第一九四五號

二十三日上海發「ユー、ピー」ハ法幣暴落ニ關スル消息通
ノ觀測トシテ要旨左ノ通り發電シ居レリ
法幣安定委員會ハ法幣支持ヲ放棄セルモノノ如ク其ノ結果
占領地域内ニ於テハ南京側新紙幣ニ對スル需要著シク増加
シ居ル處「コ克蘭」來滬セハ委員會ノ態度ハ判明スヘシ
法幣崩壞ノ場合ニハ法幣ハ非占領地域ニ流出シ「インフ

レ」ニ拍車ヲ掛クル事トナルヘク占領地域ニ於テハ南京側
紙幣カ一般ニ流通スルニ至リ南京政府ノ威信ヲ増大スルノ
ミナラス從來親重慶のナリシ支那財界モ南京ヲ支持スルニ
至ルヘシ
北大、香港、南大ヘ轉電セリ

874

昭和16年10月28日

在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

資産凍結による貿易減少などに対し海關收入
確保のため具体的施策検討方意見具申

上海 10月28日後発
本省 10月28日夜着

第一九七六號(極秘)

最近ノ國際情勢殊ニ英米資産凍結後ニ於ケル貿易ノ減少ニ
加ヘ今次法幣ノ慘落ニ依リ海關收入ハ著シク減少セル一方
物價ノ暴騰ニ依リ國民政府ノ一般諸經費ハ益々膨張シツツ
アリ至急何等海關收入確保ノ具體的施策ヲ構スル必要アル
(講カ)
次第ナルカ右ハ國民政府ノ財政對策トモ關聯アリ既ニ中央
ニ於テモ御考究ノコトト存スルモ當館トシテハ差當リ海關

税關係左記諸項ニ付具體案ヲ研究作成ノ上比較的實現容易ナルモノヨリ逐次之ヲ實施スルコト最モ妥當ナリト思考シ居ル次第ナリ
就テハ本省ニ於テモ右至急御研究ノ上何分ノ御指示相煩度シ

一、稅率改正(從量、從價ノ均衡是正贅澤品ニ對スル増稅等)
二、金單位制度再檢討

三、免稅通關物資ニ對スル徵稅(主トシテ軍票交換用物資尤モ軍票物資中現在免稅ヲ受ケ居ル物ハ單ニ工業藥品染料竝ニ織物ノ一部ニ過キス)
附加稅課徵

南大、北大、天津へ轉電セリ

875

昭和16年11月9日
在中國本多大使より
東郷外務大臣宛(電報)

法幣下落を念頭に置いた通貨対策委員会の南
京政府に対する財政金融指導方針について

南京 11月9日後発
本省 11月9日夜着

第七八三號(部外祕)

中央儲備銀行券ノ法幣引離シ問題ニ關シテハ通貨對策委員會ニ於テ數回會合シ各種對策ヲ考究シタル結果國際情勢ノ急變ナキ限りハ法幣ハ前途漸落ノ步調ヲ辿ルヘク右見透シノ下ニ法幣下落物價騰貴ニ對シテハ財政收入ノ増加ヲ圖リ善處スルノ外ナシトノ結論ニ達シタリ

財政收入ノ増加ハ結局直接間接我方ニ影響シ來ルハ遺憾ナル次第ナルモ大體九日現地連絡委員會ニ於テ法幣下落ニ伴フ財政金融政策竝ニ國府來年度上半期豫算指導ニ關シ左記要旨ノ決定ヲ見タリ詳細ハ九日上海發歸京ノ青木顧問ヨリ説明アル筈、尙書類空送ス(本電興亞院ニ轉報アリタシ)

左記

一、財政金融對策

(イ)緊急措置スヘキ事項トシテハ後記豫算指導案ニ基キ措置スルト共ニ物價抑制防禦ヲ考慮ス又此ノ際非常時局ヲモ考慮シ速ニ新券ノ流通化問題ヲ圖ルコトトシ之カ爲緊急的十億元ノ新券印刷ヲ東京ニ對シ注文スルコト
(ロ)新券ノ切離シハ將來舊法幣力全般の下落ヲ辿リ相當低落セルトキ又ハ國際的非常時勃發其ノ他ノ理由ニ依リ

崩壞の暴落ヲ爲ストキ之ヲ實施シ日本圓ニ對スル(軍票)合理的比率ニテ價值基準ヲ定メ之ヲ維持ノ爲必要ニ應シ儲備銀行所有資金外債積立金ノ使用ヲ考慮ス尙其ノ際ハ日支間同一層緊密ニ連絡ヲ保ツコトトス

三、豫算指導

(イ) 歳出ハ本年度下半年豫算三千九百萬元ヲ据置トスルモ官吏増俸ノ爲豫項^(算カ)一千萬元ヲ計上シ合計四千九百萬元ヲ目標トス尙歳出ニ付テハ經常費、臨時費ノ區分ヲ明カニスルト共ニ豫備金ノ支出ヲ檢討ス

(ロ) 右ニ對シ現在ノ歳入ヲ以テシテハ約一千八百萬元ノ不足ヲ生スルニ付之ヲ補填策トシテ(一)輸入税及轉口税中從量税品目ニ對シ夫々五割乃至十割ノ附加税(二)綿糸布、小麥粉統税ノ十割引上(三)輸入葉煙草輸入竝ニ國內生産ノ砂糖、化粧品、茶、桐油、禽毛、豚毛等ニ對シ然ルヘキ形式ニ依リ新ニ課税ス(四)其ノ他通行税新設(五)鑛產物(鐵鑛)ノ税ノ實施(六)北支、武漢、廣東ヨリノ送金増額(七)外債及總稅務司署經費ニ重積立ノ停止ヲ行フ外(八)運轉資金ノ不足ハ歲計剩餘ヲ使用スルコトトシ(九)尙外債積立金ハ必要ニ應シ使用スルコトトス

上海へ轉電セリ

876

昭和16年11月11日 興亜院會議決定

「對支通貨政策ノ整備強化ニ關スル當面ノ緊急對策」

對支通貨政策ノ整備強化ニ關スル當面ノ緊急對策

昭和十六年十一月十一日

興亞院會議決定

第一、方針

刻下ノ急迫セル國際情勢竝舊法幣崩落ノ現狀等ニ鑑ミ對支通貨政策ニ關スル當面施策ノ重點ハ之ヲ國際關係急轉ノ場合ニ對處スベキ態勢ノ整備促進及特ニ中支新法幣ヲシテ何時ニテモ舊法幣ニ代替スルヲ得シムル爲管理通貨タルノ強固ナル基礎ノ確立具現ニ置クコトトシ此際格段ノ決意ノ下ニ出來得ル限り速ニ所要ノ施策ヲ行フモノトス

本件施策ニ伴フ具體的重要措置ノ實行ニ當リテハ今後現實ニ發生スベキ狀勢ノ推移ニ即應シ中央、現地緊密ナル

連繫ヲ保持シ機宜ヲ得シムル如ク配意スルモノトス

第二、要領

一、國際關係急轉ヲ豫想シ各地域ニ於ケル中心通貨ヲ現狀ニ即シ確立スルモノトス、即チ

(イ)北支及蒙疆ニ付テハ聯銀券及蒙銀券ヲ以テ其ノ中心通貨トスル現行政策ヲ依然推進セシムルモノトス、且日本圓トノ等價方針ニ付テモ亦當面之ヲ堅持スルコトトシ將來ノ方策ニ關シテハ中支ノ通貨措置等ト關聯シ別途慎重考究スルモノトス

(ロ)中支ニ付テハ此際積極的ニ新法幣ノ基礎確立竝流通擴充方策ニ努ムルト共ニ之ト即應シ舊法幣ニ對シテハ敵性通貨タルノ本質ニ徹底シ之ガ流通制限ヲ逐次實行シ國際關係急轉ノ場合等ニ於テハ其ノ際ニ於ケル舊法幣ノ動向ト充分睨合スノ要アルモ新舊兩法幣ノ等價關係ヲ切斷セシムルコトト豫定シ一切ノ施策ヲ準備スルモノトス

軍票ト新法幣トノ關係ニ付テハ慎重考慮スルモノトス

(ハ)南支ニ付テハ概ネ中支ニ準ジ施策ス但シ海南島ニ付

テハ別途慎重考究スルモノトス

二、支那各地域通貨ノ發行準備ハ何レモ之ヲ特別圓又ハ金圓ニ置カシムル樣施策シ各地域ト佛印、泰等ノ東亞共榮圈內各地トノ間及各地域相互間ノ決濟又ハ收支尻ノ決濟ハ特別圓ニ依ラシムル如ク指導スルモノトス

備考

現行輸出入價格調整制度ノ整備改善竝特ニ其ノ彈力性附與ニ關シテハ別途至急考究スルモノトス

第三、措置

一、北支

(一)中國聯合準備銀行ニ對スル我方指導權ヲ確立スル爲日本人職員ノ直接參加ヲ考慮スル等之ガ機能ノ刷新ヲ圖ルト共ニ同行ノ他ノ金融機關ニ對スル統制指導力ヲ強化スルモノトス

(二)我方ノ現地放出額竝現地政權ノ財政補填貸上額ヲ極力縮減セシムル一面我方ヨリノ物資供出量ヲ努メテ多カラシムル等聯銀券價值維持工作ハ從來ノ線ニ沿フテ之ヲ強化スルニ努ムルモノトス

(三)中支ニ對スル移出入取引等ハ漸次特別圓建ヲ原則ト

シ軍票建ハ之ヲ例外的ニ併用スル如ク措置ス而シテ後段ノ場合軍票對聯銀券相場ハ形式上ハ之ヲ等價トシ實質上ノ價值關係ニ付テハ對中支爲替管理等ヲ強化シ其ノ安定ヲ圖ル如ク操作スルモノトス

(四)對第三國輸出入取引等ハ總テ特別圓建トシ且漸次特別圓決濟ニ移行スルモノトス

(五)貿易竝爲替管理ヲ強化シ特ニ匯申ニ關シテハ統制ノ完備ニ努メ聯銀券ノ新法幣乃至舊法幣ニ對スル實質上ノ相場ノ統制ヲ強化スルモノトス

(六)聯銀券ノ金圓ニ對スル等價關係ハ之ヲ堅持スルモ中支ニ於ケル通貨措置ノ進捗狀況等ヲ充分勘案シ別途慎重考究スルモノトス

ニ、中支

(一)中央儲備銀行ニ對スル我方指導力ヲ一層強化スル要アルヲ以テ同行ニ對スル我方指導ヲ實質ニ即シ一元化スルト共ニ同行顧問陣ノ内容ヲ充實強化スルモノトス

(二)中央儲備銀行ノ内外ニ對スル信賴ヲ昂上セシムル爲努メテ其ノ陣容ノ刷新強化ヲ圖ルト共ニ國際關係急

轉ノ場合ニ於テハ一時日本人職員ニ依ル業務援助ヲモ考慮スルモノトス

(三)國民政府ノ財政強化ヲ圖リ情勢ノ變化ニ拘ラズ極力財政收支ノ適合ヲ得セシムル如ク指導シ特ニ其ノ歲入ヲシテ舊法幣價值下落ニ伴フ影響ヲ避ケシムル如ク別途速ニ歲入増加竝之カ確保ニ關スル措置ヲ講ゼシムルモノトス

(四)國際關係急轉ニ伴ヒ速ニ貿易竝爲替管理ヲ實施シ得ル如ク既定方針ニ從ヒ海關ノ實質的把握等ノ措置ヲ實行スルモノトス

(五)我方ノ現地放出額ヲ極力壓縮スル一面我方ヨリノ物資供出量ヲ努メテ多カラシムル等現地通貨價值維持工作ハ從來ノ線ニ沿ヒ強化スルニ努ムルモノトス

(六)新法幣券ノ印刷ハ此際之ヲ極力促進セシムルト同時ニ特二百元券其他ノ大額券製造方ニ關シ急速中央儲備銀行ヲ指導スルモノトス

(七)新法幣ノ基礎確立竝之ガ流通狀況等ノ實情ニ即應シ舊法幣ハ部門別地域別ニ逐次積極の二之ガ流通制限ヲ實行スルモノトス

(ハ)新舊法幣ノ等價關係切斷ニ付テハ舊法幣價值ノ變動ノミニ捉ハルルコトナク新法幣ノ基礎確立竝之ガ流通擴充ノ狀況、舊法幣對新法幣ノ兌換要求ノ程度、舊法幣物價ノ變動等諸般ノ情勢ヲ考慮シ舊法幣ニ依ル新法幣ノ兌換要求ニ應ズル場合ニ於テ時々適宜ノ相場ヲ採用シ新法幣獨自ノ價值ヲ試案スル如ク着意シツツ操作シ特ニ國際關係急轉ノ場合等ニ於テハ舊法幣ノ動向ヲ充分見透シタル後出來得ル限り速ニ之ガ等價關係ヲ切斷シ得ル如ク豫定シ一切ノ施策ヲ準備スルモノトス

(九)金圓及軍票ノ對新法幣乃至舊法幣相場ニ付テハ差當リ情勢ニ即應シ時々適宜ノ相場ヲ採用スル如ク措置スルモ金圓ノ對新法幣相場ニ付テハ右(ハ)ニ依ル新法幣ノ對舊法幣等價關係ノ切斷時期ト睨合セ急速且適宜ナル機會ニ於テ之ヲ確定スル如ク豫定スルモノトス

(十)本邦トノ間ノ輸出入使用通貨ハ輸出ニ付テハ軍票決濟ヲ原則トシ輸入ニ付テモ亦軍票建ヲ原則トスルモ可能ノ限度ニ於テ特別圓建輸入ヲ漸次多カラシムル

モノトス

(二)對第三國輸出入取引等ハ貿易竝爲替管理ノ實行ニ依リ總テ特別圓建トシ且ナルベク速カニ特別圓決濟ニ移行セシムル如ク措置スルモノトス

(三)對北支移出取引等ニ付テハ特別圓建ヲ原則トシ其ノ收支尻ハ特別圓決濟トスルモノトス

三、其ノ他ノ地域

(一)蒙疆

概ネ北支ニ準ジ措置スルモノトス

(二)南支

(イ)厦門、廣東及汕頭

大體中支ニ準ジ情勢ノ推移ニ即應シ新法幣流通ノ施策ヲ考慮スルモノトス但シ其ノ運營ニ付テハ中支ヨリ相當ノ獨立性ヲ保持セシムルモノトス

(ロ)海南島

別途慎重考究スルモノトス

中支及南支ニ關スル機密諒解事項

一、中支ニ付テハ新法幣ヲ以テ其ノ中心通貨タラシムル既定

方針ニ依リ我方ノ軍票使用ハ新舊法幣ノ等價關係切斷後ニ於ケル新法幣ノ育成狀況竝其ノ前途等ニ關スル見透シ充分着キタル後出來得ル限り速ナル機會ニ於テ一舉ニ新法幣使用ニ切替フルモノト豫定シ置キ右ニ關スル所要ノ施策ニ關シテハ別途急速考究スルモノトス

尙軍票使用切替前ト雖モ軍票價值維持ニ支障ナキ限度ニ於テ部門別地域別ニ軍票ノ使用竝流通分野ヲ漸次新法幣ニ轉換スルコトアルモノトス

二、厦門、廣東及汕頭ニ付テモ場合ニ依リ臺銀券及軍票使用ノ切替ヲ考慮スルモノトス

編 注 本文書は、財務省財政史室所蔵「野田文書」より採録。

877

昭和16年11月26日 在上海堀内総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

華中地方に深刻な金融逼迫傾向をもたらしした 法幣資金欠乏の理由について

上 海 11月26日後発
本 省 11月26日夜着

第二一六〇號

最近中支ニ於ケル法幣資金急激ニ缺乏シ相當深刻ナル金融逼迫ノ傾向ヲ示シ居ル處之カ原因ニ付當館ノ得タル情報ヲ綜合スルニ大要左ノ通り

一、資産凍結ヲ契機トシテ發生セル換物人氣ノ爲思惑資金ノ利用激増セル一方法幣自體ノ下落ニ依リ其ノ恆[○]常的必要量力膨脹セルコト

二、客月下旬來工部局ノ物價統制、米國「マリン」ノ引揚等ニ依リ投機商品一齊ニ下落セル爲銀行錢莊方面ニ於テ一萬元以上ノ大口貸出ヲ警戒乃至停止スルト共ニ資金ノ回收ヲ開始セルコト

三、「マリン」引揚等ニ依ル國際情勢不安ニ備ヘ中國交通等重慶側銀行カ同業貸付ヲ回收シツツアルコト

四、一方奧地ニ於テモ過般ノ上海ニ於ケル換物人氣ノ激成ニテ遊資カ上海ニ集中シ法幣ノ缺乏狀態ヲ生シ居ルコト(上海奧地間送金高ハ今日猶上海向ケ多ク「レイト」ハ依然上海高ナルモ開キハ徐々ニ狹マリ居レリ)

尙斯ノ如キ法幣缺乏ノ傾向ハ我方ニ於テ特ニ激シク殊ニ米、綿等我方必要ノ產品ノ本格的出廻期ニ直面シ軍方面

ヲ始メ一般邦商ニ相當深刻ナル影響ヲ及ホシ居ル模様ナ
リ

右我方法幣資金缺乏ノ理由トシテハ(一)過般來ノ軍票昂騰
ニ際シ財務官、(不明)事務所等ニ於テ極力軍票賣ヲ制限
シ奧地ニ於ケル軍票賣ニ對シテモ從來ノ一日最高十萬圓
ヲ四萬圓ニ引下クル等ノ措置ヲ執レル爲統制筋(正金)ノ
法幣資金カ潤澤ナラサリシコト(二)一般邦商ニ於テモ軍票
値上リニ依ル損失ヲ免カルル爲手持法幣資金ヲ處分セル
コト(三)前記奧地ニ於ケル法幣缺乏ノ爲相當額ノ法幣ヲ奧
地ニ現送セルコト等ナルカ右ノ結果最近ニ至リ一般市場
ニ於テ軍票ヲ放出シ法幣手當ヲ行フ爲先週來軍票相場ハ
ジリ貧ヲ辿リ昨二十五日ハ遂ニ二十九圓五〇錢迄低落セ
リ尙右軍票低落ヲ眺メテ華人側退藏筋ノ投物モ現ハレ居
ル一方從來軍票「サポート」ニ付テハ法幣資金不足ノ場
合ハ應急措置トシテ外貨ヲ以テ之ヲ補ヒ得タルモ資金凍
結後ハ右方法モ採リ得サル譯ニテ軍票ハ更ニ軟弱傾向ヲ
辿ルモノト觀測セラレ居レリ

南大、漢口、北大、天津、青島、廣東、香港へ轉電セリ